

1 生涯學習力

すべて閉じる

【情報】：松尾仁司【福祉】：出雲春明【栄養】：高梨美穂【薬】：松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司【看護】：吉田久美子、倉林しのぶ、北原恵美【理学】：中川和昌【子ども】：栗原幸正【農】：橋田庸一、大政謙次、吉積毅、石神靖弘、松岡寛樹、谷颯子

【子ども】 栗原：公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。

[illegible]

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

高崎健康福祉大学（健大）を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。

健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs（Sustainable Development Goals）は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わりの例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。

以上を通じて、Well-being社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。

②講義の実施方法

全講義オンデマンド式とする。

1. 講義の開講について

講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日15時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内にオンラインシステムのリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、オンラインシステム内で小テストを実施すること。

なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学Googleアカウントにログインした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。

2. 講義の出席について

原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGsとの関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。

3. 講義後の入力提出について

講義視聴後に自身が感じた自利利他やSDGsへの考え、講義の感想など思った事をオンラインシステム上からアンケートに回答すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。

到達目標



1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。
2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。
3. SDGsを知り、理解を深める。■

使用教材



各講義回で利用する資料・教材がある場合にはオンラインシステムを通じて電子ファイルで配布を行う。

評価方法



第1回の受講（4%）と各講義回の講義動画閲覧と小テスト：2～9回（各12%）の合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。

オフィスアワー



質問はオンラインシステムの連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。

情報：松尾（1号館607研究室）

福祉：出雲（1号館511研究室）

栄養：高梨（3号館研究室）

薬：松岡（7号館312研究室）

看護：吉田久（5号館410研究室）

理学：中川（4号館413研究室）

子ども：栗原（8号館 学部長室）

農：橋田（10号館604研究室）

メールアドレス（#→@）



情報：松尾

matsuo#takasaki-u.ac.jp

福祉：出雲

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

栄養：高梨
 takanashi-m#takasaki-u.ac.jp
 薬：松岡
 isao#takasaki-u.ac.jp
 看護：吉田久
 yoshikumi#takasaki-u.ac.jp
 理学：中川
 nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp
 子ども：栗原
 kurihara-y#takasaki-u.ac.jp
 農：橋田
 hashida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え（高崎健康福祉大学 学園長、学長）。	1, 2, 3	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログオンできるようにしておく（各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと）。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
2	医療情報学科（松尾）：情報技術が支える健康・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
3	社会福祉学科（出雲）：誰も置き去りにしない社会	1, 2, 3	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1h
4	健康栄養学科（高梨）：食と健康・福祉・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
5	薬学部（松岡、須藤、高橋、田中）：Well-beingとクスリ	1, 2, 3	薬剤師の業務について調べておく。オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
6	看護学科（吉田、倉林、北原）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
7	理学療法学科（中川）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
8	子ども教育学科（栗原）：学校教育とLG	1, 2, 3	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1h	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	BT ■				な行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	
9	農学部（橋田、大政、吉積、石神、松岡、谷）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h

合計時間（予習・復習）



18h

備考



授業の時間について
記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。

動画へのアクセスについて
各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のGoogleアカウント」にログオンした状態で端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。

質問などについて
各講義回で生じた内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。
連絡をオンラインシステム経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合にはE-mailで再度連絡を行う事。

成績評価について
講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。
本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定（N）」となり、GPA算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時のCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

基礎教養ゼミ

英文名：Freshman Seminar (FYE)

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子, 渡邊秀臣

科目に関連した実務経験

病院の看護部長、県の看護行政職として勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護専門職および社会人としての基礎知識・技術・態度を養うために、大学生活を有意義に送る上で必要な、学習方法や大学生活の心得・方法を身につける。また、自己のキャリアデザインを考える機会とする。課題に対しての事前学習、討論、発表、レポート作成など主体的に学習する姿勢を身に付ける。

②パソコンの操作や文献検索方法などの体験、課題についてのグループ討論とプレゼンテーションの実施など、参加型の授業が中心になります。

到達目標

1. 大学教育を受けるための学修方法が身につく。
2. 大学生活の心得、方法が身につく。

- 3.情報収集方法を理解し、正しい情報を用いて自分の考えを整理できる。
- 4.看護職としての基本的態度・姿勢について理解し、自身のキャリアデザインについて考察できる。

使用教材 ▲

「看護学生のためのよくわかる大学での学び方第2版」前原澄子他監修・金芳堂・2018年・2400円
必要時資料を配布する

参考文献 ▲

授業の中で紹介する。

評価方法 ▲

講義ごとの課題への取り組み状況を40%、最終課題レポート評価60%とし、総合60%以上で合格とする。（対面授業・オンライン授業とも共通）

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。提出レポートに適宜コメントして返す。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー ▲

火曜日 3・4 限 （5号館 207研究室）

メールアドレス（#→@） ▲

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	大学での学び方、大学教育とは	1	履修ガイド、学生生活ハンドブックを読んでくる。	1.5h	自身の履修登録の仕方、学習方法を考える。 社会の中の大学生として、自身の生活について考える。	1.5h
2	学習に必要なパソコン操作	1,2	ガイダンスで配布した資料を読んでくる。	1.5h	C-Learning、ポートフォリオの課題を行う。	1.5h
3	スチューデントスキル①：対人関係スキル（人間関係づくり）	1,2	テキストP108～139を読んでくる。	1.5h	体験した感想をまとめる	1.5h
4	スタディスキル①：文章の読み方・書き方	2	テキストP36～47を読んでくる。	1.5h	課題に取り組む。	1.5h
5	スタディスキル②：情報リテラシー、図書館の使い方、文献検索	1,3	テキストP20～35および学生生活ハンドブック「ソーシャルメディア利用に関する留意事項」を読んでくる。	1h	医中誌Webにより文献検索を行う。	2h
6	スタディスキル：レポートの書き方、基本的ルール	1,3	テキストP 59～72を読んでおく。	1.5h	レポートの作成方法を復習しておく。	1.5h
7	医療人としての心構え	1,3	話題となっている「医療に関する情報」を調べておく。	1h	日本の現状で看護師として求められることについて考えをまとめる。	2h
8	スチューデントスキル②；看護職に求められる	3,4	テキストP159～168を読んでおく。	1.5h	倫理的感受性を高めるための大学生活の過ごし方を考	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	る倫理的感受性 ■				える。	
9	スチューデントスキル：ストレスマネジメントと健康管理	1,3,4	健康について文献を踏まえ自己の生活を振り返る。	1.5h	大学生生活を送る上でのストレスマネジメント、健康管理についての考えをまとめる。	1.5h
10	スタディスキル：ディスカッションのスキル; 看護学生としての健康管理	1,3,4	ディスカッションのための情報を収集しておく。	1.5h	グループ討論での自分の言動・役割について振り返りをする。	1.5h
11	スタディスキル：ディスカッションスキル; 看護学生としての健康管理	1,3,4	前回討論を踏まえて、自分の考えを整理する。	1.5h	発表の準備をする。	1.5h
12	スタディスキル：プレゼンテーションスキル：グループ発表	3,4	発表の準備をしておく。	2h	グループワークと発表を通して学んだことを整理する。	1h
13	看護職の活躍の実際（病院・行政・その他）	3,4	看護職が活躍している職場を調べる。	1.5h	看護職が働く職場を整理し、自分の4年後をイメージする。	1.5h
14	キャリアデザイン	2,3,4	テキストP170～196を読んでもくる。	1.5h	今までの自分を振り返る。	1.5h
15	まとめ 看護職を目指す大学生としての学習目標	1,2,3,4	4年間の学習目標を考える。	1.5h	看護職を目指す大学生としての自分の課題と目標を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

履修条件

この科目は、大学での学び方を学習するため、入学初年度に履修する。

ルール

自分で調べる課題やグループワークを行う際は、主体的に参加する。

出席確認は対面授業・オンライン授業どちらもC-Learningの出席登録により行う。

毎回、授業後課題をC-Learningにより期限内に提出する。内容は最終評価に影響する。

オンライン授業時の変更点

講義に関しては教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。

グループワークはZOOM機能を用いて行う。

授業時間内はZOOM機能を使い積極的に質問する。授業時間以外ではC-Learningの相談機能を使い質問に応じる。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

日本語表現法

英文名：Japanese Expression Method

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

古澤 良文

科目に関連した実務経験

記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

②現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を3回程度実施する。

到達目標

- 1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。
- 2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。
- 3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■
- 4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。
- 5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■

使用教材

^

担当教員作成のプリント。

評価方法

^

筆記試験（80％）・授業参加度（20％）によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。

オフィスアワー

^

授業の前後1～2時間。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は授業時に説明する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	原稿用紙の書き方（テーマに基づいて実際に執筆する）■	1	400字詰め原稿用紙の使い方	1.5h	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる	1.5h
2	日常生活の心掛け 小テスト（漢字の特殊読み）■	1,4	社会の変動に関心を持つ	1.5h	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える	1.5h
3	三段論法と逆三角形 小テスト（書けそうで書けない漢字）■	2,4	新聞記事を段落ごとに考えながら読む（新聞は図書館にある）	1.5h	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する	1.5h
4	文章をうまく見せる3カ条 小テスト（同音異義語）■	2,4	1回目に書いた文章を見直す	1.5h	1回目に書いた文章を書き直してみる	1.5h
5	主語と述語 小テスト（四字熟語ことわざ①）■	2,3	テキストをチェックしておく	1.5h	テキストの悪文例を正しく直す	1.5h
6	小論文執筆（複数のテーマから1つを選んで書く）	1,2,3	4回目のプリントチェック	1.5h	書き足りなかったことがないか	1.5h
7	修飾語 短歌・俳句 小テスト（間違い探し①）■	2,4	文章はリズムが大切 短歌・俳句を作ってみる	1.5h	プリントの悪文例を見直す	1.5h
8	話し言葉と書き言葉 小テスト（四字熟語ことわざ②）■	2,3	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5h	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5h
9	「心ひかれる一曲」などテーマに応じてエッセイを書いてみる	1,4	その曲になぜ、心ひかれるのか。具体的な体験を交えて表現する	1.5h	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5h
10	センテンスは短く 小テスト（同義語反対語）■	3,4	新聞のコラムを読む	1.5h	悪文例を直す	1.5h
11	小論文執筆（同じ形容詞や動詞を何度も使わないように）■	1,2,3	4回目、7回目のプリント見直し	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	敬語 小テスト（四字熟語ことわざ③） ■	3,4	敬語の種類を調べる	1.5h	プリントの問題を解く	1.5h
13	推敲 小テスト（間違い探し②） ■	2,4,5	書籍、新聞を声に出して読む	1.5h	自分の文章を直してみる	1.5h
14	覚えておきたい短詩と台詞	3,4,5	知っている俳句や短歌を思い出してみる	1.5h	声に出して読んでおく	1.5h
15	小論文執筆（小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く） ■	1,2,3	社会問題を考える	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す

読者投稿欄のデスクを長く務めた経験を生かして、「読みやすい文章とは何か」「人の心を捉える文章とは何か」を伝えていきたい。

印刷



日本国憲法

英文名：Japanese Constitution

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB003

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

新田 浩司

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。

到達目標

1. 国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。
2. 一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。

使用教材

新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版

定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。

小テスト実施した場合、評価の上返却する。

木曜5限

連絡手段は初回授業時に提示します。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
2	憲法の基礎知識 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
3	憲法の基礎知識 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
4	憲法の基礎知識 (3)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
5	日本国憲法の制定過程	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
6	日本国憲法の基本原理	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
7	国家の安全保障	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
8	精神的自由権 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
9	精神的自由権 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
10	経済的自由権	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
11	社会権 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
12	社会権 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
13	参政権、国務請求権	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
14	統治機構 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
15	統治機構 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。全講義のまとめ。	1.5h

45h

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。

予習・復習について、試験前後の学習にて補完すること。

オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画をC-Learning内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。

印刷 

[HOME](#) > 法学

法学

英文名：Law

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB004

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

新田 浩司

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、我々が社会人として身につけるべき能力である法的思考（リーガル・マインド）を身に着けることが目標です。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。

到達目標

- 1.社会における法規範の意義について理解する。
- 2.法的思考を身につけることにより、社会における様々な問題を法的に分析できるようになる。

使用教材

新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版

評価方法							^
定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
小テスト実施した場合、評価の上返却する。							
オフィスアワー							^
木曜4限							
メールアドレス（#→@）							^
連絡手段は初回授業時に提示します。							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	ガイダンス	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	配布資料と教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h	
2	第1章 法と法学	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
3	第2章 法と国家	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
4	第3章 法と他の社会規範との関係	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
5	第4章 法の目的	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
6	第5章 法の構造	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
7	第6章 法の淵源	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
8	第7章 法の分類	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
9	第8章 法の解釈	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
10	第9章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
11	第10章 法の効力	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	
12	第11章 権利と義務	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	まとめ(1)	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
14	まとめ(2)	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
15	まとめ(3)	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

^

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁

予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画をC-Learning内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。

印刷



経済学

英文名：Economics

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB005

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

2 生涯学習力

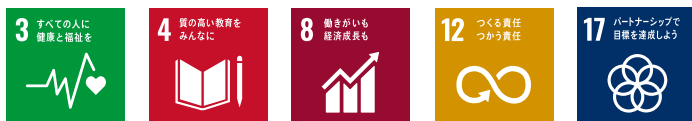
すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

町田修三

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答（ミニツツペーパー上の質問を含む）などを用いた双方向性授業。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、学生が新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。

②授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。

到達目標

- 1.日本の経済の現状を説明できる
- 2.需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる
- 3.景気やGDPについて理解を深め、概説できる
- 4.国の予算や税金制度について説明できる
- 5.お金の流れや物価変動について説明できる
- 6.経済政策について理解を深め、他者に説明できる
- 7.為替レートの変動と貿易の実態について概説できる
- 8.新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる

使用教材

^

必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。

参考文献

^

推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。

評価方法

^

学期末試験80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物（クイズ、小レポートなど）20%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）

^

machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（一部AL[アクティブラーニング]実施）	8	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1h	ニュースに触れる習慣（新聞、テレビ、ネット）を開始する	1h
2	日本経済の流れ（世界との比較のなかで）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
3	経済政策の2大潮流―マーケットorケインズ（一部AL実施）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
4	需要と供給（需要曲線の意味）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
5	市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
6	価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	国民所得Ⅰ（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
8	国民所得Ⅱ（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
9	財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）	1,4,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
10	景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
11	金融（日本銀行は何をすること？）（一部AL実施）	1,5,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
12	経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？トランプは何をする？）	1,6,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
13	為替レートメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
14	世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）（一部AL実施）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
15	まとめと確認のためのテスト	1,2,3,4,5,6,7,8	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3h	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）

39h

備考

AL（アクティブラーニング）は、クローズドクエスション、オープンクエスション、ペアワーク、グループワークなど。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修（推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等）により、必要な学修時間を各自で補完すること。

印刷 

[HOME](#) > 社会学

社会学

英文名 : Sociology

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

3 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会学的なものの見方とは、どういうものなのか、社会学的にもの考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本的理解を目指す。

②使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。

到達目標



- 1.大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。
- 2.社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- 3.日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。
- 4.社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。
- 5.現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■

使用教材



篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。

参考文献



講義中に、適宜指示する。

評価方法



平常点（毎回提出してもらうリアクションペーパー（設問形式）については、第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

課題・評価に対するフィードバック方法



各受講生の提出したリアクションペーパー（設問形式）に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。

オフィスアワー



火曜日5限・6限

メールアドレス（#→@）



adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、第1章社会学とは何か（1～12頁）について解説する。	1,2,3,4	第1章を読んでおくこと。	1.5h	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
2	第2章社会を観察する方法（13～24頁）を解説する。	1,2,3	第2章を読んでおくこと。	1.5h	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
3	第3章社会で生きる「私」（25～35頁）を解説する。	1,2,3	第3章を読んでおくこと。	1.5h	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
4	第4章変容する家族のかたち（36～47頁）を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■	1,2,3	第4章を読んでおくこと。	1.5h	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
5	第5章性の多様なあり方を考える（48～59頁）を解説する。	1,2,3	第5章を読んでおくこと。	1.5h	第5章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
6	第6章「現実を生きる」ための社会学―労働・産業・消費―（60～72頁）を解説する。	1,2,3,4	第6章を読んでおくこと。	1.5h	第6章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
7	第7章日本で進展する環境・災害社会学（73～86頁）を解説する。	1,2,3,4	第7章を読んでおくこと。	1.5h	第7章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	第8章社会学から医療を見つめる（87～97頁）を解説する。	1,2,3,4	第8章を読んでおくこと。	1.5h	第8章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
9	第9章社会学は教育とどう向き合うのか（98～109頁）を解説する。	1,2,3,4	第9章を読んでおくこと。	1.5h	第9章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
10	第10章逸脱行動と社会問題（110～121頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第10章を読んでおくこと。	1.5h	第10章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
11	第11章「格差」の社会学（122～134頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第11章を読んでおくこと。	1.5h	第11章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
12	第12章生活空間としての地域社会（135～149頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第12章を読んでおくこと。	1.5h	第12章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
13	第13章グローバル社会とエスニシティ（150～162頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第13章を読んでおくこと。	1.5h	第13章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
14	第14章宗教から社会を捉える（163～176頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第14章を読んでおくこと。	1.5h	第14章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
15	第15章社会の中のメディア／メディアが動かす社会（177～189頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第15章を読んでおくこと。	3h	第15章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3h

合計時間（予習・復習）



48h

備考



各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



生涯健康論

英文名：Lifelong Health Theory

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB007

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

2 国際理解

3 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

渡邊秀臣、五十嵐康、蒲章則

科目に関連した実務経験

渡邊：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。①本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。②実施方法は、講義により知識の習得を図り、理解を確認するために時々学生に意見を求め、あるいは指名してディスカッションを行う。

到達目標

- 1.健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■
- 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■

- 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■
- 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■

使用教材 ▲

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

参考文献 ▲

参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向2020/2021」を利用する。

評価方法 ▲

授業参加内容：40点、課題に対するレポート内容：60点　：総合60点以上を合格とする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

レポートに対し必要なコメントをする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

オフィスアワー ▲

渡邊：（金）13：00～14：30
研究室　5号館1階学部長室

メールアドレス（#→@） ▲

渡邊：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康の定義と健康評価指標（渡邊） WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■	1	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。	1. 5h	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。	1. 5h
2	健康を維持するための食物と物質代謝（五十嵐） 食物（栄養素）は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝（同化・異化作用）に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1. 5h
3	恒常性維持機構の役割と相互作用（五十嵐） 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構（ホメオスタシス）」が偏わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1. 5h
4	運動と健康（渡邊） 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。する。また、運動による突然死防止のための運	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	動前内科的メデイカルチェックの重要性について理解する。■					
5	喫煙による健康障害（渡邊） たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの＜喫煙と健康障害＞のメカニズムについて理解する。＜受動喫煙の影響＞についても考える。■	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1. 5h
6	生活習慣病の起因となる肥満（五十嵐） 肥満は原因により原発性肥満（エネルギー摂取過多など）と二次性肥満（性腺機能低下など）に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1. 5h
7	生活習慣病の危険因子としての糖尿病（五十嵐） 2型糖尿病（インスリン抵抗性糖尿病）は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	糖尿病の病態と対策を理解する。	1. 5h
8	生活習慣病(脳血管障害)と認知症（五十嵐） 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。	1, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1. 5h
9	ロコモティブシンドローム（渡邊） 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。	3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1. 5h
10	生活習慣病(がん)と生活習慣（渡邊） 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜(がん発症危険因子)＞を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について理解する。■	3,4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1. 5h
1 1	WHOの歴史と活動内容（蒲） 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力（国力）に寄与するかを理解する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h
1 2	WHOの戦略（蒲） アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、」各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保	1,4	WHOウェブサイトで該当	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標（SDGs）に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）にいたることを検証する。		部分を学習する			
1 3	途上国の保健行政（蒲） 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する	1, 3,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1. 5h
1 4	日本の保健行政と世界の保健行政（蒲） 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。	1, 3,4	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1. 5h	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1. 5h
1 5	地域における健康支援チーム構成員とその役割（チーム医療）（渡邊） これまで、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くことされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■	4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。
レポートの提出をもって出席とする。

印刷

生涯学習概論

英文名 : Introduction to Lifelong Learning

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB008

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

平林 茂、三村 国宏

科目に関連した実務経験

（平林）公立小学校・中学校の教員、校長（経験）。群馬県教育委員会(指導主事、所長)では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師（経験）。

（三村）公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長（経験）。伊勢崎市教育委員会（指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長）にてコミュニティ・スクール推進（経験）。大学・企業との教育連携協定推進等（経験）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。

②授業の進め方：各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。

到達目標 ↑

- 1.生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■
- 2.生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■
- 3.社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。

使用教材 ↑

『よくわかる生涯学習 改訂版』（香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2024年2,500円（税別）

参考文献 ↑

講義中に適宜、紹介する。

評価方法 ↑

テストに50%、小テストの評価30%、日常点（授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等）に20%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。
試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー ↑

月曜・1限、水曜・1限、
教職支援センター

メールアドレス（#→@） ↑

平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp
三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度（平林、三村）	1,3	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。	1.5h	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。	1.5h
2	生涯学習と人間形成■（三村）	3	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。	1.5h
3	生涯学習を支える思想（三村）	1,3	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5h
4	生涯学習の現代的課題①■（三村）	2,3	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
5	現代的課題②■（三村）	2,3	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	現代的課題③ ■（三村）	2,3	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
7	現代的課題④ ■（三村）	2,3	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
8	生涯学習の多様な学習方法 ■（三村）	1,2	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5h	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5h
9	行政による生涯学習の振興（前編）（平林）	1,2	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
10	行政による生涯学習の振興（後編） ■（平林）	1,2	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
11	民間団体・機関による生涯学習支援（前編） ■（平林）	1,2	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
12	民間団体・機関による生涯学習支援（後編） ■（平林）	1,2	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
13	施設に基づいた生涯学習活動（前編）（平林）	1,2	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
14	施設に基づいた生涯学習活動（後編） ■（平林）	1,3	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
15	生涯学習社会において、どう生きるか（職業能力開発の生涯学習）（平林）	1,2,3	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5h	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をC-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生命と環境の科学

英文名 : Science of Environment and Life

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

奥 浩之

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。（パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。）

到達目標

- 1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。
- 2.生命を構成する分子（核酸、タンパク質）について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。
- 3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。
- 4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。
- 5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

評価方法

レポート課題50%、授業参加度50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。

オフィスアワー

質問等は、授業中でもよく、授業開始前もしくは終了後にも応じる。

メールアドレス（#→@）

oku#gunma-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生命と環境－自己紹介と研究について	1,5	(1) 免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2) DNA配列を測定する方法について調べてみよう。	1h	(1) 抗体医薬品について (2) 免疫グロブリンの分子構造と役割について（特にIgGを構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか？着目してみよう。） (3) 次世代シーケンサーについて	1.5h
2	生命と環境－地球における元素の循環	1,5	元素周期表（ http://stw.mext.go.jp/series.html ）を読んでみよう。	1h	(1) 人体を構成する元素の存在比 (2) 主要元素・微量-超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5h
3	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1h	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響	1.5h
4	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1h	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する （大気を暖める要因と冷やす要因） （物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測） (2) IPCC第5次報告書（2014年）におけるRCPシナリオ （気候モデルによって予測された21世紀末の世界の気温） （世界全体のCO2累積排出量と気温上昇量は比例する） (3) 国連気候変動枠組条約	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					(日本における温室効果ガス削減目標)	
5	生命と生体分子・・・DNA二重らせんとX線構造解析	2,5	ワトソンとクリックによるDNA二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル (ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA構造について (英文なので、最初は図を見るのがよい) 特にFigure 5を見て、3種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1h	(1) DNAの分子構造はX線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA繊維写真のX型パターン	1.5h
6	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能	2,5	(1) タンパク質を構成する20種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？	1h	(1) アミノ酸20種類の分子構造 (2) X線回折測定によるタンパク質の3次元構造解析 (3) NMR測定によるタンパク質の3次元構造解析	1.5h
7	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質	2,5	(1) 膜タンパク質とは？ (2) リボソームにおけるタンパク質合成 (3) アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1h	(1) 70S リボソームとtRNAの分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2) カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5h
8	生命と生体分子・・・ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)	2,5	(1) ヘムタンパク質とは？ (2) ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3) CYP3A4とは？	1h	(1) ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2) チトクロームc (PDB ID, 2B4Z) (3) チトクロームP450 (PDB ID, 1W0E) (4) 医薬品の代謝におけるCYP3A4の影響について	1.5h
9	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品	2,5	(1) コレステロールと高コレステロール血症 (2) 認知症とコリン仮説について (3) ポリ乳酸とは？	1h	(1) スタチン (2) タクロリムス (3) ドネペジル (4) レボフロキサシン	1.5h
10	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー	3,5	(1) バイオマスとは？ (2) バイオエタノールとは？ (3) プラスチックゴミ問題とは？	1h	(1) バイオリファイナリーとは？ (2) バイオガソリンの成分は？ (3) バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 1	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保（加工食品の成分）	3,5	（1）アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1h	（1）行政（農水省）では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5h
1 2	ヒトの活動と環境：食べると甘い香りが発散するお菓子について	3,5	（1）ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう（ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計） （2）ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1h	（1）ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ （2）お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ （ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。）	1.5h
1 3	生命と環境・・・さまざまな感染症（AIDS, 結核, マラリアなど）	4,5	（1）感染症とは？	1h	（1）さまざまな感染症について （2）薬剤耐性について	1.5h
1 4	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分	4,5	（1）ワクチンによる予防免疫のしくみ	1h	（1）様々なインフルエンザの治療薬について （2）様々なインフルエンザワクチンについて	1.5h
1 5	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン	4,5	（1）蚊によって媒介される感染症とは？ （2）グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1h	（1）グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ （2）新しいワクチンの開発例について	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。

印刷

国際関係論

英文名 : International Relations

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB010

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

3 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

片桐 庸夫

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回当日の講義内容に関する10-15分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。
- ②配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録したDVDを数回用います。また、授業

の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。

到達目標



- 1.現代世界の理解
- 2.第2次世界大戦後の世界の基本構造の理解
- 3.国家間の対立要因の理解
- 4.国家間の相互理解の理解
- 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解
- 6.現代の戦争の特徴についての理解
- 7.国家の安全保障の理解
- 8.核の下の平和の理解
- 9.国際秩序概念の理解
- 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解
- 11.戦後日本の原型についての理解
- 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解
- 13.日本の課題である国際貢献問題の理解

使用教材



配布するプリントを教材として用いる。

参考文献



細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書

評価方法



講義の最後に毎回行うレポート評価試験（60％）、講義参加・貢献度（40％）等により総合評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法



原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。

オフィスアワー



- ・ 前期木曜日の昼休み
 - ・ 非常勤講師控室
- 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義概要（講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等）についての説明を行う。	1	シラバスを読んでおくこと。	0h	講義概要の確認を行いこ と。	1h
2	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。	1,3, 7,8, 10	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2h	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2h
3	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。	1,2, 3,9	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 h	細谷雄一『国際秩序』中公新書のp.115-120,282を読み、内容をノートにまと	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					めること。	
4	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。	2,4,7	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5h	『国際秩序』のp.121-124を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
5	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。	3,4,5	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.128-130を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
6	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。	2,3,4,5,8	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
7	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。	3,5,7	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
8	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化（DVD画像による）について理解する。	6,7,8	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2h	DVD画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2h
9	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。	2,6,7,8	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5h	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社のp.6-10を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
10	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下での平和について理解する。	1,6,7,8	究極の兵器がもたらした核の下での平和についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.253-255を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
11	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。	1,7,8,9	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.256-260を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
12	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。	2,7,9	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.281-285を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
13	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。	6,7,10	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5h	『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書のP.21-36を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
14	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF講和、憲法第9条、日米安保について理解する。	7,11,12	プリントの終戦からSF講和に至る項を読んでおくこと。	1.5h	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会のp.288-306を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
15	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。	1,10,13	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおくこと。	1.5h	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。

「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。

印刷



体育理論

英文名：Theory of Physical Education

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB011

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①スポーツ科学及びトレーニングの基礎理論について学び、医療従事者として社会に貢献する人材を育成する。体力測定の結果を活用してトレーニングと体力についての基礎を習得する。

②対面方式授業で実施する。

到達目標

- 1 トレーニングの基礎理論について理解する。
- 2 スポーツが健康維持増進に果たす役割について理解する。

使用教材

↑

自作資料により授業を実施する。

参考文献

↑

健康運動実践指導者養成用テキスト

評価方法

↑

- 1 授業の要点についてのレポート提出によって評価する。
2 授業時の小テストにより評価する。 レポート70% 小テスト30%とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

課題レポートは、コメントをつけ返却する。
始業時に前回授業の小テストにより、前時の知識の定着を図る。

オフィスアワー

↑

毎週 水曜日 3号館3階 入澤研究室

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	データで見る日本の健康と課題	2	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
2	生活習慣病と運動	2	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
3	骨格と筋肉 正しい姿勢を保持するためにトレーニング■	1	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
4	体力測定結果と筋肉とトレーニング 効果及びアップ・ダウンの方法■	1	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
5	トレーニングの原理・原則と中高校 生の競技力向上■	1	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
6	ジュニア期・高齢者の基本的生活習慣とスポーツ栄養■	1	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
7	ジュニア期のスポーツ障害の予防■	1,2	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h
8	トップアスリート育成を目指した競技力向上対策■	1,2	次授業の課題を事前配布 授業開始時に課題の発表等	2h	授業終了時の レポート作成	1h

合計時間（予習・復習）

↑

24h

備考

↑

- 対面授業で実施し、授業資料は事前にC-Learningにアップする。
○ レポート提出により、評価と出欠確認を行う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

[HOME](#) > 体育実技

体育実技

英文名：Physical Education

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB012

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

身体活動の実技を通して、自らの健康と指導者としての指導力を育成する。

対面実技

到達目標

- 1 新体力測定の方法と評価について理解する
- 2 バドミントン、各種レクリエーションスポーツ等のルールと実技を習得する。
- 3 自重負荷でのレジスタンス運動に習熟し、指導方法を身に着ける。

使用教材							^
自作教材 自作配信ビデオ							
参考文献							^
各スポーツのルールブック等							
評価方法							^
課題レポート70% 講義参加状況10% 最終授業でのレポート試験20% オンラインによる実技映像を配信し、理論部分はレポート提出とする。 実技部分は、映像を見ながら個人練習の形式で実施する。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
提出レポートにコメントを加える。							
オフィスアワー							^
火曜日 3号館3階 入澤研究室							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	ガイダンス及び新体カテストの概要について理解する	1	事前配信のシラバスを確認してくる	0.5h	授業内容、評価方法、新体カテストについて確認する	0.5h	
2	新体カテストについて説明・理解する■	1	事前配信の新体カテストの実施方法について練習してくる	0.5h	新体カテストが正しく実施できたかを確認する。	0.5h	
3	新体カテストの結果と評価方法について理解する■	1	事前配信の資料を確認する。	0.5h	自己の測定結果、全体との比較、分析する。	0.5h	
4	身体組成（インピーダンス）測定と評価について理解する■	1	事前資料により身体組成について事前学習する	0.5h	簡易体重計等により自己の測定データを確認する。	0.5h	
5	有酸素運動を理論と実践を通じて理解する■	1	事前資料により有酸素運動について事前学習する	0.5h	有酸素運動について確認する	0.5h	
6	競技エアロビ運動を理論と実践を通じて理解する■	1	事前資料で競技エアロビを確認する	0.5h	映像を使って反復練習する。	0.5h	
7	競技エアロビを実践する■	2	毎日30分程度の練習を実践する	0.5h	正確な動きが出来ているかを確認する。	0.5h	
8	競技エアロビを実践する■	2	毎日30分程度の練習を実践する	0.5h	正確な動きが出来ているかを確認する。	0.5h	
9	競技エアロビを実践する■	2	毎日30分程度の練習を実践する	0.5h	正確な動きが出来ているかを確認する。	0.5h	
10	自重負荷レジスタンストレーニングを実践する①■	3	自重負荷運動の留意点を調べてくる。	0.5h	自重負荷トレーニングを実践する	0.5h	
11	自重負荷レジスタンストレーニングを実践する②■	3	自重負荷運動の留意点を調べてくる。	0.5h	自重負荷トレーニングを実践する	0.5h	
12	エアロビと自重負荷レジスタンス運動プログラムを作成する③■	3	5分間のプログラムを練習してくる。	0.5h	指導方法を加えた練習をする。	0.5h	
13	指導プログラムによる実技練習■	3	指導プログラムによる指導。	0.5h	自己作成プログラムに習熟する。	0.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	実技試験・自己作成プログラム実技・指導■	3	実技試験の練習。	0.5h	実技試験結果の修正。	0.5h
15	試験・課題レポート	1,2,3	授業で実施した内容を復習してくる。	0.5h	新体力測定や初動負荷理論が理解できたか。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



対面授業と映像配信によるオンライン授業として実施する。
授業前に十分なアップとダウンを実施する事
オンライン授業は各自がパソコンの前で実技を実施する形式となる。
映像は事前配信するので、オンデマンドによって自習できるように配慮する。
レポート提出によって出席を確認する。
実技内容のレポート課題は、実技を実施・体験したときの感覚や自己評価を中心とした課題とする。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

キャリア形成論

英文名：Career Development

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB013

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小泉英明

科目に関連した実務経験

社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

A I（人工知能）をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。

本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。

授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』

を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

教員作成のレジューメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所にはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。

到達目標

- 1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■
- 2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■
- 3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■
- 4. コミュニケーションの基本を身につけ、高次元のコミュニケーション力を身につける。■
- 5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■
- 6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■
- 7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■
- 8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■
- 9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■
- 10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■
- 11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■

使用教材

C-learningを利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。

参考文献

授業内で提示します。

評価方法

ファイナルレポート60%、毎授業後の提出課題30%、授業参加度・授業態度10%
それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図などを含め掲示等で行います。

オフィスアワー

木曜日（12～17時）

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■	1	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5h	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5h
2	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■	1,3	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5h
3	自己の理解■	2	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自己理解を深め、自己効力感と自身のパーソナリティを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	コミュニケーション力 ■	3,4	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5h
5	実践コミュニケーション力 ■	3,4	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5h
6	気づく力（問題発見能力） ■	3,7	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。	1.5h
7	考える力Ⅰ（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング） ■	3,5	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5h
8	考える力Ⅱ（クリエイティブシンキング） ■	3,6,7,8	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5h
9	創造力を伸ばす ■	3,6,7,8,9	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5h
10	問題解決能力Ⅰ（問題点を探る・WHYツリー） ■	3,7,8,9	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身が抱える問題の「問題点」をWHYツリーで探る。	1.5h
11	働く意味／「仕事力」と「就業力」 ■	1,3	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5h
12	問題解決能力Ⅱ（問題解決の手法・HOWツリー／課題発見・目標設定） ■	3,8,9,10	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の課題をHOWツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5h
13	社会における人間関係 ■	3,11	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5h
14	自己の確立（バリュープロポジションとキャリア自律） ■	3,10	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5h
15	ストレスマネジメント ■	3,11	事前に配信する第15回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

C-learningにて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。

〔看護師・保健師・養護教諭として求められる基本的な資質〕

看護師・保健師・養護教諭として、人の役に立つという心構え

患者・生活者本位の視点

コミュニケーション能力

チーム医療への参画

自己研鑽

■：実務経験に基づく内容を示す。

※教員作成のレジュメ(上記使用教材)を使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか、実体験を織り交ぜた説明を行います。必要な箇所においてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。

※オンラインで授業を行う場合（※オンデマンド）

① 教材のデータを授業日の3日前までに配信します。

事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。

毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。（提出期限を厳守してください）

提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。

授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。

期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第15回の授業後に提出の予定です。

評価方法は以下の通りです。

ファイナルレポート60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度10%

印刷 

HOME > 哲学

哲学

英文名：Philosophy

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

「他者とどう関わっていけばよいか」「正しいと信じられていることは、なぜ正しいと言い切れるのか」「病気や“弱さ”とどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち探究するのが哲学である。本講義では、共生社会、健康と病、技術者の社会的責任など、医療に従事するものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの思想も手引きとして、みずから論理的に思考し、適切に表現することを目標とする。

なお、講義は配布プリントの資料を中心に行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。

到達目標

1. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。
2. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。
3. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。
4. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。

使用教材

講義中に適宜プリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

定期試験（60％）、ミニ・レポート（40％）に、講義への参加度等を加えて総合的に評価する。

ミニ・レポートの評価基準については、初回講義で説明する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートの内容についてコメントを加え、講義中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日の2時限、金曜日の2時限。

（1号館6階601）

メールアドレス（#→@）

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス		シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1h	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。	1.5h
2	自分と他者（1）人間は人から認められたいのか——ヘーゲル	2	配布プリントに目を通す。	1h	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5h
3	自分と他者（2）本当の自分とは——キルケゴール	2	配布プリントに目を通す。	1h	キルケゴールの「大衆と実存」を理解し、ヘーゲルの人間像と比較する。	1.5h
4	平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5h
5	平等と共生（2）隔離や拘束を減らす——ノーマライゼーション	1,2,3	配布プリントに目を通す。	1h	ノーマライゼーションの意義を理解する。	1.5h
6	平等と共生（3）生活の中の「依存」——ケアの倫理	1,2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	ケアの倫理と正義の倫理の違いを理解する。	1.5h
7	多様性と公共空間（1）ユニバーサルデザイン	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを理解する。	1.5h
8	多様性と公共空間（2）バリアの再生産を防ぐために	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	設計の発想や技術が社会に与える影響を理解する。	1.5h
9	エンハンスメント（1）変化する「病」と「弱さ」への介入	1,2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5h
10	エンハンスメント（2）記憶と共感の役割	1,2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	「空気」を意識する	2	配布プリントに目を通す。	1h	「空気」の作用や問題点を理解する。	1.5h
12	医療者のための哲学（1）誰の利益を守るのか——ステイクホルダー・アプローチ	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	専門職が消費者や市民に対してもつ責任を理解する。	1.5h
13	医療者のための哲学（2）東西の死生観	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	死の捉え方、受けとめ方について東西の思想を理解する。	1.5h
14	医療者のための哲学（3）専門職の社会的責任	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	専門職の「誇り」の根拠について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	第1回～14回のノートに目を通す。	1h	配布プリントを解き、完成させる。	2h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。
予習・復習については試験前の学習で補完してください。

*オンライン授業となった場合は、C-Leaningで講義資料を閲覧し、課題を提出する形式になります。

印刷

倫理学

英文名：Ethics

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH002

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標：

近年、価値の多様化や先端医療技術の発展によって、人間が「生む・生まれる」「生きる」「死を迎える」というそれぞれの段階に、様々な葛藤がある。本講義では、「善さとは何か」「善く生きるためには、どうすればよいのか」「医療技術は私たちの生き方／死のあり方をどう変えていくのか」といったトピックを取り上げる。そうした対立が生じる背景、問題を理解するとともに、みずから判断する力を養う。

②講義の実施方法：

配布プリントを中心に講義を行う。定期的に課題を提示し、学生同士が意見を共有する場を設ける。

到達目標

- 自己決定の重要性と課題について理解し、説明できる。
- 善悪の判断基準（目的論と義務論など）について理解し、説明できる。
- 尊厳死、脳死臓器移植など、現代医療の問題を多角的に理解し、説明できる。

4. 個人と社会の関係性を考察し、よりよいあり方について考えを深めることができる。
5. 各テーマに関してみずから考え、その考えを適切に表現、伝えることができる。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

定期試験（60％）、予習課題・ミニレポート（40％）に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート課題については、コメントを添えて講義中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日の2時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスに目を通し、講義目標や内容を確認する。	1h	講義内容、評価方法などについて理解する。	1h
2	なぜ自己決定が重視されるのか——「自由」の社会的・思想的背景	1	配布プリントに目を通す。	1h	自己決定権が重視される思想基盤、医療事情を理解し、考察する。	1h
3	善悪の基準(1)：幸福のための道徳——目的論	2	配布プリントに目を通す。	1h	功利主義の思想と問題点を理解する。	1h
4	善悪の基準(2)：公正のための道徳——義務論	2	配布プリントに目を通す。	1h	カントの義務論の思想と問題点を理解する。	1h
5	なぜ人命は尊重されるのか——パーソン論とカント	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	人命尊重の二つの根拠の相違点を理解し、課題を完成させる。	1h
6	グループワーク：自分の価値観をみつめる	1,5	配布プリントに目を通す。	1h	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5h
7	医療における自己決定と代理決定	1	配布プリントに目を通す。	1h	医療倫理の四原則について理解する。	1h
8	尊厳死とACP	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	尊厳死のあり方について、課題を完成させる。	1h
9	海外の安楽死	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	安楽死問題の現状と課題を理解する。	1h
10	道徳性の発達理論とケアの倫理	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	正義・公正の倫理とケアの倫理の視点の違いを理解する。	1.5h
11	人が道徳的な行動をとるのに何が必要か	1,4,	配布プリントに目を通す。	1h	良心、共感のあり方について理解する。	1h
12	脳死臓器移植	3,4	配布プリントに目を通す。	1h	脳死の定義と臓器移植法、脳死への多様な見解を理解し、考察する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	価値の相対化と価値の共有	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	人間に共通する価値観があるかについて考察する。	1.5h
14	グループワーク：「生きがい」について	5	配布プリントに目を通す。	1h	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	第1回～第14回のノートを読み返す。	1h	各テーマについての自分の考えを再確認する。	2h

合計時間（予習・復習）



33h

備考



本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。
予習・復習については試験前の学習で補完すること。
オンライン授業となった場合は、C-Leaningで講義資料を閲覧し、課題を提出する形になります。

印刷



HOME > 心理学

心理学

英文名：Psychology

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH003

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

3 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

内田祥子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。
授業は教員の作成した資料に基づき、講義形式でおこなう。また復習課題のなかで疑問点などを確認する。

到達目標

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。
2. 人間の行動の基礎過程について説明できる。
3. 人間の発達と心理との関係について説明できる。
4. 社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。
5. 心理的支援の方法と実際について説明できる。

使用教材

授業内で必要に応じて提示する

参考文献

^

授業内で必要に応じて提示する

評価方法

^

宿題30%、学期末テスト70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト（予習・復習課題）の解説を次の授業で毎回おこなう。

オフィスアワー

^

月曜日3限（8号館410研究室）

メールアドレス（#→@）

^

uchida-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション「心理学を学ぶ意義」	1	シラバスに目を通す	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
2	心理学とは	1	心理学を学ぶ意義について考える	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
3	環境を認知する心の働き（1）知覚	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
4	環境を認知する心の働き（2）学習	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
5	環境を認知する心の働き（記憶）	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
6	環境を認知する心の働き（4）言語・思考	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
7	環境を認知する心の働き（5）情動・動機づけ	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
8	社会の中の人間（1）人格	4	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
9	社会の中の人間（2）自己	4	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
10	社会の中の人間（3）社会心理	4	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
11	生涯発達のしくみ、アイデンティティの生涯発達	3	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
12	脳科学と心理学	3	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
13	発達臨床・心理臨床（1）発達臨床	5	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
14	発達臨床・心理臨床（2）心理臨床	5	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
15	まとめ	3	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h

45h

印刷 

文学と人間

英文名：Literature and Humanity

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH004

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

4 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

菅野 陽太郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。

②講義の実施方法

各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。

到達目標

- 1.文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。
- 2.授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等について考え、理解することができる。
- 3.授業で取り上げる文学作品について、オマージュやアダプテーションの見地から批評することができる。

使用教材 ^						
『伊豆の踊子』，川端康成，新潮社，1950，473円						
参考文献 ^						
『〈転生〉する川端康成Ⅰ引用・オマージュの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2022，2700円						
『〈転生〉する川端康成Ⅱアダプテーションの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2024，3500円						
評価方法 ^						
・各回の課題（30％）・レポート（70％）						
課題・評価に対するフィードバック方法 ^						
レポートは評価とコメントを付して返却する。						
オフィスアワー ^						
水曜2限、木曜2限（8号館508研究室）						
メールアドレス（#→@） ^						
kanno-y#@takasaki-u.ac.jp						
授業計画表 ^						
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、「物語」とその効用	1	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。	1h	授業内容を振り返り、課題に取り組む。	2h
2	文学のジャンルと要素	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
3	作品構造の理解①	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
4	作品構造の理解②	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
5	比喩表現の理解と効用	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
6	アフォリズムの魅力	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
7	比べるという思考①（二つの文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
8	比べるという思考②（J-POPと文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
9	引用・オマージュ①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
10	引用・オマージュ②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
11	引用・オマージュ③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
12	アダプテーション①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
13	アダプテーション②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	アダプテーション③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
15	他学問との関わり	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



授業時にC-learning等を使用した意見の交流を行うので、ノートPCやタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

印刷 

HOME > 芸術論

芸術論

英文名 : Art Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

3 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

石原 綱成、志尾 睦子

科目に関連した実務経験

志尾 : 映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○					○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術（絵画、映像等）を深く理解する。

②講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる（オムニバス形式）となる。

到達目標

1. 視覚芸術の歴史を理解できる
2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。
3. 映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■
4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■

使用教材

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

試験を実施する。（石原50点、志尾50点、計100点）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

石原：月曜3限、金曜2限、
志尾：火曜日2限

メールアドレス（#→@）

石原：ishihara#takasaki-u.ac.jp
志尾：m-shio#takasaki-cc.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（石原・志尾）	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する	1.5 h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する	1.5 h
2	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー	1,2,4	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する	1.5 h
3	芸術史概説	1,2,4	芸術史の流れを体系的に理解しておく	1.5 h	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する	1.5 h
4	宗教芸術とは何か	1,2,4	世界の主要な宗教の特色を理解する	1.5 h	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する	1.5 h
5	キリスト教美術とシンボル	1,2,4	シンボルの本質について理解する	1.5 h	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5 h
6	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー	1,2,4	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 h	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 h
7	ルネサンス美術ー図像解釈学と美術ー	1,2,4	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 h	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関与するかを理解する	1.5 h
8	中間テスト	1,2,4	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 h	試験内容を自分なりに再考する	1.5 h
9	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■	2,3,4	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 h
10	映画の誕生と変遷を辿る■	2,3,4	映画の仕組みを理解する	1.5 h	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 h
11	映画の表現方法について学ぶ■	2,3,4	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	映画の構造を知る ■	2,3,4	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5h	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5h
13	演習1：見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する ■	2,3,4	映画を観てみる	1.5h	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5h
14	演習2：演出とは何か ■	2,3,4	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5h	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5h
15	総論：映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る ■	2,3,4	興味のある国について調べる	1.5h	映画が語る文化、時代性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ボランティア・市民活動論

英文名 : Civil and Voluntary Activities

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

一柳 大輔

科目に関連した実務経験

前職でボランティア団体の運営支援に従事。災害ボランティアセンター職員として派遣経験も多数あり。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。
- ②毎回の授業は、ボランティアのテーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義（予定）、振り返り、次週の予定、という流

れで進める。
③1、2回目の講義は対面、3回目以降の講義はオンデマンド形式で進める。詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

到達目標 ^

- 1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■
- 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■
- 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■
- 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■

使用教材 ^

各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業・c-learningにて配布する。テキストは使用しない。

参考文献 ^

その他、講義に必要な教材・資料は適宜配付する。

評価方法 ^

- 成績評価
- ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパー(c-learning)による評価（84%）。
 - ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価（16%）。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。
 - ③追再試は実施しない。
- その他の評価
- ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。
 - ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。
 - ③ボランティア実践の時間（1回当たり4時間×2回＝8時間相当）も本時の講義時間に含める。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

質問や相談についてはC-learningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー ^

質問は授業の前後、またはC-learningでも受け付ける。

メールアドレス（#→@） ^

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター（VSC）の活用方法、授業の進め方を確認する。 (教室にて行う)	1,3	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。	1. 5h	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC利用方法などを確認する。	1. 5h
2	ボランティアの力を活かす仕組み～	1, 2,	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織	1. 5h	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ボランティアセンターの役割 ■ (教室にて行う)	3,4	や活動内容を調べる。			
3	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1. 5h	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
4	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか～欧米と日本の歴史(オンデマンド)	1, 2, 3,4	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1. 5h	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1. 5h
5	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1. 5h	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1. 5h
6	被災地に届け、災害支援ボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1. 5h	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
7	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1. 5h	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1. 5h
8	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1. 5h	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1. 5h
9	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～ ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1. 5h	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1. 5h
10	生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	福祉における"複合的な課題"、"重層的な課題"を調べる。	1. 5h	"複合的な課題"、"重層的な課題"等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関われるかを考察する。	1. 5h
11	ボランティアとNPO法人 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	NPO法人とは何かについて調べる。	1. 5h	NPO法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1. 5h
12	"ごみ屋敷"とボランティアについて ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ごみ屋敷の住人に関する課題について調べる。	1. 5h	ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという点を理解する。	1. 5h
13	行政に協力するボランティア ～民	1, 2,	行政に協力するボランティアについて調べる。	1. 5h	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	生委員・児童委員の活躍～■(オンデマンド)	3,4				
14	ボランティアに関する企業の取り組みについて(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ボランティアに関する企業の取り組みについて調べる。	1. 5h	民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。	1. 5h
15	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■(オンデマンド)	1, 3,4	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。 また、既に提出のあったボランティアレポートの紹介をする。	1. 5h	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（予定）。

・ボランティア・市民活動支援センター（VSC、9号館1階）を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。

VSC直通TEL：027-352-1108、VSCメールアドレス：vsc#takasaki-u.ac.jp（#→@）

・シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷 

HOME > 人権論

人権論

英文名：Theory of Human Right

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性（human nature）との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入的に割り込ませることがある。

到達目標

- 1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。
- 2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。
- 3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。
- 4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。
- 5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。

使用教材

テーマ別レジюме、基礎知識資料（テキストに代替するプリント） * テーマによってDVDの視聴あり

評価方法

- ・ 平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
- ・ 課題は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人権の観念と内容	1	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	人権の享有主体と人権規定の適用関係	1,2	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	人権の制約と限界	1,2,4	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	個人主義の観念と幸福追求権の意義	1,2,4	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	法の下での平等－平等権と平等原則－	1,2,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	人間の内心の価値と保護	1,3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	自由と自由主義	1,3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	表現の自由とその抑制	3,4,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	経済活動の自由と財産権	3,5	配布レジюмеの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジюмеの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	人身の自由と刑事手続の保障	3,4,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	政治活動の自由と参政権	3,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	生存権の意義と福祉国家の諸権利	3,4,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	教育を受ける権利と学習権	3,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	人権の国際化	3,5	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	世界の情勢と人権(AIと人権、戦争と人権等)	1,4	配布レジユメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジユメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）



37.5h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。

印刷

人間関係論

英文名：Theory of Human Relations

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH008

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

富田 純喜

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。

②授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

- 1.人間関係論の基礎的内容を理解している。
- 2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。

- 3.身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。
- 4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。

使用教材 ^

菅野仁（2008）『友だち幻想―一人と人の〈つながり〉を考える―（ちくまプリマー新書）』筑摩書房.

参考文献 ^

授業内で適宜紹介する。

評価方法 ^

レポート（50％）、試験（30％）、課題・参画度（20％）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー ^

水曜5限、木曜5限（8号館406）

メールアドレス（#→@） ^

tomita-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ホーソン実験と人間関係論	1	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。	1h	人間関係論の成り立ちについて理解する。	1h
2	「友人重視指向」の日本の高校生（はじめに）	1	テキストの該当ページ（p.11-16）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
3	人は一人では生きられない？（第1章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.17-26）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
4	幸せも苦しみも他者がもたらす（第2章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.27-37）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
5	幸せも苦しみの他者がもたらす（第2章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.37-46）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
6	共同性の幻想（第3章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.47-55）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
7	共同性の幻想（第3章）②中盤	2,3,4	テキストの該当ページ（p.55-63）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
8	共同性の幻想（第3章）③後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.63-79）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
9	「ルール関係」と「フィードバック共有関係」（第4章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.80-96）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	熱心さゆえの教育幻想（第5章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.97-105）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
11	家族との関係と、大人になること（第6章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.106-113）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
12	家族との関係と、大人になること（第6章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.113-120）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
13	「傷つきやすい私」と友だち幻想（第7章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.121-131）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
14	言葉によって自分を作り変える（第8章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.132-153）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2h	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷



ジェンダー論

英文名：Gender Theory

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH009

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

10 人間理解と倫理観

0 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

山田秀頌

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

教員が提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアルマイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの中で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。

②実施方法

教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマにおける主要な問題や概念について解説する。教員が提示す

るトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。現在の社会問題とのつながりを意識してもらうため、講義の内容に関連するニュース動画を流すことがある。

到達目標

^

1. ジェンダーやセクシュアリティにかかわる重要概念について説明できる。
2. ジェンダー論の基本概念や枠組みにもとづいて、性にかかわる社会問題について自分の考えを表現できる。
3. 性の多様性をはじめ、様々な社会的背景を持つ人々ととともに性にかかわる社会問題に取り組むための視点を、自分の考えに反映させることができる。

使用教材

^

『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022年。他に文献資料を適宜配布する。

評価方法

^

中間レポート（40％）および期末レポート（60％）で評価する。
総合評価60％以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

中間レポートについては簡単な講評を行う。

オフィスアワー

^

質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体の説明		性にかかわる身近な問題について考える。	1.5h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する。	1.5h
2	フェミニズムの歴史	1,2,3	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。	1.5h	フェミニズムの4つの波について再確認する。	1.5h
3	公的領域と私的領域	1,2,3	教科書第3章、第7章を読む。	1.5h	公的領域と私的領域の違いを確認し、なぜ私的領域の問題が重要なのかについて理解を深める。	1.5h
4	第三波フェミニズムと「ガールパワー」	1,2,3	教科書第4章、対談Iを読む。	1.5h	ジェンダーの自由を商業主義的な自由として考えることの問題を理解する。	1.5h
5	インターセクショナリティ	1,2,3	教科書第5章、第6章を読む。	1.5h	さまざまな差別の重なりについて考察を深める。	1.5h
6	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ①（性教育）	1,2,3	教科書第10章を読む。	1.5h	リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける性教育の重要性について理解する。	1.5h
7	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ②（中絶）	1,2,3	教科書第14章を読む。	1.5h	中絶をめぐる歴史と現代の状況について理解する。	1.5h
8	セクシュアル・ハラスメントと性暴力	1,2,3	教科書第8章を読む。	1.5h	権力関係の問題として理解する。	1.5h
9	結婚と家族	1,2,3	教科書第11章を読む。	1.5h	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	フェミニズムとケア	1,2,3	教科書第9章、第16章を読む。	1.5h	なぜケア労働は軽視されているのか、どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5h
11	セックスワーク	1,2,3	教科書第12章を読む。	1.5h	セックスワークという考え方について理解を深める。	1.5h
12	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念	1,2,3	教科書第15章を読む。	1.5h	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5h
13	レズビアン、トランスジェンダーとフェミニズム	1,2,3	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5h	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5h
14	トランスジェンダーと医療・法律をめぐる問題	1,2,3	指定する文献資料を読んでおく。	1.5h	トランスジェンダーに対するケアのあり方や、戸籍の性別変更をめぐる状況について理解を深める。	1.5h
15	大学教育とジェンダー／全体のまとめ	1,2,3	教科書第13章、「おわりに」を読む。	1.5h	講義で得た自分の問題関心について、考察を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。
ジェンダー論では、自身の経験や価値観もふまえながら、自分なりの考えを深め、表現することにもっとも大切な意味がある。したがって、レポート課題で生成AI（chatGPT等）の文章をそのまま使うことは認めないので注意すること。AIの使用が強く疑われる場合は大幅な減点の対象となる。

印刷



共生の倫理

英文名 : Ethics of Symbiosis

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH010

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーシ ョン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。

②授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。

到達目標

1. 現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。
2. 共生の歴史について理解し、説明できる。
3. 共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。

- 4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。
- 5.各テーマについて自分の考えをもつことができる。

使用教材 ^

講義中にプリントを配布する。

参考文献 ^

講義中に指示する。

評価方法 ^

定期試験（60％）、講義中に作成する課題（40％）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。

オフィスアワー ^

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

メールアドレス（#→@） ^

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラパスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。	1h	講義の目的や学ぶ意義を理解する。	1.5h
2	ノーマライゼーションから当事者主権へ	1,2	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1h	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。	1.5h
3	障害者権利条約と意思決定支援	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5h
4	ユニバーサルデザイン	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5h
5	優生思想	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	20世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5h
6	援助行為の動機とは	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5h
7	偏見といかに向き合うか	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5h
8	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5h
9	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5h
10	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生する	3,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	メカニズム					
11	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5h
12	環境問題と世代間倫理① ヨナスの世代間倫理	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5h
13	環境問題と世代間倫理② 環境問題をめぐる論争	1,2, 3,5	配布プリントに目を通す。	1h	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5h
14	社会のレジリエンスを高める	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5h
15	まとめ・共生社会へ向けて	1,2, 3,4,5	これまでのノート・資料に目を通す。	1h	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



予習・復習については試験前の学習で補完すること。

*オンライン授業となった場合は、C-learning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷



チーム医療アプローチ論

英文名：Team Approach to Health Care

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH011

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太

科目に関連した実務経験

大川（情報）：診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

加藤（福祉）：医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務

梅原（看護）：看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務（経験）

渡邊（理学）：整形外科医として医療機関に勤務（非常勤）

篠原（理学）：急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務

小竹（子ども）：障害児母子通所支援施設に勤務（経験）

高橋（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。

①福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解す

る。
②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。

到達目標 ^

- 1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■
- 2.各専門職の役割と活動について理解できる。■
- 3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■

使用教材 ^

講義のスライドのファイルおよび資料をC-learningに公開する。

評価方法 ^

授業参加への積極性40%、レポート60%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

- ・多学科の学生が参加していることからC-learningの協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。
- ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learningを用いて受講生にフィードバックする。

オフィスアワー ^

大川（情報）
木曜3限（1号館609研究室）
加藤（福祉）
火曜4限（1号館515研究室）
竹内（栄養）
金曜3限（1号館308研究室）
梅原（看護）
金曜1～2限（5号館502研究室）
渡邊（理学）
金曜3限（5号館1階学部長室）
篠原（理学）
水曜3限（4号館416研究室）
小竹（子ども）
水曜3時限（8号館403研究室）
高橋（薬学）
水曜2限、7号館323研究室

メールアドレス（#→@） ^

大川（情報）
okawa-ki#takasaki-u.ac.jp
加藤（福祉）
kato-d#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）
mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
梅原（看護）
umehara#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）
shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
小竹（子ども）
kotake#takasaki-u.ac.jp
高橋（薬学）
takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
※メールでの質問可の教員のみ掲載

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■	1	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5h	21世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5h
2	チーム医療における看護師の役割と活動■	1,2,3	看護師の役割や業務について調べる	1.5h	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5h
3	チーム医療における理学療法士の役割と活動■	1,2,3	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5h	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5h
4	チーム医療における薬剤師の役割と活動■	1,2,3	チーム医療（病院・薬局）における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5h	医薬品が患者や社会に与える影響（メリットとデメリット）を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5h
5	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■	1,2,3	今までに学習した1～4のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5h	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5h
6	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■	1,2,3	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5h	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5h
7	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■	1,2,3	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5h	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5h
8	チーム医療における診療情報士の役割と活動■	1,2,3	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5h	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【キーワード】 専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携

「チーム医療アプローチ演習」（3または4年次開講）履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



国際保健医療論

英文名：Theory of International Health

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH012

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

3 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

李孟蓉, 町田修三

科目に関連した実務経験

開発途上国の健康支援（経験）

元JICA専門家をゲストスピーカーとして招く（第11回）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標であるSDGsを軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得

することができる。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。

到達目標



1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。
3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。
4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■
5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■
6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。（海外研修参加者）

使用教材



配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと

参考文献



- ①「国際保健医療学」第3版 国際保健医療学会編 杏林書院
- ②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館
- ③「国際協カ―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣
- ④ 世界の厚生労働2019 有限会社正陽文庫/
厚生労働省. 2023年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23_00001.html
- ⑤「国民衛生の動向2024/2025」 厚生労働統計協会
- ⑥「SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」（電子ブック）
- ⑦「世界の貧国 1日1ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する

評価方法



【学内授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、授業・発表・討論の参加度30点（30%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中 のパフォーマンス（40%）

【オンライン授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート10点（10%）、授業・参加度20点（20%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。

発表や討論については、その都度コメントやアドバイスを。レポ―については、コメントを付して返却する。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー



李：木曜日2限目、金曜3限目；研究室：5号館3階 302
町田：月曜日4限目、金曜日2限目；研究室：1号館 6階 603

メールアドレス（#→@）



ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念（一部 AL 実施）	1,2	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読むでること。	1. 5h	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。	1. 5h
2	グローバルヘルスと開発理念の変遷（プライマリーヘルスケア～SDGs）（一部 AL 実施）	1,2	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第Ⅰ部1～4、10～11まで目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。	1. 5h
3	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力（一部 AL 実施）	1,2	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力ーその新しい潮流に目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
4	日本の医療教育、医療制度、医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
5	諸外国（イギリス）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
6	諸外国（ヨーロッパ①）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
7	諸外国（ヨーロッパ②）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
8	諸外国（アメリカ）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
9	諸外国（発展途上国、インドネシア）における健康の格差①（保健指標、母子保健）（一部 AL 実施）	2, 3,4	参考文献④世界の厚生労働2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向2024/2025」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向（人口動態、生命表、母子保健など）について目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
10	諸外国（発展途上国、タイ・ベトナム）における健康の格差②（感染症と非感染性疾	2, 3,4	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社（電子ブック）第2章 保健・健康SDG3に目を通しておくこと。	1. 5h	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	患) (一部 AL 実施)					
1 1	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元JICA専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する	2, 3, 4, 5	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1. 5h
1 2	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題と健康支援	5	日本、群馬県内の在日外国人(人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など)について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておくこと。	1. 5h	在日外国人が抱えている健康問題と健康支援について理解を深める。また、異文化に遭遇した際に求められる必要な対処について考え、今後学習や実践に活用できる資料をまとめること。	1. 5h
1 3	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5, 6	興味ある国の医療事情や興味関心のあるSDGの目標について調べておくこと。	1. 5h	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGの目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 4	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5, 6	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGにおける諸外国、国際機関や世界でのNGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1. 5h	調べてまとめた興味関心のあるSDGについて、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 5	学生プレゼンテーションとまとめ	2, 3, 4, 5, 6	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1. 5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1. 5h

合計時間(予習・復習)

45h

備考

AL(アクティブラーニング)は、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クローズドク

エスチョン、オープニングエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. ルール

1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。

2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

3. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learningの下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。

1) 「レポート」の課題をする。

2) 「アンケート」を提出する。

4. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。

5. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。



Introduction to Healthcare Sciences

英文名 : Introduction to Healthcare Sciences

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH013

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

町田 修三、東福寺 幾夫、松尾 仁司、ターン・クリストファー、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

②数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。

到達目標



- 1.医療に関する基礎的な内容に関して，英語での説明を理解できる
- 2.理解した内容について，第三者に説明できる
- 3.医療に関するトピックに関して，英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる
- 4.医療に関するトピックについて，外国の学生と話をすることができる

使用教材



各教員が作成した資料やデータを用いて講義する

評価方法



担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は，毎回の授業参加度（20%程度）や講義終了時に課す提出物または小レポート（80%程度）により，それぞれの持ち点に応じて学生を評価する

課題・評価に対するフィードバック方法



提出物や小レポートには，コメントを付して返却する

オフィスアワー



月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）



machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course （町田）	1	シラバスを熟読し，講義の概要や目標を理解しておく	1h	講義内容の復習，特に専門用語（英語）を覚える	1h
2	Medical globalization and Japan's healthcare system （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
3	Healthcare system of foreign countries （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
4	Introduction of nursing education in Japan and other countries （大石）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
5	Introduction to telemedicine （東福寺）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
6	Using Medline Plus to obtain medical information in English I （小澤）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す。特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
8	Immunity and diseases I (今井)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
9	Immunity and diseases II (今井)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
10	Medical information system (松尾)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
11	Introduction to sensory science (應本)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
12	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I (富田)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
13	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II (富田)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
14	Mental health and social skills (ターン)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
15	Summary and concluding remarks (ターン)	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

合計時間（予習・復習）

44h

備考

講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。

印刷



囲碁の世界

英文名：Introduction to Igo

科目区分：人間理解

科目ナンバリング：LAH014

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三谷 哲也

科目に関連した実務経験

2002年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。

また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。

②実施方法

- 講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。
- 囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。
- 決め打ち碁（模範的な碁を並べ、途中から打つ）で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようになる。

到達目標							^
1.囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。■ 2.「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■							
使用教材							^
光文社新書「東大教養囲碁講座」 （備考欄を要確認）							
参考文献							^
日本棋院「実践囲碁総合演習」							
評価方法							^
毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する（60%） 試験（20%）×2回 ※対局結果は成績評価に含まない							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
試験後に解説を行う。							
オフィスアワー							^
質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。							
メールアドレス（#→@）							^
連絡手段は初回授業時に提示する。							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	囲碁の歴史と基本ルール■	1,2	教科書 第1章1～3に目を通し講義の目的を理解する。	1.5 h	囲碁の基本的なルールを理解する。	1.5 h	
2	ルールの復習（1）■	1,2	教科書 第2章1-1～1-3に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	囲碁の5つの基本ルールを理解する。	1.5 h	
3	ルールの復習（2）■	1,2	教科書 第2章1-4～1-5に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 h	
4	ルールの復習及び初歩技術（1）■	1,2	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 h	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 h	
5	ルールの復習及び初歩技術（2）■	1,2	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 h	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 h	
6	問題演習■	1,2	教科書 第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 h	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 h	
7	技術の解説（1）■	1,2	教科書 P188～199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 h	
8	技術の解説（2）■	1,2	教科書 P173～188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 h	
9	技術の解説（3）■	1,2	教科書 P158～172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	9子局の解説・連碁（対局）■	1,2	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5h	9子局の打ち方を理解する。	1.5h
11	技術の解説（4）■	1,2	教科書 P207～220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5h	隅の死活を理解する。	1.5h
12	技術の解説（5）とペア碁■	1,2	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5h	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5h
13	問題演習■	1,2	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5h	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5h
14	技術の解説（6）■	1,2	教科書 P259～267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5h	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5h
15	イベント対局とまとめ■	1,2	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5h	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



●履修条件

- ・本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。
- ・囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。

●その他、授業に関する事項

- ・第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。
- ・使用教材（教科書）は、授業形態（オンラインや録画配信）への変更により使用しない場合があります。
- ・授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。
- ・PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト（アプリ）を指示、使用する場合があります。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



HOME > 英語IA

英語IA

英文名 : English IA

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

Prof. Christopher Tarn

ターン・クリストファー教授

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○			

「その他」のアクティブラーニング実施方法

アクティブラーニング活動

以下のアクティブラーニング戦略を授業に組み込みます：

グループディスカッション：主要なトピックをグループで探求する。

ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

プレゼンテーション：資料を準備し、同級生に発表する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

15回の看護コミュニケーションコースの全体目標

このコースは、看護学生が患者、同僚、医療分野の専門家と効果的にコミュニケーションを取るための包括的なスキルを身

につけることを目的としています。主な目標は以下の通りです：

到達目標

- 1.基礎的なコミュニケーションスキルの構築：
自己認識、感情知能、非言語コミュニケーションを強化し、効果的な対人関係スキルを向上させる。
- 2.社会的および専門的能力の育成：
礼儀、アサーティブネス、チームワーク、紛争解決スキルを発展させ、看護の現場で必要とされる能力を高める。
- 3.学術的および専門的なライティングスキルの向上：
エッセイやEメールの構成に熟達し、効果的で印象的なプレゼンテーションをデザインし、発表するスキルを習得する。
- 4.臨床コミュニケーションの強化：
基本的な専門用語を学び、患者とのコミュニケーション技術を向上させ、多文化的な配慮を実践するスキルを身につける。
- 5.実際の状況でスキルを統合する：
ケーススタディにコミュニケーション戦略を適用し、実践的な問題解決能力を育む。

使用教材

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法

- 評価基準
- 1 授業参加: 30%
- 2 グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3 最終発表と振り返り: 30%

オフィスアワー

C- Learning + mail

メールアドレス（#→@）

tarn@takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	セッション1： 看護におけるコミュニケーションの導入 内容： •コースの目的と構成についての概要説明。 •看護におけるコミュニケーションの重要性についてのディスカッション。	1.看護実践におけるコミュニケーションの役割を理解する。 2.コース構成を把握し、期待値を設定する。	看護の現場でなぜコミュニケーションが大切なのかを自分なりに考えてくる。過去に病院などで印象的だった会話の例があれば思い出す。		授業で学んだ「良いコミュニケーションとは何か」を自分なりにまとめてノートに記録する。	
2	セッション2： 自己理解 内容： •個人の強み、弱み、価値観を探る活動。 •ジョハリの窓モデルの導入。	1.自己認識を深め、個人の洞察力を高める。 2.コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解する。	自分の性格の特徴や価値観を簡単に紙に書いてくる。ジョハリの窓モデルについて日本語で調べておく。		授業で行った自己分析の結果を見直し、自分の強みを1つ、改善点を1つ書き出す。	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	セッション3: 感情知能 (EQ) 内容: ●看護における感情知能の定義と重要性を学ぶ。 ●共感と自己認識を高めるための実践的な演習。	1.感情知能を高め、対人関係を改善する。 2.共感を実践し、自己制御スキルを向上させる。	EQ (Emotional Intelligence) について日本語で調べてくる。 例として、自分が感情をうまくコントロールできた／できなかった場面を1つ考えておく。		授業で紹介されたEQの要素（自己認識、自己管理など）を自分の日常生活の中で意識してみる。できたことをノートに書く。	
4	セッション4: ジェスチャーと非言語コミュニケーション 内容: ●非言語コミュニケーションを示すロールプレイ。 ●効果的および非効果的なジェスチャーを示すビデオ分析。	1.非言語的手がかりが患者ケアに与える影響を認識する。 2.共感と明確さを伝えるためにジェスチャーを練習する。	ジェスチャーや表情が会話にどう影響するか、自分の経験から1つ思い出す。身近な人との会話で意識して観察してみる。		授業中のビデオやロールプレイの中で気づいた「良い非言語の使い方」をノートにまとめる。	
5	セッション5: 専門的環境における社会的スキル 内容: ●礼儀、尊重、アサーティブネスの役割について話し合う。 ●チームワークと紛争解決に焦点を当てたグループ活動。	目標: 1.専門的な看護文脈に必要な社会的スキルを開発する。 2.アサーティブなコミュニケーションを通じて紛争を効果的に処理するスキルを習得する	「礼儀」「尊重」「アサーティブネス」という言葉を調べ、自分の中での理解を書き出してくる。		授業でのグループ活動を振り返り、良いチームワークとは何かをまとめてノートに記録する。	
6	セッション6: 学術的なライティングの基礎 内容: ●エッセイの構造、主張、結論を学ぶ。 ●短い練習エッセイのピアレビュー。	目標: 1.効果的な学術的ライティングの要素を理解する。 2.ピアフィードバックを通じてライティングの明確さと一貫性を向上させる。	英語のエッセイの構造（導入・本文・結論）を簡単に調べてくる。例として短い英文エッセイを読んでみる。		授業で書いたエッセイのフィードバックを見直し、改善点をリストにする。次回のライティングに活かすポイントを書く。	
7	セッション7: プロフェッショナルEメール作成 内容: ●医療分野での	目標: 1.専門的なやりとりに必要なEメールライティングスキルを習得する。 2.明確で簡潔な言	英語のEメールでよく使うフレーズ（例：Dear ～, Best regards など）を3つ調べて書いてくる。		授業中に書いたEメール文を見直し、内容・構成・敬語表現の面で修正できる点を1つ以上書き出す。	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	プロフェッショナルなEメールライティングの要素を学ぶ。 ●Eメールの下書きを作成し、レビューを行う。	葉を用いたコミュニケーションを実践する。				
8	セッション8: 看護プレゼンテーションのためのPowerPointスキル 内容: ●魅力的なスライドをデザインする基本スキルを学ぶ。 ●PowerPoint作成における「良い例」と「悪い例」を確認する。	目標: 1.視覚的に効果的なプレゼンテーションを作成するスキルを開発する。 2.メッセージ伝達を強化するスライドデザインを習得する。	「良いスライドとは？」について自分の考えをまとめておく。 インターネットで効果的なPowerPointのデザイン例を1つ調べてくる。		授業で作ったスライドを見直し、改善点をメモする。スライドに使う英単語を5つ復習する。	
9	セッション9: プレゼンテーションの実践 内容: ●自信を持って明確に話すためのヒントを学ぶ。 ●ミニプレゼンテーションを準備し、発表する。	目標: 1.公的な場で話す自信を高める。 2.明確でプロフェッショナルなプレゼンテーションを実践する。	プレゼン中によく使われる英語フレーズ(例: "Let me explain")を3つ調べてノートに書く。		授業での自分の発表を振り返り、話し方・スピード・アイコンタクトについて評価し、改善点を1つ書き出す。	
10	セッション10: 高度なコミュニケーションスキル 内容: ●説得力のあるコミュニケーションとストーリーテリングを紹介する。 ●看護分野における高度なスキルを適用する演習。	目標: 1.ストーリーテリングと説得力のあるコミュニケーションを効果的に活用する。 2.患者や同僚とのやり取りを向上させるための高度なスキルを応用する。	ストーリーテリングとは何か、日本語で簡単に調べてくる。良いストーリーの特徴を3つ挙げておく。		授業での活動を基に、自分で短い英語のストーリーを考えてノートにまとめる。	
11	セッション11: 英語での一般生理学 内容: ●看護に関連する	目標: 1.看護における基本的な生理学用語を理解し使用する。	「循環」「呼吸」「消化」などの基本的な人体システムに関する英単語を3つ調べてくる。		授業で学んだ英単語を使って、自分の言葉で1文ずつ例文を3つ作成する。クイズで間違えた単語を復習する。	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	る主要な生理学用語を学ぶ。 ●用語の理解を強化するためのインタラクティブクイズを実施する。	2.用語の理解力を実践的な練習を通じて強化する。				
1 2	セッション12: 患者とのコミュニケーション 内容: ●患者面談と評価をテーマとしたロールプレイ。 ●共感、安心感、説明を提供するための言葉の練習。	目標: 1.患者との効果的なコミュニケーションスキルを向上させる。 2.共感を伝え、明確な説明を行うスキルを学ぶ。	患者との会話で使われる英語のフレーズ（例: "How are you feeling?"）を3つ調べてくる。		授業中のロールプレイを思い出し、患者に対する共感の表し方を日本語で振り返る。自分の対応の良かった点・改善点を1つずつ書き出す	
1 3	セッション13: 外国人患者との対応 内容: ●文化的意識とその患者ケアにおける役割について議論する。 ●一般的な状況での効果的なフレーズと戦略を練習する。	目標: 1.患者とのやり取りにおける文化的感受性を育成する。 2.外国人患者とのコミュニケーションに適した言葉を使用するスキルを向上させる。	日本の医療現場で外国人患者が増えている理由を考え、自分が接する場面を想像しておく。		授業で使った英語のフレーズを1日1回使ってみる練習をする。文化の違いを感じた経験があれば日記に書く。	
1 4	セッション14: 看護におけるケーススタディ 内容: ●実際の看護シナリオをグループで分析する。 ●解決策と改善案を共同で提案する。	目標: 1.学んだコミュニケーションスキルを現実の看護シナリオに適用する。 2.臨床現場における問題解決力とチームワークを向上させる。	実際に起こりそうな看護の場面（例: バイタルチェック、転倒時の対応など）を1つ考えてくる。		グループで取り組んだケーススタディを振り返り、自分の意見や役割を記録する。別の対応方法も考えてみる。	
1 5	セッション15: コースレビューと統合 内容: ●これまでのすべてのセッションの主要な概念をレビューし統合する。 ●習得したスキルをケーススタディに結びつけた最終発表を行う	目標: 1.コース内容の習熟度を最終発表で示す。 2.進歩を振り返り、継続的な改善の目標を設定する。	コースで学んだ内容を振り返り、自分が最も成長したと感じた点を1つ考えてくる。		自分のプレゼンや参加の様子を自己評価し、今後どのように英語コミュニケーションスキルを活かすかをノートにまとめる。	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	う。 •振り返りとフィードバックのセッションを実施する。					

合計時間（予習・復習）

22.5

^

備考

時間配分（合計45時間）
授業内活動（22.5時間）：
90分授業 × 15回 = 22.5時間
授業外活動（22.5時間）：
予習と準備: 1時間 × 15回 = 15時間
宿題と練習: 30分 × 15回 = 7.5時

^

印刷



[HOME](#) > 英語IB

英語IB

英文名 : English IB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。

② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

AMBITIONS: Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース：初級編，VELC研究会教材開発グループ / 静哲人 / 望月正道 / 熊澤孝昭 編著，金星堂，¥2,200.

評価方法

授業への参加度（発言、課題の実施など）・・・40 %
定期的に実施する確認テスト・・・60 %

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については授業内で解説、コメントを行う。

オフィスアワー

1号館 511 研究室
面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス Unit1 Cross-Cultural Understanding	1,2,3	C-learning「ニュース」を読み、授業の進め方と成績評価の方法を確認しておく。 Unit1 に一通り目を通し、不明な単語や表現について調べておく。	1h	Unit1の単語や表現を身につける。	1h
2	Unit2 Foods	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit2に関する課題を実施しておく。	1h	Unit2の単語や表現を身につける。	1h
3	Unit3 Foreign Language Learning	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit3に関する課題を実施しておく。	1h	Unit3の単語や表現を身につける。	1h
4	Unit4 Sports	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit4に関する課題を実施しておく。	1h	Unit4の単語や表現を身につける。	1h
5	Unit5 Fashion	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit5に関する課題を実施しておく。	1h	Unit5の単語や表現を身につける。	1h
6	Unit6 Living Things	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit6に関する課題を実施しておく。	1h	Unit6の単語や表現を身につける。	1h
7	Unit7 Art	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit7に関する課題を実施しておく。	1h	Unit7の単語や表現を身につける。	1h
8	Unit8 Global issues	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit8に関する課題を実施しておく。	1h	Unit8の単語や表現を身につける。	1h
9	Unit9 Japanese Culture	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit9に関する課題を実施しておく。	1h	Unit9の単語や表現を身につける。	1h
10	Unit10 Human Rights	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit10に関する課題を実施しておく。	1h	Unit10の単語や表現を身につける。	1h
11	Unit11 Health & Medical Issues	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit11に関する課題を実施しておく。	1h	Unit11の単語や表現を身につける。	1h
12	Unit12 Environmental Issues	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit12に関する課題を実施しておく。	1h	Unit12の単語や表現を身につける。	1h
13	Unit13 Economy & Industry	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit13に関する課題を実施しておく。	1h	Unit13の単語や表現を身につける。	1h
14	Unit14 Legal Issues	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit14に関する課題を実施しておく。	1h	Unit14の単語や表現を身につける。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	Unit15 Science & Technology	1,2,3	C-learning の小テストに公開するUnit15に関する課題を実施しておく。	1h	Unit15の単語や表現を身につける。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

^

備考

C-learning「ニュース」に【授業の進め方】【成績評価】について詳細を公開するので、各自で確認しておくこと。

^

印刷



[HOME](#) > 英語IC

英語IC

英文名 : English IC

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く すべて閉じる 

担当教員



山田HAY美由紀

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○		○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



英語会話に必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



この講義では、看護の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力、プレゼンテーション能力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励する。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に記入することもできる。

到達目標



- 1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。
- 2. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。
- 3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。

使用教材

^

課題により印刷教材を配布する。

評価方法

^

講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況(30%)、課題発表(50%)、講義への参加(20%)を評価する。個人課題は、講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は3日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題は、個人課題、ペア課題、グループ課題1、グループ課題2の4種類。
講義内で個人、グループ、全体への口頭評価、課題発表後に口頭でフィードバックする。
また、グループ内で学生同士のフィードバックもある。

オフィスアワー

^

授業の際に指示する。C-Learningを欠席理由報告、講義や課題に対する質問などに活用してもらいたい。

メールアドレス（#→@）

^

必要に応じて提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。	1,2,3	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。	0.5h	Review	0.5h
2	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。	1,2,3	個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
3	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題1の紹介。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
4	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1について理解する。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続けること。	0.5h	Review	0.5h
5	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	Review	0.5h
6	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
7	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1のリハーサル。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h
9	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
10	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題2の説明	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
11	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	Review	0.5h
12	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	Review	0.5h
13	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の練習。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	Review	0.5h
14	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2のリハーサル。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	グループ課題2の練習をしておく。	0.5h
15	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。	1,2,3	発表準備	0.5h	Review	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



- ・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。講義以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。
- ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

印刷



[HOME](#) > 英語IIA

英語IIA

英文名：English IIA

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、一般的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。

② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を英語で表現できるようになる。

使用教材

AMBITIONS: Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース：初級編，VELC研究会教材開発グループ / 静哲人 / 望月正道 / 熊澤孝昭 編著，金星堂，¥2,200.

評価方法



授業への参加度（発言、課題の実施など）・・・40%
定期的に実施する確認テスト・・・60%

課題・評価に対するフィードバック方法



課題については授業内で解説、コメントを行う。

オフィスアワー



1 号館 511 研究室
面談希望の場合は C-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）



izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス Unit1 Cross-Cultural Understanding	1,2,3	C-learning「ニュース」を読み、授業の進め方と成績評価の方法を確認しておく。 Unit1に一通り目を通し、不明な単語や表現について調べておく。	1h	Unit1の単語や表現を身につける。	1h
2	Unit2 Foods	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit2に関する課題を実施しておく。	1h	Unit2の単語や表現を身につける。	1h
3	Unit3 Foreign Language Learning	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit3に関する課題を実施しておく。	1h	Unit3の単語や表現を身につける。	1h
4	Unit4 Sports	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit4に関する課題を実施しておく。	1h	Unit4の単語や表現を身につける。	1h
5	Unit5 Fashion	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit5に関する課題を実施しておく。	1h	Unit5の単語や表現を身につける。	1h
6	Unit6 Living Things	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit6に関する課題を実施しておく。	1h	Unit6の単語や表現を身につける。	1h
7	Unit7 Art	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit7に関する課題を実施しておく。	1h	Unit7の単語や表現を身につける。	1h
8	Unit8 Global Issues	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit8に関する課題を実施しておく。	1h	Unit8の単語や表現を身につける。	1h
9	Unit9 Japanese Culture	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit9に関する課題を実施しておく。	1h	Unit9の単語や表現を身につける。	1h
10	Unit10 Human Rights	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit10に関する課題を実施しておく。	1h	Unit10の単語や表現を身につける。	1h
11	Unit11 Health & Medical Issues	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit11に関する課題を実施しておく。	1h	Unit11の単語や表現を身につける。	1h
12	Unit12 Environmental Issues	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit12に関する課題を実施しておく。	1h	Unit12の単語や表現を身につける。	1h
13	Unit13 Economy & Industry	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit13に関する課題を実施しておく。	1h	Unit13の単語や表現を身につける。	1h
14	Unit14 Legal Issues	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit14に関する課題を実施しておく。	1h	Unit14の単語や表現を身につける。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	Unit15 Science & Technology	1,2,3	C-learningの小テストに公開するUnit15に関する課題を実施しておく。	1h	Unit15の単語や表現を身につける。	1h

合計時間（予習・復習）

^

30h

備考

^

C-learning「ニュース」に【授業の進め方】【成績評価】について詳細を公開するので、各自で確認しておくこと。

印刷



[HOME](#) > 英語IIB

英語IIB

英文名：English IIB

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



ステイシー・クロース

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



相互評価

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



このコースの目標は、実用的で意味のある状況で英語を使用するための基盤を提供することです。本コースでは、話す、書く、聞く、読むという4つの言語スキルを発展させ、個人的および学術的な情報を効果的に伝えることを重視します。学生は、ビデオ、ポスター、スピーチなど、さまざまな形式を活用して自分のアイデアを形にし、意義のある対話に参加します。また、協働活動や仲間からのフィードバックを通じて、英語を使う自信とスキルをさらに向上させます。

The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical and meaningful situations. This course will emphasize the development of all four language skills—speaking, writing, listening, and reading—to effectively communicate personal and academic information. Students will use a variety of formats, such as videos, posters, and speeches, to bring their ideas to life and engage in meaningful interactions. Collaborative activities and peer feedback will further enhance your confidence and proficiency in using English.

到達目標



1. 様々な状況において、話し言葉や書き言葉で明確かつ意味のあるメッセージを英語で伝える。
 2. 英語の資料を活用して、世界的または個人的な関心のあるテーマを調査、分析、理解する。
 3. 英語を学び、楽しみ、効果的に使うための生涯学習の習慣を身につけ始める。
1. Communicate clear and meaningful messages in spoken and written English in various contexts.
 2. Research, analyze, and understand ideas of global or personal interest using English resources.
 3. Begin developing lifelong habits for learning, enjoying, and effectively using English.

使用教材



Provided by instructor

評価方法



平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%、定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法



課題はコメントをつけて返却する。Google Classroomは、課題の提出や授業資料の配布に使用します。

オフィスアワー



水曜日の4限、金曜日の2限・質問はメールでも受け付ける(9号館307研究室)

メールアドレス（#→@）



stacy-c#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
2	Introducing yourself to others	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
3	Narrative story techniques and practice	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
4	Telling a narrative story	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
5	Differences in language communication	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
6	Peer review of narrative writing project	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
7	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
8	Cultural difference is presenting information	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
9	Techniques and practice for presenting a demonstration	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
10	Demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
11	Popular culture and language differences	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Researching a comparative culture topic	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
13	Popular cultures and lifelong learning	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
14	Presenting a pop culture topic in groups	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
15	Peer review of pop culture topic	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

合計時間（予習・復習）↑

15h

備考↑

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

印刷

HOME > 英語IIC

英語IIC

英文名 : English IIC

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL002

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

柳澤順一

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。
2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。
3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。

使用教材

Ambitions-Beginner, Shizuka, Mochizuki & Kumazawa (VELC Materials Development Group), Kinseido (2021)

評価方法

平常点50%（受講態度、小テスト、課題の提出状況など）、定期試験50%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する（学期末課題については返却しないことがある）。

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。

メールアドレス（#→@）

jyanagisawa555#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction, vocabulary quiz, DVD-watching with Q&A (1)	1,2,3	No preparations needed	0	Review of the vocabulary quiz, working on exercises with the DVD scene	1.0 h
2	Unit 1 Cross-cultural understanding, DVD-watching with Q&A (2)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
3	Unit 2 Foods, DVD-watching with Q&A (3)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
4	Unit 3 Foreign language learning, DVD-watching with Q&A (4)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
5	Unit 4 Sports, DVD-watching with Q&A (5)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
6	Unit 5 Fashion, DVD-watching with Q&A (6)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
7	Unit 6 Living things, DVD-watching with Q&A (7)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
8	The Mini Test, DVD-watching with Q&A (8)	1,2,3	Preparing for the Mini Test	1.0 h	Review of the Mini Test, working on exercises with the DVD scene	1.0 h
9	Unit 7 Art, DVD-watching with Q&A (9)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
10	Unit 8 Global issues, DVD-watching with Q&A (10)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
11	Unit 9 Japanese culture, DVD-watching with Q&A (11)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
12	Unit 10 Human rights, DVD-watching with Q&A (12)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
13	Unit 11 Health & medical issues, DVD-watching	1,2,3	Reading the essay part, listening to	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the se	1.0 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	with Q&A (13)		o the sound file		ntences in 'Say What You Think'	
14	Unit 12 Environmental issues,DVD-watching with Q&A (14)	1,2,3	Reading the essay part, listening to the sound file	1.0 h	Review of the new vocabulary, Stating your opinions following the sentences in 'Say What You Think'	1.0 h
15	Review of all the units (Units 1-12)	1,2,3	Scanning all of the dialog scripts and the essays	1.0 h	Preparing for the final exam	2.0 h

合計時間（予習・復習）



30 h

印刷

HOME > 英語IIIA

英語IIIA

英文名 : English IIIA

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL003

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

柳澤順一

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この講義では、看護・医療の現場において必要とされる英語に焦点を絞ったテキストを用いる。医療・看護に関する英語表現力、語彙力、リスニング能力を身につけるとともに、基礎的な医療現場での会話表現を習得することが、この講義の目的である。必要に応じてDVD視聴によるディクテーション・タスクを組み込み、ネイティブライクな英語表現を学ぶことがある。

到達目標

1. 看護・医療に関する英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。
2. 看護・医療に関する英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。
3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。

使用教材

'The World of Medicine,' Kurosawa, Wakimoto & Goddard, Asahi Press (2018)

評価方法

平常点50%（受講態度、小テスト、提出物など）、定期試験50%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは評価またはショートコメントを付した後返却する（学期末課題については返却しないことがある）。

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。

メールアドレス（#→@）

jyanagisawa555#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction, Vocabulary Quiz, DVD-watching with Q&A (1)	1,2,3	No preparations needed.	0h	Review of the vocabulary quiz; working on exercises with the DVD scene (1)	1.0h
2	Unit 1 Medical Professional Communication Skills, DVD-watching with Q&A (2)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (2)	1.0h
3	Unit 2 The Internet and Self Diagnosis, DVD-watching with Q&A (3)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (3)	1.0h
4	Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics, DVD-watching with Q&A (4)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (4)	1.0h
5	Unit 4 Death and Dying, DVD-watching with Q&A (5)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (5)	1.0h
6	Unit 5 Sleep in the 21st Century, DVD-watching with Q&A (6)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (6)	1.0h
7	Unit 6 How Medicine Works in Your Body, DVD-watching with Q&A (7)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (7)	1.0h
8	The Mini Test, DVD-watching with Q&A (8)	1,2,3	Review of Units 1-6	1.0h	Working on exercises with the DVD scene (8)	1.0h
9	Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden Inside You, DVD-watching with Q&A (9)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (9)	1.0h
10	Unit 8 The Role of Asclepius, DVD-watching with Q&A (10)	1,2,3	Reading the text & listening to the	1.0h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally;	1.0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			dialog part with the CD		working on exercises with the DVD scene (10)	
11	Unit 9 CAM, or Complementary and Alternative Medicine (Not Camera!), DVD-watching with Q&A (11)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0 h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (11)	1.0 h
12	Unit 10 The Placebo Effect: Mind Tricked Rather Easily, DVD-watching with Q&A (12)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0 h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (12)	1.0 h
13	Unit 11 Smell: The Dark Horse of Human Faculties?, DVD-watching with Q&A (13)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0 h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (13)	1.0 h
14	Unit 12 Mental Health and Physical Health, DVD-watching with Q&A (14)	1,2,3	Reading the text & listening to the dialog part with the CD	1.0 h	Review of the new vocabulary; practicing the dialog orally; working on exercises with the DVD scene (14)	1.0 h
15	Review of all the Units Covered	1,2,3	Scanning all of the articles and the dialog scripts in the textbook	1.0	Making preparations for the final exam	2.0 h

合計時間（予習・復習）



30h

印刷

英語IIIB

英文名 : English IIIB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL003

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

Matthew Potter

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○	○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

このコースは中級以下の学習者を対象とした、スピーキングに重点を置いた一般英語コースです。日常生活や生活習慣、学校生活や学習習慣、趣味や自由時間など様々なテーマを扱います。

到達目標

1. 基本的な英会話に自信を持つこと
2. 英語のリスニングとスピーキングのスキルを向上させる
3. 学習した英語を強化
4. 英語で学習する方法を学ぶ
5. 自立して英語を学ぶためのスキル、自信、モチベーションを身につける

使用教材

Notebook, Pens and Pencils, textbook, dictionary, smartphone

Textbook: New Conversations in Class, Book 1, ISBN 9784905343356, ALMA Publishing, Stephen Richmond et al.

評価方法

In-Class Activity Tests: 10%, Speaking Tests: 40%, Vocabulary Quizzes: 50%

課題・評価に対するフィードバック方法

Teacher Assessment and Feedback, Peer Assessment and Feedback.

オフィスアワー

Please contact me via email for questions outside of class hours. Questions and study consultations are available before or after class.

メールアドレス（#→@）

matthewedwardpotter#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Welcome and Introduction, Course outline, Textbook Orientation	1,2,3,4,5	Purchase Textbook	0.5h	Orientation Review	0.25h
2	Unit 1- Origins. Where are you from/do you live?	1,2,3,4,5	Unit 1- Origins Preview. Learn your Vocabulary List	0.5h	Unit 1- Origins Review.	0.25h
3	Unit 2- Your Lifestyle. Do you live near here? Do you cook for yourself?	1,2,3,4,5	Unit 2- Your lifestyle Preview. Learn your Vocabulary List	0.5h	Unit 2- Your lifestyle Review.	0.25h
4	Unit 3- Routines. How long does it take you to get to campus?	1,2,3,4,5	Unit 3- Routines Preview. Learn your Vocabulary List	0.5h	Unit 3- Routines Review.	0.25h
5	Unit 4- Habits. Do you ever fall asleep on the train?	1,2,3,4,5	Unit 4- Habits Preview. Learn your Vocabulary List.	0.5h	Unit 4- Habits Review. Prepare test dialog with partner.	.25h
6	Unit 5- Your Studies. What are you majoring in?	1,2,3,4,5	Unit 5- Your Studies Preview. Learn your Vocabulary list	0.5h	Unit 5- Your studies. Review. Prepare and rehearse test dialog with partner.	0.25h
7	Speaking Test	1,2,3,4,5	Prepare and rehearse test dialog with partner.	0.5h	Reflect on Test Performance	0.25h
8	Unit 6- Clubs. Are you in any clubs?	1,2,3,4,5	Unit 6- Clubs Preview. Learn your Vocabulary List.	0.5h	Unit 6- Clubs Review.	0.25h
9	Unit 7- Part Time Jobs. Do you have a part time job?	1,2,3,4,5	Unit 7- Part Time Jobs Preview. Learn your Vocabulary List	0.5h	Unit 7- Part Time Jobs Review.	0.25h
10	Unit 8- Future Jobs. What field would you like to work in?	1,2,3,4,5	Unit 8- Future Jobs Preview. Learn your Vocabulary list.	0.5h	Unit 8- Future Jobs Review.	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	Unit 9- Money. What do you spend your money on?	1,2,3,4,5	Unit-9 Money Preview. Create Learn your 10 Vocabulary List.	0.5h	Unit 9 Money Review.	0.25h
12	Unit 10- Going Out. What's your favorite store to buy clothes?	1,2,3,4,5	Unit 10- Going Out Preview. Learn your Vocabulary List.	0.5h	Unit 10 -Going Out Review. Prepare test dialog with partner.	0.25h
13	Unit 11- Hobbies. Do you play any sports/instruments?	1,2,3,4,5	Unit 11- Hobbies Preview. Learn your Vocabulary List.	0.5h	Unit 11- Hobbies Review. Prepare and rehearse your test dialog	0.25h
14	Speaking Test	1,2,3,4,5	Prepare and rehearse test dialog with partner.	0.5h	Reflect on Test Performance	0.25h
15	Communicative Game, Catch-up for Tests and Quizzes	1,2,3,4,5	Check if you have missed any quizzes or tests and prepare.	0.5h		0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

^

備考

Syllabus may be subject to minor changes. The instructor will advise as necessary.

^

印刷



[HOME](#) > 英語IIIC

英語IIIC

英文名：English IIIC

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL003

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

織原 義明（おりはら よしあき）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 看護・医療に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 看護・医療に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 看護・医療についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

The World of Medicine, 朝日出版社,
黒澤麻美 /和治元義博 /James A. Goddard,
1,980円(本体1,800円+税)

評価方法

^

授業への参加度と平常点（小テスト含む）40%、期末試験60%から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。

オフィスアワー

^

授業開始前または終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

orihara#u-gakugei.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Unit 1：医療従事者のコミュニケーション技能	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
2	Unit 2：インターネットと自己診断	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
3	Unit 3：耐性のある病気と薬の経済学	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
4	Unit 4：死と死ぬこと	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
5	Unit 5：21世紀の睡眠	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
6	Unit 6：薬が体内でどのように作用するのか	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
7	Unit 7：腸内微生物叢：あなたの中にあるお花畑	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
8	Unit 8：アスクレピオスの杖	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
9	Unit 9：CAM、補完代替医療（カメラじゃなくて！）	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	Unit 10：プラセボ効果：かなり簡単にだまされる心	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
11	Unit 11：嗅覚：ヒトの機能の中のダークホース？	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
12	Unit 12：精神の健康と身体の健康	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
13	Unit 13：免疫と自己免疫	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
14	Unit 14：癌の治療（1）：現在まで	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
15	Unit 15：癌の治療（2）：これから	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

音声教材はC-learningにアップします。

印刷 

[HOME](#) > 英語IVA

英語IVA

英文名 : English IVA

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL004

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く すべて閉じる 

担当教員



山田HAY美由紀

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○		○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



英語会話に必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



この講義では、看護の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力、プレゼンテーション能力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励する。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に記入することもできる。

到達目標



1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。
2. コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。
3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。

使用教材

^

課題により印刷教材を配布する。

評価方法

^

講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況(30%)、課題発表(50%)、講義への参加(20%)を評価する。個人課題は、講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は3日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題は、個人課題、ペア課題、グループ課題1、グループ課題2の4種類。
講義内で個人、グループ、全体への口頭評価、課題発表後に口頭でフィードバックする。
また、グループ内で学生同士のフィードバックもある。

オフィスアワー

^

授業の際に指示する。C-Learningを欠席理由報告、講義や課題に対する質問などに活用してもらいたい。

メールアドレス（#→@）

^

必要に応じて提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。	1,2,3	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。	0.5h	Review	0.5h
2	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。	1,2,3	個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
3	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題1の紹介。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
4	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1について理解する。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続けること。	0.5h	Review	0.5h
5	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	Review	0.5h
6	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
7	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の実践。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1のリハーサル。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題1の発表に向けて個人練習すること。	0.5h
9	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題1の発表。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
10	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題2の説明	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	Review	0.5h
11	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	Review	0.5h
12	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	Review	0.5h
13	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2の練習。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	Review	0.5h
14	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題2のリハーサル。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題2の練習をしておく。	0.5h	グループ課題2の練習をしておく。	0.5h
15	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。	1,2,3	発表準備	0.5h	Review	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



- ・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。講義以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。
- ・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

印刷



[HOME](#) > 英語IVB

英語IVB

英文名：English IVB

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL004

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

織原 義明（おりはら よしあき）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 看護・医療に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 看護・医療に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 看護・医療についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

The World of Medicine, 朝日出版社,
黒澤麻美 /和治元義博 /James A. Goddard,
1,980円(本体1,800円+税)

評価方法

^

授業への参加度と平常点（小テスト含む）40%、期末試験60%から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。

オフィスアワー

^

授業開始前または終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

orihara#u-gakugei.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Unit 1：医療従事者のコミュニケーション技能	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
2	Unit 2：インターネットと自己診断	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
3	Unit 3：耐性のある病気と薬の経済学	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
4	Unit 4：死と死ぬこと	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
5	Unit 5：21世紀の睡眠	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
6	Unit 6：薬が体内でどのように作用するのか	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
7	Unit 7：腸内微生物叢：あなたの中にあるお花畑	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
8	Unit 8：アスクレピオスの杖	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
9	Unit 9：CAM、補完代替医療（カメラじゃなくて！）	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	Unit 10：プラセボ効果：かなり簡単にだまされる心	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
11	Unit 11：嗅覚：ヒトの機能の中のダークホース？	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
12	Unit 12：精神の健康と身体の健康	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
13	Unit 13：免疫と自己免疫	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
14	Unit 14：癌の治療（1）：現在まで	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h
15	Unit 15：癌の治療（2）：これから	1,2,3	Reading の英文を読んで、わからない語句を調べ、何が書かれているのか、概要をつかんでおく。	0.5h	音声教材を参考に、reading とDialog を音読する。間違っていた問題を見直す。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



音声教材はC-learningにアップします。

印刷



英語IVC

英文名 : English IVC

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL004

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

松田 幸子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護について学ぶ大学生に必要なとされるコミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。

②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的な話題についての基本的な語彙・英語表現を獲得する。
2. 看護・ケアに関わる際に必要となる基本的な語彙・英語表現を獲得する。
3. 自身のことを英語で表現できるようになる。

使用教材

Peter Vincent他『Speaking of Nursing』（南雲堂、2017年）

評価方法

期末試験（50％）、授業参加度（30％）、課題等（20％）の総合評価とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題・試験はコメント・添削の上返却する。

オフィスアワー

金曜1、2限

メールアドレス（#→@）

matsuda-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3	シラバスとテキストを照らし合わせ、予習、復習、評価方法について確認する。	0.5h	講義におけるテキストの使用法について理解する。	0.5h
2	Unit 1 Asking Basic Questions	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
3	Unit 2 A Patient's First Visit	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
4	Unit 3 Where's Internal Medicine?	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
5	Unit 4 Admission to the Hospital	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
6	Unit 5 Giving Information	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
7	Unit 6 Symptoms (1)	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
8	Unit 6 Symptoms (2)	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
9	Unit 7 Injuries and Emergencies	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
10	Unit 8 How Are You Feeling? (1)	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
11	Unit 8 How Are You Feeling? (2)	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
12	Unit 9 A Patient's Medical History	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
13	Unit 10 Medicine (1)	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
14	Unit 10 Medicine (2)	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h
15	Unit 11 I'm Going to Give You an IV	1,2,3	Words and Idiomsの確認	0.5h	ワークシートを完成させる	0.5h

合計時間（予習・復習）

備考



辞書とテキストを必ず持参すること。

印刷 

Integrated English I

英文名：Integrated English I

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL005

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

Tarn, Christopher

ターン・クリストファー

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○			○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. 学生がコミュニケーション能力を向上させ、感情知能（EQ）、異文化理解、実践的な英語の応用力を身につけることを目的としています。基礎的スキル、英語力、リーダーシップの開発を統合し、学生が多様な個人、学術、職業的な場面で自信を持って効果的にコミュニケーションできるよう準備します。

2. グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標

- 1.コミュニケーションの概念、自分自身の理解、マインドフルネスについて理解できる。
- 2.異文化における言語および非言語的コミュニケーションの違いを理解できる。
- 3.共感、ストレス管理、アサーティブネス、アクティブリスニングを活用できる。
- 4.リーダーシップのためのコミュニケーション能力を身につけ、効果的にソーシャルメディアとオンラインコミュニケーションを活用できる。

使用教材

^

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法

^

- 1.授業参加: 30%
- 2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3.最終発表と振り返り: 30%

オフィスアワー

^

C-Learning + mail

メールアドレス（#→@）

^

tarn#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションとは何か？ ・コミュニケーションの定義（内的、外的、言語的、非言語的）。 ・現在のコミュニケーション習慣の自己評価。 ・コミュニケーションにおける文化的影響（日本の文脈）を探る。	1	コミュニケーションに関する自身の考えや経験を事前に整理する。	1.0 h	授業で提示されたコミュニケーションの定義や文化的影響の具体例をまとめる。	0.5 h
2	EQ（感情知能）と自己認識 ・感情知能（EQ）の導入。 ・自分の感情を認識し、理解する。 ・コミュニケーションにおける感情を管理するための戦略を学ぶ。	1,3	感情知能（EQ）に関する基本的な知識を事前に調査する。	1.0 h	自身の感情認識と管理の傾向について分析し、授業で学んだ戦略を適用する方法を考える。	0.5 h
3	マインドフルネスと内的対話 ・自己認識を高めるためのマインドフルネスを実践する。 ・否定的な自己対話を認識し、再構築する。 ・コミュニケーション	1	自己認識を高めるためのマインドフルネスの実践方法を調べ、簡単なエクササイズを試みる。	1.0 h	授業で行ったマインドフルネスの体験を振り返り、自己対話のパターンに気づいた点を記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	経験を振り返るジャーナリングを行う。					
4	コミュニケーションのための基本的な英語 ・日常の挨拶、自己紹介、質問を練習する。 ・発音とスピーキングの流暢さに焦点を当てる。 ・簡単なロールプレイシナリオを取り入れる。	1	基本的な英語の挨拶、自己紹介、質問の表現を練習する。	1.0 h	授業で学んだ発音や流暢さのポイントを意識しながら、自己紹介などのロールプレイを再度行う。	0.5 h
5	異文化における非言語コミュニケーション ・ジェスチャー、ボディランゲージ、表情を解説する。 ・日本と他文化の非言語的手がかりの違いを比較する。 ・感情を当てようなどのアクティビティを通じて練習する。	2	日本と異なる文化における非言語コミュニケーションの例をいくつか調査する。	1.0 h	授業で扱われた非言語的手がかりの違いを整理し、感情を当てるアクティビティでの気づきを考察する。	0.5 h
6	コミュニケーションスタイルと適応 ・直接的スタイルと間接的スタイル、形式性、礼儀正しさを探る。 ・対象者や状況に応じたコミュニケーションを調整する戦略を学ぶ。 ・異なるコミュニケーションスタイルのシナリオを用いたロールプレイを行う。	2	直接的および間接的なコミュニケーションスタイルについて考え、自身がどちらの傾向があるか分析する。	1.0 h	異なるコミュニケーションスタイルのロールプレイを振り返り、状況に応じたコミュニケーションの調整方法を検討する。	0.5 h
7	コミュニケーション障壁の克服 ・日本人学習者が直面する英語コミュニケーションの課題を特定する。 ・誤解や言語的な困難に対処する方法を学ぶ。 ・翻訳ツールや技術を利用してコミュニケーションを支援する。	2	自身が英語コミュニケーションで課題を感じる点を具体的な場면을想定して考える。	1.0 h	授業で学んだ課題への対処法や翻訳ツールの活用方法を、具体的な場면을想定して試す。	0.5 h
8	感情スキルと社会的コミュニケーション ●第2回で学んだ共感と	1,3	共感とアクティブリスニングが重要となる具体的な場면을想像する。	1.0 h	共感とアクティブリスニングを意識した会話を実践し、相	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	アクティブラリスニングを再確認する。 - 社会的なコミュニケーションにおけるストレス管理を学ぶ。 - 共感を実践するロールプレイとアクティブラリスニングの練習を行う。				手の反応や自身の気づきを記録する。	
9	実践的かつアサーティブなコミュニケーション - コミュニケーションの課題に対してクリティカルシンキングを応用する。 - アサーティブネス（要求を伝える、ニーズを表現する、境界を設定する）を練習する。 - 自信を高めるための言葉によるセルフディフェンスを探る。	1,3	アサーティブなコミュニケーションの具体的な表現例を調べ、練習する。	1.0 h	授業で行ったアサーティブネスのロールプレイを振り返り、より効果的な自己表現のための改善点を明確にする。	0.5 h
10	リーダーシップのためのコミュニケーション - 説得力のある技術と明確な指示の出し方を学ぶ。 - リーダーシップの「声」を発展させる。 - グループディスカッションをリードする練習を行う。	1,4	効果的なリーダーシップを発揮するためのコミュニケーション要素を考察する。	1.0 h	グループディスカッションをリードする練習を行い、参加者からのフィードバックを分析する。	0.5 h
11	ソーシャルメディアコミュニケーション - 英語で効果的なソーシャルメディア投稿を作成する方法を学ぶ。 - オンラインのエチケットと自分をポジティブに表現する方法を議論する。 - グループプロジェクトでシンプルなソーシャルメディアキャンペーンを作成する。	4	英語での効果的なソーシャルメディア投稿の例をいくつか分析し、自身の投稿のアイデアを考える。	1.0 h	授業で作成したソーシャルメディアキャンペーンの内容を改善するためのアイデアを考える。	0.5 h
12	プレゼンテーションと振り返り 学んだコミュニケーションスキルを活用して短いプレゼンテーション	1,3,4	これまでの授業で学んだコミュニケーションスキルをどのように活用するかを具体的に考え、プレゼンテーションの構成を計画し、発表練習の準備をする。	1.0 h	自身のプレゼンテーションを振り返り、改善点と今後の学習目標を定める。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ョンを行う。 ・コース全体の学習成果を振り返る。 ・実生活でのスキル活用について議論する。					
1 3	交渉と紛争解決 ・個人と職業的なコミュニケーションのための交渉戦略を学ぶ。 ・ロールプレイを通じて紛争解決技術を練習する。 ・紛争解決における文化的な違いを議論する。	2,3, 4	個人と職業的なコミュニケーションにおける交渉や紛争解決の基本的な戦略を調べる。	1.0 h	ロールプレイで行った交渉や紛争解決の場面を分析し、学んだ戦略がどのように適用できたか考察する。	0.5 h
1 4	協力的コミュニケーションとチームワーク ・効果的なコミュニケーションにおけるチームワークの重要性を探る。 ・グループ問題解決タスクなどの協力的な活動を実践する。 ・建設的なフィードバックの提供と受け取り方を学ぶ。	3,4	効果的なチームワークに貢献するために必要なコミュニケーションスキルを考える。	1.0 h	グループワークでの自身の役割とコミュニケーションを振り返り、建設的なフィードバックの提供と受け取り方について考察する。	0.5 h
1 5	実世界応用とキャリアコミュニケーション ・職場コミュニケーション技術（例：Eメールの書き方、ブリーフィングの実施）を学ぶ。 ・就職面接やキャリアに関する議論での英語コミュニケーションを練習する。 ・コミュニケーションスキルがキャリアの成功をサポートする方法を議論する。	3,4	職場やキャリアに関する英語コミュニケーションの具体的な場面（メール、面接など）を想定し、必要な表現やスキルを調べる。	1.0 h	模擬面接やキャリアに関する議論を振り返り、今後の学習課題を明確にする。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

22.5h



印刷

Integrated English II

英文名 : Integrated English II

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL006

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

高橋栄作

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○								○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながらTOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。

②講義の実施方法

TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。

到達目標

- 1.TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。
- 2.語彙力が身につく。
- 3.文法事項を理解できる。
- 4.リスニング力が身につく。
- 5.リーディング力が身につく。

使用教材

^

Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). Level-up Trainer for the TOEIC® TEST. 東京：センゲージラーニング.

参考文献

^

授業内で紹介する。

評価方法

^

授業への参加度、発表、課題（40％）、期末試験（60％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題は返却して解説する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

eisaku#tcue.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・TOEICテストとはPre-test	1, 2, 3, 4, 5	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。	0.4 5 h	Pre-testの誤りを復習する。	0.3 h
2	Unit 1: テスト形式を知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 1 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
3	Unit 2: 基本戦略①	1, 2, 3, 4, 5	Unit 2 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
4	Unit 3: 基本戦略②	1, 2, 3, 4, 5	Unit 3 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
5	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く	1, 2, 3, 4, 5	Unit 4 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
6	Unit 5: 解答根拠の登場順	1, 2, 3, 4, 5	Unit 5 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて	0.3 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					練習問題に回答する。	
7	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 6 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
8	Units 1-6のまとめ	1, 2, 3, 4, 5	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h
9	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 7 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
10	Unit 8: 動詞の時制を見極める	1, 2, 3, 4, 5	Unit 8 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
11	Unit 9: 接続詞 v s. 前置詞	1, 2, 3, 4, 5	Unit 9 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
12	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略	1, 2, 3, 4, 5	Unit 10 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
13	Unit 11: 接続副詞に強くなる	1, 2, 3, 4, 5	Unit 11 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
14	Unit 12: NOT型設問のコツ	1, 2, 3, 4, 5	Unit 12 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
15	まとめ Post-test	1, 2, 3, 4, 5	Post-testの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h

合計時間（予習・復習）



11.25 h

備考



予習をして授業に出席してください。
テキストは新しいものを購入してください。

[HOME](#) > ドイツ語

ドイツ語

英文名：German

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL007

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

1 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

4 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標：

日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できる力を養成する。発音・会話練習を通して、理解力と表現力を養う。またドイツ語圏の文化、マナー、産業、医療に関連する知識（医療用語を含む）を取りあげ、異文化への関心と理解を喚起する。

②講義の実施方法：

教科書の他に配布プリント等によって、表現の演習、文化紹介を行う。

到達目標

- ドイツ語のあいさつ、自己紹介や買い物表現など、基本の会話表現を活用できる。
- ドイツ語の初級文法を理解し、活用できる。
- ドイツ語圏の文化、マナー、医療関連の知識について理解を深める。

使用教材

『アプファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

定期試験(50%)、小テスト・提出課題(50%)に、授業への積極性などを加味する。

課題・評価に対するフィードバック方法

小テストや提出課題は採点して返却し、解説を行う。

オフィスアワー

月曜日の2時限、金曜日の2時限。
(1号館6階601)

メールアドレス（#→@）

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、ドイツ語のABC、挨拶	1	テキストの付属音声でアルファベットの発音を確認する。	1h	アルファベット、挨拶の表現を復習する。	1.5h
2	発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介	1,3	ウムラウトなどの発音を確認する。	1h	配布プリントの発音を確認する。	1.5h
3	Lektion 1 名前、出身、住所をたずねる / ドイツ語圏の文化①Sieとdu	1,3	テキストのLektion1の会話文の音声を聞く。	1h	自己紹介の仕方を確認する。	1.5h
4	Lektion 1 職業・専門をたずねる / ドイツ語圏の文化②学校制度	1,2,3	動詞の現在人称変化を確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
5	Lektion 1 趣味を尋ねる/ ドイツ語圏の文化③学生生活	1,2,3	テキストのLektion 1の会話文の音声を聞く。数字の発音を確認する。	1h	0～20までの数字の発音を定着させる。	1.5h
6	Lektion 2 約束をする/ ドイツ語圏の文化④食事	1,2,3	不規則変化を確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
7	Lektion 2 食事の表現 / ドイツ語圏の文化⑤産業	1,2,3	テキストのLektion 2の会話文の音声を聞く。	1h	好きな食べ物の伝え方を確認する。	1.5h
8	Lektion 3 道の尋ね方 / ドイツ語圏の文化⑥音楽	1,2,3	冠詞・命令形などを確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
9	Lektion 4 買い物 / ドイツ語圏の文化⑦歴史	1,2,3	テキストのLektion 4の会話文の音声を聞く。	1h	値段の表現を確認する。	1.5h
10	Lektion 4 誕生日と日付/ ドイツ語圏の文化⑧年中行事	1,2,3	買い物の表現・日付の表現を確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
11	Lektion 5 予定を立てる / ドイツ語圏の文化⑨休暇の過ごし方	1,2,3	テキストのLektion 5の会話文の音声を聞く。	1h	道案内の表現を確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Lektion 5 助動詞を使った表現/ ドイツ語圏の文化⑩医療・医療用語(1)	1,2,3	助動詞の仕組みを確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
13	Lektion 6 過去のできごと / ドイツ語圏の文化⑩医療・医療用語(2)	1,2,3	テキストのLektion 6の会話文の音声を聞く。	1h	現在完了の表現を確認する。	1.5h
14	まとめ・学生発表①	1,3	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5h	学習した表現・内容を再確認する。	1h
15	まとめ・学生発表②	1,3	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5h	学習した表現・内容を再確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

^

備考

^

予習・復習については試験前の学習で補完してください。
*オンライン授業となった場合は、C-Learningで講義動画を閲覧し、課題を提出する形式になります。

印刷



[HOME](#) > フランス語

フランス語

英文名：French

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL008

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

0 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

3 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

松島 洋子

科目に関連した実務経験

医療通訳・翻訳（産婦人科、形成外科、外科）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。

①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。

到達目標

1. フランス語で簡単な会話ができる ■

2. フランス語検定4級相当の文法を理解する ■

使用教材



①新ゼロからスタート フランス語単語集 BASIC1000／Jリサーチ出版
ISBN-13 978-486392543-4
②フランス語をひとつひとつわかりやすく。一超基礎からの個人授業／学研教育出版
ISBN-13 978-4-05-303813-5

評価方法



授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認60%、
授業内の発言・質問・ロールプレイ等40%

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。

オフィスアワー



質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性や文化に触れる■	1,2	第1回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第1回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
2	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■	1,2	第2回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第2回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
3	動詞の活用①■ ・フランス語の基礎となる不規則動詞 ・名詞「性格」「国名」 ・自分のことを紹介する	1,2	第3回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第3回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
4	動詞の活用②■ ・不規則動詞avoirの使い方 ・英語のhaveとの共通点	1,2	第4回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
5	動詞の活用③■ ・不規則動詞 aller ・英語のGoとの共通点 ・目的地の場所につける前置詞	1,2	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
6	所有形容詞■ ・「私の」「彼の」 ・名詞「家族・友人・日用品」 ・名詞と冠詞の関係	1,2	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
7	否定文の作り方■ ・動詞「話す」の活用 ・名詞「職業」	1,2	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
8	動詞の活用④■ ・ER動詞の使い方 ・数えられる名詞と数えられない名詞	1,2	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
9	疑問文①■ ・答えが「はい・いいえ」になる疑問文と「具体的な答え」を求める疑問文	1,2	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	動詞の活用⑤ ■ ・「faire～する」の使い方 ・日常生活での活用	1,2	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
11	疑問文② ■ ・「どこですか？」 ・「誰ですか？」 ・友人や家族を紹介する	1,2	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
12	疑問文③ ■ ・方向、位置を尋ねる ・「上下」「前後」「左右」	1,2	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
13	動詞の活用⑥ ■ ・「faire」の応用 ・名詞「スポーツ」との活用	1,2	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
14	時計の読み方 ■ ・時間、曜日、月、季節 ・「何時ですか」と質問する	1,2	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
15	動詞の活用⑦ ■ ・「○○が欲しい」 ・「○○ができる」 ・ 基礎～応用まとめ	1,2	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

ポルトガル語

英文名 : Portuguese

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 人間理解と倫理観

0 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

3 国際理解

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

アンジェラ マルリ カルステン 角田

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼ ンテー ション	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイングと教育的ゲーム

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。
2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。

到達目標 ↑

1. 初級レベルの日常会話
2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。

使用教材 ↑

教材プリント

参考文献 ↑

ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu

評価方法 ↑

- 15% - アンケートへの参加
- 25% - 宿題
- 30% - 中間グループプレゼンテーション
- 30% - 最終グループプレゼンテーション

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。

オフィスアワー ↑

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コースとクラスの紹介	1,2	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。	1.5 h	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。	1.5 h
2	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 – ser/estar)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	自己紹介文を見直す。	1.5 h
3	家族について。(私の、あなたの、彼女の、彼の... meu, seu, dele, dela...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	家族についての話し、文を見直す。	1.5 h
4	数字、曜日、月、天気、について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で曜日、1から10までの数字、月を学ぶ。	1.5 h
5	好き嫌いについて。動詞「gostar」（ポルトガル語	1,2	宿題、アンケート実施。	1.5 h	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	で色、食べ物、飲み物など)		質問があればメモしておく。			
6	物事の説明。(形容詞、反対語)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1.5 h
7	日常の活動について。(よく使われる規則動詞)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1.5 h
8	これまでの内容の復習、中間グループ発表。	1,2	中間グループプレゼンテーション準備。	1.5 h	授業で示される重要語彙の復習。	1.5 h
9	疑問詞の使い方。(Como? Onde?, O que? Quem?...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1.5 h
10	時間について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1.5 h
11	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方。 (前置詞、動詞の動名詞形)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞の継続時制を使う練習をする。	1.5 h
12	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。 (不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
13	予定について。(動詞「行く」と「来る」 - 「ir」と「vir」)	1,2	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1.5 h
14	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく	1.5 h	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
15	プレゼンテーション。クラス全体でのディスカッション。	1,2	グループプレゼンテーションの準備。	1.5 h	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1.5 h

合計時間 (予習・復習)

45 h



印刷

中国語

英文名：Chinese

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL010

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

0 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

2 国際理解

6 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊 賢

履修を必須とする資格

無し

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

②1) 授業は全15回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性のある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。

2) 毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

- 1.中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。
- 2.中国語音を表記する音声記号を習得する。
- 3.中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。
- 4.中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。
- 5.日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。

使用教材							^
教科書『大学一年生のための合格る中国語』小幡敏行著（朝日出版社） ISBN97-4-255-45224-1C1087							
参考文献							^
講義中に適宜指示する。							
評価方法							^
毎回の小試験20%、発音中間試験30%、学期末筆記試験50%により評価する。 総合評価60%以上を合格とみなす。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。							
オフィスアワー							^
授業開始前もしくは授業終了後に応じる。							
メールアドレス（#→@）							^
公開しない。必要があれば適宜指示する。							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	ガイダンス	1	シラバス内容、教科書第8頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。	1h	不要	0h	
2	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h	
3	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h	
4	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h	
5	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第1課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h	
6	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。	2,3,4,5	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h	
7	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。	2,3,4,5	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。	2,3,4,5	教科書第4課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
9	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
10	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
11	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。	2,3,4,5	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
12	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
13	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。	2,3,4,5	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
14	教科書第10課、方向補語や結果補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第10課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
15	教科書第11課、主述述語文や比較表現などについての学習。	2,3,4,5	教科書第11課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



26h

備考



復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷



ハングル語

英文名：Korean

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL011

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

2 国際理解

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



丁 美貞

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グル ープワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。

②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標



1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。
2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。
3. 100語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。
4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。

使用教材



朴庚卿, 仲島淳子, 金美順, 徐明煥（2023）『ワンアクション韓国語』朝日出版社

参考文献



評価方法

授業への参加度10%、課題・小テスト30%、定期試験60%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。

オフィスアワー

質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。

メールアドレス（#→@）

mjjeong621#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要、ハングルについて、基本母音	1	テキストを用意し、2頁～6頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
2	基本子音（平音、激音、濃音）	1	7頁～17頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
3	複合母音	1	18頁～21頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
4	終声（パッチム）	1	22頁～25頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
5	発音の変化	1	26頁～30頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
6	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力（メール）	1	31頁～32頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
7	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다	1,2, 3,4	32頁～35頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
8	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習	1,2, 3,4	34頁～43頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」	1,2,3,4	44頁～47頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
10	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」（位置）、否定形「지 않다」、作文練習	1,2,3,4	48頁～53頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
11	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」	1,2,3,4	54頁～59頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
12	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習	1,2,3,4	60頁～65頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
13	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」（時間）、助詞「에」（方向）	1,2,3,4	66頁～71頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
14	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習	1,2,3,4	72頁～77頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5h		1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

印刷 

情報リテラシー I

英文名 : Information Literacy I

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL012

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

石田順子 李 孟蓉 木幡直樹

履修を必須とする資格

データサイエンス・AI実務パスポート

上級データサイエンス・AI実務パスポート

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。

②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。

2. メールやSNSを正しく扱うことができる。

3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。

- 4.大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。
5.情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

火曜3限 5号館4階403研究室（石田）

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

jishida#takasaki-u.ac.jp（石田）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	メール・SNS利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCCの使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS利用上の注意（マナー、リスク、注意事項） ⑤クラウドサービス利用上の注意事項	2,4	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Widows PCの操作1（基本操作編） ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定（無線/有線）とWebサイトへの接続 ④Webブラウザの便利機能とセキュリティ管理		3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Widows PCの操作2（エクスプローラ操作編） ①各種表示機能のON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Widows PCの操作3（実用操作編） ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	②Windowsの各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)					
6	Gメールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成（受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱） ③メールの作成・送信（To/Cc/Bcc）・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践（履修者同士での練習）	2,4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル	5	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他	5	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

印刷



情報リテラシーⅡ

英文名：Information Literacy Ⅱ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL013

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

桑原敦志、星野美穂、木幡直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。
- ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。
- 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。
- コンピュータの5大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。
- OSの役割を説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布、動画閲覧

評価方法

各単元で実施する小テストの合計を100 点満点に換算し、60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learning を利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集する。

オフィスアワー

水曜3限、1号館6階602研究室

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータの仕組み 1 ①情報量と補助単位（接頭語） ②2 進数、8 進数、16 進数	1	1 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	1 回目の講義内容を 復習する	1.5h
2	コンピュータの仕組み 2 ①2 値論理 ②真理値表 ③ベン図	2	2 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	2 回目の講義内容を 復習する	1.5h
3	コンピュータの仕組み 3 ①コンピュータの概要（5 大要素） ②コンピュータの種類	3	3 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	3 回目の講義内容を 復習する	1.5h
4	コンピュータの仕組み 4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置	3	4 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	4 回目の講義内容を 復習する	1.5h
5	コンピュータの仕組み 5 ① 周辺装置（入力装置・出力装置） ② 周辺装置（補助記憶装置） ③ ドライブ	3	5 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	5 回目の講義内容を 復習する	1.5h
6	コンピュータの仕組み 6 ① OS の種類 ② OS の役割（ファイル管理） ③ OS の役割（タスク管理・メモリ 管理・デバイス管理） ④ OS とGUI インターフェイス	3	6 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	6 回目の講義内容を 復習する	1.5h
7	コンピュータの仕組み 7 ① LAN とインターネット ② IP アドレスとルーティング ③ ファイヤーウォール ④ Web とWeb アプリ	4	7 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	7 回目の講義内容を 復習する	1.5h
8	コンピュータの仕組み 8 ① パソコンの構造 ② 筐体 ③ マザーボード ④ 各種拡張ボード	3	8 回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	8 回目の講義内容を 復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



1. 授業はオンライン授業となる。
2. 学生は、C-learning を活用し出席の登録を行う。
3. 学習状況、小テストについては、C-learning にて科目責任者が連絡する。
4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレスkohata#takasaki-u.ac.jp まで連絡する。

印刷



情報リテラシーⅢ

英文名：Information Literacy Ⅲ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL014

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子 星河純子 木幡直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
				○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.Wordを使って各種文書を作成できる。
2.PowerPointを使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。

使用教材

30時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

前期 水曜3限、後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Word利用の基礎（演習）1 ①Wordの起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
2	Word利用の基礎（演習）2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
3	Word利用の基礎（演習）3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
4	Word利用の基礎（演習）4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
5	Word利用の基礎（演習）5 ①文書作成のまとめ（文書資料の作成）	1	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h
6	PowerPoint利用の基礎（演習）1 ①PowerPointの画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
7	PowerPoint利用の基礎（演習）2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
8	PowerPoint利用の基礎（演習）3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ（プレゼンテーション資料の作成）	2	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト（Word、PowerPoint）を使用するものとする。

- ・ 予習・復習：必要に応じて、各自補完すること。
- ・ 授業はオンライン授業となる。
- ・ 出席については、小テストの提出をもって出席とする。
- ・ 出席、学習状況、小テストについては、C-learningにて科目責任者が連絡する。
- ・ 授業内容についての質問事項は、メールアドレスkohata#takasaki-u.ac.jpまで連絡する。

印刷 

情報リテラシーⅣ

英文名：Information Literacy Ⅳ

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL015

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

砂賀道子、廣井寿美、木幡直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.Excelを使って基本的な集計ができる。
- 2.Excelの簡単な関数機能が利用できる。
- 3.Excelの表データからグラフを作成できる。
- 4.Excelでデータの検索や並べ替えができる。

使用教材

30時間でマスターOffice2021 実教出版



- ・単位習得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

履修にあたっての留意事項

1. 授業はオンライン授業となる。
2. C-learningで授業を受け、毎回の小テストに解答することで出席となる。
 - ・小テスト締切期限内に解答すること。
 - ・小テスト未提出は欠席扱いとなる。
 - ・期限内に提出できないことが続くと単位が取得できない。
3. 出席、学習状況、小テストについてはC-learningにて科目責任者が連絡する。
4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレスkohata#takasaki-u.ac.jpまで連絡する。
5. 講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト(Excel)を使用するものとする。
6. 小テストの正解・解説は公開しないが、点数は公開する。
 - ・小テストの答え直しはできない（看護学科独自の設定とするため、教材で述べられている設定と異なる場合がある）

印刷 

情報リテラシーV

英文名：Information Literacy V

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL016

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

安野朝子、木幡直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。
2. 情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。
3. 専攻領域におけるICTの利用事例や先進的利用について、説明できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

木幡 後期 水曜3限
1号館6階615研究室

メールアドレス（#→@）

木幡 kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットワークの基礎知識 1 ①DHCP(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	ネットワークの基礎知識 2 ①Wi-Fiによるネットワーク接続（SSIDとパスワード、接続周波数） ②4Gと5G・無線LAN規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	情報セキュリティの基礎 1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	情報セキュリティの基礎 2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	情報セキュリティの基礎 3 組織のセキュリティ対策 情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護	2	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	社会とICT活用 1 医療・健康分野でのICTの活用 社会福祉分野でのICTの活用 「※健康・医療・福祉分野のICT活用」	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	社会とICT活用2 教育分野でのICTの活用	3	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	社会とICT活用 3 農業・食糧生産分野でのICTの活用 食品産業分野でのICTの活用 「※食品・農業分野のICTの活用」	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

予習・復習：必要に応じて、各自で補完すること。

1. 授業はオンライン授業となる。
2. 小テストを受け、提出することで出席したことになる。
3. 学習状況、小テストについては、C-learningにて科目責任者が連絡する。
4. 授業内容についての質問事項は、メールアドレスkohata#takasaki-u.ac.jpまで連絡する。

印刷 

情報リテラシーVI

英文名：Information Literacy VI

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL017

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

鶴田晴美、武居明美、木幡直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。
- ②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、ヒストグラムによるデータの可視化ができる。
- 2.最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。
- 3.四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。
- 4.分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布

評価方法

^

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

^

後期 水曜 3 限
1 号館 6 階 6 1 5 研究室

メールアドレス（#→@）

^

kohata#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	データサイエンスの基礎 1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴	1	1回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	データサイエンスの基礎 2 ①Excelを使った度数分布とヒストグラムの作成	1	2回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	データサイエンスの基礎 3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係	2	3回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	データサイエンスの基礎 4 ①Excelを使った代表値の算出	2	4回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	データサイエンスの基礎 5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による5数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係	3	5回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	データサイエンスの基礎 6 ①Excelを使った5数要約の算出、箱ひげ図の作成	3	6回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	データサイエンスの基礎 7 ①Σ記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質	4	7回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	データサイエンスの基礎 8 ①Excelを使った分散、標準偏差、変動係数の算出	4	8回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

予習・復習：必要に応じて各自で補完すること。

1.授業はオンライン授業となる。

2.学生は、C-learningを活用し出席の登録を行う。

3.学習状況、小テストについては、C-learningにて科目責任者が連絡する。

4.授業内容についての質問事項は、メールアドレスkohata#takasaki-u.ac.jpまで連絡する。

^

印刷



論理学

英文名 : logic

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSC201・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

米田和美

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。

授業は次の①②③を繰り返す行う。

①資料文の内容を正確に読みとる。

--いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうしたか

②登場人物の言動の問題点を抽出する。

--問題は何か、なぜ問題か

③対処法を提案する。

--どうすべきか

到達目標

論理的思考を養う。（文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。）

1.読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。「一文一義」の文が書けるようになる。

2.聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。

使用教材

使用しない（講義2～3週間前までにプリントを配布します。事前に読んでおくこと。）

参考文献

プリントにて配布します。

評価方法

意見文30%、小テスト30%、提出物30%、講義参加状況10%の割合で評価します。

課題・評価に対するフィードバック方法

意見文、提出物はチェックを入れて返します。

オフィスアワー

初回授業で提示する

メールアドレス（#→@）

初回授業で提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	引用 （正確な引用）	1,2	「先天異常児の助命は絶対か」を読んでおく。	1.5h	「引用は一字一句正確に」を理解する。	1.5h
2	悪文①書き改め （段落は意味のまとまり）	1,2	「食欲のない患者に看護師が行う援助」を書き改める。	1.5h	「段落、箇条書き、しかしの使い方」を理解する。	1.5h
3	資料文の読み方 （1.5W1H読み取り）	1,2	「物差し狂っている母娘」を読んでおく。	1.5h	「いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうしたか」を理解する。	1.5h
4	悪文②書き改め （頭括法と尾括法）	1,2	「専門的な母」を書き改める。	1.5h	「主張を断定、理由を箇条書き」を理解する。	1.5h
5	主張と理由 （主語と引用）	1,2	「個性と異常の境界線は」の意見文を書く。	1.5h	検討内容を参考に意見文を直す。	1.5h
6	悪文③書き改め （根拠の基礎知識）	1,2	「経静脈栄養注射」を書き改める。	1.5h	「()」の使い方、『こと』の使い方」を理解する。	1.5h
7	「変」を見つける① （文型「AはBである」）	1,2	「体位変換」「コオロギ」の「変」をみつける。	1.5h	「体位変換」「コオロギ」を正しい文章に書き改める。	1.5h
8	「変」を見つける② （問題抽出）	1,2	「告知」を読んでおく。	1.5h	「問題は何か、なぜ問題か、どうすべきか」を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

印刷

人間発達論

英文名 : Human development

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSC101・A

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

2 国際理解

1 生涯学習力

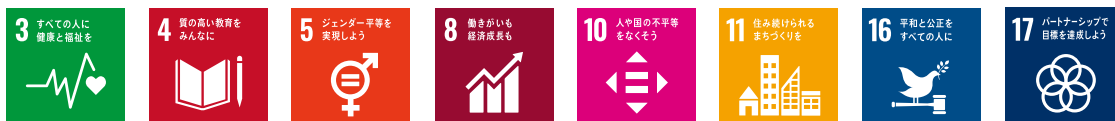
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

角野善司

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本講義は人間の生涯にわたる発達を受胎から死まで視野に入れて学び、考察を深めることを目的とする。合わせて、疾患・障害が人間の発達に及ぼす影響にも目を向け、検討する。

②授業期間全体を通じた授業の進め方：毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

- 1.生涯発達について説明できる。
- 2.発達段階および発達課題について説明できる。
- 3.疾患・障害が発達に及ぼす影響について説明できる。
- 4.発達検査について説明できる。

使用教材

「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012年

評価方法

毎回の課題・小レポート45%（3点×15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート25%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	発達の理論 (1) 生涯発達	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1.5 h
2	発達の理論 (2) 発達段階と発達課題	2	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1.5 h
3	生涯発達の様相 (1) 胎生期・周産期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
4	生涯発達の様相 (2) 乳児期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
5	生涯発達の様相 (3) 幼児期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
6	生涯発達の様相 (4) 児童期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
7	生涯発達の様相 (5) 青年期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
8	生涯発達の様相 (6) 成人期前半	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
9	生涯発達の様相 (7) 成人期後半	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
10	生涯発達の様相 (8) 老年期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
11	疾患・障害と発達 (1) 慢性疾患や障害のある子どもの発達	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 2	疾患・障害と発達 (2) 慢性疾患や障害のある子どもの親・きょうだい	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
1 3	疾患・障害と発達 (3) 発達期における各種の障害	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
1 4	疾患・障害と発達 (4) 重症心身障害	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
1 5	疾患・障害と発達 (5) 発達検査	4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする：
毎回の課題・小レポート75%（5点×15回）、学期末レポート25%

印刷



人間行動学

英文名：Behavioral Science

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSC102・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

上原 徹、服部 卓

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている（上原）。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約35年、現在に至る（服部）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。前半を服部、後半を上原が担当する。

②前半授業では配布資料も使って要点をまとめ、後半はDVDを視聴しつつ進める。

到達目標

- 1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける
- 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる
- 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる
- 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■
- 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる

使用教材 ^

特定の教科書は指定しない。服部担当授業では、印刷プリントを配布する。上原担当授業では、おもにDVD教材を用いるが、補助的にC-learning上に資料をアップする。

参考文献 ^

福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕 現代心理学のアプローチ」など

評価方法 ^

レポートを90%とし、授業中の態度を10%程度参考にして総合評価する。授業態度（不適切な授業態度、不必要な私語など）に問題がある場合は、個別に減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、評価の目安を伝える。

オフィスアワー ^

月4 金3 研究室:1号館5階512（上原）

メールアドレス（#→@） ^

授業で提示する

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	青年期の心理と性格	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	0.5h	ノートを読むこと。	2.5h
2	ノンバーバルコミュニケーション	1,2	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
3	人と人との関係■	2,3,4	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
4	集団■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
5	見る・感じる・考える	1,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
6	ポジティブサイコロジー■	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
7	生涯発達心理学	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
8	行動と錯覚	1,2,3	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
9	発達	1,2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
10	記憶	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
11	睡眠■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ストレス■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
13	音楽と脳	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
14	傾聴とカウンセリングマインド■	4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
15	まとめ（レポート準備）	1,2,3,4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



複数の学科学生が多人数で聴講し、非常勤講師を迎え行うので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと（成績評価に影響する）。DVD上映による映像授業を多用する。場合によって代替えとなるパワーポイントおよびウェブサイト動画の紹介を行う。

予習・復習については、試験前後の学習などで各自補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



[HOME](#) > 化学

化学

英文名：Chemistry

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSC103・A

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

信田智哉

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①医療現場で必要となる、基礎的な化学の知識を習得する。前半は基礎化学として、原子の構造や周期表、化学結合、溶液、酸・塩基、酸化・還元を学ぶ。後半は主に有機化学として、有機化合物の結合や構造、高分子や生体内に存在する有機化合物、栄養素等の知識を習得する。
- ②授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。

到達目標

1. 原子の構造を説明できる。また、放射線を列挙し、特徴を説明できる。
2. 電子殻や電子配置を説明できる。
3. 周期表を理解し、代表的な元素の特徴を説明できる。
4. 化学結合を列挙し、特徴を説明できる。
5. 原子量や分子量を理解し、溶液の濃度を説明できる。また、物質の状態を説明できる。
6. 物質の溶解を説明できる。また、蒸気圧と浸透圧を説明できる。
7. 酸・塩基の定義とその反応を説明できる。

- 8. 酸化・還元の定義とその反応を説明できる。
- 9. 有機化合物の結合を説明できる。また、官能基を列挙し、特徴を説明できる。
- 10. 異性体を列挙し、特徴を説明できる。特に鏡像異性体の特徴を説明できる。
- 11. 化学反応とエネルギーを説明できる。また、有機化学の反応を説明できる。
- 12. 高分子化合物を列挙し、特徴を説明できる。
- 13. 糖類を列挙し、特徴を説明できる。また、脂質を列挙し、特徴を説明できる。
- 14. アミノ酸を列挙し、特徴を説明できる。また、タンパク質の構造や機能を説明できる。
- 15. DNAやRNAの構造や機能を説明できる。また、ビタミンを列挙し、構造や機能を説明できる。

使用教材

^

コ・メディカル化学（改訂版）医療・看護系のための基礎化学
齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著
裳華房、2022年11月15日 [改定] 第1版1刷発行、2,400円（税抜）
また、使用教材として教科書の他に毎回プリントを配布する。

評価方法

^

教科書の各章の内容をまとめたレポート（A4用紙1枚×15回）により、評価する（100％）。
筆記試験は行わない。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

火曜日2限目、水曜日2限目
研究室：7号館2階203室

メールアドレス（#→@）

^

nobuta#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	原子の構造と放射能	1	教科書第1章に目を通しておく。	1h	教科書第1章に記載されている演習問題を解く。 教科書第1章の内容をレポートにまとめる。	2h
2	原子の電子構造	2	教科書第2章に目を通しておく。	1h	教科書第2章に記載されている演習問題を解く。 教科書第2章の内容をレポートにまとめる。	2h
3	周期表と元素	3	教科書第3章に目を通しておく。	1h	教科書第3章に記載されている演習問題を解く。 教科書第3章の内容をレポートにまとめる。	2h
4	化学結合と分子	4	教科書第4章に目を通しておく。	1h	教科書第4章に記載されている演習問題を解く。 教科書第4章の内容をレポートにまとめる。	2h
5	物質の量と状態	5	教科書第5章に目を通しておく。	1h	教科書第5章に記載されている演習問題を解く。 教科書第5章の内容をレポートにまとめる。	2h
6	溶液の化学	6	教科書第6章に目を通しておく。	1h	教科書第6章に記載されている演習問題を解く。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					教科書第6章の内容をレポートにまとめる。	
7	酸・塩基	7	教科書第7章p. 57～63に目を通しておく。	1h	教科書第7章に記載されている演習問題7.1～7.7を解く。 教科書第7章p. 57～63の内容をレポートにまとめる。	2h
8	酸化・還元	8	教科書第7章p. 63～67に目を通しておく。	1h	教科書第7章に記載されている演習問題7.7～7.10を解く。 教科書第7章p. 63～67の内容をレポートにまとめる。	2h
9	有機化合物の構造	9	教科書第8章に目を通しておく。	1h	教科書第8章に記載されている演習問題を解く。 教科書第8章の内容をレポートにまとめる。	2h
10	異性体と立体化学	10	教科書第9章に目を通しておく。	1h	教科書第9章に記載されている演習問題を解く。 教科書第9章の内容をレポートにまとめる。	2h
11	有機化学反応	11	教科書第10章に目を通しておく。	1h	教科書第10章に記載されている演習問題を解く。 教科書第10章の内容をレポートにまとめる。	2h
12	高分子化合物	12	教科書第11章に目を通しておく。	1h	教科書第11章に記載されている演習問題を解く。 教科書第11章の内容をレポートにまとめる。	2h
13	糖類と脂質	13	教科書第12章に目を通しておく。	1h	教科書第12章に記載されている演習問題を解く。 教科書第12章の内容をレポートにまとめる。	2h
14	アミノ酸とタンパク質	14	教科書第13章に目を通しておく。	1h	教科書第13章に記載されている演習問題を解く。 教科書第13章の内容をレポートにまとめる。	2h
15	核酸とビタミン	15	教科書第14章に目を通しておく。	1h	教科書第14章に記載されている演習問題を解く。 教科書第14章の内容をレポートにまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷



HOME > 統計学

統計学

英文名：Statistics

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSC104・A

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



福島博

履修を必須とする資格



保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



小テストに対してコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



医療の現場で役に立つ統計的思考力が身に付く。

具体例を通して統計学の知識や方法の実際の使い方を学ぶ。

到達目標



1.平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数 等の基本的 統計量の意味を理解する。

2.統計的手法を学ぶことにより、いろいろの情報の意味を正しく理解できるようになる。

使用教材

^

はじめての統計 1 5 講、小寺平治、講談社、2015年、2000円（税別）

評価方法

^

期末試験 7 0 %とレポート 3 0 %で評価する。総合得点 6 0 %以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

^

木曜日 4 時限 非常勤講師室

メールアドレス（#→@）

^

必要に応じて提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	平均と分散	1	教科書 1 , 2 , 3 講を読んでおく。	1.5h	平均と分散について、具体例の計算を通して理解する。	1.5h
2	相関係数	1	教科書 4 講を読んでおく。	1.5h	相関係数、共分散について理解する。	1.5h
3	確率変数	1	教科書 5 講を読んでおく。	1.5h	確率変数とその期待値、分散について理解する。	1.5h
4	正規分布	2	教科書 6 講を読んでおく。	1.5h	正規分布とその期待値、標準偏差について理解する。	1.5h
5	二項分布	2	教科書 7 講を読んでおく。	1.5h	二項分布の正規分布近似について理解する。	1.5h
6	標本平均	2	教科書 8 講を読んでおく。	1.5h	標本平均の平均、中心極限定理について理解する。	1.5h
7	区間推定	2	教科書 9 講を読んでおく。	1.5h	区間推定、 t 分布について理解する。	1.5h
8	母平均の検定	2	教科書 1 0 、 1 1 講を読んでおく。	1.5h	検定について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

オンラインで実施する場合、レポート 7 0 %と出席 3 0 %で評価する。

印刷



生物学

英文名 : Biology

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSC105・A

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

今井 純、坂井 隆浩

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○									

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義に関わる質問に詳細に回答すると共に、任意提出のレポートに対してコメントを付けて返却し、適切な論理展開方法を学ぶ。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。そこで、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。

②教科書、配布資料に基づき講義を進める。前回の授業を振り返る理解度確認を最初の 10 分実施する。

到達目標

- (1) 細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる
- (2) 細胞内外の情報伝達機構を説明できる
- (3) 遺伝や遺伝子について説明できる

- (4) 発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる
- (5) 免疫反応を分類し説明できる

使用教材

教科書「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄著（裳華房）
ISBN978-4-7853-5226-4
講義のスライドを随時プリントして配布する。

参考文献

『アメリカ版大学生物の教科書 第1巻（細胞生物学）・第2巻（分子遺伝学）・第3巻（分子生物学）』石崎泰樹／丸山敬監修（講談社 2010年 1,300円, 1,500円, 1,500円）

評価方法

定期テスト（90%）と授業中に興味を持った話題に対するアクティブラーニング形式のレポート（10%）で評価する。総合評価60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートには授業中にコメントをつける。定期試験の解答を掲示し、間違えた部分の復習を促す。

オフィスアワー

金曜日の16：00－17：00、メールによる質問は随時、研究室：7号館3階326（今井）、7号館2階201（坂井）

メールアドレス（#→@）

今井（jimai#takasaki-u.ac.jp）
坂井（sakai#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生物学とはどのような学問か	1	教科書の1～8ページを読んで内容を理解する。	1.5h	生物学について理解する。	1.5h
2	生命とはなにか、生物はどのようなものか。	1	教科書の10～17ページを読んで内容を理解する。	1.5h	生物について理解する。	1.5h
3	細胞とはどのようなものか。	1、2	教科書の19～27ページを読んで内容を理解する。	1.5h	細胞について理解する。	1.5h
4	体をつくる分子にはどのようなものがあるか。	1、2	教科書の29～36ページを読んで内容を理解する。	1.5h	生体構成分子について理解する。	1.5h
5	体の中で物質はどのように変化するか。	1、2	教科書の38～45ページを読んで内容を理解する。	1.5h	代謝について理解する。	1.5h
6	遺伝子と遺伝はどのように関係しているのか。	1、2	教科書の47～58ページを読んで内容を理解する。	1.5h	遺伝現象について理解する。	1.5h
7	ヒトの体はどのようにできているか。	1、2	教科書の59～66ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトの体の仕組みを理解する。	1.5h
8	エネルギーはどのように獲得されるか。	1、2	教科書の68～76ページを読んで内容を理解する。	1.5h	呼吸と消化吸収について理解する。	1.5h
9	ヒトはどのように運動するか。	1、2、3	教科書の77～85ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトの運動の仕組みを理解する。	1.5h
10	体の恒常性はどのように維持されるか。	1、2、3、5	教科書の87～96ページを読んで内容を理解する。	1.5h	恒常性維持について理解する。	1.5h
11	体の恒常性はどのように維持されるか。	1、2、3、5	教科書の87～96ページを読んで内容を理解する。	1.5h	恒常性維持について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ヒトは病原体とどのようにたたかうか。	4	教科書の98～106ページを読んで内容を理解する。	1.5h	免疫系について理解する。	1.5h
13	ヒトはどのように進化してきたか。	4	教科書の117～125ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトの進化について理解する。	1.5h
14	ヒトをとりまく環境はどのようなになっているか。	2	教科書の127～135ページを読んで内容を理解する。	1.5h	環境について理解する。	1.5h
15	ヒトはどのような生き物か。	1、2、3、4、5	教科書の137～145ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトについて理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習については、試験前の学習で補完すること、メールによる質問は随時受け付ける。
必要に応じてオンラインで実施する。オンラインで実施の場合は、毎回確認テスト、レポートなどの課題を実施する。

印刷



生活科学概論

英文名 : Introduction of Life Science

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSC106・A

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

大塚恵美子

科目に関連した実務経験

非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当(経験)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○		○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①私たちの生活は、急激に変化しつつある。生活していく上でのさまざまな課題に対し、生活者の立場から総合的に捉えることを目指す。衣食住や環境などのきわめて日常的生活行為に関する問題を理解し、医療従事者としての自身の生活向上に必要な知識を習得する。

②講義は、配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク等の方法を用いて進める。

到達目標

- 1. 生活基盤としての生活科学について学習内容を理解できる。
- 2. 生活していく上で必要な衣食住の知識を習得できる。■
- 3. 授業で学んだ生活科学について理解を深め実生活に活かすことができる。

使用教材

適宜プリントを配布する

参考文献

参考図書「生活科学のすすめ」佐藤方彦著（井上書院） ISBN4-7530-2317-6

評価方法

授業態度と参加意欲（20％）、授業内で取り組む課題（小テストを含む）（30％）、期末レポート（50％）で総合的に評価する。総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題やレポートは評価・コメントを記載しフィードバックする

オフィスアワー

水曜日3,4時限。メール対応可能。（研究室：8号館 4階407）

メールアドレス（#→@）

otsuka-e#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 生活科学とは	1	シラバスの内容を読んで講義の目的などを理解する	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5h
2	衣の生活科学（衣服と人間）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	衣服の機能と役割について理解する	1.5h
3	衣の生活科学（快適な衣服環境）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	快適な衣服環境について理解する	1.5h
4	食の生活科学（食生活と栄養管理）■	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	食事と健康と関係について理解する	1.5h
5	食の生活科学（食生活と生活習慣病）■	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	食生活と健康について理解する	1.5h
6	住の生活科学（快適な住環境整備）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	快適な住環境整備について理解する	1.5h
7	住の生活科学（住環境と生活）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	住環境と生活について理解する	1.5h
8	まとめ及び学習到達度の確認	1,2,3	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	衣食住や環境などの課題について生活者の立場から総合的に理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
※受講生の人数によって、講義内容が変更になる場合がある。

看護におけるICT活用

英文名 : Information and Communication Technology (ICT) Utilization in Nursing

科目区分 : 専門教養科目

科目ナンバリング : LSC107・B

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医療・看護分野におけるICT活用の現状を知り、看護専門職として他職種と連携協働できるための情報活用能力としてコンピュータリテラシー、情報リテラシーを身に着ける必要性を理解するとともに、看護実践でのICTの活用の実際を学ぶ。

到達目標

1. 医療・看護におけるICT活用の発展過程を理解する。
2. 医療・看護におけるICT活用の現状を理解する。
3. 看護職として必要なICT活用能力について考察する。
4. ICTを活用する上での倫理的配慮を理解し実践する。
5. 医療・看護におけるICT活用の将来展望を考察する。

使用教材

資料を配布する。
最新の知見を紹介する。

参考文献

授業時に適宜紹介する

評価方法

授業への参加態度と授業後の課題の内容等50%、授業後の課題レポートの内容50%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎授業後の課題に対する回答を踏まえ、授業の最初に前回の振り返りを行う。
グループワークにおける成果発表についてコメントを行う。

オフィスアワー

火曜日 3・4 限 （5号館 207研究室）

メールアドレス（#→@）

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療・看護におけるICT活用の発展過程	1	看護現場でどのようなICTが活用されているか調べる。	1.5 h	医療・看護においてICT活用がどのように発展してきたかまとめる。	1.5 h
2	医療機関におけるICT活用・・・電子カルテ、オーダリング、看護支援システム等	1,2	病院においてどのようなICTが活用されているか調べる。	1.5 h	電子カルテ、オーダリングシステムなど活用方法をまとめる。	1.5 h
3	電子カルテの操作	2,3	電子カルテについて調べておく。	1.5 h	PCを用いて、電子カルテから情報収集を行う。	1.5 h
4	ICT活用における倫理的配慮、非常時の対応について	3,4	情報倫理について復習しておく。	1.5 h	医療・看護において I C T を活用する際の倫理的配慮について考えをまとめる。	1.5 h
5	病院におけるICT活用の現状	2,3, 4,5	2回・3回の学習内容を整理しておく。	1.5 h	病院のICT活用について整理する。	1.5 h
6	地域医療におけるICT活用の現状	2,3, 4,5	地域で医療を行う上で基本的な考え方について調べておく。	1.5 h	地域で医療を行う上で効果的なICT活用について整理する。	1.5 h
7	今後の看護実践場面でのICTの活用	5	今後の展望について考えておく。	1.5 h	グループワークで話し合ったことを整理する。	1.5 h
8	グループで話合った学習成果を発表する	2,3, 4,5	発表の準備をしておく。	1.5 h	他のグループの発表を受けて、気づいたことを整理しておく。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

1. 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. この科目は、基礎教養ゼミ、看護学原論を履修していることが望ましい。

3. ルール

自分で調べる課題やグループワークを行う際は、主体的に参加する。

出席確認は対面授業・オンライン授業どちらもC-Learningの出席登録をもって出席とする。但し、出席登録していても、授業時間内に教室に不在であることが確認できた場合は欠席とする。

4. オンライン授業時の変更点

講義に関しては教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。

グループワークはZOOM機能を用いて行う。

授業時間以外ではC-Learningの相談機能を使い質問に応じる。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生化学

英文名：Biochemistry

科目区分：看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング：NRB101・A

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

8 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

石川良樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①人体を構成する成分を分子レベルで理解するとともに、生命活動の維持における生体分子の役割を学習する。
- ②教員の作成したパワーポイントにより、教科書該当部分の抜粋・要約の提示、及びそれに関連する具体例の紹介を行う。同時に、重要部を空欄にしたプリントを配布し、書き込ませながら授業を進める。

到達目標

1. 生体を構成する生体成分の基本的な構造、役割を説明することができる。
2. 生命を特徴づける重要な要素の一つである代謝について説明できる。
3. 遺伝情報とその発現について説明できる。
4. ビタミン、ホルモン、無機物の役割と調節機構について説明できる。

使用教材

人体の構造と機能2 生化学 （第14版、畠山鎮次著、医学書院） ISBN 978-4-260-03556-9
講義に合わせた空欄のあるプリントを配布する。教科書はプリントの空欄の確認、予習・復習に使用する。



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、第1章 生化学を学ぶための基礎知識	1	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
2	第3章 糖質の構造と機能 第4章 糖質代謝	1,2	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
3	第5章 脂質の構造と機能 第6章 脂質代謝	1,2	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
4	第6章 タンパク質の構造と機能 第7章 タンパク質代謝	1,2	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
5	第10章 遺伝子と核酸 第11章 複製 第12章 転写 第13章 翻訳	1,2,3	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
6	水と無機質（該当章なし） 血液と尿（該当章なし） 第9章 ポルフィリン代謝	1,4	生体を構成する無機質の種類と機能を調査しておくこと。該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
7	ホルモンと生理活性物質（該当章なし）	1,4	代表的なホルモンの名称と機能を事前に調査しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
8	第2章 代謝の基礎と酵素・補酵素	1,4	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h

24h

備考



質問はC-learning上の協働板に設置する「質問コーナー」で受け付ける。

印刷 

解剖生理学 I

英文名 : Anatomy and Physiology I

科目区分 : 看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング : NRB102・A

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 人間理解と倫理観

8 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

科目に関連した実務経験

医師として大学病院検査部、感染制御部に勤務。現在、非常勤内科医師として一般内科、甲状腺専門外来を病院で担当している。

履修を必須とする資格

養護教諭 I 種

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

解剖学は人体の構造がどうなっているか、生理学はどのように機能して生命活動を営んでいるかを学ぶ。生命の成り立ちをきちんと理解することによって、人が病気になったときに起こりうることを予測でき、よりよい看護に結びつけることが出来る。病気からの回復をサポートする看護師のため、神経や筋肉の構造と働きを、そして、循環器、呼吸器、消化器など臓器特異的な構造と働きを理解する必要がある。「解剖生理学」は医療従事者の基本である。

講義内容はできるだけ教科書に沿って進めるが、臨床で経験した患者のことを随時説明し解剖生理学が実践でどのように生かされるか教授していくようにする。

到達目標

^

1. 人体の構造を説明することができる。
2. 細胞や臓器の働きを説明できる。
3. 生命活動を行うのにどのように臓器が関連しているか説明できる。
4. 病気になるときの身体の様子が説明できる。■
5. 生命誕生の過程が説明できる。

使用教材

^

教科書「ナーシング・グラフィカ①解剖生理学」（MCメディカ出版）
ISBN978-4-8404-7831-1
講義に合わせたプリントを配布する。講義予習のためCラーニングに同じプリントをアップする。プリントには最新の知見を含め、看護実践にどのように役立つか紹介する。

参考文献

^

Newton別冊 人体完全ガイド 改訂第3版

評価方法

^

定期試験100%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

定期試験後にはすぐに解答を公表し、自己学習を行えるようにする。

オフィスアワー

^

水曜日3時限、質問はメールでも受け付ける。研究室：5号館3階301

メールアドレス（#→@）

^

kuwabara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	解剖学用語、ホメオスタシス	1	教科書の序章の青色ページに目を通す。	0.2 5h	解剖学用語を学び、ホメオスタシスの維持について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 h
2	人体の発生について学ぶ。	5	Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5h	人体の発生について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 h
3	細胞の構造と働き	1	教科書の第1章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5h	細胞の基本構造と細胞内小器官の働き、細胞の受動輸送と能動輸送について、細胞分裂と遺伝情報について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 h
4	人体を構成する組織	1,2	教科書の第1章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.2 5h	人体を構成する4種の組織:表面を覆う上皮組織、支える支持組織、動かす筋組織、他の細胞をコントロールする神経組織について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 h
5	骨	1,2,3,4	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニ	0.2 5h	体を支える骨の構造と機能について理解する。 ■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			ングで配布したプリントを読んでくる。			
6	関節	1,2,3,4	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	体を支える骨と関節の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
7	骨と骨の結びつきである関節の働き	1,2,3,4	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	骨と骨の結びつきである関節の構造と働きについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
8	筋系	1,2,3,4	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	体にある筋の種類と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
9	骨格筋	1,2,3,4	教科書の第2章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	神経の命令によって動かすことのできる骨格筋の種類と動きを理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
10	血液	1,2,3,4	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	血液の組成と血球、血漿の働きを理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
11	造血	1,2,3,4	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	血球の性状、造血について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
12	血液凝固、血液型と輸血	1,2,3,4	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	血液凝固、血液型と輸血に関して理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
13	循環器系—心臓	1,2,3,4	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	心臓の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
14	循環器系—血管とリンパ管	1,2,3,4	教科書の第3章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	血管とリンパ管の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
15	呼吸器系—鼻から気管支	1,2,3,4	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	鼻から気管支までの気道の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
16	呼吸器系—肺	1,2,3,4	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	肺の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
17	呼吸器系—疾患	1,2,3,4	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	気管支や肺の異常所見をもとにして呼吸器疾患を理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
18	呼吸生理、酸塩基平衡	1,2,3,4	教科書の第4章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	呼吸プロセスを理解し、酸塩基平衡について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
19	体液	1,2,3,4	教科書の第5章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	体内の水分を調節する仕組みについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
20	泌尿器系—腎	1,2,3,4	教科書の第6章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	血管とリンパ管の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
21	泌尿器系—尿管、膀胱	1,2,3,4	教科書の第6章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	尿管、膀胱、尿道の構造と機能、排尿のしくみについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
22	消化器系—口から食道	1,2,3,4	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	口から食道までの構造と咀嚼・嚥下について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
23	消化器系—胃	1,2,3,4	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	胃の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
24	消化器系—肝臓・胆嚢・膵臓	1,2,3,4	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
25	消化器系—小腸・大腸	1,2,3,4	教科書の第7章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	小腸の炭水化物、脂質、糖質の消化吸収、大腸の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
26	神経系	1,2,3,4	教科書の第8章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	神経系の3つの機能、感覚・統合・運動について理解する。ニューロンの構造と機能を理解し、情報伝達のしくみを理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
27	中枢神経系	1,2,3,4	教科書の第8章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	大脳および延髄の構造と機能を理解し、中枢神経の特徴を学ぶ。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
28	末梢神経系	1,2,3,4	教科書の第8章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	末梢神経の構造と機能、交感神経、副交感神経、脳神経などを理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
29	感覚器系—眼	1,2,3,4	教科書の第9章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んてくる。	0.25h	感覚器としての眼の構造と機能、視野欠損や色覚異常を理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
30	感覚器系—耳、鼻、舌	1,2,3,4	教科書の第9章ブルーページに目を通す。Cラーニ	0.25h	聴覚、嗅覚、味覚などの感覚神経について、耳、鼻、舌の構造と機能を理解する。■Cラー	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			ングで配布したプリントを読んでくる。		ニングの小テストに解答する。	

合計時間（予習・復習）

22.5h

^

備考

^

授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。
研究室：5号館3階301
単位修得に必要な時間を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



解剖生理学Ⅱ

英文名：Anatomy and Physiology Ⅱ

科目区分：看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング：NRB103・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

8 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

科目に関連した実務経験

医師として大学病院検査部、感染制御部に勤務。現在、非常勤内科医師として一般内科、甲状腺専門外来を病院で担当している。

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

解剖学は人体の構造がどうなっているか、生理学はどのように機能して生命活動を営んでいるかを学ぶ。生命の成り立ちをきちんと理解することによって、人が病気になったときに起こりうることを予測でき、よりよい看護に結びつけることが出来る。病気からの回復をサポートする看護師のため、神経や筋肉の構造と働きを、そして、循環器、呼吸器、消化器など臓器特異的な構造と働きを理解する必要がある。「解剖生理学」は医療従事者の基本である。

講義内容はできるだけ教科書に沿って進めるが、学び順の変更を行い、臨床で経験した患者のことを随時説明し解剖生理学が実践でどのように生かされるか教授していくようにする。

到達目標

^

1. 人体の構造を説明することができる。
2. 細胞や臓器の働きを説明できる。
3. 生命活動を行うのにどのように臓器が関連しているか説明できる。
4. 病気になるときの身体の様子が説明できる。■
5. 生命誕生の過程が説明できる。

使用教材

^

教科書「ナーシング・グラフィカ①解剖生理学」（MCメディカ出版）
ISBN978-4-8404-7831-1
講義に合わせたプリントを配布する。講義の予習用にCラーニングに同じプリントをアップする。プリントには最新の知見を含め、看護実践にどのように役立つか紹介する。

参考文献

^

Newton別冊 人体完全ガイド 改訂第3版

評価方法

^

定期試験95%、出席課題5%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

定期試験後にはすぐに解答を公表し、自己学習を行えるようにする。出席課題はその場で評価する。

オフィスアワー

^

水曜日3時限、質問はメールでも受け付ける。研究室：5号館3階301

メールアドレス（#→@）

^

kuwabara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	膜	1,2,3,4	教科書第10章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	人体・臓器・器官の表面を境界し,覆い,保護し,潤す膜の性状と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
2	皮膚	1,2,3,4	教科書第10章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	皮膚の構造と機能を理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
3	免疫系—生体防御機構	1,2,3,4	教科書第10章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	自己と非自己の認識、生体の防御機構について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
4	免疫系—自然免疫・獲得免疫	1,2,3,4	教科書第10章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	自然免疫と獲得免疫、体液性免疫と細胞性免疫について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	免疫系—自己免疫疾患	1,2,3,4	教科書第10章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	自己免疫疾患、アレルギーについて理解する。 ■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
6	内分泌系—視床下部下垂体	1,2,3,4	教科書第11章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	視床下部、下垂体の構造と機能、分泌されるホルモンの働きについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
7	内分泌系—甲状腺、膵臓	1,2,3,4	教科書第11章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	甲状腺、上皮小体、膵臓の構造と機能、分泌されるホルモンの働きについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
8	内分泌系—副腎、性腺	1,2,3,4	教科書第11章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	副腎皮質、副腎髄質、性腺の構造と機能、腎臓や消化管、血管から分泌されるホルモンの働きについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
9	生殖器系—女性	1,2,3,4	教科書第12章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	生殖と生殖器の概念、女性生殖器の構造と機能について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
10	生殖器系—性周期	1,2,3,4	教科書第12章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	性周期、月経周期とホルモンとの関連について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
11	生殖器系—受精、妊娠	1,2,3,4	教科書第12章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	妊娠、受精のメカニズム、分娩のメカニズムについて理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
12	生殖器系—男性	1,2,3,4	教科書第12章ブルーページに目を通す。Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	男性生殖器の構造と機能、精子形成について理解する。■Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
13	胎児	5	Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	胎児の発育と胎児循環について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
14	新生児	5	Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	新生児と遺伝子異常について理解する。Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	Cラーニングで配布したプリントを読んでくる。	0.25h	Cラーニングの小テストに解答する。	0.5h

合計時間（予習・復習）



11.25h

備考



授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。

研究室：5号館3階301

単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

[HOME](#) > 栄養学 I

栄養学 I

英文名 : Nutrition I

科目区分 : 看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング : NRB104・B

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

6 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

河原田律子、中村彰男、町田大輔

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回授業の内容に関する課題を課し、翌週に振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

身体は発育し、成長し生命を維持している。健全な生命活動を営むために食べ物を摂取し、栄養素を補っている。摂取した栄養素が体内でどのように代謝され、生命を維持しているのかを知る。また日本の食文化、食品の分類方法、主観的包括的栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法などについて知る。

授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドで進める。毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。

到達目標



- 1.栄養学を学ぶ意味、チーム医療について理解できる。
- 2.生命を維持するための栄養素の働きが理解でき、各食品の栄養学的特徴が理解できる。
- 3.世界の食文化の多様性と日本食の歴史的特徴、日本人の食事摂取基準（2020）の策定ポイントが理解できる。
- 4.臨床での栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法について理解できる。

使用教材



疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースング・グラフィカ,關戸恵子,株式会社メディカ出版,2022年

評価方法



期末試験80%、平常点20%（授業参加度・課題・小テストへの取り組みを含む）

課題・評価に対するフィードバック方法



確認小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。

オフィスアワー



木曜日 1-4時限
1号館406研究室/臨床栄養学研究室
質問はメールでも受付ける。

メールアドレス（#→@）



nasu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	栄養学を学ぶ目的を理解し、食生活を見直す。	1	看護職が栄養学を学ぶ意義を確認しておくこと。 教科書P12～13を読んでおくこと。	1.5 h	食事を見直し、現代の栄養における問題点を理解する。	1.5 h
2	栄養素の基礎知識を理解する。① 栄養素の種類と働き／たんぱく質・脂質の栄養学的な特徴、生理作用を理解する。	2	教科書のP14～24を読んでおくこと。	1.5 h	たんぱく質、脂質の体内での消化・吸収を理解する。	1.5 h
3	栄養素の基礎概念を理解する。② 炭水化物、食物繊維、ビタミンの栄養学特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。	2	教科書のP25～37を読んでおくこと。	1.5 h	炭水化物、ビタミンの体内での消化・吸収を理解する。	1.5 h
4	栄養素の基礎概念を理解する。③ ミネラルの栄養学的な特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。	2	教科書のP37～46を読んでおくこと。	1.5 h	ミネラルの体内での消化・吸収を理解する。	1.5 h
5	食品成分とエネルギー、エネルギーの測定方法について理解する。	2	教科書のP58～70を読んでおくこと。	1.5 h	食品分類方法、エネルギー代謝について理解する。	1.5 h
6	日本人の食事摂取基準（2020年版）策定ポイントを理解する。	2,3	日本人の食事摂取基準とは何か調べておく。 教科書のP71～94を読んでおくこと。	1.5 h	食事摂取基準と生活習慣病との関連を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	食文化の多様性と日本の食文化の特徴について理解する。	4	教科書のP96～99を読んでおくこと。	1.5h	世界の食文化と日本の食生活について理解する。	1.5h
8	経口摂取ができない場合の栄養補給方法を理解する。 栄養学Ⅰのまとめ	3	教科書のP153～164を読んでおくこと。	1.5h	嚥下調整食、経管栄養、中心静脈栄養について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。
学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。
予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。
オンラインで実施する場合：状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。

印刷



HOME > 栄養学Ⅱ

栄養学Ⅱ

英文名：Nutrition Ⅱ

科目区分：看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング：NRB105・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

6 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

河原田律子、宮崎純一*

科目に関連した実務経験

*管理栄養士として医療施設に勤務。臨床栄養管理、給食管理、NST活動などを実践（現在）

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生涯にわたり健康を維持するためには、ライフステージごとの身体の変化とその特徴、食事摂取基準の特徴、望ましい食生活のあり方が重要であることを知る。

医療施設における病態別の栄養管理について知る。

授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドで進める。毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。

到達目標

^

人生各期の健康生活と栄養の特徴について理解できる。
主な病態別の栄養管理の特徴と食事療法について理解できる。
病態別の栄養指導について、症例を踏まえて適切な指導法を理解できる。■

使用教材

^

疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースング・グラフィカ,関戸恵子,株式会社メディカ出版,2022年,教科書に沿って講義を行う。
配布資料を毎回使用する。

評価方法

^

期末試験80%、平常点20%（授業参加度・課題・小テストへの取り組みを含む）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。

オフィスアワー

^

木曜日 1-4時限
1号館406研究室/臨床栄養学研究室
質問はメールでも受付ける。

メールアドレス（#→@）

^

nasu#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人生各期の健康生活と栄養① 乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期	1	教科書P110～120を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
2	人生各期の健康生活と栄養② 妊娠期・授乳期・高齢期	1	教科書P121～135を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
3	病態別栄養管理①■ 検査のための食事 治療による回復を促す食事	2	教科書P140～152を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
4	病態別栄養管理②■ 消化器疾患（胃・十二指腸・大腸） 栄養成分別コントロール食による栄養管理	2	教科書P168～175を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
5	病態別栄養管理③■ 消化器疾患（膵臓・肝臓・胆嚢）	2	教科書P176～185を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
6	病態別栄養管理④■ 内分泌代謝疾患(肥満・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)	2	教科書P186～193を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
7	病態別栄養管理⑤■ 循環器疾患（高血圧症・動脈硬化症・うっ血性心不全）・腎疾患	2	教科書P194～201を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	健康増進のための食事指導 医療現場で行われている疾病別栄養指導の実際。	3	教科書P204～212を読んでおくこと。	1.5h	教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。

学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。

予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。

オンラインで実施する場合：状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



HOME > 臨床心理学

臨床心理学

英文名：Medical treatment clinical psychology

科目区分：看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング：NRB201・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

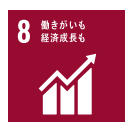
担当教員

千葉千恵美

科目に関連した実務経験

心理相談員として大学付属の相談機関で勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医療臨床による対人援助の基本を学び、より実践的な治療方法や支援方法について学修を目指す。患者さんや家族の立場で考えられるように、具体的な症状に添った援助技術の習得を目指す。

授業の進め方：講義とグループの2部形成に分かれ、学生同士の考えを引き出す等発表形式を取る。箱庭療法の体験等学生自身の学びが出来る形式を取る。毎回授業の終わりに授業の内容の感想シートを記述させ、各自のまとめとして提出させる方法を取る。

到達目標

- 1.医療臨床による臨床心理学をする事が出来る。
- 2.医療臨床における臨床心理学の役割と関連性について、理解する事が出来る。

- 3.具体的な事例検討や症例に添いクライアントや家族の関わり等を応用する事が出来る。■
- 4.体験的な治療方法や支援方法を学ぶ事で、より実践的な治療や支援を考える事が出来る。■

使用教材 ^

配布した症例に関するプリント又スライドによる内容を主な教材とする

評価方法 ^

事前の予習 授業後の感想シート20% 定期試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

感想シートに記載された質問は、授業を通じてフィードバックをする。また試験課題についてもフィードバックする。

オフィスアワー ^

火曜日 4, 5限目

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスを読み、事前に臨床心理学についての知識を予習する	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、臨床心理学について理解を深める	1.5h
2	医療と臨床心理学	1,2	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、医療における臨床心理学の理解を深める	1.5h
3	医療と臨床心理学のこれから	1,2	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる	1.5h	講義の配布資料を読み返し、医療と臨床心理学のこれからの理解を深める	1.5h
4	医療における臨床心理学的アプローチ	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し心理面接や不安コントロールの理解を深める	1.5h
5	カウンセリング・心理療法 ■	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、カウンセリング、心理療法の理解を深める	1.5h
6	心療内科領域での対応	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、心身症と臨床心理学の歴史の理解を深める	1.5h
7	乳幼児期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ） ■	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、乳幼児期の臨床心理学の理解を深める	1.5h
8	学童期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ） ■	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、学童期の臨床心理学の理解を深める	1.5h
9	思春期・青年期の心身症へのアプローチ（ロールプレイ） ■	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容についてふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し思春期・青年期の心身症の理解を深める	1.5h
10	成人・高齢期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、成人期・高齢期の心身症の理解を深める	1.5h
11	神経・精神科領域での対応（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、神経・精神科領域の心身症の理解を深める	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	リハビリテーション・高齢期医療での対応（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義の配布資料を読み返し、リハビリテーション・高齢期医療の理解を深める	1.5h
13	医療の新しい領域でのアプローチ（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に配布した資料を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、新しいアプローチの理解を深める	1.5h
14	臨床心理学治療に必要なアプローチ(箱庭療法) ■	1,2,3,4	事前に配布した資料に目を通し、講義内容にふれる	1.5h	講義修了后感想シートを記載し、箱庭療法についての理解を深める	1.5h
15	まとめ 臨床心理学の今後の課題と展望	1,2	事前に今まで配布した資料に目を通し、講義内容を振り返る	1.5h	講義修了後配布した資料を読み返し、臨床心理学のまとめをする	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



Key Word:医療臨床 対人援助 クライアントと家族 臨床心理学

予習・復習については授業前後の学習の補完とする。

単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。

オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。

（■:実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

看護人間発達学

英文名：Human Growth and Development Nursing

科目区分：看護基盤科目群・人間

科目ナンバリング：NRB106・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

梅原里実、吉田久美子、星野美穂、茂木佐智子

科目に関連した実務経験

担当教員は、大学病院、専門病院、総合病院において看護師としての勤務経験を有する。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

- ・与えられたテーマに対して、授業外学習において自ら調べ、解釈・分析し、その内容をまとめる【調査学習】
- ・授業受講時、自己学習時に授業資料、ポートフォリオ学習用紙の空白となっている括弧内等に適切な用語や重要点を記載し、講義資料、ポートフォリオ学習用紙を完成させ学習する【ポートフォリオ学習】

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

講義の目標

人間の生涯にわたる成長・発達の特徴を理解し、人間の発達と健康を支える看護の重要性と役割を学習する。

講義の実施方法

本科目は、5名の教員（リプロダクティブヘルス看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学を専門分野と

する教員）によるオムニバス形式で授業を展開する。また、教科書、教員が作成した資料、パワーポイントを用いるとともにDVD等の視覚教材を活用することを通じ、人間の成長・発達の特徴のイメージ化、発達と健康、看護との関係についての理解を図りながら授業を展開する。

到達目標

^

1. 看護の対象としての「人間」の理論的定義、発達の概念・原則、発達に影響する要因を概説する
- 2.人間のライフサイクルの各発達段階における成長・発達の特徴と健康課題を説明する■
- 3.各発達段階の成長・発達がその後の発達段階の成長・発達や健康に及ぼす影響を概説する■
- 4.看護学における人間理解のあり方と、人間の発達を促し健康を支えるための看護の重要性と役割について考察する■
- 5.看護学において人間の成長・発達の特徴を学習することの意義を思考する■

使用教材

^

舟島なをみ, 望月美知代, 看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2024. ￥3,000+税
※教科書は、授業および予習・復習において使用する。適宜、最新の知見を含めた授業資料を配布する。

参考文献

^

- 1)福田恵美子, コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改定5版, 中外医, 2019. ￥2,600+税
- 2)服部祥子, 生涯人間発達－人間への深い理解と愛情をはぐくむために－ 第3版, 医学書院, 2020. ￥2,100+税
- 3)上杉 雅之, イラストでわかる人間発達学, 医歯薬出版, 2015. ￥4,620

評価方法

^

筆記試験（100％）を行い、合計60点以上を合格とする。
オンラインの場合、C-learningなどを利用してオンライン上で試験（100％）を行い、合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

原則として、対面授業でも、オンライン授業でもレポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じてC-learningを通じてコメントする。

オフィスアワー

^

金曜日10：00～15：00
（5号館5階 502研究室 ）

メールアドレス（#→@）

^

umehara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人間と発達（総説）【梅原】 －「発達」の概念定義と原則、「発達」に影響する要因、人間の「発達」を学習することの意義－	1	教科書の講義内容と関連する項を精読する。	1h	人間の成長・発達に影響する要因について調べ、まとめる。	2h
2	人間のライフサイクルと発達【1】 乳児期～老年期にある人間の心理・社会的側面の発達と発達の危機（健康課題） ■【精神看護学教員】	2, 3,4	教科書の乳児期～老年期の心理・社会的側面の発達を精読する。自分自身や身近な人を想起し、人間の心理・社会的な発達の特徴を把握する。	1h	授業内容に基づき、乳児期～老年期にある対象の心理・社会的な発達の特徴を整理する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	人間のライフサイクルと発達〔2〕 受精、胎児期、新生児期 ■【茂木】	2, 3,4	教科書の講義内容と関連する項を精読する。	1h	授業内容に基づき、胎児期～新生児期にある対象の発達的特徴を整理する。	2h
4	人間のライフサイクルと発達〔3〕 乳児期～幼児期 ■【星野】	2, 3,4	教科書の講義内容と関連する項を精読する。また、自分の母子健康手帳等を観て、乳児期～幼児期の自己の発達過程、発達の特徴を把握する。	1h	授業内容に基づき、乳児期～幼児期にある対象の発達的特徴を整理する。	2h
5	人間のライフサイクルと発達〔4〕 学童期～思春期 ■【星野】	2, 3,4	自己の学童期～思春期に体験したことを想起・照合しながら、教科書の講義内容と関連する項を精読する。	1h	授業内容に基づき、乳・幼児期にある対象の発達的特徴を整理する。	2h
6	人間のライフサイクルと発達〔5〕 青年期～成人期 ■【吉田】	2, 3,4	教科書の講義内容と関連する青年期～成人期の項を精読する。自分のことと照らし合わせ考える。	1h	授業内容に基づき、青年期・成人期にある対象の発達的特徴を整理する。	2h
7	人間のライフサイクルと発達〔6〕 向老期～老年期 ■【梅原】	2, 3,4	自身の身近な人を想起しながら教科書の講義内容と関連する章を精読する。	1h	授業内容に基づき、老年期にある対象の発達的特徴を整理する。	2h
8	人間の発達と看護（総括）－人間の発達と健康を支えるための看護の役割 ■【茂木・星野・吉田・梅原・精神看護学教員】	3, 4,5	第1～7回までの授業の学習内容を再確認する	1h	それぞれのライフサイクルの人間の発達の特徴をふまえた上で、人間の発達と健康を支える看護の重要性と役割、および看護学における人間理解のあり方について自己の考えを考察し、整理する。	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- ・ 授業シラバス、授業計画を必ず確認し、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。
- ・ 予習・復習：必要に応じて各自で補完する。
- ・ 授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。

【出席登録】

出席登録は、C-learningの下記の方法1・2のいずれかの方法で行う。方法はC-learning【協働板】または【ニュース】を確認すること。

- ・ 方法1：【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。
- ・ 方法2：【アンケート】機能を通じて設問に回答する。

【オンライン授業での出席の取り扱い】

オンラインで授業を行う場合には、上記のC-learningを通じた出席登録を行うこと、およびC-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

医療安全論

英文名：Theory of Medical Safety

科目区分：看護基盤科目群・環境

科目ナンバリング：NRB206・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

安野朝子 渡邊秀臣

科目に関連した実務経験

総合病院における感染管理室長

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

実施概要

安全な医療の提供は、医療従事者の重要な責務であることを理解し、個人および組織においてどのような対策が求められているか学習する。

①講義目標：医療における安全対策の歴史、種類、方法を学び、臨地実習や就職後に活用できる基本的な安全対策スキルの学習方法を身につける。

②実施方法 講義を中心に行い、事例検討は一部GWを行う。

到達目標

- 1. 医療安全の基本的な考え方が説明できる。
- 2. インシデント・アクシデントの具体的な事例を認識し、説明できる。■
- 3. 医療安全における対策とは何かとその適応方法を知り、事例に沿って考えることができる。■
- 4. 安全対策、感染対策、薬剤対策、医療機器対策の個別対応と組織的な対応の違いを知り、個人と組織をつなぐチームの存在を知る。■
- 5. 医療従事者の安全対策について理解し、説明できる。■
- 6. 安全文化の醸成について学び、学習した事例をGWで発表し、共有する方法を体験する。
- 7. 医療安全の考え方を、常に臨地実習で活用できるよう準備する。

使用教材

^

看護学テキストNiCE 医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして改訂第二版. 山内豊明 荒井有美. 南江堂. 2024. 2,700円
最新の知見に基づき、テキスト以外に必要な資料は適宜配布し紹介する。

参考文献

^

- 1.医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力 改訂第二版 学研 2018
 - 2.医療安全ワークブック Work Book for Patient Safety 第5版 医学書院 2024
- 他の参考書は授業初回で紹介する

評価方法

^

毎回の講義終了後の振り返りとGW参加度を含め（60％）。レポート（40％）。
総合評価100％中の60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

講義の振り返りについては、次回講義時にコメントしフィードバックする。

オフィスアワー

^

火曜日13時～16時15分
（5号館2階208研究室）

メールアドレス（#→@）

^

yasuno#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療安全を学ぶ意義と事故発生のメカニズムについて学ぶ ヒューマンファクター ハインリッヒの法則 スイスチーズモデル 過去の重大事故の振り返り	1,2,7	新聞やニュースで聞く医療事故の情報を一つ探してくる	1.5h	事故発生のメカニズムを学び、自分の探した情報のメカニズムを検討してみる	1.5h
2	インシデント・アクシデント事例について学ぶ ■ インシデント・アクシデントの定義 転倒転落 誤認 薬剤投与間違い 医療機器の使用間違い 医療関連感染アウトブレイク	1,2,3,4,7	今までの実習で出会ったインシデント・アクシデントについて思い出して整理する 出会ったことが無ければ、テキストの事例を読む	1.5h	事例から看護場面にある身近にあるリスクについて考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	安全対策の方法を学ぶ ■ KYT 報告・連絡・相談 個人の対策 組織の対策 事故調査制度 事故後の対応	3,4	事故を防ぐとはどのようなことか、テキストを読んで考える	1.5 h	さまざまな方法をどのように実施するのか実習場面に照らして考える	1.5 h
4	感染対策の方法を学ぶ ■ 微生物の特徴 新興再興感染症の対策 人の移動とアウトブレイク 標準予防策・感染経路別対策の成り立ち 洗浄、消毒、滅菌の適応	3,4	微生物学の復習をして微生物の特徴を思い出す 感染症が伝播する仕組みを復習しておく	1.5 h	感染予防において、グローバルな世界に生きている現代の人が備えておくべき知識を整理する	1.5 h
5	事例の検討過程と種類について 個人と組織、チームの関わり、コミュニケーションについて学ぶ。 安全文化の醸成と報告システムの成り立ちについて学ぶ ■	1,2, 3,4, 6	医療の安全はさまざまな事象から学ぶことで、再発防止につながっていることをテキストを読んで知る	1.5 h	安全文化の醸成には何が必要かを整理する	1.5 h
6	医療従事者の安全対策について学ぶ ■ 職業感染対策 血液曝露対策 空気・飛沫曝露対策 放射線曝露対策 薬物（抗がん剤、消毒薬等）曝露対策 健康管理 身体のリズムと安全 心の安全	1,2, 3,4, 5	医療職にあるリスクについてテキストから学ぶ	1.5 h	自身の健康管理と適切な曝露対策等が安全な医療につながることを理解し、学びを整理する	1.5 h
7	体験事例等について、各自検討してGWで発表し、共有する方法を体験する	1,2, 3,4, 6,7	事例をどのように伝えれば、報告出来るのか記録して伝える準備をする	1.5 h	GWでの学びを整理する	1.5 h
8	まとめ 学びの振り返りと実習に備える	1,2, 3,4, 5,6, 7	1-7回に学んだことを振り返る	1.5 h	医療安全論の学びを実習に生かすために、患者安全と医療者の安全双方を適切に行うための方法を整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

1. 単位習得に必要な時間を満たしていない場合

講義のみでは単位習得に必要な時間を満たさないため、予習・復習時間を含め、各自が補完すること。

2. 履修条件

この科目は、基礎看護技術、微生物学、臨床医学、コミュニケーション演習、全ての領域別科目の概論と方法論を履修していることが望ましい。

3. 受講ルール

1) 出席は、講義後c-learningのアンケートによる振り返りと課題の提出をもって出席とする。

2) GWは少人数で行い、各自が主体的に課題に取り組み情報交換し発表する。

4. オンライン授業時の変更点

1) 講義はc-learningの教材倉庫に掲載した資料と説明動画を視聴し学習する。

2) 質問等はc-learningの連絡・相談を使用する。必要に応じMEETやチャットを利用する場合もある。

3) GWはZOOMを使用する。

■: 実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

[HOME](#) > 疫学

疫学

英文名：Epidemiology

科目区分：看護基盤科目群・環境

科目ナンバリング：NRB202・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

宮崎有紀子

科目に関連した実務経験

- ・看護師として病院に勤務（経験）
- ・保健師（非常勤）として健診業務等に従事（経験）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格
養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探る方策として、疫学の考え方や方法について学ぶ。

到達目標

- 1.疫学の考え方や方法について理解できる。
- 2.集団の健康指標について理解できる。
- 3.リスクの考え方，および曝露効果に関する指標の意味が理解できる。
- 4.因果関係を探る方法について理解できる。
- 5.スクリーニングの意義と妥当性について理解できる。 ■
- 6.人を対象とした研究における倫理的配慮について考えることができる。

使用教材

^

教科書 はじめて学ばやさしい疫学 日本疫学会監修 (南江堂)
ISBN978-4-524-20448-9
講義の内容をプリントにて配布する
最新の知見を紹介する

参考文献

^

授業の中で紹介する

評価方法

^

試験80%，提出物20%，総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題として提出された内容について全体的にまとめ，共有する。

オフィスアワー

^

授業の前後（非常勤講師室）

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	疫学の概要	1	教科書の前書き，シラバスの内容を読み講義の目標などを理解する	1.5h	講義内容を確認する。教科書第1章に目を通す	1.5h
2	記述疫学と仮説設定	1	教科書第4章-1に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
3	横断研究・生態学的研究	1	教科書第4章-2、3に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
4	疾病頻度の測定：率、比、割合	2	教科書第3章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
5	コホート研究	1,3	教科書第4章-5に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
6	症例対照研究	1,3	教科書第4章-4に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
7	介入研究	1	教科書第4章-6、7に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
8	疫学調査の倫理	1,6	教科書第14章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
9	疫学的因果推論の考え方 (1)	1,4	教科書第2章，6章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
10	疫学的因果推論の考え方 (2)	1,4	教科書第2章，4章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
11	スクリーニングの方法 ■	5	教科書第7章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
12	スクリーニングの評価 ■	5	教科書第7章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
13	社会と疫学	1	教科書第15章に目を通す	1.5h	講義内容を確認する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	演習(1) 疫学調査事例	1,2,3,4	教科書第3章, 第4章を復習する	1.5h	講義内容を確認する	1.5h
15	演習(2) 疫学調査事例	1,2,3,4	教科書第3章, 第4章を復習する	1.5h	講義内容を確認する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

^

授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。またパワーポイントにより図等の提示を行っていく。予習・復習については試験前の学習でも補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



社会調査特論

英文名：Social Research Advanced Course

科目区分：看護基盤科目群・環境

科目ナンバリング：NRB203・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

2 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

安達正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 本講義の目的は、保健医療分野における実証的研究の手法として、社会調査の基本的な知識や技法を解説することによって、受講生が現代の看護師の業務における社会調査の意義を理解することである。

② 講義の実施方法としては、社会調査の実施過程にそって講義を進めていき、毎回の講義後に課題レポートを提示し、次の講義では各受講生が提出した課題レポートについて、担当者と全受講生で検討するといった双方向的な講義をおこなう。

到達目標



- (1) 看護学を専攻する大学生としての基礎的知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。
- (2) 社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- (3) 社会調査の技法を学ぶことで、専門知識・技術の活用力を身につけることができる。■
- (4) 社会調査を学ぶことで、論理的思考力を身につけることができる。
- (5) 社会調査の技法を会得することで、看護の現場のチームの一員としての協調・協働を身につけることができる。
- (6) 社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての生涯学習力を身につけることができる。

使用教材



講義中に、毎回、配布する。

参考文献



講義中に、適宜指示する。

評価方法



第2回以降に提出する作業レポート（50%）、ならびに学期末レポート（50%）により、評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



第2回以降に提出する作業レポートには講義中にコメントがつけられるので、これを参考にしながら、最終的な学期末レポートを作成する。

オフィスアワー



火曜日5限・6限

メールアドレス（#→@）



adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションとして、配布資料に基づいて社会調査の概要を解説する。	1,2,3,6	不要。	0h	社会調査の概要について理解しておくこと。	1.5h
2	配布資料に基づいて、社会調査のための情報資源にいかアクセスするか、それをどのように活かしていくのかを解説する。	1,2,3,4,6	第1回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5h	各受講生が自分の関心にしたがって、調査にむけての情報を収集して、次回に小レポートを作成すること。	1.5h
3	配布資料に基づいて、量的調査（質問紙調査）と質的調査（面接調査）について解説する。小レポートを回収する。実務経験で得た調査結果を事例として提示する。■	1,2,3,4,6	第2回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5h	とくに質問紙調査の手法について理解することによって、各自の関心に基づいたテーマと仮説を小レポートとして作成すること。	1.5h
4	各自のテーマと仮説を全体で検討した後で、配布資料に基づいて調査票の作成方法を解説する。前回の小レポートは、コメントをつけて返却する。	1,2,3,4,6	第3回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5h	講義中のコメントを参考にして、各自のテーマと仮説を修正しておくこと。また、その仮説を検証するための調査票を小レポートとして作成すること。	1.5h
5	データの分析方法について、配布資料に基づいて解説する。	1,2,3,4,6	第4回で配布された資料を	1.5h	データ分析の方法について復習しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
		6	よく読んでおくこと。			
6	教室内で各自の修正した調査票を配布して、実査（調査者側と被調査者側）を体験する。小レポートにコメントをつけて返却する。	1,2,3,4,6	受講生数に応じて調査票を用意しておくこと。	1.5h	各自の記入済みの調査票を点検しておくこと。	1.5h
7	調査報告書のまとめ方について、配布資料で解説する。	1,2,3,4,6	各自のデータ分析の計画を作成しておくこと。	1.5h	データ分析の方法を復習して、データ分析をおこなうこと。	1.5h
8	全講義を振り返って、あらためて社会調査のやり方について解説する。	1,2,3,4,5,6	これまでの講義の配布資料を読み直しておくこと。	3h	これまでの講義の配布資料を参考にしながら、調査報告書を作成すること。	3h

合計時間（予習・復習）



25.5h

備考



1回でも欠席すると講義に参加できなくなりますので、8回すべてに出席することが不可欠です。

なお、以上のシラバスは対面授業を想定しており、遠隔授業になった場合には各受講生がおこなう作業は質問紙作成までになり、各受講生がおこなう予定のデータ収集・分析については解説のみになりますので、了承してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



公衆衛生学

英文名：Public Health

科目区分：看護基盤科目群・環境

科目ナンバリング：NRB107・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小出 省司

科目に関連した実務経験

群馬県庁での保健医療福祉行政（約30年間）

群馬医療福祉大学教授（保健医療福祉関連科目を2年間担当）

NPO群馬がんアカデミー理事長（群馬大学医学部総合外科内・約10年間医療現場の皆様との交流）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○		○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



県内の病院や関係施設等の自主見学等を促す。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を学びながら、保健・医療・福祉・介護又は環境等との関連を理解し、現在の公衆衛生的なものの見方、考え方を習得し、将来の看護師、保健師、助産師、養護教諭、理学・作業療法士等の業務を遂行していく際の参考となるような知識を習得する。
②教科書、参考書・関連資料等の具体的説明とともに、新聞資料、関連パンフレット特に厚生労働省等をはじめとする行政庁の情報を的確に提供していく授業を進めたい。

到達目標



- 1 公衆衛生学に関する基本的な概念を理解し説明できる。
- 2 関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連を説明できる。
- 3 現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。
- 4 国際理解を深めることができる。

使用教材



well-beingを目指す公衆衛生学（東京教学社）

参考文献



国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

評価方法



期末のレポート（90%）及び毎回の授業時に質問・感想・意見等を求めその対応等（10%）により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業中、可能な限り質問を受けたり、各課題に対する学生の意見を聞いたりまたEラーニングでの質問も受けていく。

オフィスアワー



必要に応じて対応する。

メールアドレス（#→@）



koide_seiji1948@jcom.zaq.ne.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3	この科目を受ける意味を考えて、問題意識を深める。■	1h	今まで学んだ看護等各科目の知識との関連を考察する。	1h
2	社会保障と税の一体改革	2,3	少子高齢化の更なる進展で社会保障全体の改革が求められている。その実際を確認する。持続可能な社会保障制度をどう構築していくか？■	1h	公衆衛生の実現はこれら社会保障制度が有効に運用されて初めて実現することにある。	1h
3	第1章 健康の概念と公衆衛生	2,3	健康増進をキーに公衆衛生の役割とその活動のプロセスを理解する。	1h	公衆衛生学的重要性を理解する。	1h
4	第2章 保健統計と指標	2,3	その統計がどのように作成され、また活用されているか概観する■	1h	それぞれの統計から日本の人口、疾病構造、健康志向等を確認する。	1h
5	第3章 健康状態・疾病の測定	1,2,3	疫学とは何かを概観する。そのエビデンスの質のレベルについても考察	1h	健康を支える疫学について総合的に学習する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	と評価（疫学）		する。			
6	第4章 環境と健康	2,3	今日の最大課題である地球温暖化をはじめ環境の様々な現象が人々の健康にどのような影響を与えているか検討する。■	1h	健康管理の観点から環境を変えられることができるか、環境の影響を避けることができるか等を考察する。	1h
7	第5章 衛生行政と地域保健	1,2,3	社会の基本ルールは法に根拠がある。憲法25条に代表される保健・医療・福祉の公的性を具体的に検討する。また地域保健の基本を理解する。■	1h	実際の行政の現場、法律等がどのように運用されているか、具体的事例をみながら検討する。	1h
8	第6章 健康危機管理と感染症対策	2,3	大きな災害、また新型コロナ等に代表される感染症を改めて概観し、日頃からの準備や緊急事態に如何に対応するか検討する。■	1h	健康危機の未然防止、そのための的確な対応、また被害の回復が万全となるように社会システムを含めて構築していく。	1h
9	第7章 生活習慣および社会環境改善と健康	2,3	生活習慣病予防のための健康対策を概略を理解する。■	1h	良い生活習慣を維持していくための個人、組織・集団、国レベルの対策等を具体的に理解していく。	1h
10	第8章 主要疾患の疫学と予防対策	2,3	それぞれの病気の発生、治療、予防等について事例検証する。	1h	疾病の動きを的確にキャッチし、如何に早期発見・早期治療を実現できるか検討する。	1h
11	第9章 社会保障制度と人権の擁護（保健・医療）	1,2,3	日本の社会保障制度が保健・医療の向上にどのような役割を果たしているか検証する。■	1h	とかく国の制度等は細かな内容で理解不能なところもあるが、国民が理解できる情報提供をどのようにすべきか検討する。	1h
12	第9章 社会保障制度と人権の擁護（福祉・介護）	1,2,3	救済対策から人々の生活向上を実現できる今日の福祉・介護について理解する。■	1h	少子高齢化がさらに進行していく中で人々の福祉や介護が持続可能な制度として維持できるか等を考察する。	1h
13	第10章 ステージに応じた保健活動	2,3	日本の保健制度の原点である母子保健の実際や子供から大人までの健康予防の実際がどうであるかを考察する。	1h	実際の病気の治療と違って、予防活動は国民（対象者）の理解が欠かせないが、どのようなアプローチが有効かを具体例をみながら検証する。	1h
14	第11章 生活の場に応じた保健活動（産業保健、学校保健） 第12章 国際保健	2,3	多くの人が生活している職場や学校での保健活動がどう維持されているかを概観すると共にグローバル化の時代に各国との協力による保健活動を考察する。■	1h	新型コロナに代表される感染症も世界的なパンデミックが課題になったが、そのような観点からの課題解決を検討する。	1h
15	まとめ	1,2,3	授業の全体を振り返って、保健等の専門職を目指す学生にとって「公衆衛生学」の必要性を考察する。	1h	もう一度、教科書等のポイントを押さえていく。	1h

合計時間（予習・復習）

30 h

備考

- ① 毎回講義終了時に学生からの質問等受け付ける。
- ② 公衆衛生学はそれぞれの現場があり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。■

- ③ 日々のニュース（大災害、各自治体での取り組み、新型コロナのようなパンデミック等）を注視し、学習している内容との関連性も検証する。■
- ④ 予習・復習を疎かにしないようお願いする。記載した予習・復習時間に加え必要な学習時間を各自補完すること。
- ⑤ 公衆衛生学は看護学概論等の科目との関連性が大きいのでそれぞれ学んでいる内容との比較検討もお願いする。
- ⑥ リモートワークでの授業の場合はそのシステムをフルに活用して、受講する学生が情報収集できるよう最大限の対応をすると共にアンケートや資料提供しながら学習を支援していく。
- 以上、講師が実際の仕事で体験したことや現在の群馬県内での取り組み等を可能な限り情報提供していく。■
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

保健医療福祉行政論

英文名：Social Welfare and Policy in Health Care

科目区分：看護基盤科目群・環境

科目ナンバリング：NRB204・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小出 省司

科目に関連した実務経験

群馬県庁での保健医療福祉行政（約30年間）

群馬医療福祉大学教授（保健医療福祉関連科目を2年間担当）

NPO法人群馬がんアカデミー理事長（群馬大学医学部総合外科内・約10年間医療現場の皆様との交流）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○		○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



県内の病院や関連施設等の自主見学等を促す。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①保健・医療・福祉活動は、憲法第25条に基盤において運営されているので、その法的基盤や財政の状況を知る。合わせて地域における保健・医療・福祉の現状と今後の課題を考える。

②教科書、参考書・関連資料等の具体的説明と共に、新聞資料、関連パンフレット、特に厚生労働省等をはじめとする行政庁の情報を的確に提供していく授業を進めたい。

到達目標



- 1 保健・医療・福祉に関する基本的な概念を理解し説明できる。
- 2 関連する法律、基本的な用語、現実の社会・環境と健康の関連を説明できる。
- 3 現在のわが国の保健・医療・福祉活動を理解し説明できる。

使用教材



- ①標準保健師講座「保健医療福祉行政論」（医学書院）
 - ②「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）
- その他必要により関連する資料を配付する。

参考文献



必要に応じて

評価方法



期末レポート（90%）、及び毎回の授業終了時に質問・感想・意見等の聴取（10%）により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業中、可能な限り質問を受けたり各課題に対する学生の意見等をフィードバックしていきたい。

オフィスアワー



必要に応じて対応する。

メールアドレス（#→@）



koide_seiji1948@jcom.zaq.ne.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1 2 3	この科目を受ける意味を考えて、問題意識を深める。■	1h	今まで学んだ看護学等各科目との関連性を考察する。	1h
2	社会保障と税の一体改革	1 2 3	少子高齢化の更なる進展で社会保障全体の改革が求められている。その実現を確認する。持続可能な社会保障制度をどう構築していくか考える。■	1h	社会保障制度が有効に運営されてこそ保健医療福祉の目的が達成されるのでそれを確認する。	1h
3	1章 保健医療福祉行政の基本 2章 保健医療福祉制度の変遷	1 2 3	住民の健康福祉の向上が目的であるが、現実がどうなっているか。特に憲法に規定された公的責任の意味を考察する。また、歴史的にどう発展してきたかを確認する。■	1h	社会保障の充実がどのように形成されてきたかを検証する。	1h
4	3章 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み	2 3	社会保障の具体的実現には行政の充実と財源の確保が欠かせないことを理解する。■	1h	その実態がどうなっているかを具体的事例等で確認していく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	4章 地域保健行政と保健師活動	2 3	健康の基本は予防であるが、健康寿命に向けて今どのように保健活動が展開されているかを理解する。その中心的任務の保健師の活動状況を確認。■	1h	各種保健医療統計等で活動実績が公表されているが、それらを参考の今後の課題についても確認していく。	1h
6	5章 社会保障制度と政策	1 2 3	年金、医療、福祉等の諸制度を理解し、現実社会の中で如何に機能しているか検証する。■	1h	それぞれの目的が実現できているか、どこに課題があるかを具体的事例をみる中で確認していく。	1h
7	6章 保健医療福祉計画と評価	2 3	保健医療福祉の事業は多くの人材、莫大な費用が必要、それを年次的に効果的な運営が必要である。その辺を検証する。■	1h	実現可能な計画か、どのような過程で計画されたか、また、Plan.Do,Seeのサイクルが機能的か等を確認する。	1h
8	ここから「国民衛生の動向」 第1編 わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系	1 2 3	日本の社会保障制度の鳥瞰図を確認し、今後の課題等を検討していく。■	1h	当面の課題は何か、国民は何で困っているか等を検討し今後のあるべき姿を求めていく。	1h
9	第2編 衛生の主要指標	2 3	各種の保健医療統計等を確認し、医療や保健の実態を把握する。■	1h	データから見えてくる保健医療福祉の実態を検証し、今後の課題を考察する。	1h
10	第3編 保健と医療の動向	2 3	生活習慣病、がん、感染症などの保健と医療の具体的な実態を理解する中でこれからの課題を検証する。■	1h	健康の維持の観点から様々な疾患の治療等がどうなっているか検証する。	1h
11	第4編 医療提供体制と医療保険 第5編 介護保険	2 3	病院、診療所等の実態はどうか、また多額な医療費を保険で全て賄えるか等を確認する。2000年に始まった介護保険制度の課題について検討する。■	1h	持続可能な医療保険制度のあり方を検証していく。	1h
12	第6編 薬事 第7編 生活環境	2 3	それぞれの制度の概要、問題点、今後の課題等について検証。	1h	国民の健康増進にどのように役立っているかを検討する。	1h
13	第8編 労働衛生 第9編 環境保健 第10編 学校保健	2 3	働き方改革等の議論、地球温暖化の今後、教育の中での健康管理など国民生活にとって大きな問題であるこれらについて検証する。	1h	国民の健康福祉の増進にどう関連しているか具体的に検討していく。	1h
14	保健医療等に関連する「新書」からの情報収集（新書は未定）	1 2 3	今まで学んだ保健医療福祉の課題がどうなっているか、参考書から情報収集。	1h	保健医療福祉の課題がどうなのか、本書より確認する。	1h
15	まとめ	1 2 3	授業の全体を振り返って、保健等の専門職を目指す学生にとって「保健医療福祉行政論」の必要性を考察する。■	1h	もう一度、教科書等のポイントを押さえていく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h



- ① 毎回講義時に学生からの質問等受け付ける。
 - ② 保健医療福祉行政論が対象とする現場は数多くあり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。■
 - ③ 日々のニュース（大災害、各自治体での様々な取り組み、新型コロナのようなパンデミック等）を注視し、学習している内容との関連性も検証する。■
 - ④ 予習・復習を疎かにしないこと。記載した予習・復習時間に加え必要な学習時間を各自補完すること。
 - ⑤ 保健医療行政論は看護学概論等他の科目との関連性が高いのでそれぞれ学んでいる内容との比較検討もお願いする。
 - ⑥ リモートワークでの授業の場合は、そのシステムをフルに活用して、受講する学生が情報収集できるよう最大限の対応をすると共にアンケートや資料提供しながら学習の支援をしていく。
- 以上、講師が実際の仕事で体験したことや現在の群馬県内での取り組み等を可能な限り情報提供していく。■
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

医療情報システム論

英文名：Medical Information System Theory

科目区分：看護基盤科目群・環境

科目ナンバリング：NRB205・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

一戸真子

科目に関連した実務経験

約30年間、病院機能評価を実施し、医療の質改善支援を行ってきており、医療現場に精通しており、数多くの病院情報システムや電子カルテシステム、看護支援システム、地域医療連携システムの実践について熟知している。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

情報テクノロジーの目覚ましい進歩に伴い、医療現場における医療情報システム化が急速に進んできている現状を理解することにより、どのようなことが患者・家族－看護師関係および看護師－医師関係、その他の医療従事者間において変化してきているかについて学習する。オーダリングシステムや電子カルテシステムにはどのような情報が含まれているか、医療情報のシステム化が医療・看護の質の向上にどのように貢献可能であるかについて理解を深め、チーム医療時代における医療情報システムのあり方、医療安全への貢献についても理解を深める。看護支援システムについても理解を深め、更に地域医療連携情報システムについても学習する。講義の具体的な実施方法としては、教科書を使用し、講義中心に進める。

到達目標

- 1.医療情報システムの定義および関係する制度や情報の量と質について説明できる。
- 2.オーダリングシステムおよび電子カルテシステムの実際について説明できる。■
- 3.看護情報支援システムについて説明できる。■
- 4.医療情報システムにおける患者・家族―看護師関係および看護師―医師関係、その他の医療従事者関係の変化について説明できる。■
- 5.医療情報システムが、医療現場における医療の質の向上および医療の安全にどのように貢献できるか説明できる。■
- 6.地域医療連携情報システムと標準化について説明できる。

使用教材

^

教科書 日本医療情報学会医療情報技術師育成部会編 「医療情報第6版 医療情報システム編」篠原出版新社 2020年
ISBN 978-4867058015

参考文献

^

必要に応じて授業内で紹介する。

評価方法

^

期末レポート試験60%、小レポート40%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小レポートの返却および解説を行う。
定期試験後に問題出題意図を説明する。

オフィスアワー

^

集中講義日の土曜日12～13時

メールアドレス（#→@）

^

shinkoichinohe#gmail.com

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療情報システムの基礎と実際 ■	1	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	病院情報システムについて講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h
2	医療のIT化に関する諸制度	1	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	病院業務とIT、診療報酬制度との関係について講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h
3	オーダリングシステム、電子カルテシステムと実際 ■	2	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	電子カルテシステムの実際と機能について講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h
4	看護情報支援システム ■	3	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	看護情報支援システムの機能と実際について講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h
5	患者・家族中心のシステムに求められる視点 ■	4	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	患者・家族―看護師関係、看護師―医師関係とシステムについて講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h
6	チーム医療と医療情報システム ■	4	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	各部門におけるシステムを理解し、チーム医療との関係について講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h
7	医療の質の向上、安全・セキュリティとシステム ■	5	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5 h	リスク管理システムやセキュリティについて講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	医療情報システムの今後－地域連携システム	6	教科書該当部分を事前に一読する。	1.5h	医療情報の標準化や地域医療連携情報システムについて講義内容を振り返り、理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

^

印刷



薬理学

英文名：Pharmacology

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB207・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

吉田一貴

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。

講義形式で行う

到達目標

基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。

1. 薬はどのように作用するのか説明できる。
2. 薬はどのように体内をめぐるのか説明できる。
3. 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題について説明できる。

4. 抗感染症薬について説明できる。
5. 抗がん薬・免疫治療薬について説明できる。
6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬について説明できる。
7. 末梢神経系に作用する薬について説明できる。
8. 中枢神経系に作用する薬について説明できる。
9. 心臓・血管系に作用する薬について説明できる。
10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について説明できる。
11. 物質代謝に作用する薬について説明できる。

使用教材

系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第15版
吉岡充弘他編 医学書院 2022年講義のスライドを随時プリントして配布する。

評価方法

受講態度（10 %）および期末試験（90 %）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義の単元ごとに確認問題を提示し、その解説を行う。

オフィスアワー

木曜5限。金曜5限。その他適宜対応可能（7号館 実験室 I または320室）。

メールアドレス（#→@）

yoshida-k#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	薬理学の概念	1	教科書の総論第1章と第2章のFに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
2	薬はどのように作用するのか	1	教科書 第2章のAに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
3	薬はどのように体内をめぐるのか	2	教科書 第2章のB に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
4	薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題	3	教科書第2章のC、D、E に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
5	抗感染症薬	4	教科書 第3章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
6	抗がん薬・免疫治療薬	5	教科書 第4章と第5章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	6	教科書 第6章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
8	末梢神経系に作用する薬（1）	7	教科書 第7章のA、B、Cに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	末梢神経系に作用する薬 (2)	7	教科書 第7章のD、Eに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
10	中枢神経系に作用する薬 (1)	8	教科書 第8章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
11	中枢神経系に作用する薬 (2)	8	教科書 第8章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
12	心臓・血管系に作用する薬 (1)	9	教科書 第9章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
13	心臓・血管系に作用する薬 (2)	9	教科書 第9章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
14	呼吸器・消化器・生殖系系に作用する薬	10	教科書 第10章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
15	物質代謝に作用する薬	11	教科書 第11章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h

合計時間 (予習・復習)



30h

備考



各分野ごとに疾患治療に用いられる代表的な薬物を取り上げ、その作用機序を説明する。
予習復習の不足分は、試験前の学習で補完すること。
オンラインで講義を行う場合は講義スライド及び、講義スライドに音声を入れた動画をC-learningにアップロードします。

印刷

微生物学

英文名：Microbiology

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB109・A

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

科目に関連した実務経験

医師として大学病院検査部、感染制御部に勤務。現在、非常勤内科医師として一般内科、甲状腺専門外来を病院で担当している。

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

微生物感染症は、先進国においては過去の疾患と思われがちであるが、高齢者やがんなどの患者では、免疫力が低下しているために感染症を起こしやすく、日本人の死亡原因の第4位の肺炎は微生物感染症である。入院患者では、院内感染症の発生が致命的となる。看護職にある者にとって必須の感染症の発生要因、予防法、治療法について理解することが本講座の目的である。

講義内容はできるだけ教科書に沿って進めるが、学び順の変更を行い、臨床で経験した患者のことを随時説明し微生物学が実践でどのように生かされるか教授していくようにする。

到達目標

- 1. 微生物に関する基本的知識が説明できる。
- 2. 病原体となる微生物の特徴を説明することができる。■
- 3. 病原微生物に対する消毒や化学療法が説明できる。■
- 4. 院内感染防止など感染予防の説明ができる。■
- 5. 感染症から身を守るための免疫システムの説明ができる。■

使用教材

テキスト：系統看護学講座〔微生物学〕（医学書院）
ISBN978-4-260-04702-9
講義に合わせたプリントを配布する。Cラーニングにプリントを教材としてアップする。プリントには最新の知見を含め、看護実践にどのように役立つか紹介する。

評価方法

定期試験100％で評価する。
総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

定期試験後にはすぐに解答を公表し、自己学習を行えるようにする。

オフィスアワー

水曜日3時限、質問はメールでも受け付ける。研究室：5号館3階301

メールアドレス（#→@）

kuwabara#takaski-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	微生物の概要	1	教科書第1章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	微生物の種類や人と微生物のかかわりについて理解する。Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
2	細菌の性質	1,2	教科書第2章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	細菌の特徴、形態、常在細菌について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
3	ウイルスの性質	1,2	教科書第3章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	ウイルスの構造と種類について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
4	真菌の性質	1,2	教科書第4章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	真菌の特徴、形態、常在細菌について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
5	感染と感染症	5	教科書第5章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	感染と感染症の違い、病原体別の感染経路を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
6	感染に対する生体防御機構	5	教科書第6章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	液性免疫と細胞性免疫、感染徴候と症状について理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	滅菌と消毒	1,2	教科書第7章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	消毒・滅菌法や標準予防策を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
8	感染症の検査と診断	3	教科書第8章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	細菌学的検査法、真菌、ウイルス、寄生虫の検査法と遺伝学的検査を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
9	感染症の治療	1,4	教科書第9章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
10	感染症の現状と対策	3,4	教科書第10章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	院内感染対策や標準予防策、ワクチンの現状を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
11	病原細菌と細菌感染症	1,2, 3,4	教科書第11章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	病気を起こす細菌の発病症状や感染経路に関して理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
12	病原ウイルスとウイルス感染症	1,2, 4	教科書第12章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	ウイルス感染の症状や感染経路、治療法を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
13	病原真菌と真菌感染症、寄生虫と衛生動物	1,2, 4	教科書第13章および付章に目を通す。Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	呼吸器感染を起こす病原体、結核感染やインフルエンザ感染を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
14	医療従事者としての院内感染対策・予防接種	4	Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	院内感染防止のための標準予防策や予防接種を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h
15	最近話題の感染症及びまとめ	1,2	Cラーニングで配布してあるプリントを読んでくる。	0.2 5h	コロナウイルスやジカウイルスなど最近の感染症を理解する。■Cラーニングで小テストに解答する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。

研究室：5号館3階301

単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

病理学

英文名 : Pathological basis of human diseases

科目区分 : 看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング : NRB208・B

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

半田正

科目に関連した実務経験

教育現場（大学 医学部 医学科 / 大学院 医学系研究科、医療技術学部 医療技術学科）と臨床現場（県内の病院）で臨床検査技師・細胞検査士として、病理学教育、病理組織検査、細胞検査に従事。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○									

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けては通れないものである。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である。

②講義内容はできるだけ教科書に沿う形で、自作の配布プリント及びパワーポイントを活用し、図や表を元に口頭での説明を交え詳しく説明していく。また、毎回講義の最後に練習問題を解いてもらうので、その日の講義で学んだ内容を振り返ってもらいたい。これはその日の簡単な復習も兼ねており、普段の自主学習や国試の勉強にも役立つものである。

到達目標							^
1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。■ 2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。■							
使用教材							^
系統看護講座専門基礎病理学、大橋健一ら著、医学書院、2025年版							
参考文献							^
初回授業時に提示する。							
評価方法							^
レポート試験（総論）40%＋期末試験（各論）60%の成績と出席状況等総合評価し、60点以上を可とする。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
レポート試験、期末試験後に、問題出題意図についてパワーポイントを活用し、口頭で解説する（試験問題、解答用紙は返却しない）。							
オフィスアワー							^
質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。							
メールアドレス（#→@）							^
連絡手段は初回授業時に提示する。							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	病理学概論～総論 1 染色体・遺伝子・発生の異常■	1,2	教科書の前書き、シラバス内容を読んで講義目標など理解する。また、教科書の「病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝性疾患、生活習慣と環境因子による生体の障害」の部分に目を通す。	1. 5h	病理学、病理診断学の医学、医療における意義、病気の原因（内因と外因）、染色体・遺伝子・発生の異常を理解する。	1.5 h	
2	病理学総論 2 退行性病変、進行性病変■	1,2	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、代謝障害」の部分に目を通す。	1. 5h	ヒトの細胞・組織の損傷と修復、代謝障害の種類、原因、病理学的特徴を理解する。	1.5 h	
3	病理学総論 3 循環障害■	1,2	教科書の「循環障害」の部分に目を通す。	1. 5h	循環障害の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h	
4	病理学総論 4 炎症と免疫■	1,2	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、免疫、移植と再生医療、感染症」の部分に目を通す。	1. 5h	細胞・組織の炎症と免疫、感染症の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。また、再生医療の現状と展望についても理解する。	1.5 h	
5	病理学総論 5 腫瘍■	1,2	教科書の「腫瘍」の部分に目を通す。	1. 5h	腫瘍の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h	
6	病理学各論 1 循環器系、血液・造血器系の疾患■	1,2	心・血管・骨髄の構造、機能を確認する。	1. 5h	心・血管・骨髄の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	病理学各論2 呼吸器系の疾患 ■	1,2	上部気道・肺の構造、機能を確認する。	1. 5h	上部気道・肺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
8	病理学各論3 消化器系の疾患 1（消化管）■	1,2	消化管の構造、機能を確認する。	1. 5h	消化管の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
9	病理学各論4 消化器系の疾患 2（肝・胆・膵）■	1,2	肝臓・胆嚢・膵臓の構造、機能を確認する。	1. 5h	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
10	病理学各論5 腎・泌尿器・男性生殖器の疾患 ■	1,2	腎・泌尿器・男性生殖器の構造、機能を確認する。	1. 5h	腎・泌尿器・男性生殖器の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
11	病理学各論6 女性生殖器・乳腺の疾患■	1,2	子宮・卵巣・乳腺の構造、機能を確認する。	1. 5h	婦人科・乳腺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
12	病理学各論7 内分泌系の疾患 ■	1,2	内分泌臓器の構造、機能を確認する。	1. 5h	内分泌系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
13	病理学各論8 脳・神経・筋肉系の疾患■	1,2	脳・神経・筋肉の構造、機能を確認する。	1. 5h	脳・神経・筋肉系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
14	病理学各論9 骨・関節疾患、眼・耳・皮膚の疾患■	1,2	骨・関節・眼・耳・皮膚構造、機能を確認する。	1. 5h	骨・関節・眼・耳・皮膚の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
15	病理学各論10 病理組織検査・細胞検査■	1,2	腫瘍の病理学的特徴、正常細胞と癌細胞の違いを確認する。	1. 5h	病理組織検査の意義、細胞検査の癌の早期発見における意義を理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

病理学は基礎医学と臨床医学を連携する領域であり、診療に深く関わる診断の重要な領域でもあるので、しっかり履修する必要がある。授業前には関連する解剖・生理学の復習をし、授業後には病理学、臨床医学の関連する領域を復習する。復習には臨床分野の教科書を参考にして、インターネット等も活用して関連する情報の取得して、知識を確認、更新につとめる。

- ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。
 - ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。
- （■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷



リハビリテーション概論

英文名 : Introduction to Rehabilitation

科目区分 : 看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング : NRB209・B

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

解良武士、齊田高介

科目に関連した実務経験

理学療法士として、大学病院および急性期総合病院（経験）、非常勤理学療法士として慢性期病院勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療・福祉では重要なリハビリテーションについて、その概要を知る。またチーム医療として一緒に働く理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の仕事を知る。さらにリハビリテーションの対象となる疾病の障害像について理解する。

②主に資料とビデオなどを用いて講義を行う。

到達目標

1. リハビリテーションの理念・概念が理解できる。■
2. 疾病や障害による心身機能低下をもつ対象者の障害像が理解できる。■
3. リハビリテーションを提供するセラピストの業務が理解できる。
4. リハビリテーションに関わるチーム医療について理解できる。■

使用教材

配付資料

参考文献

リハビリテーション患者の看護 第2版 (成人看護学 D) 廣川書店

評価方法

学期末試験（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義内でまとめて行う。

オフィスアワー

各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リハビリテーションの概念とリハビリテーションモデル	1,3	リハビリテーションについて調べてくる。	1.5h	リハビリテーションの概念について説明できるように復習する。	1.5h
2	障害構造の理解とADL	1,2	ICFについて調べてくる。	1.5h	リハビリテーション看護に関わる疾患の障害構造を復習する。	1.5h
3	リハビリテーションにおける各種測定法 ■	3	関節可動域について調べておく。	1.5h	基本的機能評価について復習する	1.5h
4	疾患別リハビリテーション（脳血管障害） ■	2,3,4	脳卒中について調べておく。	1.5h	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5h
5	疾患別リハビリテーション（運動器疾患） ■	2,3,4	大腿骨頸部骨折について調べておく。	1.5h	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5h
6	疾患別リハビリテーション（循環器疾患・呼吸器疾患） ■	2,3,4	虚血性心疾患、COPDについて調べておく。	1.5h	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5h
7	疾患別リハビリテーション（虚弱高齢者） ■	2,3,4	サルコペニア、フレイルについて調べておく。	1.5h	上記疾患に関するケアについて復習する	1.5h
8	まとめ	1,2,3,4	1～7回までの内容について復習する。	1.5h	学期末試験の内容について復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

■実務経験に基づく内容を示す（解良）。

印刷 

臨床医学 I（内科学・外科学）

英文名：Clinical medicine I (Internal medicine・Surgery)

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB108・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

田中聡一

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標；人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では呼吸器疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎泌尿器疾患について学ぶ。

②講義の実施方法；講義、授業内での質疑応答。

到達目標

1. 人の解剖、生理を説明できる ■
2. 疾患の概要（原因、疫学、症状、検査、治療）を説明できる ■

使用教材

参考文献

「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4-254-33008-3

評価方法

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中に問題を出題し解答を教授する。オンラインで問題を出題し解答を教授する。

オフィスアワー

月曜3-4限（4号館3階310研究室）

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	呼吸器疾患；呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	呼吸器疾患；慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	呼吸器疾患；気道系疾患、肺腫瘍 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	呼吸器疾患；肺循環疾患、換気異常 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	呼吸器疾患；呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	循環器疾患；心不全、不整脈 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	循環器疾患；虚血性心疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	循環器疾患；心筋疾患、心臓弁膜症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	循環器疾患；先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
10	循環器疾患；動脈疾患、静脈疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
11	消化管疾患；食道の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					入。	
12	消化管疾患；胃の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
13	消化管疾患；十二指腸、小腸の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
14	消化管疾患；大腸の疾患、肛門の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
15	肝胆膵疾患；急性ウイルス性肝炎、慢性ウイルス性肝炎、肝硬変、肝細胞癌 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
16	肝胆膵疾患；アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪肝炎、薬剤性肝障害、門脈圧亢進症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
17	肝胆膵疾患；胆道疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
18	肝胆膵疾患；膵疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
19	代謝性疾患；糖尿病、低血糖症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
20	代謝性疾患；肥満症、メタボリックシンドローム ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
21	代謝性疾患；脂質異常症、痛風／高尿酸血症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
22	代謝性疾患；ビタミン欠乏症・過剰症、骨粗鬆症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
23	内分泌疾患；視床下部・下垂体疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
24	内分泌疾患；甲状腺疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
25	内分泌疾患；副甲状腺疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
26	内分泌疾患；副腎疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
27	腎泌尿器疾患；慢性腎臓病 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
28	腎泌尿器疾患；腎・糸球体腎炎、続発性腎疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
29	腎泌尿器疾患；腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
30	腎泌尿器疾患；腎不全 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

合計時間（予習・復習）

22.5h

^

備考

^

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）

英文名：Clinical medicine Ⅱ (Internal medicine・Surgery)

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB210・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

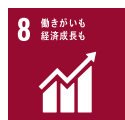
担当教員

田中聡一

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標；人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では脳神経疾患、血液疾患、膠原病アレルギー疾患、感染症について学ぶ。

②講義の実施方法；講義、授業内での質疑応答。

到達目標

1. 人の解剖、生理を説明できる ■
2. 疾患の概要（原因、疫学、症状、検査、治療）を説明できる ■

使用教材

参考文献

「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4-254-33008-3

評価方法

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中に問題を出題し解答し正解を教授する。オンラインで問題を出題し解答し正解を教授する。

オフィスアワー

月曜3-4限（4号館3階310研究室）

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	脳・神経疾患；脳血管障害	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	脳・神経疾患；神経変性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	脳・神経疾患；中枢神経の脱髄性疾患、末梢神経疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	脳・神経疾患；神経・筋接合部疾患、筋疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	脳・神経疾患；神経系の感染症、機能性疾患、神経系の腫瘍	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	血液疾患；赤血球の疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	血液疾患；白血球の疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	血液疾患；出血性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	膠原病・アレルギー疾患；膠原病	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
10	膠原病・アレルギー疾患；膠原病と同様の全身性炎症性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
11	膠原病・アレルギー疾患；膠原病に関連した疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
12	膠原病・アレルギー疾患；アレルギー性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
13	感染症；細菌性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
14	感染症；真菌性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	感染症；ウイルス性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

合計時間（予習・復習）

^

11.25h

備考

^

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床医学Ⅲ（老年医学）

英文名：Clinical medicine Ⅲ(Geriatric medicine)

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB211・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

田中聡一

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標；高齢者の解剖生理学的特徴、高齢者特有の疾患を学習する。

②講義の実施方法；講義、授業内での質疑応答。

到達目標

1. 高齢者の生体・生理を説明できる ■
2. 高齢者特有の疾患を説明できる ■

使用教材

参考文献

「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4254330083

評価方法

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中に問題を出題し解答を教授する。オンラインで問題を出題し解答を教授する。

オフィスアワー

月曜3-4限（4号館3階310研究室）

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者の定義、高齢者医療の課題と重要性 ■	1	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	老化の生理学的特徴 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	老年症候群 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	フレイル ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	認知症；アルツハイマー型認知症 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	認知症；脳血管性認知症 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	認知症；レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	精神・神経疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	運動器の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
10	皮膚の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
11	感覚器の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
12	歯・口腔の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
13	高齢者と薬 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
14	高齢者のリハビリテーション ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

合計時間（予習・復習）

↑

11.25h

備考

↑

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床医学Ⅳ（小児医学）

英文名：Clinical Medicine Ⅳ (Pediatric medicine)

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB212・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

鈴木隆

科目に関連した実務経験

1981年より小児科常勤医として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子どもの疾病についての医学的知識の習得を目的とし、病因・病態・診断・検査・治療等について理解する。
資料を配布し、パワーポイントによる解説を行う。

到達目標

1. 小児に特有な疾患と病態を理解する。
2. 診断に必要な所見・検査を理解する。
3. 主な治療法について理解する。
4. 健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ。

使用教材							^
小児臨床看護各論 医学書院 写真・図・表を中心に資料として講義中に使用する							
評価方法							^
レポート30% 期末試験70%							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
レポートにコメントをつけて返却する							
オフィスアワー							^
質問、学習相談は講義終了後に応じる							
メールアドレス（#→@）							^
suzuki383#harunacoop.or.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	人はなぜ病気になるのか、子どもの体と病気の全体像、染色体異常：ダウン症候群■	1,2,4	進化医学、子どもとメディアについて調べておく。教科書第1章を読んでおく	2h	講義資料の重要項目をまとめておく	1h	
2	先天性代謝異常・内分泌疾患：糖尿病■、下垂体疾患■、甲状腺疾患■	1,2,3,4	教科書第3章、第4章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
3	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ性疾患■：食物アレルギー■、喘息■、免疫不全■、若年性特発性関節炎■	1,2,3,4	教科書第5章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
4	感染症 1 ウイルス感染症：インフルエンザ■、ムンプス■、水痘■、風疹■、麻疹■、ヘルペス属ウイルス■	1,2,3,4	教科書第6章のB②まで読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
5	感染症 2 細菌感染症：肺炎球菌■、ヒブ■、溶連菌■、ブドウ球菌■	1,2,3,4	教科書第6章のB③以降を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
6	呼吸器疾患：喉頭炎■、気管支炎■、肺炎■	1,2,3,4	教科書第7章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
7	循環器疾患：先天性心疾患■、不整脈■、心筋疾患■、学校心臓健診■、	1,2,3,4	教科書第8章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
8	消化器疾患：先天異常、胃腸炎■、肝炎■、腸重積■、虫垂炎■、炎症性腸疾患■	1,2,3,4	教科書第9章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	
9	川崎病の歴史、疫学、症状、合併症、検査、治療についてのレポート発表会■	1,2,3,4	教科書第8章B③を読んでおく	1h	配布された発表レポートを読んでまとめておく	2h	
10	血液疾患・悪性新生物：貧血■、出血性疾患■、白血病■、脳腫瘍■、胎児性腫瘍	1,2,3,4	教科書第10章、11章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	腎泌尿器疾患・皮膚疾患：尿路奇形、腎炎■、ネフローゼ■、母斑■、湿疹■	1,2,3,4	教科書第12章、15章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
12	新生児期の疾患・神経疾患：低出生体重児■、新生児黄疸■、てんかん■、脳性マヒ■、脳炎	1,2,3,4	教科書第2章、第13章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
13	耳鼻咽喉疾患・眼疾患・精神疾患：中耳炎■、副鼻腔炎■、斜視■、結膜炎■、発達障害■、PTSD	1,2,3,4	教科書第16章、17章、18章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
14	運動器疾患・事故：先天性股関節脱臼、窒息、交通事故、頭部外傷■、誤飲■、熱中症■	1,2,3,4	教科書第14章、19章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	1～14回の講義の重要項目をまとめておく	3h		0h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



授業はパワーポイントで説明しながら適時学生に質問する。重要項目、内容を補完する図表などは教員の作製する資料を配布する。教科書は診断基準・管理基準の参考及び、図や写真で疾患の理解を深めるために使用する。

予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること

毎回の講義では講師の臨床経験を踏まえて実際の症例をなるべく紹介する ■

オンライン授業の場合は毎回講義の後に小テストを行い提出をもって出席の確認を行う。評価は期末試験に替えて2回目のレポートを追加して行う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床医学Ⅴ（女性医学）

英文名：Clinical Medicine Ⅴ (Women Medicine)

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB213・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

竹中恒久

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

周産期にある経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。■

また女性性器に起こる疾患についても理解する。■

②講義の実施方法

パワーポイントを使い、教科書に沿って授業を進める。

到達目標

1.妊娠、分娩、産褥の生理を理解する。■

2.妊娠、分娩、産褥の病理を理解する。■

- 3.出生前診断、不妊症を理解する。■
- 4.女性生殖器官の解剖・生理・病態生理を理解する。■
- 5.女性生殖器官の診察・検査と治療・処置を理解する。■
- 6.女性生殖器官の疾患を理解する。■

使用教材

^

母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
成人看護学〔9〕女性生殖器官 医学書院

評価方法

^

筆記試験100%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

試験の問題文の最後に、その問題に該当するプリントあるいは教科書のページを記載し、試験後の学習をやりやすくする。

オフィスアワー

^

必要に応じて対応する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	妊娠の生理① 妊娠の成立、胎児の発育と生理 ■	1	教科書2冊のはしがきを読んでおいてください。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
2	妊娠の生理② 妊婦と胎児のアセスメント ■	1	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
3	分娩の生理① 分娩の要素 ■	1	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
4	分娩の生理②産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化 ■	1	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
5	妊娠の異常① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
6	妊娠の異常② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
7	分娩の異常① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
8	分娩の異常② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
9	分娩の異常③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
10	産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断治療 ■	3	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
12	女性生殖器の構造と疾患① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理 ■	4	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
13	女性生殖器の構造と疾患② 診察・検査と治療・処置 ■	5	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
14	女性生殖器の構造と疾患③ 疾患の理解① ■	6	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
15	女性生殖器の構造と疾患④ 疾患の理解② ■	6	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



教科書、配布プリント、パワーポイントを用いて、聴覚と視覚から理解してもらうよう授業を進める。

- ・予習・復習の不足時間分については試験前後の学習で補完すること。
- ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。また、出席票による質問も受け付ける。

オンライン講義となった場合の対応

- ・講義方法：講義内容の動画視聴による
 - ・評価方法：期末に実施するc-learning上のオンライン試験による
 - ・出席確認：c-learningのアンケート機能を用いた出欠確認フォームへの記入の有無による
 - ・フィードバック：出欠確認フォームに記述のあった質問に、後日回答をc-learning上で行う
- 実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床医学VI（精神医学）

英文名：Clinical Medicine VI (Psychiatry)

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB214・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

上原 徹

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各回で国家試験形式の小テストを開示し、正解を教示する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が、医療専門職である看護師・保健師・理学療法士として必要となる、精神医学や精神医療に関する基本的な知識（成因、症状、診断、治療、経過、支援、動向）を身につけることができる。精神医療機関と治療構造について習得し、チーム医療の視点を生かした援助方法を理解できる。精神保健・医療福祉における関連機関の連繋と、看護師・保健師・理学療法士の役割を身につける。

②授業は、専門業者によるDVD視聴とポイント解説、パワーポイントファイル上映による解説、のハイブリッドで進める。

授業の最後に理解度確認のためのC-Learningによる小テストを行う。休講や実習スケジュールにあわせた開講期間の調整等による補講実施に関しては、オンデマンド動画ファイルで代替える。

到達目標

^

- 1.精神機能や心理社会的問題の概要を説明できる
- 2.代表的な疾患や障害の基本的概要を理解し解説できる
- 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる
- 4.精神医療における治療や支援の知識を解説できる
- 5.チーム医療の担う専門職の役割と多職種連携を理解できる ■

使用教材

^

教科書は特に指定しない。DVD教材を視聴する。

参考文献

^

参考書としては、専門医がやさしく語る はじめての精神医学、中山書店、渡辺著、改訂第2版 / PT/OT基礎から学ぶ精神医学ノート第2版、医歯薬出版、中島ら著 などがある。

評価方法

^

期末筆記試験90%、C-Learningによる小テスト提出10%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、国家試験問題等の解説を行う。

オフィスアワー

^

月3 金3 研究室:1号館5階501

メールアドレス（#→@）

^

授業で提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神医学や精神医療のイントロダクション（総論、歴史、診断分類、検査、動向）	1,2	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	0.5h	資料を用いて自習する。	2.5h
2	統合失調症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
3	双極症（躁うつ病）	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
4	うつ病	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
5	不安症・強迫症など	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
6	摂食症特論	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
7	PTSDやストレスに関連する疾病	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	アルコールや物質依存症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
9	睡眠障害	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
10	認知症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
11	小児期の精神疾患	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
12	外因性・器質性・症状性疾患など	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
13	精神科の治療法や支援①	3,4	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
14	精神科の治療法や支援②■	3,4,5	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
15	リハビリテーションと家族心理教育■	1,2,3,4,5	資料を用いて自習する。	2h	試験問題を復習する。	1h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



予習・復習に活用できる映像教材やPDFなどを随時公開する。予習復習に関しては、試験前後の学習などで補完すること。
 不必要な私語や不適切な授業態度は、厳格に対処し、個別に減点する
 ■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



[HOME](#) > 心の健康

心の健康

英文名：Mental Health

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB110・A

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

酒井美子

科目に関連した実務経験

看護師として精神科病棟での勤務経験がある。臨床発達心理士、カウンセラーとしてのカウンセリングの経験がある。

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

こころの健康の捉え方や特徴、健康に関する基礎的な知識を得てこころの健康をどのように保つかを学習する。

②講義の実施方法

本科目は、精神看護学を担当する教員が実施する。教員が作成した資料、パワーポイント、視覚教材を用いて学習者の理解を図りながら授業を展開する。

到達目標



1. こころの健康に関する基礎的な理論を理解する。
2. こころの健康に影響する要因とこころの健康の必要性を理解する。
3. 自分、誰かのこころの健康を保つ方法を説明できる。

使用教材



配布資料、適宜紹介する

参考文献



伊藤絵美著：ケアする人も楽になる認知行動療法入門、医学書院

ミリアム・アクタル著 大野裕(監訳)、山本真理子(訳) : うつを克服するためのポジティブサイコロジー、創元社

評価方法



筆記試験80%、授業参加度20%で算出し、60点以上を合格とする。

オフィスアワー



金曜日：12：00-14：00

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション / こころの健康とは	1,2	こころの健康について関心のあるトピックスについて調べる。	1h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
2	こころの健康を保つ必要性	1,2	こころの健康はなぜ必要なのかについて調べる。	1.5h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
3	こころ健康に影響する要因	1,2	こころの健康に影響する要因は何か調べる	1.5h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
4	ストレスとストレッサー	1,2,3	ストレスと対処方法について、調べる。	1.5h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
5	青年期特有のこころの問題と課題	1,2,3	青年期である自身のこころの状況を客観的に捉える。	1.5h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
6	こころとの付き合い方1.感情と思考	1,2,3	自身の感情の変化とストレスの関係を捉えて簡潔にまとめる。	1.5h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
7	こころとの付き合い方2.認知行動療法	1,2,3	認知行動療法について調べる。	1.5h	配布された資料に目を通し、重要なキーワードと内容を復習する。	1h
8	こころとの関わり方 誰かのこころの健康のために出来ること	1,2,3	こころが健康であるために自他に来ることはなにかを考える。	1.5h	筆記試験のため第1～8回の重要なキーワードと内容を復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



20 h

備考



- ・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
- ・なお、他学科の学生が本講義を受講する場合は、単位認定時の評価は「認定（N）」となる。
- ・また、GPA算出、卒業必要単位の対象外となる。履修登録時の履修上限制度（CAP）のカウントには含めない。
- ・養護教諭一種免許取得を希望する場合、卒業要件選択科目となっているため、履修する必要がある。
- ・メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。
- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 

リラクゼーション概論

英文名：Introduction to Relaxation

科目区分：看護基盤科目群・健康

科目ナンバリング：NRB11 1・A

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小野寺由美子

科目に関連した実務経験

・博士（スポーツ健康科学）として、心と身体のリラクゼーション指導および講演活動（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

心身の健康の維持・増進のための方法のひとつであるリラクゼーションについて、講義と実技を通して学ぶ。ストレスによって生じた「筋肉の緊張」をほぐしリラクゼーションを体験することで、身体と精神の関係を理解する。また、自己洞察力を深めて感受性を高めることで、将来看護する立場となった時、他者との人間関係の形成に役立てることをねらいとする。

到達目標

1. ストレスと身体症状の関係について理解できる ■
2. 心と身体の関係について理解できる ■
3. 身体の緊張のほぐし方について理解できる ■
4. 身体への関わり方と他者との関係について理解できる ■

使用教材

講義のスライドを随時プリントして配付する。

参考文献

講義内で、随時、紹介する。

評価方法

セルフチェック課題（4回）20%、レポート（1回）80%で評価する。

総合評価60/100点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

セルフチェック課題の実施後に、質疑応答によって理解を深める。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3,4	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	2h
2	ストレスと身体症状■	1	自分のストレスと身体症状との関連を考える	1.5h	ストレスとは何か、ストレスと身体症状との関連について理解する	1.5h
3	心と身体の関係■	2	これまでの自分の体験を通して、心と身体の関係について考える	1.5h	心と身体の関係について理解する	1.5h
4	リラクセーションの種類と効果■	2,3	リラクセーションの種類とリラクセーション反応について調べる	1.5h	自分のリラクセーション法を考える	1.5h
5	身体の緊張のほぐし方■	3	自分が緊張した時の状態について考える	1.5h	身体の緊張をほぐしてみる	1.5h
6	身体への関わり方と他者との関係■	4	他者に触れる際の留意点を考える	1.5h	身体への関わり方と他者との関係について理解する	1.5h
7	リラクセーション技法の習得①■	2,3,4	骨格の繋がりについて調べる	1.5h	自分のできるリラクセーションを実践する	1.5h
8	リラクセーション技法の習得②■	2,3,4	呼吸法について調べる	1h	家族、友人などへのリラクセーションを実践する	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義と合わせ、体育館でリラクセーションの体験学習を実施する。

体育館での授業は、ヨガマットやバスタオルなどの敷物を準備すること。

予習・復習については、セルフチェック課題やレポートの学習で各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

看護学概論

英文名 : Introduction to Nursing

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野 I ・基礎看護学

科目ナンバリング : NRS110・A

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

鶴田晴美

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護学の基盤となる主な概念（人間・環境・健康・看護）について学び、看護の対象となる生活者としての人間について理解するとともに、看護専門職としての役割・機能について理解する。また、看護理論の学修をとおして、看護を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養うことを目標とする。

②自分で考え、創造していく力を養うため、学生間の話し合いと発表する機会を多く設定する。

到達目標

1. 看護の成り立ちと歴史的発展を学修することをとおして、主要概念の人間・環境・健康・看護について述べるができる。■
2. 人間のこころとからだや暮らしを学修することをとおして、看護の対象について述べるができる。■

- 3.看護の機能と看護職の役割について述べるができる。■
- 4.専門職の定義について学び、看護専門職としての基本的な態度について述べるができる。■
- 5.看護実践のための理論の学修をととして、看護について考察することができる。
- 6.自分の考える看護について述べるができる。

使用教材

教材：配布資料

使用教科書

- ・看護学概論 茂野香おる他、医学書院 2022年
- ・看護覚え書・F・ナイチンゲール、湯模ます、薄井坦子訳、現代社 2019年
- ・看護の基本となるもの、ヴァージニア・ヘンダーソン、湯模ます、小玉香津子訳 日本看護協会出版会
- ・日本看護研究学会の研究論文から看護者と患者の関係構築や寄り添う看護などに関する最新の知見について紹介する。

参考文献

- ・看護の原理、菱沼典子、井上智子、武田利明編、ライフサポート社、2009年

評価方法

1.対面授業の場合：課題提出45%、筆記試験（小テスト含む）40%、最終レポート15%

2.オンライン授業の場合：課題提出60%、筆記試験40%

＊総合的に評価し、60点以上を合格とする。

評価は、授業の出席が3分の2以上を満たしている者に行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・授業前課題を提示し、講義内で解説をする形でフィードバックする。
- ・事後課題は、全体に必要となるフィードバックを授業内で行う。
- ・C-learning上の小テストを実施する。小テストについては、実施後解説する。

オフィスアワー

水曜日・木曜日 5 時限

（5号館2階：鶴田205研究室）

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 私の考える看護とは(グループワーク)	6	シラバスの内容を読み、講義目標および到達目標を理解する。	1.5h	グループワーク後、現時点で考えている看護に対する考えをまとめる。	1.5h
2	私の考える看護について発表 看護の歴史的変遷	6	テキストや資料により看護の歴史の概要についてまとめる。	1.5h	看護の歴史で興味・関心を持ったことをまとめる。	1.5h
3	看護活動を展開するための法的根拠、看護の定義、地域基盤の看護と看護の継続性	1	看護はどのような特性を持っているのかについて調べ、考えをまとめる。	1.5h	講義の内容を振り返り、看護の目的と機能について考えをまとめる。	1.5h
4	看護の対象の理解 人間の「こころ」とからだ、生涯発達し続ける存在■	1,2	自分の一生について図示し、人間の一生についてイメージ化を図る。	1.5h	講義内容を振り返り、新しい発見があったことをまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	看護の対象の理解 生活者としての人間 ■	1,2	人間の生活活動について振り返り、生活するということはどういうことかを考えまとめる。	1.5 h	授業を振り返り、看護の対象は生活者であるという視点で考えをまとめる。	1.5 h
6	看護における健康の概念 国民の健康・生活の全体像 小テスト（第1回）	1,2	Textを読み、国民の健康・生活の特徴について、理解したことをまとめる。	1.5 h	講義内容を振り返り、健康の概念と日本の健康・生活の全体像をまとめる。	1.5 h
7	看護の提供の場としくみ ■	3	看護者が働いている場所について調べ、まとめる。	1.5 h	講義内容を振り返り、看護が行われる場について、まとめる。	1.5 h
8	看護の専門性の探究 ■ 看護の専門職性、専門領域の確立と展望	4	専門職とはどういうことをいうのか調べ、まとめる。	1.5 h	講義内容を振り返り、専門職を目指す自己の考えをまとめる。	1.5 h
9	看護実践のための理論：ナイチンゲール 小テスト（第2回）	5	ナイチンゲール看護覚え書の指定ページを読み、要約を作成する。	1.5 h	講義内容と意見交換を振り返り、印象に残った事柄をまとめる。	1.5 h
10	看護実践のための理論：ナイチンゲール	5	ナイチンゲール看護覚え書の指定ページを読み、要約を作成する。	1.5 h	ナイチンゲール看護覚え書から、看護について考察する。	1.5 h
11	看護実践のための理論：ヘンダーソン	5	看護の基本となるものの指定されたページを読み、要約を作成する。	1.5 h	講義内容と意見交換を振り返り、印象に残った事柄をまとめる。	1.5 h
12	看護実践のための理論：ヘンダーソン	5	看護の基本となるものの指定されたページを読み、要約を作成する。	1.5 h	ヘンダーソンの看護の基本となるものから、看護について考察する。	1.5 h
13	病者の理解 ■ 文献購読 ゲストスピーカー	1,2, 3,4, 5	看護の実際の資料を読み、看護者と患者の相互作用について考える。	1.5 h	講義内容を振り返り、印象に残った内容をまとめる。	1.5 h
14	私たちの考える看護 グループワーク	1,2, 3,4, 5,6	これまでの授業を振り返り、私の考える看護についてまとめる。	1.5 h	グループでの意見交換により考えたことをまとめる。	1.5 h
15	私たちの考える看護（発表）	1,2, 3,4, 5,6	グループメンバーと協力し、発表資料をまとめる。	1.5 h	他のグループの発表を聴いての学びをまとめる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

対面授業での出席の登録・確認

・出席の登録は、1) C-learningに授業開始時行う。2) 授業終了時のアンケートを提出する。1) 2) で確認する。

オンライン授業での出席の登録・確認

・出席の登録は、C-learning の下記1) ～2) のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。

1) 「アンケート」の提出。2) 課題を提出する

単位修得に必要な時間を満たしていない場合

・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■実務経験に基づく内容を示す。

コミュニケーション演習

英文名 : Communication Exercises

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野 I ・基礎看護学

科目ナンバリング : NRS111・A

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子・安野朝子

科目に関連した実務経験

看護師として一般病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. 人間関係の前提となるコミュニケーションの効果的な方法について、体験学習を通して様々な気づきを得るなかで、スキル学習に磨きをかけ習得できることを目標とする。
2. 講義は最初に概要を説明し、大半はDVDを使った演習や事例を基にした2人組、3人組の演習を取り入れ、コミュニケーションスキルの習得ができるように構成している

到達目標

1. コミュニケーションの前提としての、自己理解と他者理解を深める■
2. コミュニケーションの基本的スキルを用いて、コミュニケーションを体験する■

3. プロセスレコードの書き方・読み方を説明する ■
4. 患者とのコミュニケーションに活かせるコミュニケーションの方法についての考えを述べる

使用教材 ↑

教材は使用せず、必要時参考文献などを印刷して配布する

参考文献 ↑

「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」 前原澄子編 金鳳堂
「人間関係づくりトレーニング」 津村俊充・山口真人編 金子書房

評価方法 ↑

1. 毎回の感想レポートの提出と授業・演習への参加度で40点。
2. 学んだスキル会話場面に関する考察レポートの提出で60点とし、計100点として評価します。
(対面授業でもオンライン事業でも同様の評価とします)

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

毎回、講義・演習の感想や質問をC-Learning上で行い、次の授業でコメントや質問への解説を行う
理解できたか学生に確認し、新たな課題や質問が出された場合、その都度回答する

オフィスアワー ↑

小池：火・木曜3限、5号館207研究室
安野：火曜日3・4限、5号館208研究室

メールアドレス（#→@） ↑

小池：koike-y#takasaki-u.ac.jp
安野：yasuno#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 自己理解 who am I 自己の性格行動特性 ■	1	コミュニケーションを学ぶ意義や必要性について本や文献で調べておく	0.2 5h	自分の性格行動特性の結果について整理し、理解を深める	0.5 h
2	自己概念とジョハリの窓 「自己イメージ 他者イメージ」 ■	1	自己概念とジョハリの窓について本などで調べておく	0.2 5h	他者からのフィードバックによる自己イメージの変化について整理する	0.2 5h
3	コミュニケーションとは ■	1,2	コミュニケーションとは何かについてインターネットなどで調べる	0.2 5h	DVD「コミュニケーションの基本」で学べたスキルと自己の課題を整理する	0.5 h
4	コミュニケーションの基本 「聞く・話す」 ■	1,2	基本である聞く・話すについて自分が陥りやすい傾向について考えてくる	0.2 5h	話す・聞く役割のロールプレイをして、自分の課題を考え整理する	0.5 h
5	2種類のコミュニケーション 「言語と非言語」 ■	1,2,4	コミュニケーションの構成要素と種類について調べておく	0.2 5h	DVDと演習を基に気づいたことを整理する	0.5 h
6	グループでの非言語コミュニケーションの演習 「協力ゲーム」	1,2,4	非言語のコミュニケーションの効果について整理しておく	0.2 5h	言葉を使わないで一つのものを作り、協力し合うためには何が必要か整理する	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	グループ活動における感情を分かち合う ■	1,2	非言語のコミュニケーションでどのような感情が起きていたのか整理しておく	0.2 5h	グループプロセスの中で起きた感情の変化とその意味について整理する	0.5 h
8	納得できるまで聞き、伝える 「クルーザー物語」の演習	1,2	自分自身の大切にしているものや自分の価値観について整理しておく	0.2 5h	価値観が違う対象の話を聞き、自分の考えを吟味できるプロセスを振り返る、	0.5 h
9	伝え合う・分かち合うグループでのコミュニケーション	1,2	GWを通して、それぞれの考えや思いをどこまでわかったか、考える	0.2 5h	考えや気持ちを分かち合い、人間関係がどのように変化したか整理する	0.5 h
10	プロセスレコードの書き方・読み方	1,2,3	プロセスレコードとは何か調べておく	0.2 5h	プロセスレコード課題を作成する	0.5 h
11	人間関係で困った場面 ■	1,2,3	人間関係で困った場面のプロセスレコードを書く。	0.2 5h	なぜ、困った場面が生じたかを考え整理する。	0.2 5h
12	アサーティブ・コミュニケーション	1,2,3,4	困った場面を回避するためのコミュニケーションを考えておく。	0.2 5h	アサーティブトレーニングを実施し、何が難しかったのか整理する。	0.5 h
13	コミュニケーションを向上するためのスキル「質問する」「伝える」 ■	1,2,4	相手に聞くとき、伝える時、わかりやすく伝える方法について考えてくる。	0.2 5h	DVDで学べたスキルと自己の課題を整理する患者達の話を読み、どのようなコミュニケーションの姿勢が必要か整理する	0.5 h
14	対象者とのコミュニケーション体験	1,4	事前に対象者の情報を確認しておく。	0.2 5h	体験についてプロセスレコードを作成し、考察する	0.5 h
15	まとめ	1,2,3,4	今まで学習した授業内容について整理しておく	0.2 5h	実施した課題について、納得いくまで整理しておく	0.5 h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



- 単位修得に必要な時間を満たしていない場合 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 - 履修条件：この科目は、大学での学び方を学習するため、入学初年度に履修する。
 - ルール
 - 自分で調べる課題やグループワークを行う際は、主体的に参加する。
 - 出席確認は対面授業・オンライン授業どちらもC-Learningの出席登録および課題提出などにより行う。
 - 毎回、授業後課題をC-Learningにより期限内に提出する。内容は最終評価に影響する。
 - オンライン授業時の変更点
 - 講義に関しては教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。
 - グループワークはZOOM機能を用いて行う。
 - 授業時間内はZOOM機能を使い積極的に質問する。授業時間以外ではC-Learningの相談機能を使い質問に応じる。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



フィジカルアセスメント

英文名：Physical Assessment

科目区分：看護専門科目群・専門分野 I ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS112・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

廣井寿美、鶴田晴美、桐山勝枝、西林京子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

演習を挟みながら講義を行う。各ベッドに補助教員が配置し、その場でフィードバックを行う。

演習記録に対してコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

対象の身体的な健康状態を観察・評価することをフィジカルアセスメントという。これは、問診に加え身体各部や器官系統ごとに、視診・触診・打診・聴診の4つの技術を用いて実施する。この講義は看護専門職として対象の看護を展開する場合に必要なフィジカルアセスメントに関する基礎的知識を理解し、説明できるようにする。さらに、身体的な健康状態を実際に観察・評価（正常か否か）できるようにする。

到達目標

^

1. フィジカルアセスメントの看護上の意義が説明できる。■
2. フィジカルアセスメントについて、基礎的な知識を説明できる。■
3. 主要なフィジカルイグザミネーションを手順に沿って実施することができる。■
4. 主要なフィジカルイグザミネーションを体験し、基礎的な観察と正常か否かの判断を述べる
ことができる。■

使用教材

^

- ・写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント…アドバンス…、森田美奈子監修、インターメディカ、ISBN ; 978-4-89996-408-7、2020年
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 第19版、茂野香おる、医学書院、ISBN ; 978-4-260-04992-4、2023年
- ・日本看護科学学会、日本看護研究学会等よりフィジカルアセスメントに関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

- ・教科書「ナースング・グラフィカ①解剖生理学」（MCメディカ出版）ISBN978-4-8404-7831-1
- ・授業の中で適宜紹介する。

評価方法

^

- ①対面授業の場合：筆記試験（60％）、演習課題（30％）、授業への参加態度（10％）による総合評価とし、60点以上を合格とする。
- ②オンライン授業の場合：小テスト（30％）、課題提出状況（30％）、オンライン期末課題（40％）による総合評価とし、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題については授業の中でフィードバックする。

オフィスアワー

^

火曜日・木曜日の5限
5号館2階 204研究室

メールアドレス（#→@）

^

hiro-i-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、フィジカルアセスメントに共通する技術 演習：視診・触診・打診・聴診の技術	1,2,3,4	教科書p14～27を読み、該当ページのQRコードから動画を視聴する。	0.5h	教科書p14～27を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25h
2	筋・骨格系のアセスメント 演習：関節可動域測定・徒手筋力テスト■	1,2,3,4	解剖生理学で学習した全身の骨格・筋の構造と機能を確認する。	0.5h	教科書p144～153を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25h
3	運動機能のアセスメント 演習：ロンベルグ徴候、バレー徴候、指鼻試験等■	1,2,3,4	解剖生理学で学習した運動機能の働きを確認する。	0.5h	教科書p141～143、154～157を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25h
4	バイタルサイン（1） 演習：一般状態の観察、体温測定■	1,2,3,4	教科書p30～37を読み、体温のしくみについての既習学習を確認する。	0.5h	教科書p30～37を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	バイタルサイン（２） 演習：呼吸・脈拍・酸素飽和度の測定 ■	1,2, 3,4	教科書p38～44を読み、呼吸・脈拍のしくみについて既習学習を確認する。	0.5 h	教科書p38～44を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
6	バイタルサイン（３） 演習：血圧の測定 ■	1,2, 3,4	教科書p45～53を読み、血圧の調整機能についての既習学習を確認する。	0.5 h	教科書p45～53を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
7	バイタルサイン（４） 演習：血圧の測定 ■	1,2, 3,4	前回の講義内容をもとに、血圧測定の手順を確認する。	0.5 h	教科書p45～53を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
8	バイタルサイン（５） 演習：血圧の測定 ■	1,2, 3,4	前回の演習内容をもとに、自分の血圧測定の課題を確認する。	0.5 h	明らかになった自己課題をもとに技術の自己練習を行う。	0.2 5h
9	皮膚・爪・口腔のアセスメント 演習：皮膚・爪の観察、頸部の視診・触診 ■	1,2, 3,4	解剖生理学で学習した皮膚・爪・口腔の構造と機能を確認する。	0.5 h	教科書p164～172を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
10	フィジカルイグザミネーションの技術確認	2,3	講義で実施したバイタルサイン測定技術を繰り返し練習する。	0.5 h	演習で行った技術を振り返り、課題を見出し上達に向けて練習する。	0.2 5h
11	フィジカルイグザミネーションの技術確認	2,3	前回の演習を振り返り、見出した課題をもとに練習する。	0.5 h	演習で行った技術を振り返り、課題を見出し上達に向けて練習する。	0.2 5h
12	呼吸器系のアセスメント 演習：胸郭の視診・触診、呼吸音聴診 ■	1,2, 3,4	解剖生理学で学習した胸郭・肺・気管支の構造と機能を確認する。	0.5 h	教科書p95～103を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
13	消化器系のアセスメント 演習：腹部の触診・腸蠕動音の聴診 ■	1,2, 3,4	解剖生理学で学習した腹部の構造と機能を確認する。	0.5 h	教科書p59～81を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
14	循環器系のアセスメント 演習：主な動脈の触知、心音の聴診 ■	1,2, 3,4	解剖生理学で学習した心臓の構造と機能を確認する。	0.5 h	教科書p54～55、108～121、158～161を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h
15	脳神経のアセスメント 演習：意識レベルの評価、対光反射、聴覚検査、膝蓋腱反射等 ■	1,2, 3,4	解剖生理学で学習した脳・神経系の構造と機能を確認する。	0.5 h	教科書p54～55、108～121、158～161を読み、動画を視聴し、講義内容を復習する。	0.2 5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

1. 授業の進め方：

- ①授業は教科書と教員作成の資料およびパワーポイントによる説明を行う。
- ②演習では、教員によるデモンストレーションや動画を提示する。
- ③演習は、グループワーク形式を用いる。看護師役や対象者役の体験を通し、意見を交換しながら学びを深める。
- ④記載した予習・復習時間を各自で学習して講義に臨むこと。

2. オンライン授業での出席の登録・確認

- ・出席の登録は、C-learning の下記①～③のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。

- ①「小テスト」で設問へ解答する。
 - ②「レポート」の課題を提出する。
 - ③「アンケート」の提出。
- 実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

看護技術論

英文名：Fundamental Nursing Skills

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS113・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

鶴田晴美、廣井寿美、桐山勝枝、西林京子、磯村直恵

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

演習記録に対してコメントを付して返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護技術の概念および看護職の実践を支える看護技術の特徴について学ぶ。また、共通する基本的な技術となる医療安全、感染予防、ボディメカニクス、看護における観察と記録について学修し、日常生活援助技術や治療・症状緩和技術、看護学方法論の基礎とする。

②講義および演習により、感染予防、ボディメカニクス技術を根拠に基づいて実施する。

到達目標

- 1.看護技術の定義について学び、看護技術とは何かを述べることができる。■
- 2.看護技術の特徴や看護技術の構成要素について述べることができる。■
- 3.感染予防の知識に基づいた標準予防策（手指衛生など）について実施することができる。■
- 4.ボディメカニクスの技術に基づき、体位変換・車椅子移乗・ポジショニングについて、対象の安全・安楽・自立を考慮しながら実施することができる。■
- 5.観察と看護記録について学修し、看護実践における観察や記録の必要性を考察できる。■

使用教材

^

茂野香おる編集：基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学① 医学書院
茂野香おる編集：基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② 医学書院
日本看護技術学会の研究論文から看護技術の効果に関する最新の知見について紹介する。

参考文献

^

授業の中で適宜紹介する

評価方法

^

- 1.対面授業の場合：筆記試験（60％） 課題提出（20％） 小テスト（20％）
総合評価60％以上を合格とする。
- 2.オンラインの場合：小テスト（30％）、課題提出（20％）、オンライン期末課題（50％）
総合評価60％以上を合格とする。
- * 評価は3分の2以上の出席を満たしている者に行う。
- * 20分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。また、20分以内の遅刻を3回した場合は1回の欠席とする

課題・評価に対するフィードバック方法

^

講義・演習で作成した課題レポートは、担当教員からのコメントを付して返却する。（オンライン時も同様）

オフィスアワー

^

火曜日・木曜日5限
（5号館2階：鶴田205研究室）
質問・学習相談は授業時間後に応じる

メールアドレス（#→@）

^

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術の構成要素	1,2	シラバスの内容を読み、講義内容および到達目標を確認してくる。	1.5h	到達目標、講義内容、看護技術の学修方法、成績評価方法などを理解する。	1.5h
2	医療安全の確保 ■ 看護技術と医療安全 チーム医療に必要なコミュニケーション	1,2	過去の医療事故について調べ、まとめる。	1.5h	講義内容を復習し、医療安全の必要性について考えたことをまとめる。	1.5h
3	感染予防の技術 ■ 感染と感染症 感染成立の条件 感染予防	3	看護者および医療従事者が感染予防を行う必要性について調べ、まとめる。	1.5h	講義内容を復習し、感染予防の要点をまとめる。 小テスト（第1回）	1.5h
4	感染予防の技術（演習） ■ 実習室オリエンテーション	3	演習資料を精読する。	1.5h	演習の振り返りを行う。 課題に取り組み指定日に提出する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	個人防護具（手指衛生・マスク・エプロン装着方法）					
5	活動休息援助技術 ■ 良い姿勢 ボディメカニクスの技術 体位、体位変換	4	どのような体位があるのか、どのような特徴があるのかをまとめる。	1.5 h	講義の復習を行い、基礎的な知識について確認する。 小テスト	1.5 h
6	活動休息援助（演習） ■ 体位、体位変換 ポジショニング（仰臥位、側臥位） 車椅子移乗	4	演習資料を精読する。また、テキストのQRコードを視聴し、事前に実施方法をイメージしてやる。	1.5 h	演習の振り返りを行う。 振り返りに基づき、自己練習を行う。	1.5 h
7	活動休息援助技術（演習） ■ 体位、体位変換 ポジショニング（仰臥位、側臥位） 車椅子移乗	4	前回の授業内容を読み込む。	1.5 h	演習の振り返りを行う。 自己練習課題に取り組み指定日に提出する。	1.5 h
8	観察と看護記録 ■ 観察とは 看護記録とは 記載・管理における留意点 看護過程の構成要素	5	看護における観察について、資料を読みまとめる。	1.5 h	看護実践、看護学実習における看護記録の必要性についてまとめる。 小テスト（第2回）	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
 - ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること
 - ・記載した予習・復習に臨んで受講すること
 - ・看護技術の演習内容は、個人またはグループで協力して自己練習すること
 - オンライン授業での出席の登録および確認
 - ・出席の登録は、C-learning の下記1)～3)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること
 - 1)「小テスト」で設問へ解答する
 - 2)「レポート」の課題を提出する
 - 3)「アンケート」の提出
- 実務経験に基づく内容

印刷 

日常生活援助技術

英文名：Nursing Skills For Assisting Daily Living

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS114・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

桐山勝枝、鶴田晴美、廣井寿美、西林京子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

演習記録に対してコメントを付し返却する。

各ベッドに補助教員が配置し、その場でフィードバックを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護技術の基本と根拠を理解し、安全、安楽な日常生活援助の方法を考え実施できる。

②事前課題に取り組み、講義の後に演習を行う。復習時間に演習の補完をする。

到達目標

- 1.看護技術における安全、安楽、コミュニケーション、エビデンスの重要性が理解できる。■
- 2.日常生活援助技術の基本を理解できる。■
- 3.事例の状況に合わせた日常生活援助の方法を考え実施することができる。■
- 4.看護者としての倫理的態度を身につける。■

使用教材

^

- ・配布資料
- ・仁和其他：基礎看護技術Ⅱ（第18版），医学書院
- ・日本看護技術学会の日常生活援助技術に関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

- ・茂野香おる他：基礎看護技術Ⅰ（第19版），医学書院

評価方法

^

筆記試験（60％）、看護技術チェック(30%)、授業への参加態度（10％）による総合評価
ただし、筆記と実技とも60%以上を合格とする。
＊20分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。20分以内の遅刻を3回した場合は1回の欠席とする。
＊看護技術チェックにおいては、合格点に達しない場合は、再評価を受ける。
＊オンライン授業のみになった場合：小テスト(30%)、課題提出状況（10％）、オンライン期末課題（60％）に変更する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

講義・演習で作成したレポート等は、担当教員からのコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

桐山
水曜日：2限～4限
木曜日：5限
（5号館2階：桐山203研究室）

メールアドレス（#→@）

^

kiriyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	環境調整技術：オリエンテーション、快適な療養環境の整備、臥床患者のリネン交換（講義）■	1,2,4	テキスト基礎看護技術Ⅱ第1章を精読する。	0.25h	シラバスの内容を読み、講義目標および到達目標を理解する。 講義内容を振り返り、看護技術について、本科目での学修方法について理解を深める。	0.5h
2	環境調整技術：臥床患者のリネン交換（演習）	1,2,3,4	環境調整についての事前課題に取り組む。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、臥床患者のリネン交換の練習をする。	0.5h
3	環境調整技術：臥床患者のリネン交換（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、臥床患者のリネン交換の練習をする。	0.5h
4	環境調整技術：臥床患者のリネン交換（演習）	1,2,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うた	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、臥床患者のリネン交換の練習をする。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			めの留意点について考える。			
5	清潔・衣生活援助技術：更衣・整容/寝衣交換（講義）（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、更衣・整容/寝衣交換の練習をする。	0.5h
6	活動・休息援助技術：移送/歩行・移動介助（講義）■	1,2,3,4	移乗・移送に関する事前課題に取り組む。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、移送/歩行・移動介助の練習をする。	0.5h
7	活動・休息援助技術：車椅子への移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送の練習をする。	0.5h
8	活動・休息援助技術：車椅子への移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送の練習をする。	0.5h
9	清潔・衣生活援助技術：皮膚の清潔（清拭・部分浴）/口腔ケア	1,2,3,4	清潔援助に関する事前課題に取り組む。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5h
10	清潔・衣生活援助技術：清拭（演習）	1,2,3,4	義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5h
11	清潔・衣生活援助技術：清拭（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5h
12	清潔・衣生活援助技術：清拭（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5h
13	清潔・衣生活援助技術：清拭（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、清拭の練習を行う。	0.5h
14	清潔・衣生活援助技術：洗髪（講義）■	1,2,3,4	洗髪の援助に関する事前課題に取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、洗髪に関する理解を深める。	0.5h
15	清潔・衣生活援助技術：洗髪（演習）■	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、洗髪の練習を行う。	0.5h
16	清潔・衣生活援助技術：洗髪（演習）■	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、洗髪の練習を行う。	0.5h
17	食事の援助技術：食事に関する援助（講義）■	1,2,3,4	食事の援助に関する事前課題に取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、食事に関する理解を深める。	0.5h
18	食事の援助技術：食事に関する援助（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うた	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、食事の援助の練習を	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			めの留意点について考える。		する。	
19	食事の援助技術：食事に関する援助（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、食事の援助の練習をする。	0.5h
20	看護技術チェック（感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術）	1,2,3,4	既習技術を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25h	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5h
21	看護技術チェック（感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術）	1,2,3,4	既習技術を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25h	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5h
22	看護技術チェック（感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術）	1,2,3,4	既習技術を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25h	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5h
23	看護技術チェック（感染予防技術、環境調整技術、活動・運動援助技術、衣生活援助技術、清潔援助技術）	1,2,3,4	既習技術を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25h	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.5h
24	清潔・衣生活援助技術：部分浴（演習）	1,2,3,4	部分浴の援助に関する事前課題に取り組む。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、部分浴の援助の練習をする。	0.5h
25	振り返り/まとめ	1,2,3,4	既習技術を振り返り、講義を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25h	既習技術のまとめを行う。	0.5h
26	振り返り/まとめ	1,2,3,4	既習技術を振り返り、講義を振り返り、知識・技術の確認をする。	0.25h	既習技術のまとめを行う。	0.5h
27	排泄援助技術：排泄の援助技術（講義）■	1,2,3,4	排泄の援助に関する事前課題に取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、排泄援助に関する理解を深める	0.5h
28	排泄援助技術：床上での尿器・便器介助（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、尿器・便器介助の練習を行う。	0.5h
29	排泄援助技術：陰部の保清（陰部洗浄）（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、陰部洗浄の練習を行う。	0.5h
30	排泄援助技術：陰部の保清（陰部洗浄）（演習）	1,2,3,4	講義を振り返り、目的に合ったケアを行うための留意点について考える。	0.25h	演習のまとめレポートを作成し、陰部洗浄の練習を行う。	0.5h

備考



単位修得に必要な時間を満たしていない場合

- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・演習後は、個人またはグループで、練習課題に取り組むこと。
- 実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

治療・症状緩和技術

英文名：Nursing Skills for Assisting in Medical Care and Symptom Relief

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS210・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

桐山勝枝、鶴田晴美、廣井寿美、西林京子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディベ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各ベッドに補助教員を配置し、その場でフィードバックを行う。

演習記録に対してコメントを付して返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①健康障害のある対象の援助方法を理解し、科学的根拠を基とした診断・治療・処置を伴う看護援助技術を習得する。②講義および演習により、治療的援助技術を根拠に基づいて体験する。

到達目標

- 1.看護技術における安全、安楽、コミュニケーション、エビデンスの重要性が理解できる。■
- 2.治療的援助技術の基本を習得できる。■
- 3.対象の状況に合わせた治療的援助の方法を考えることができる。■
- 4.看護学生としての倫理的態度について理解できる。■

使用教材 ▲

使用教材：配布資料

- ・ 仁和子他：基礎看護技術Ⅱ（第18版），医学書院
- ・ 茂野香おる他：基礎看護技術Ⅰ（第19版），医学書院
- ・ 看護技術学会の研究論文から注射に関する最新の知見について紹介する。

参考文献 ▲

・ 守田美奈子他：看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス，インターメディカ

評価方法 ▲

①対面授業の場合：筆記試験（60％）、看護技術チェック(30%)、授業への参加態度（10％）による総合評価とする。但し、筆記試験・看護技術チェックは、それぞれの試験で60点以上を合格とする。
＊20分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。20分以内で3回遅刻した場合は、1回の欠席とする。
＊看護技術チェックにおいては、合格点に達しない場合、再評価を受ける。

②オンライン授業の場合：小テスト（30％）、課題提出状況（10％）、オンライン期末課題（60％）による総合評価とし、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

講義・演習で作成したレポートは、担当教員からのコメントを付して返却する。
技術チェックでは担当教員がその場でフィードバックを行う。

オフィスアワー ▲

桐山
水曜日：2.3.4時限目
木曜日：5限
5号館 2階203研究室

メールアドレス（#→@） ▲

kiriyama#takasaki.u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、安楽に関する技術：電法<温電法・冷電法>（講義） 電法の援助が必要な対象者の状況や、その効果について事例を用いて解説する。 ■	1,2, 3,4	基礎看護技術Ⅱの第5章B（p 156～160）を読み、電法ケアに関する事前課題レポートに取り組む。	0.2 5h	講義内容を振り返り、電法ケアに関する理解を深める。	0.5 h
2	安楽に関する技術：電法-腰部温電法（演習）	1,2, 3,4	電法に関するチェックリストを基に、腰部温電法の方法をイメージする。	0.2 5h	チェックリストを基に電法の方法の理解を深める。	0.5 h
3	安楽に関する技術：電法-腰部温電法（演習）	1,2, 3,4	安全で効果的な腰部温電法を実施するための留意点について考える。	0.2 5h	演習を振り返り、安全で効果的な電法を実施するための課題を明確にする。	0.5 h
4	感染予防技術：スタンダードプリコーション・無菌	1,2, 3,4	基礎看護技術Ⅰの第2章A・B（p 64～78）を読み、事前	0.2 5h	講義内容を振り返り、感染予防策に関する理解を深める。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	操作（講義） 感染予防の原則について、臨床で起こりうる危険を例に挙げながら解説する。■		課題に取り組む。			
5	感染予防技術：スタンダードプリコーション・無菌操作（演習）	1,2,3,4	チェックリストを基に、感染予防策の方法をイメージする。	0.25h	チェックリストを基に感染予防策の方法の理解を深める。	0.5h
6	感染予防技術：スタンダードプリコーション・無菌操作（演習）	1,2,3,4	適切な感染予防策を行うための留意点について考える。	0.25h	演習を振り返り、演習に関するまとめレポートを作成し、防護用具の装着・無菌操作の練習をする。	0.5h
7	排泄援助技術：導尿法（講義） 導尿が必要な対象者の状況や、援助に伴う苦痛への配慮について事例を交えて解説する。■	1,2,3,4	基礎看護技術Ⅱの第3章B（p79～87）を読み、導尿法に関する事前課題レポートに取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、導尿法に関する理解を深める。	0.5h
8	排泄援助技術：一時的導尿法（演習）	1,2,3,4	チェックリストを基に、一時的導尿の方法をイメージする。	0.25h	チェックリストを基に一時的導尿の方法の理解を深める。	0.5h
9	排泄援助技術：一時的導尿法（演習）	1,2,3,4	チェックリストを基に一時的導尿の方法の理解を深める。	0.25h	演習に関するまとめレポートを作成し、一時的導尿法の練習をする。	0.5h
10	排泄援助技術：浣腸（講義） 浣腸における留意点や効果について、臨床で起こりうる有害事象や事例を用いて解説する。■	1,2,3,4	基礎看護技術Ⅱの第3章C（p87～94）を読み、排便コントロールに関する事前課題レポートに取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、排便コントロールに関する理解を深める。	0.5h
11	排泄援助技術：グリセリン浣腸（演習）	1,2,3,4	チェックリストを基にグリセリン浣腸の方法をイメージする。	0.25h	演習を振り返り、安全で効果的なグリセリン浣腸を実施するための課題を明確にする。	0.5h
12	排泄援助技術：グリセリン浣腸（演習）	1,2,3,4	安全で効果的なグリセリン浣腸を実施するための留意点について考える。	0.25h	演習を振り返り、安全で効果的なグリセリン浣腸を実施するための課題を明確にする。演習に関するまとめレポートを作成する。	0.5h
13	呼吸を整える技術：吸引・吸入・酸素療法（講義） 臨床で酸素療法や吸引を行っている対象者の事例をもとに症状・病態と結びつけ、理解が深まるよう指導する。■	1,2,3,4	基礎看護技術Ⅱの第7章A・B・D（p234～255、260～264）を読み、呼吸を整えるケアに関する事前課題レポートに取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、呼吸を整えるケアに関する理解を深める。	0.5h
14	呼吸を整える技術：酸素療法／口腔内吸引（演習）	1,2,3,4	チェックリストを基に、酸素療法および口腔内吸引の方法をイメージする。	0.25h	チェックリストを基に酸素療法および口腔内吸引の方法の理解を深める。	0.5h
15	呼吸を整える技術：酸素療法／口腔内吸引（演習）	1,2,3,4	患者にとって安全で効果的な酸素療法および口腔内吸引を	0.25h	演習に関するまとめレポートを作成し、呼吸音聴取・酸素	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			実施するための留意点について考える。		療法・口腔内吸引の練習をする。	
1 6	看護技術チェック（安楽に関する技術、感染予防技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術）	1,2, 3,4	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.2 5h	看護技術チェックリストを基に、既習の演習項目について練習をする。	0.5 h
1 7	看護技術チェック（安楽に関する技術、感染予防技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術）	1,2, 3,4	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.2 5h	看護技術チェックリストを基に、既習の演習項目について練習をする。	0.5 h
1 8	看護技術チェック（安楽に関する技術、感染予防技術、排泄援助技術、呼吸を整える技術）	1,2, 3,4	演習内容を振り返り、既習の演習項目について練習をする。	0.2 5h	看護技術チェックリストを基に、既習の演習項目について練習をする。	0.5 h
1 9	検査に関する技術：尿検査・血液検査（講義） 採血では、血管の弾力性や走行など対象の状態をふまえて選択する方法を、臨床での事例をもとに解説し指導する。■	1,2, 3,4	基礎看護技術Ⅱの第11章A・B（p406～413, 416～422）を読み、静脈血採血に関する事前課題レポートに取り組む。	0.2 5h	講義内容を振り返り、尿検査・血液検査に関する理解を深める。	0.5 h
2 0	検査に関する技術：静脈血採血（演習）		チェックリストを基に、静脈血採血の方法をイメージする。	0.2 5h	チェックリストを基に静脈血採血の方法の理解を深める。	0.5 h
2 1	検査に関する技術：静脈血採血（演習）	1,2, 3,4	安全で適切な静脈血採血を実施するための留意点について考える。	0.2 5h	演習に関するまとめレポートを作成し、静脈血採血の練習をする。	0.5 h
2 2	与薬の技術：与薬について（講義） 与薬の管理の重要性について、臨床で起こりうる事故や実際の事故防止対策を具体的に示し意識付けを行う。■	1,2, 3,4	基礎看護技術Ⅱの第9章A・B・C・D・E・F・G（p310～325）を読み、与薬に関する事前課題レポートに取り組む。	0.2 5h	講義内容を振り返り、与薬に関する理解を深める。	0.5 h
2 3	与薬の技術：注射法 筋肉注射 皮下注射（講義） 臨床で起こりうる危険や実際の管理方法を具体的に示し解説を行う。■	1,2, 3,4	基礎看護技術Ⅱの第9章H（p326～349）を読み、与薬に関する事前課題レポートに取り組む。 注射の準備、筋肉注射、皮下注射に関するチェックリストを基に、看護ケアの流れをイメージする。	0.2 5h	チェックリストを基に注射の準備、筋肉注射、皮下注射の方法の理解を深める。	0.5 h
2 4	与薬の技術：注射の準備（演習）	1,2, 3,4	チェックリストを基に、注射の準備の方法をイメージする。	0.2 5h	チェックリストを基に注射の準備の方法について理解を深める。	0.5 h
2 5	与薬の技術：皮下注射・筋肉注射（演習）	1,2, 3,4	チェックリストを基に、皮下注射・筋肉注射の方法をイメージする。	0.2 5h	チェックリストを基に皮下注射・筋肉注射の方法の理解を深める。	0.5 h
2 6	与薬の技術：皮下注射・筋肉注射（演習）	1,2, 3,4	安全で適切な皮下注射・筋肉注射を実施するための留意点について考える。	0.2 5h	演習を振り返り、安全で適切な皮下注射・筋肉注射を実施	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					するための課題を明確にする。	
27	与薬の技術：点滴静脈内注射（講義） 臨床で起こりうる危険や実際の管理方法を具体的に示し解説を行う。■	1,2,3,4	基礎看護技術Ⅱの第9章H・I（p350～375）を読み、点滴静脈内注射に関する事前課題レポートに取り組む。	0.25h	講義内容を振り返り、点滴静脈内注射に関する理解を深める。	0.5h
28	与薬の技術：点滴静脈内注射（演習）	1,2,3,4	チェックリストを基に、点滴静脈内注射の方法をイメージする。	0.25h	チェックリストを基に点滴静脈内注射の方法の理解を深める。	0.5h
29	与薬の技術：点滴静脈内注射（演習）	1,2,3,4	安全で適切な点滴静脈内注射を実施するための留意点について考える。	0.25h	演習を振り返り、安全で適切な点滴静脈内注射を実施するための課題を明確にする。	0.5h
30	与薬の技術：点滴静脈内注射（演習）	1,2,3,4	安全で適切な点滴静脈内注射を実施するための留意点について考える。	0.25h	演習に関するまとめレポートを作成し、点滴静脈内注射の練習をする。	0.5h

合計時間（予習・復習）

22.5h

備考

1. 授業の進め方：

- ①授業は教科書と教員作成の資料およびパワーポイントによる説明を行う。
- ②演習では、教員によるデモンストレーションを提示する。また、モデル人形や看護技術で必要な様々な物品を用いて指導する。
- ③演習は、グループワークの形式を用いる。看護師役や対象者役、観察者などの体験を通し、意見を交換しながら学びを深める。
- ④演習後は、個人またはグループで、練習課題に取り組むこと。

2. オンライン授業での出席の登録・確認

・出席の登録は、C-learning の下記1) ～3) のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。

- 1) 「小テスト」で設問へ解答する。
- 2) 「レポート」の課題を提出する。
- 3) 「アンケート」を提出する。

■実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

基礎看護技術総合演習

英文名：Fundamental Nursing: Comprehensive Practice

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS211・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

桐山勝枝、鶴田晴美、廣井寿美、西林京子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この講義は、臨床推論から臨床判断を行い、既習の看護技術を基に、対象の健康状態や心理状態、とりまく状況を考慮し、個別性に応じた看護援助を安全安楽に提供するための能力を養うことが目的である。特に基礎看護学実習Ⅲで実施する頻度が高い日常生活援助技術について重点をおく。既習の看護技術の原則を基盤とし、事例の状況をアセスメントし、対象に応じた個別性のある援助方法を考え実施し評価する。

到達目標



1. 対象の病態や症状をアセスメントできる。■
2. 対象の状態（個別性）を踏まえて、必要な看護ケアを考え、述べることができる。■
3. 対象に自分が実施する看護援助について説明し、同意を得ることができる。■
4. 自分の考えた看護援助を、対象の状況（個別性）に合わせて、安全・安楽に配慮しながら実施できる。■
5. 実施した看護援助と観察内容について、適切に報告できる。■
6. 実施した援助の効果について評価し、修正点・課題を述べることができる。■
7. 臨床現場で遭遇する様々な事柄を臨床推論し臨床判断ができる。■

使用教材



- ・配布資料
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版、仁和子、医学書院、ISBN ; 978-4-260-04212-3、2022年
- ・看護関連学会の文献を使用し、最新の知見を紹介する。

参考文献



- ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 第19版、茂野香おる、医学書院 ISBN ; 978-4-260-04992-4、2023年

評価方法



- ①対面授業の場合：課題（50％）、演習記録（20％）、授業への参加度（20％）、小テスト（10％）
＊20分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。20分以内の遅刻を3回した場合は1回の欠席とする。
- ②オンラインの場合：課題（80％）、小テスト（20％）

課題・評価に対するフィードバック方法



担当教員からコメントを付してフィードバックする。

オフィスアワー



桐山
水曜日：2,3,4限
木曜日：5限
（5号館2階203研究室）

メールアドレス（#→@）



kiriyama#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション／事例を提示・計画の立て方・試験方法説明／連絡・報告・相談について■	1,2,7	シラバスの内容を読み、講義目標および到達目標を理解する。	0.2 5h	事例の情報を整理し必要な日常生活援助を考える	0.5 h
2	演習： 事例の臨床推論と臨床判断を行い適切な看護ケアを検討する。■	1,2, 3,4, 5,6,7	事前課題に取り組む。	0.2 5h	グループディスカッションのための準備を行う。	0.5 h
3	演習： 事例の臨床推論と臨床判断を行い適切な看護ケアを検討する。■	1,2, 3,4, 5,6,7	自身の臨床判断を、グループディスカッションに向け整理する。	0.2 5h	グループディスカッションで得た内容を修正し理解を深める。	0.5 h
4	講義・演習：報告・連絡・相談について実施する。■	1,2,7	事前課題に取り組む。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	演習：事例に対するケア計画をもとに、座位の足浴を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
6	演習：事例に対するケア計画をもとに、座位の足浴を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
7	演習：事例に対するケア計画をもとに、洗髪を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
8	演習：事例に対するケア計画をもとに、洗髪を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
9	演習：事例に対するケア計画をもとに、洗髪を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
10	演習：事例に対するケア計画をもとに、清拭とバイタルサインを実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	実施したケアを振り返り、他者の意見をもとに再考し修正する。	0.5 h
11	事例に対するケア計画をもとに、清拭とバイタルサインを実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	振り返りの意見交換から自己課題を見出し、技術練習を行う。	0.5 h
12	事例に対するケア計画をもとに、清拭とバイタルサインを実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
13	事例に対するケア計画をもとに、おむつ交換・陰部洗浄・臥床患者のリネン交換を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	演習内容を振り返り、レポートをまとめ理解を深める。	0.5 h
14	事例に対するケア計画をもとに、おむつ交換・陰部洗浄・臥床患者のリネン交換を実施する。■	1,2,3,4,5,6,7	臨床判断をもとに、看護ケアノートを作成する。	0.2 5h	振り返りの意見交換から自己課題を見出し、技術練習を行う。	0.5 h
15	事例に対するケア計画をもとに、おむつ交換・陰部洗浄・臥床患者のリネン交換を実施する。■ 振り返りとまとめ	1,2,3,4,5,6,7	実施したケアを振り返り、自身のケア技術について不十分な部分を確認する。	0.2 5h	振り返りのレポートをまとめ、基礎看護学実習Ⅲに向けて、技術の向上に努める。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

11.25h

印刷 

看護学方法論

英文名：Nursing Process

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS212・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

廣井寿美、鶴田晴美、桐山勝枝、西林京子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

看護の対象の健康問題や健康課題に対して、知識とクリティカルシンキング、技能およびケアリングを基盤とした看護過程を用いて看護を展開する方法を学ぶ。

到達目標

- 健康課題・健康問題を解決するための方法論である看護過程の概要を理解できる。
- ゴードンの理論を用いて、事例の健康課題・健康問題を解決するための看護過程のプロセスが理解できる。
- ゴードンの機能的健康パターンの考え方に基づき情報収集の視点が理解できる。■
- アセスメントの視点に沿って情報の分析・解釈・判断ができる。■
- 統合した全体像をとらえ、看護問題の明確化（看護診断）ができる。■

6. 看護問題の優先順位を考え、看護計画を立案できる。■
7. 看護計画を実施し評価することの意義と方法を述べるができる。■

使用教材 ↑

- ①「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 第19版」：茂野香おる、医学書院、ISBN；978-4-260-04992-4、2023年
- ②「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：同一事例による比較. 第3版」、渡邊トシ子編、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN；978-4-86174-043-5
- ③「看護診断ハンドブック、第12版」、RJ.カルペニート著、医学書院、2023年、ISBN；9784260050210
- ④「検査値早わかりガイド 第3版」、江口正信・水口國雄著、サイオ出版、ISBN；978-4-907176-60-0、2017年
- ⑤「関連図の書き方をマスターしよう」蔵谷範子編、サイオ出版、ISBN；978-4-907176-48-8
- ⑥ 日本看護診断学会より、看護過程、看護診断に関する最新の知見を紹介する。

参考文献 ↑

「事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門（第2版）」佐藤栄子編、日総研、ISBN: 978-4-7760-1414-0
授業の中で適宜紹介する。

評価方法 ↑

- ①対面授業の場合：毎回課す課題75%、小テスト15%、授業の参加態度10%によって、総合的に判断し60%以上を合格とする。
- ②オンライン授業の場合：毎回課す課題をC-learning内に提出70%、小テスト20%、meetまたはZOOMによるグループ学習への参加度10%、により総合的に判断し、60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題については授業の中でフィードバックする。

オフィスアワー ↑

水曜日・木曜日の5限)
5号館2階 204研究室

メールアドレス（#→@） ↑

hiro-i-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション／看護過程の概要／看護記録	1,2	看護技術論の看護過程に関する資料を読む	0.5h	小テストを行い、看護過程の概要を復習する	0.25h
2	第1段階 アセスメント ～ステップ1 情報収集～／ゴードンの機能的健康パターン	3,4	提示された情報をもとに、疾患や看護の事前学習を行う	0.5h	データベースを記入し、事例の情報を整理する	0.25h
3	第1段階 アセスメント ～ステップ2 情報分類～	3,4	事例の情報から、必要な情報収集の内容と方法を検討する	0.5h	ゴードンの機能的健康パターンについて、資料を基に理解を深める	0.25h
4	第1段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン1		機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する	0.5h	解説をもとに、アセスメントを修正する	0.25h
5	第1段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン2～3	4	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する	0.5h	解説をもとに、アセスメントを修正する	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	第1段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン4～6	4	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する	0.5h	解説をもとに、アセスメントを修正する	0.25h
7	第1段階 アセスメント ～ステップ3 分析～ パターン7～11	4	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する	0.5h	解説をもとに、アセスメントを修正する	0.25h
8	第1段階 アセスメント ～ステップ3 分析～/～ステップ4 統合～	4,5	機能的健康パターンに沿って、情報を整理し、分析する	0.5h	解説をもとに、アセスメントを修正する	0.25h
9	第1段階 アセスメント ～ステップ4 統合～ 関連図の作成	5	アセスメントをもとに、関連図を作成する	0.5h	講義内容をもとに、関連図の作成と修正を行う	0.25h
10	関連図の発表	5	関連図を作成し、他者に伝えられるよう準備を行う。	0.5h	他者の発表をもとに、自己の関連図を修正する	0.25h
11	第2段階 看護問題の明確化～看護診断～■	5	看護問題に看護診断ラベルを付ける	0.5h	講義内容をもとに、看護診断ラベルを修正し、理解を深める	0.25h
12	第2段階 看護問題の明確化～優先順位の決定～ 看護診断リストの作成 ■	5,6	看護診断の優先順位を考え、リストを作成する	0.5h	講義内容をもとに、自分の付けた優先順位を修正し、理解を深める	0.25h
13	第3段階 看護計画 ～期待される成果～■	6,7	看護計画の期待される成果を考え、設定する	0.5h	講義内容をもとに、期待される成果を修正し、理解を深める	0.25h
14	第3段階 看護計画 ～プランの立案～ / SOAP記録 ■	7	看護計画のプランを立案する	0.5h	講義内容をもとに、看護計画を修正し、理解を深める	0.25h
15	第4段階 評価 ～看護計画の実施・結果・評価～ / まとめ■	1,2,3,4,5,6,7	看護計画の実施・結果・評価を記載する	0.5h	講義で行った看護計画の評価をもとに、看護過程のプロセスについて理解を深める	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

1. 授業の進め方

- ・提示された個人ワークは必ず取り組むこと
- ・個人ワークで実施した後に行うグループワークでは、積極的に意見交換し、考え方を深める機会とする。
- ・単位修得に必要な時間を満たしていない場合

2. オンライン授業での出席の登録・確認

- ・出席の登録は、C-learning の下記 1) ～ 3) のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。

1) 「小テスト」で設問へ解答する。

2) 「レポート」の課題を提出する。

3) 「アンケート」の提出。

■実務経験に基づく内容を示す。

印刷



基礎看護学実習 I

英文名：Fundamental Nursing Practicum I

科目区分：看護専門科目群・専門分野 I・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS115・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

鶴田晴美、廣井寿美、桐山勝枝、西林京子、磯村直恵

科目に関連した実務経験

臨床看護師として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習記録についてコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護学概論、コミュニケーション演習などの既習知識を総合し、高崎地域に暮らし施設（長寿センター、総合福祉センター）を利用している対象者とのコミュニケーションをとおして、対象の言動や反応から健康に対する思いや考えを理解する。

②施設実習により実際に対象と接し、コミュニケーションを取り、振り返りながら学修する。

到達目標

- 1.対象とのコミュニケーションをととして、対象に応じたコミュニケーション方法を理解し行動することができる。■
- 2.対象とのコミュニケーションをととして、対象の日常生活の過ごし方や健康に対する思いについて述べる。■
- 3.実習における行動をととして、看護者の倫理的態度を身につけることができる。■

使用教材

^

臨地実習要項
 基礎看護学実習Ⅰ要項
 講義資料:「コミュニケーション演習」「看護学概論」「地域包括ケア論」
 日本看護学教育学会からカンファレンスについての最新の知見を紹介する

参考文献

^

カンファレンスについて

評価方法

^

- 1.対面の場合：実習中の看護実践（60点）、実習に取り組む倫理的態度（20点）、課題レポート（20点）
 - 2.学内実習またはオンラインの場合：課題記録（60点）、実習に取り組む倫理的態度（20点）、課題レポート（20点）
- * 実習評価表に沿って、総合的に評価する。60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

実習の最後の個人面談の際に、実習担当者より実習内容に関するコメントを口頭で行う。
 実習記録、課題レポートに関しては、実習担当者よりコメントを付して返却する。
 （対面講義でもオンライン講義でも同様）

オフィスアワー

^

火曜日・木曜日5時限
 （5号館2階：鶴田205研究室）

メールアドレス（#→@）

^

tsuruta-h#takasaki-ua.c.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習内容（施設実習および学内実習 計5日間の実習） 1.実習オリエンテーションにより実習目標が理解できるように準備状態を整える。 2.施設にてオリエンテーションを受け、実習目標が達成できるよう準備状態を整える。 3.施設実習 ■ 1)施設の活動に参加し、対象と共に時間を過ごし交流する。 2)対象に応じたコミュニケーション方法について考え、実践する。 3)対象とのコミュニケーションをととして、対象の日常生活の過ごし方やニーズについて聴く。 4) 1)～3)を踏まえて、地域で暮らしている対象者の生活や健康に対する思いを考察する。 4.施設実習では、対象と関わり、コミュニケーションをととして、対象の思いに気づくことができるよう、既習のコミュニケーション技法を活用する。ま	1, 2,3	既習学習について復習する。特に、老年期にある人間の発達課題や身体的・精神的・社会的特徴について学修をする。	適宜	実習での体験を振り返り、指定された記録用紙に学びを記載する。	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	た、カンファレンスをととして、自分の感じ考えたことを言語化し、他者に伝え、意見交換する機会とする。さらに、カンファレンスをととして他者の学びを共有する。■ 5.実習をととして看護者としての基本的な態度（倫理的態度）について考え、行動する。■ 6.最終日は、実習での体験を基に、実習目標1～2について具体的に振り返り、学びをプレゼンテーションする。					

備考



実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。
オンライン授業での出席の登録・確認
・出席の登録は、C-learning の下記1) ～3) のいずれかの方法で行う。
1) 出席登録する。
2) レポート課題を提出する。
3) アンケートを提出する。
＊本実習は、2年次に行われる基礎看護学実習Ⅲを履修する条件の一つとなる。
■実務経験に基づく内容を示す。

印刷

基礎看護学実習Ⅱ

英文名：Fundamental Nursing Practicum Ⅱ

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS116・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

廣井寿美、鶴田晴美、桐山勝枝、西林京子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

病院における看護活動の実際を見学することとおして、入院生活が個々の人間の生活に与える影響を理解するとともに、対象を取り巻く療養環境および看護の役割・機能について理解する。また、対象とのコミュニケーションをとおして、人間関係を築き、対象の思いを理解する。

到達目標

1. 看護者からの説明や対象とのコミュニケーションをとおして、疾病や障害・入院が対象の日常生活に与える影響を理解する。■
2. 発達段階の特徴を踏まえて対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることをとおして、対象の言動や反応から対象の思いを理解する。■

3. 対象に行われる日常生活援助および検査・治療過程に関連する看護ケアを見学することをとおして、対象に必要な看護を判断し実施する必要性と看護の役割を理解する。■
4. 実習における行動をとおして、看護師としての倫理的態度を身につける。

使用教材 ^

臨地実習要項、基礎看護学実習Ⅱ要項

参考文献 ^

看護学概論の講義資料、コミュニケーション演習講義資料

評価方法 ^

①対面の場合：実習中の看護実践・倫理的態度・学習態度（80点）、課題レポート（20点）
②オンラインの場合：課題取り組み・実習に取り組む倫理的態度（80点）、課題レポート（20点）
＊実習評価表に沿って総合的に評価する。60点以上を合格とする。
（対面授業でもオンライン授業でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

実習の最後の個人面談の際に、実習担当者より学習内容に関するコメントを口頭で行う。
課題レポートに関しては、実習担当者よりコメントを付して返却する。

オフィスアワー ^

火曜日・木曜日の5限
5号館2階 204研究室

メールアドレス（#→@） ^

hiro-i-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学習内容（病院実習および学内実習 計5日間の実習） 1. 実習オリエンテーションにより実習目標が理解できるように準備状態を整える。 2. 実習病院にて病院の概要および実習の心構え、倫理、リスクマネジメント、感染対策についてオリエンテーションを受け、実習目標が達成できるよう準備状態を整える。 3. 臨地実習は病棟実習を行う。 1) 看護師と共に行動し、患者への対応の仕方、看護師の役割について観察する。 2) 受け持ち患者を持ち、患者の療養環境について考える。また患者に必要な日常生活援助に関する看護援助を見学し、考える。 3) 1～3を踏まえて、看護の役割について考察する。 看護ケア見学の場面では、患者のおかれている状況から、ケアの方法についての意味づけができるよう実務経験を基に指導する。■ 4. 1～3をふまえて看護者としての基本的な態度（倫理的態度）を身につけることを促す。 5. 病院実習では、患者（家族）との関わり、コミュニケーションをとおして、患者の思いに気づくことができるよう、既習のコミュニケーション技法を活用す	1, 2, 3, 4	当日の実習目標および行動計画を考え記述する。	適宜	実習での体験を振り返り、指定された記録用紙に観察した場面及び考えたことを記載する。その日の学習目標を評価する。	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	る。また、カンファレンスをととして、自分の感じ考えたことを言語化し、他者に伝え、意見交換する機会とする。カンファレンスをととして他者の学びを共有する。 6．学内実習は、病院実習での体験を基に、実習目標1～4について具体的に振り返り、学びをまとめ、プレゼンテーションする。					

備考

^

実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。

オンライン授業での出席の登録・確認

- ・出席の登録は、C-learningの下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は「ニュース」で確認すること。
- 1) 「レポート」の課題を提出する。
- 2) 「アンケート」の提出。

■：実務経験に基づく内容を示す。

本実習を合格することで、2年次に行われる基礎看護学実習Ⅲを履修する条件の一つとなる。十分に注意して学習すること。

印刷



基礎看護学実習Ⅲ

英文名：Fundamental Nursing Practicum Ⅲ

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目ナンバリング：NRS213・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

鶴田晴美、廣井寿美、桐山勝枝、西林京子、磯村直恵

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習記録に対してコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①基礎看護領域において学修した内容を統合し、様々な発達課題にある対象の健康問題をアセスメントし、その解決に向けて対象に必要な日常生活援助を展開する方法を学ぶ。

②日常生活援助を中心とした看護実践の基礎を学び、患者の健康問題・健康課題に対する看護ケアについて看護過程を用いて展開する。

到達目標

- 1.対象と援助的な関係を築くための態度を身につけることができる。
- 2.対象の発達段階・発達課題と特徴、対象を取り巻く環境について述べるができる。■
- 3.対象の顕在・潜在する看護問題を身体・精神・社会的側面からアセスメントすることができる。■
- 4.対象の看護問題の解決に向けた個別的な看護計画を立案・実践・評価することができる。■
- 5.看護者としての倫理的態度を身につけ行動することができる。

使用教材

^

臨地実習要項
基礎看護学実習Ⅲ要項
実習関連授業は以下の講義・演習資料
看護学概論、コミュニケーション演習、フィジカルアセスメント、看護技術論、日常生活援助技術、看護学方法論、基礎看護技術総合演習、治療・症状緩和技術

参考文献

^

- ・茂野香おる他：基礎看護技術Ⅰ（第18版），医学書院
- ・仁和子他：基礎看護技術Ⅱ（第18版），医学書院
- ・ヘンダーソン・ゴードンに基づく実践看護アセスメント第3版　ヌーベルヒロカワ　2,500円
- ・看護診断ハンドブック第12版　医学書院
- ・検査値はわかりガイド　サイオ出版

評価方法

^

- 1.対面の場合：看護実践内容（64点）、看護者の基本的態度（倫理的態度）（28点）、課題レポート（8点）をもとに実習評価表に沿って、総合的に評価する。60点以上を合格とする。
- 2.オンラインの場合：課題取り組み・実習に取り組む倫理的態度（80点）、課題レポート（20点）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

実習記録および実習の課題レポートは実習担当者からのコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

火曜5限・木曜日5限
（5号館2階205鶴田研究室）

メールアドレス（#→@）

^

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習内容：病院実習と学内実習（計10日間：60時間） 1. 患者(家族)の反応、心配や気がかり(病気、症状、生活等)に関心を向ける。■ 2. 患者の病態や臨床所見(徴候や検査データ)と患者の症状や生活・生活行動を関連づけ記述する。 3. コミュニケーションや日常生活援助等の看護ケアをとおして、対象との人間関係を形成する。 4. 安全・安楽・自立と個別性を目指して実施した看護ケアについて振り返り、看護ケアの意	1,2,3,4,5	・人間の発達段階・発達課題と、病態生理・症状・検査・治療、看護について事前学習し、記録用紙にまとめる。 ・対象に行うケアなど個別性を踏まえて計画し、助言を受けて実施に備える。	適宜	・指導を受けたことをふまえ、受け持ち患者記録を記載し追加修正する。 ・学内実習で得た学びなどを記録し、提出レポートなど記録物をまとめる。	適宜

回数	講義内容	該当 到達 目標	予習内容	予 習 時 間	復習内容	復 習 時 間
	味を考え述べる。■ 5. 健康問題・健康課題に対する看護ケアについて看護過程を用いて展開する。■ 6. 看護者としての基本的な態度（倫理的態度）について考えながら行動する。 7. 実習をととしての学びを考察する。（課題レポート） 8. カンファレンスを通して自分の考えや思いを発表するとともに他者の意見を取り入れ考えを深める。					

備考



実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。

オンライン授業での出席の登録・確認

- ・出席の登録は、C-learningの書き1)～2)のいずれかの方法で行う。

1)「レポート」の課題提出

2)「アンケート」の提出

履修承認基準として、以下の（１）、（２）の条件を全て満たしていること

（１）２年前期までに開講されている看護専門科目群、基礎看護学の以下の必修科目の単位を修得していること。

看護学概論、コミュニケーション演習、フィジカルアセスメント、看護技術論、日常生活援助技術、看護学方法論、治療・症状緩和技術、基礎看護技術総合演習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ

（２）２年前期までに看護専門科目群の成人看護学概論、老年看護学概論、精神看護学概論の単位を修得していること

■実務経験に基づく内容を示す。

印刷

成人看護学概論

英文名：Introduction to Adult Nursing

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング：NRS117・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



石田順子・吉田久美子・砂賀道子

科目に関連した実務経験



看護師として大学病院に勤務

履修を必須とする資格



保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



- ①成人期にある対象の健康レベルと看護の特徴を理解し、対象の健康増進・回復、疾病から死までの看護を急性期、回復期（リハビリテーション期）、慢性期、終末期として学ぶ。また、看護を行うのに必要な理論について学ぶ。
- ②講義内容の要点について、事例を用い講義を行い、質問を交えて展開する。3人の教員がオムニバスで実施する。

到達目標



- 1. 様々な健康レベルにある成人期にある対象者の特徴と看護の役割について説明できる。■
- 2. 成人期にある対象の健康増進、疾病の回復、疾病との共存について急性期、回復期、慢性期看護を通して説明できる。また、人生の終焉についての看護を説明できる。■
- 3. 成人看護に必要となる理論について説明できる。

使用教材

^

林直子他編集，成人看護学概論，南江堂ISBN978-4-524-23073-0

- ・毎回の授業時に構造的に記載した資料

参考文献

^

講義中に紹介する

学会誌等からの最新の知見を紹介する（授業に最新の知見や情報を含めるなど）

評価方法

^

- ・ 授業へのコメント（CL）・レポート等を20％（20点） 筆記試験80％（80点）として評価する。
- ・ 総合評価 60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

- ・ レポートにはコメントを付し、返却する。
- ・ 定期試験の前に学習内容の要点と予習・復習の意図を関連付け資料によって示す。

オフィスアワー

^

火曜日1～4限

（5号館 405研究室 石田）

メールアドレス（#→@）

^

jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	第1章 成人看護学の特 性 成人を取り巻く状況と 成人期にある人の健康問 題 ■	1	1. 看護発達学の成人期の講義を振 り返る。2. 成人看護学の対象につ いてテキストを読む。3. 成人期の 健康についてテキストを読む	1h	現代における成人を取り 巻く環境や成人期の人が 罹患しやすい疾患と予 防、療養についてまとめ る	2h
2	第2章 健康状態に応じ た看護 1. 健康状態が 急激に変化し急性の状態 にある人への看護 ■	2	対象の特徴について、1)成人が遭遇 する身体侵襲の種類と、2)急性期に ある対象の健康状態の特徴について テキストを読む	1h	急性期にある対象の身体 的・心理的变化をふま えた看護の要点をまとめ る。	2h
3	第2章 健康状態に応じ た看護 2. 生活機能障 害のある人への看護（リ ハビリテーション看護） ■	2	1).リハビリテーションとリハビリ テーション看護の定義、2).リハビ リテーション看護の内容、3).リハ ビリテーション看護の事例について 調べる。	1h	回復期にある対象のリハ ビリテーションを促す看 護の要点をまとめる。	2h
4	第2章 健康状態に応じ た看護 3. 慢性的な経 過をたどる健康障害を有 する人への看護	2	慢性期にある対象の特徴として、1) 各系統別にみた主な慢性疾患の疾患 名と主な症状と治療法について調べ る。（がん含）	1h	慢性期にある対象の悪化 を防ぐための看護の要点 をまとめる。	2h
5	第2章 健康状態に応じ た看護 4. 人生の最終 段階にある人への看護	2	1).終末期と緩和ケアの定義と違い 2)全人的苦痛 3)終末期の患者に対 する看護の例について調べる。	1h	終末期にある対象の全人 的苦痛を緩和する看護の 要点を確認する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	第3章 成人看護学の展開に活用される理論 1 ストレス理論 2 危機理論	3	1).ストレス理論のストレス、ストレッサー、コーピングの意味 2).危機の意味、フィンク・アギュレラの危機モデルの内容の例について調べる。	1h	強いストレスを抱える対象に向けた看護の要点をまとめ確認する。	2h
7	第3章 成人看護学の展開に活用される理論 3 自己効力 4 アンドラゴジー	3	1)自己効力とは、2) アンドラゴジーとペタゴジーの違いを調べる。	1 h	対象に向けた看護の要点をまとめ確認する。	2 h
8	第4章 成人看護を充実させる実践的環境と倫理【まとめ】	1,2,3	授業資料から第1～7回までの要点を確認する。	1 h	全般的に授業内容を振り返り、到達目標に向け体系的に知識をまとめる	2 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



- 1.単位習得に必要な時間を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- 2.履修条件
1) この科目は「看護学概論」を履修していることが望ましい。
- 3.出席の登録・確認 出席の登録は、C-learning の、「出席」の確認キーを見て登録する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



成人看護学方法論 I

英文名 : Adlnt Nursing:Assesment and skill I

(Acute Care・Convalescent Care)

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング : NRS214・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

石田順子 砂賀道子 小野千沙子 石下綾乃

科目に関連した実務経験

大学病院で看護師としての臨床経験あり

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①我が国の急性期・救急医療の現状を理解し、急性期・救急看護の役割、急性期・救急患者のアセスメント法、救急外来および集中治療室における看護について学習する。また、周手術期にある人とその家族の身体的、心理・社会的特徴について知識を深め、その特徴をふまえた看護実践を行うための基礎知識について学習する。また、急性期にある人の回復過程について知識を深め、具体的な看護および看護の役割について学習する。

②オムニバス形式で実施する。

到達目標



- 1.急性期・救急医療の現状および急性期・救急看護の役割について述べることができる。
- 2.急性期・救急に特徴的な看護方法について述べることができる
- 3.周手術期にある人とその家族の身体的・心理的・社会的特徴について記述できる。
- 4.手術を受ける人の術前・術中・術後の看護実践を行うための基礎的知識について記述できる。■
- 5急激な外科的侵襲によって危機的状態にある人の回復過程について記述できる。
- 6急激な外科的侵襲によって危機的状態にある人が回復に向かうための具体的な看護と看護の役割について記述できる。■

使用教材



- ・毎回の授業時に構造的に学習内容を記載した資料を配付する。
- ・最新の情報・知見を講義内に含める
- ・テキスト・・・急性期・周手術期看護論

参考文献



各講義で紹介する

評価方法



- ・レポート（またはマメテスト）20%、筆記試験80%で評価する。
- ・総合評価で60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



レポート等にはコメントをつけて返却する

オフィスアワー



火曜日 10：00～17：00（403研究室）

メールアドレス（#→@）



jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	急性期看護の特徴と周手術期看護。手術前期の看護：手術前の患者の基本的看護	3,4	周手術期看護、手術前期の看護についてテキストを読んでおく	1h	授業資料とテキストを活用し、手術前期の患者の特徴と基本的看護技術について整理する。	2h
2	手術中の看護 手術室における患者の基本的看護	3,4	手術室における患者の看護についてテキストを読んでおく。	1h	授業資料とテキストを読み、手術室看護と手術室において提供される看護について整理する。	2h
3	手術後期の看護 術後合併症と術後の回復を促進するケア	3,4	術後合併症についてテキストを読んでおく。	1h	授業資料とテキストを読み、術後合併症と回復を促進するケアについて学んだことを整理する。	2h
4	急性期から回復期へ 退院に向けた指導・支援	2,6	退院に向けた指導・支援についてテキストを読んでおく	1h	授業資料とテキストを読み、急性期から回復期への退院に向けた指導・支援について学んだことを整理する。	2h
5	事例で考える看護①胸痛のある人の看護：急性心筋梗塞	1,2,5,6,	頭痛のある疾患についてテキスト等で調べておく。	1h	授業資料とテキストを読み、頭痛を訴える患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2h
6	事例で考える看護②頭痛のある人の看護：くも膜下出	1,2,5,6	頭痛のある疾患についてテキスト等で調べてお	1h	授業資料とテキストを読み、頭痛を訴える患者の看護の概要に	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	血・脳腫瘍 ■		く。		ついて学んだことを整理する。	
7	事例で考える看護③消化機能に問題がある人の看護：胃がん	3,4,5,6	消化機能に問題のある疾患についてテキスト等で調べておく。	1h	授業資料とテキストを読み、摂取機能に問題のある患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2h
8	事例で考える看護④排泄機能に問題がある人の看護：大腸がん・膀胱がん	3,4,5,6	排泄機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1h	授業資料とテキストを読み、排泄機能に問題がある患者の看護の概要について学んだことを整理する。	2h
9	事例で考える看護⑤運動機能に問題がある人の看護：変形性股関節症・変形性膝関節症	3,4,5,6	運動機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1h	授業資料とテキストを読み、運動機能に問題がある患者の看護について学んだことをまとめる	2h
10	事例で考える看護⑥呼吸機能に問題がある人の看護：肺がん・気胸	3,4,5,6	呼吸機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1h	授業資料とテキストを読み、呼吸機能に問題がある患者の看護について学んだことをまとめる。	2h
11	事例で考える看護⑦生殖機能に問題がある人の看護：乳がん・子宮がん	3,4,5,6	生殖機能に問題がある疾患についてテキスト等で調べておく。	1h	授業資料とテキストを読み、生殖機能に問題がある患者の看護について学んだことを整理する。	2h
12	急性期看護・救急看護の現状と課題と患者の特徴	1,2	急性期・救急看護の現状についてテキストを読んでおく。	1h	授業資料とテキストを活用し、急性期・救急看護と患者の特徴について学んだことを整理する。	2h
13	急性期・救急看護：救急外来・集中治療室における看護	1,2	救急外来・集中治療室における看護についてテキストを読んでおく。	1h	授業資料とテキストを活用し、急性期・救急医療と患者の特徴について学んだことを整理する。	2h
14	急性期・救急看護：クリティカルケアとは クリティカルケアの概念と特徴	1,2	クリティカルケアについて調べておく。	1h	授業資料とテキストを活用し、クリティカルケアについて学んだことを整理する。	2h
15	地域包括ケアの中での急性期看護 まとめ	1,2,3,4,5,6	配布された資料（急性期看護実習の指導事例）および1～14回の授業資料を読む。	1h	授業資料とテキストを読み、急性期・救急・回復期について学んだことを整理する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 記載した予習復習の時間が単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- 履修条件
この科目は、「成人看護学概論」を履修していることが望ましい。
- ルール
課題としてレポートの提出を求めることがあるが、ワープロで仕上げる。
出席確認はC-learningで行う。
- 授業の進め方
1)教材として、主に教員の作成する講義・演習資料と視聴覚教材、シミュレーション教材などを使用する。

2)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

■：実務経験に基づく内容を示す。



成人看護学方法論Ⅱ

英文名：Adult Nursing: Assessment and Skills II (Chronic Care・Palliative Care)

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング：NRS215・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

吉田久美子・福島直子・中川裕

科目に関連した実務経験

総合病院で看護師として勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①慢性期にある対象の特徴の理解し、対象のQOLの向上を目指しセルフケアを促進する看護について習得する。また、終末期にある対象について、緩和ケアを必要としている対象の特徴と看護について習得する。

②オムニバス形式で実施する。

到達目標

- 1.慢性期にあり、生涯、疾病をマネジメントする必要のある対象の特徴について説明できる。■
- 2.疾病の悪化を予防するために対象のセルフケアを促進するための看護について説明できる。■
- 3.終末期にあり、緩和ケアを必要としている対象の特徴と看護について説明できる。■

使用教材



- 看護学テキスト,Nice 成人看護学 慢性期看護,南江堂、ISBN978-4-524-24198-9
- 各講義で学習内容を体系化した授業資料を配付する。

参考文献



各授業で紹介する

評価方法



参加状況・レポート 20% 筆記試験80%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



課題の要点を資料などで確認し、また個人のレポートにはコメントをつけて返却する

オフィスアワー



月曜1～4限（4号館405研究室）

メールアドレス（#→@）



yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	第1章 慢性期にある対象の特徴と看護の基本■ 【担当：吉田】 1.慢性疾患の考え方と特徴	1,2	慢性疾患の特徴について成人看護学概論の授業資料とテキストを読んでおくこと	0.2 5h	講義資料を読み直し、テキストの指定部分と関連づけまとめておくこと	0.5 h
2	第1章 慢性期にある対象の特徴と看護の基本■ 【担当：吉田】 2.慢性疾患がある対象の看護の基本	1,2	慢性疾患がある対象の特徴について、テキストの指定部分を読んでおくこと	0.2 5h	講義資料を読み直し、テキストの指定部分と関連づけまとめておくこと	0.5 h
3	第2章 終末期にある対象の特徴と看護の基本■ 【担当：吉田】 1.緩和ケアを受けるがん患者の特徴と看護の基本	3	成人看護学概論の授業資料の緩和ケアの定義などを読んでおくこと	0.2 5h	緩和ケアを必要とする対象の特徴と看護の基本について要点をまとめること	0.5 h
4	第2章 終末期にある対象の特徴と看護の基本■ 【担当：吉田】 2.緩和ケア（エンド・オブ・ライフ・ケア）の基本	3	緩和ケアの概要について第3回の授業資料を読んでくること	0.2 5h	第4回の授業資料を読み、要点を確認しておくこと	0.5 h
5	第3章 呼吸機能障害がある対象の看護■ 【担当：吉田】 終末期の肺がんの患者の看護	3	呼吸器系の解剖と生理について確認しておくこと 緩和ケアの定義とWHOの主なサービスについて授業資料を読んでおくこと	0.2 5h	授業資料を読み、要点を確認しておくこと	0.5 h
6	第4章 循環機能障害がある対象の看護■	1,2	肺循環・体循環と心臓の解剖・生理について読んでおくこと	0.2 5h	テキストを読み、心筋梗塞の患者の特徴と看護をまとめておくこと	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	【担当：福島】 1.心筋梗塞の患者の看護					
7	第4章 循環機能障害がある対象の看護 ■ 【担当：福島】 2..心不全の患者の看護	1,2	右・左心不全の症状を生理学や病態と関連づけまとめておくこと	0.2 5h	心不全の患者の特徴を身体的・心理的・社会的側面からまとめること	0.5 h
8	第5章 造血機能障害がある対象の看護 ■ 【担当：吉田】 白血病患者の看護	1,2	血液の解剖生理について確認しておくこと	0.2 5h	授業資料を読み直し、白血病患者の看護の要点をまとめておくこと	0.5 h
9	第6章 栄養摂取・代謝障害がある対象の看護 ■ 【担当：福島】 肝硬変の患者の看護	1,2	肝臓の解剖生理を確認しておくこと	0.2 5h	授業資料とテキストの関連部分を読み、非代償期肝硬変患者の看護の要点をまとめておくこと	0.5 h
10	第7章 内分泌機能障害がある対象の看護 ■ 【担当：中川】 1.甲状腺機能障害の患者の看護	1,2	大腸の解剖生理を確認しておくこと	0.2 5h	授業資料とテキストの関連部分を読み、大腸がん患者の看護の要点をまとめておくこと	0.5 h
11	第7章 内分泌代謝機能障害がある対象の看護 ■ 【担当：福島】 2.糖尿病の患者の看護	1,2	膵臓の解剖生理と糖尿病について確認しておくこと	0.2 5h	授業資料とテキストの関連部分を読み、糖尿病の患者看護の要点をまとめておくこと	0.5 h
12	第8章 腎機能障害がある対象の看護 ■ 【担当：福島】 慢性腎不全の患者の看護	1,2	腎臓の解剖生理と腎機能について確認しておくこと	0.2 5h	授業資料とテキストの関連部分を読み、慢性腎不全患者の看護の要点をまとめておくこと	0.5 h
13	第9章 脳・神経機能障害がある対象の看護 ■ 【担当：中川】 難病の患者の看護	1,2	難病の定義について確認しておくこと	0.2 5h	授業資料とテキストの関連部分を読み、難病の患者の看護の要点をまとめておくこと	0.5 h
14	第10章 終末期にある対象の地域包括ケア・退院支援 ■ 【担当：吉田】	3	緩和ケアについて成人看護学概論と成人看護学方法論Ⅱの授業資料を読んでおくこと	0.2 5h	授業資料を読み直し、緩和ケアを受ける対象の退院支援について要点をまとめておくこと	0.5 h
15	まとめ 【担当：吉田】	1,2, 3	授業資料から第1～14回までの要点を確認しておくこと	0.2 5h	授業内容を全般的に振り返り、到達目標に向け体系的に要点をまとめておくこと	0.5 h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

- 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- 履修条件
「成人看護学概論」を履修していること。
- ルール
課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きのみとする。
- 授業の進め方

- 1) 教材として、テキストと最新の情報も含め教員が作成した授業資料を使用する。
- 2) 授業方法は、講義内容の要点について、事例を用いながら講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。
- 3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

■ : 実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

成人看護学演習A

英文名：Adult Nursing Practice A

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング：NRS216・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

吉田久美子・石田順子・砂賀道子・福島直子・小野千沙子・中川裕・石下綾乃

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①成人期の発達段階や健康レベルにおける特徴を考慮し、臨床判断能力の育成も含め、看護理論などを活用した看護過程の展開方法について習得する。

②オムニバス形式で講義と演習を組み合わせ実施する

到達目標

- 急性期・回復期における対象の特徴を考慮し、看護理論を活用し看護過程を展開できる。■
- 慢性期における対象の特徴を考慮し、看護理論などを活用し看護過程を展開できる。

使用教材

参考文献 ^

各授業で紹介する

評価方法 ^

参加状況20点（20％）・レポート80点（80％）で評価する。
総合評価60点（60％）以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

学習課題のフィードバックは、構造的に要点を記載した資料で振り返ることができるよう配付する。
個人レポートには、学習内容で確認すべき点などコメントして返却する。

オフィスアワー ^

月曜日1～4限 （4号館405研究室）

メールアドレス（#→@） ^

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	成人看護学における看護過程 1 【講義】 ■ Ⅰ.看護専門職における看護過程の目的と重要性 Ⅱ.問題解決思考としての各プロセス Ⅲ.プロセスの概要 1.クラスタリングと各パターンの分析方法 2.分析結果を統合した全体像における看護問題のとらえ方	1,2	ゴードンの機能的健康パターンについて、各パターンの焦点と各パターンで問題へつながりやすい主要な看護診断ラベルの定義について読んでおくこと	0.2 5h	第1回の授業資料を読み、第1回の授業目標に対する学びを整理しておくこと	0.5 h
2	成人看護学における看護過程 2 【講義】 ■ Ⅲ.プロセスの概要 3.看護問題の種類に応じた表現と、各種類に対応する患者目標の表現 4.患者目標に向け必要な3種類の看護計画の着眼点と表現方法 5.看護計画から実施、評価の方法 6.プロセス全体における一貫性	1,2	第1回の授業資料を読み、特に授業資料にある要点を確認しておくこと	0.2 5h	第2回の授業資料を読み、成人看護学の看護過程の要点について確認しておくこと	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程 1【講義・演習】■ 1. 事例紹介 2. 手術・麻酔侵襲と急性期のアセスメントの視点	1	第1～2回の講義資料を読む、成人看護学方法論Ⅰの「手術侵襲」の講義資料を読む	0.2 5h	事例について情報を整理する	0.5 h
4	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程2 【講義・演習】■ 術後合併症予防と回復期に向けたアセスメントの視点	1	事例の疾患、術式、術後合併症について調べる	0.2 5h	術後合併症予防と術後の回復について整理する	0.5 h
5	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程 3【講義・演習】■ 急性期特有の看護診断・共同問題と優先順位	1	第3回・4回の講義を踏まえ個人でアセスメントを進めておく	0.2 5h	問題リストの作成と、共同問題について要点を整理する	0.5 h
6	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程 4【講義・演習】■ 関連図①（全体像の示し方、病態から手術・麻酔、術後合併症を踏まえて作成する）	1	アセスメント・問題リストを進めておく	0.2 5h	講義を踏まえて関連図を作成する	0.5 h
7	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程 5【講義・演習】■ 関連図②（手術・麻酔、術後合併症、退院後の生活を見据えて全体を統合する）	1	関連図を進めておく	0.2 5h	講義を踏まえて関連図を作成する	0.5 h
8	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程 6【講義・演習】■ 看護計画①術後患者の看護問題・共同問題に対応した目標設定 看護問題・共同問題の具体策のポイント	1	今までの講義資料と自己の課題を見直しておく	0.2 5h	講義を踏まえて看護計画を進める	0.5 h
9	第2章 急性期・回復期にある対象の看護過程 7【講義・演習】■ 看護計画②退院後を見据えた看護計画 計画の評価と修正	1	今までの講義資料と自己の課題を見直しておく	0.2 5h	講義を踏まえて看護計画を作成する	0.5 h
10	第3章 慢性期にある対象の看護過程 1 【演習】■ 1.慢性疾患患者の特	2	第1回～第2回の授業資料を読み直しておくこと	0.2 5h	本時の目標に対する課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	徴と、健康知覚-健康管理パターンの情報と分析の意味 2.慢性疾患患者の身体的変化を考慮した各パターンの注目の仕方					
1 1	第3章 慢性期にある対象の看護過程 2 【演習】 ■ 3.慢性疾患患者における11パターンの分析に必要な知識 4.慢性疾患患者の身体的回復に向けた分析の着眼点と方向性	2	第10回の授業資料を読んでおくこと	0.2 5h	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	0.2 5h
1 2	第3章 慢性期にある対象の看護過程 3 【演習】 ■ 5.慢性疾患患者の分析結果の統合と全体像 6.慢性疾患患者の全体像から導き出す看護問題	2	第11回の授業資料を読んでおくこと	0.2 5h	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	0.5 h
1 3	第3章 慢性期にある患者の看護過程 4 【演習】 ■ 7.慢性疾患患者の看護問題の種類と表現 8.慢性疾患患者の看護問題に対応した患者目標	2	第12回の授業資料を読んでおくこと	0.2 5h	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	0.5 h
1 4	第3章 慢性期にある患者の看護過程 5 【演習】 ■ 9.慢性疾患患者の将来像と、患者目標の段階的設定 10..慢性疾患患者の個別性を考慮した看護計画の立案	2	第13回の授業資料を読んでおくこと	0.2 5h	課題と授業資料を関連づけ読んでおくこと	0.5 h
1 5	第3章 慢性期にある患者の看護過程 6 【演習】 ■ 11.慢性疾患患者の看護計画の実践における配慮 12.実践と評価の関連づけと、一連のサイクル	2	第10～14回の授業資料の要点を読んでおくこと	0.2 5h	第10～14回の授業資料の要点をまとめておくこと	0.5 h

合計時間（予習・復習）

11.25h



1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。

2.履修条件

この科目は「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していること。

3.ルール

課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きとする。

4.授業の進め方

1)教材として、最新の情報も含め教員が作成した授業資料を主に使用する。。

2)授業方法は、講義内容の要点について、事例を用いながら講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。

3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

4)オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途連絡する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

成人看護学演習B

英文名 : Adult Nursing: Assessment and Skills B
科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学
科目ナンバリング : NRS217・B
学年 : 2年
開講期 : 後期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 演習
学位授与方針との対応 :
比重 DP
2 人間理解と倫理観
6 論理的思考力・問題解決力
1 チームの一員としての協調・協働
0 国際理解
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

砂賀道子・吉田久美子・石田順子・福島直子・小野千沙子・中川裕・石下綾乃

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①成人期にある対象の各健康レベルにおける特徴をふまえ、根拠に基づいた看護援助を行うために必要な知識・技術を習得する。
②グループワークを取り入れながら、事前学習、演習実施、振り返りと一連のシミュレーション教育の流れに沿って実施する。

到達目標

- 1.急性期・回復期にある対象の身体的状況と回復状態をアセスメントするための観察技術と術後合併症の予防、および早期回復に向けた看護援助方法を実施できる。■
- 2.急性期・救急看護において必要な心肺蘇生法を実施できる。■
- 3.慢性期にある対象の検査・治療に伴う看護援助を、状態を考慮しながら実施できる。
- 4.慢性期にある対象のセルフケアを促す看護援助を、計画に基づき実施できる。
- 5.終末期にある対象の症状の緩和を考慮し、日常生活援助が実施できる。

使用教材

【急性期・回復期】

1. 「術後観察演習ノート」
2. BLSマニュアル、CPRに関するDVD等
- 3.最新のマニュアル・研究データに基づいた内容を含めた講義・演習資料を配布する。

【慢性期・終末期】

授業に必要な資料を配布する。

授業内容には関係学会などの最新の知見、AHA（American Heart Association）の最新ガイドラインからの情報を含める。

参考文献

授業時に学習内容に適した文献を紹介する。

評価方法

定期試験60点（60％）、参加状況と演習レポート40点（40％）で評価する。

総合評価60点（60％）以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

1. 毎回の授業時に構造的に学習内容を記載した資料を配付する。
2. 演習を実施した際には自己評価と感想などのレポートを課す。
レポートに関してはコメントを付して返却する

オフィスアワー

火曜日1～4限（5号館404研究室）

メールアドレス（#→@）

sunaga#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（演習の進め方、術後観察ノートの活用、事前学習等） 【急性期・回復期】術後観察①＜演習＞：術後合併症の観察項目と観察ポイント■	1	成人看護学方法論Ⅰの「第6回・第7回 術後の看護」の講義資料を読む。	0.2 5h	配布した術後観察ノートを参考に観察項目とアセスメントの視点を明確にする。	0.5 h
2	【急性期・回復期】術後観察②＜演習＞：早期離床のケア計画立案■	1	早期離床のメリットなどについて教科書 急性期看護Ⅰ（P146～148）を読む。	0.2 5h	術後患者の特徴を理解し、早期離床のケア計画を作成する。	0.5 h
3	【急性期・回復期】術後観察③＜演習＞術後合併症の観察とアセスメント■	1	術後合併症ごとの観察項目を挙げ、観察方法を調べておく。	0.2 5h	演習の振り返りをレポートに記載する。	0.5 h
4	【急性期・回復期】術後観察④＜演習＞ 術後早期離	1	早期離床のケア計画が実施できるようシミュレーションをして	0.2 5h	演習後の振り返りを行い、ケア計画を完成させ	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	床の援助■		おく。		る。	
5	【急性期・回復期】一次救命処置（BLS）①＜講義＞：一次救命処置（BLS）とその一連の流れ■	1,2	教科書 急性期看護Ⅱの第Ⅸ章を読む	0.2 5h	BLSの流れとCPRの実際について要点を整理する	0.5 h
6	【急性期・回復期】一次救命処置（BLS）②＜演習＞：心肺蘇生法（CPR）の実際	2	演習資料を読みCPRのアルゴリズムを確認する	0.2 5h	実施したCPRについて要点を整理する	0.5 h
7	【急性期・回復期】一次救命処置（BLS）②＜演習＞：心肺蘇生法（CPR）の実際	2	演習資料を読みCPRのアルゴリズムを確認する	0.2 5h	実施したCPRについて要点をまとめ自己の課題を記述する	0.5 h
8	【慢性期】循環器系に障害がある対象の看護 心筋梗塞の患者の身体状態の観察と記録・報告	3	成人看護学方法論Ⅱ「心筋梗塞の患者の看護」の授業資料を活用し、病態、症状、観察項目を関連づけ整理する。	0.2 5h	観察した内容の解釈を記載する。	0.5 h
9	【慢性期】循環器系に障害がある対象の看護 心筋梗塞で標準12誘導心電図検査を受ける患者の観察と援助	3	演習資料を読み、標準12誘導心電図検査の手順を確認する	0.2 5h	標準12誘導心電図検査を受ける患者の援助の要点をまとめる。	0.5 h
10	【慢性期】内分泌代謝機能に障害がある対象の看護： 糖尿病の患者のセルフケアを促す看護① 自己血糖測定の実際	4	演習資料を読み、自己血糖測定の方法を理解する。	0.2 5h	自己血糖測定のポイントを整理する。	0.5 h
11	【慢性期】内分泌代謝機能に障害がある対象の看護： 糖尿病の患者のセルフケアを促す看護② 教育支援案の作成	4	演習資料を読み、患者教育支援の演習目標と課題を確認する。	0.2 5h	自己血糖測定の教育支援のポイントを整理する。	0.2 5h
12	【慢性期】内分泌代謝機能に障害がある対象の看護： 糖尿病の患者のセルフケアを促す看護③ 患者教育支援のロールプレイ	4	演習資料と第11回に学習した教育支援のポイントを読む。	0.2 5h	患者教育支援のロールプレイから、支援方法の要点と自己の課題を記述する	0.5 h
13	【終末期】 エンドオブライフケア・緩和ケアを受けるがん患者を対象に疼痛のアセスメントと援助	5	成人看護学方法論Ⅱ 3回目の授業資料 緩和ケアやがん患者の疼痛について読んでくこと。	0.2 5h	がん患者の疼痛緩和に向けた援助の要点をまとめる。	0.5 h
14	【終末期】 エンドオブライフケア・緩和ケアを受けるがん患者を対象に、エネルギーの消耗を最小限にした日常生活援助	5	成人看護学方法論Ⅱ 3回目の授業資料 緩和ケアを受けるがん患者の特徴を読み直してくこと。	0.2 5h	がん患者の状態を考慮し、エネルギーの消耗を最小限にした日常生活援助の要点をまとめる。	0.5 h
15	【まとめ】	1,2, 3,4, 5	今までの演習資料、関連する資料を見直す	0.2 5h	演習内容を振り返り、それぞれの看護援助・技術の要点をまとめる	0.5 h

合計時間（予習・復習）



11.25h

備考



●後期（後半 2コマ続き）

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。

2.履修条件

「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していること。

3.ルール

1) 課題としてレポートの提出を求めることがあるが、指示に従い手書きあるいはC-learningとする。

2) 事前課題は必ず行い、演習に臨むこととする。

4.授業の進め方

1)教材として、主に教員の作成する講義・演習資料と視聴覚教材、シミュレーション教材などを使用する。

2)演習方法は1)をふまえ、その内容の要点を説明し、デモンストレーションを行いグループで学習を行う。

質問などに対しても具体的な説明をする。

3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

セルフケア論

英文名 : Self-care Theory in Nursing

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング : NRS218・B

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

吉田久美子

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院で勤務した経験を有する

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①慢性疾患がある対象にセルフケアと関連する理論について理解し、対象のセルフケアを促進するための看護の方法について習得する。

②主に講義形式で進め、一部学習内容に応じ演習形式を取り入れ行う。

到達目標

1. 慢性疾患がある対象に活用するセルフケアと関連する理論について説明できる。■
2. 対象のセルフケアを促進するための看護の方法について説明できる。■

使用教材

毎回の授業時に学習内容を構造的に記載した資料を配付する。

評価方法

小テスト90点（90％）、参加状況とレポート10点（10％）の割合で、総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ①レポートにはコメントなどを付けて返却する。
- ②筆記試験前に学習内容の要点と予習・復習の意図を関連付け資料によって示す。

オフィスアワー

月曜日1～3限 （4号館405研究室）

メールアドレス（#→@）

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	第1章 セルフケアの基本 1.セルフケアの定義と関連する理論 ■	1	アンドラゴジーと自己効力感理論について、成人看護学概論のテキストを読んでおくこと。	1.5h	授業資料を読み要点を確認しておくこと	1.5h
2	第1章 セルフケアの基本 2.オレムのセルフケア理論 ■	1,2	セルフケアについて成人看護学概論のテキストを読んでおくこと。	1.5h	授業資料を読み要点を確認しておくこと	1.5h
3	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 1.慢性疾患患者のセルフケアを促進する看護の方法 ■	1,2	第1回目・2回目の授業資料を読み直しておくこと	1.5h	授業資料のポイントを確認しておくこと	1.5h
4	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 2.がんとともに生きる患者のセルフケアを支える看護 ■	1,2	緩和ケアの定義と主なサービスについて、成人看護学概論の授業資料を読んでおくこと。	1.5h	がん患者のセルフケアを支援する看護の要点をまとめておくこと。	1.5h
5	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 1-1リハビリテーション看護を基盤にした看護の方法 ■	1,2	第1回～第2回の授業資料を読んでおくこと	1.5h	第5回の授業資料を読み直し、要点を確認しておくこと	1.5h
6	第2章 セルフケアを促進する看護の方法 1-2.リハビリテーション看護を基盤にした看護の方法 ■	1,2	第5回の授業資料を読んでおくこと	1.5h	ADLの支援を中心にリハビリテーション看護の要点をまとめ確認する。	1.5h
7	【まとめ】	1,2	第1～6回の授業資料の要点を読んでおくこと	1.5h	第7回の授業資料の課題に取り組むこと	1.5h
8	【まとめ・小テスト】	1,2	第1～7回の授業資料の要点を読んでおくこと	1.5h	第8回の授業資料の課題に取り組むこと	

合計時間（予習・復習）

24h

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。

2.履修条件

この科目は「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

3.ルール

課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きのみとする。

4.授業の進め方：

1)教材として、テキストと最新の情報を含め教員が作成した授業資料を使用する。

2)授業方法は、講義内容の要点について、事例を用いながら講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。

3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

5.その他

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

成人・老年看護学実習 I

英文名 : Adult&Elder Nursing: Practicum I

(Acute Care・Convalescent Care)

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング : NRS310・C

学年 : 3年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

砂賀道子 小野千沙子 石下綾乃

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

急性期・回復期に問題のある成人・老年期の対象を総合的にとらえ、健康障害からの回復と社会復帰に向けた看護を学習する。また、地域ケアシステムの視点から退院後の生活を踏まえたセルフケアを高めるための指導及び支援について学習する。

期間は、2週間とする。7日間を臨地実習、3日間を学内実習とする。

到達目標

- 急性期・回復期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を述べるができる。■
- 対象の看護上の問題を把握し、解決に向けて看護計画を立案、実施、評価できる。■

3. 対象のストレスとコーピング、またはボディイメージ変化の受容、喪失と悲嘆のプロセスに対し必要な援助を行うことができる。■
4. 急性期にある対象の著しい身体的変化とそれに伴う心理的状态をとらえ、必要な援助を行うことができる。■
5. 回復期にある対象の回復段階を踏まえ、心身の回復や社会復帰に向けた援助を行うことができる。■
6. 急性期・回復期に携わる医療チームの役割と連携について述べることができる。■
7. 必要な社会資源の活用や継続支援の方法について述べることができる。

使用教材

1. 成人・老年看護学実習Ⅰの実習要項
2. 成人看護学方法論Ⅰで使用したテキストおよび講義資料、術後観察ノート
3. 看護診断ハンドブック（医学書院）

参考文献

適宜紹介する。

評価方法

急性期・回復期にある患者を受け持ち看護過程を展開し、受け持ち患者に応じた看護を行う。 実習評価表に基づき評価を行い、実習目標の達成70%、実習の態度（カンファレンス参加度も含む）20%、出席10%とし、総合評価 60点以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習期間中の記録等については、その都度、担当教員からのコメントを付して返却する。
追加・修正された箇所においても担当教員がコメントする。
カンファレンス等においては、指導者・担当教員および成人看護学Ⅰの教員がコメントするとともに、学生間で共有する。

オフィスアワー

金曜日（404研究室 砂賀）

メールアドレス（#→@）

sunaga#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	I.実習内容 急性期または回復期の健康障害を持つ患者を受け持ち、受け持ち患者の看護過程を展開し、看護計画に沿った援助を提供する。また、受け持ち患者と関連する病棟以外の部門（手術、ICU、透析等）において見学実習を行う。受け持ち患者が治療により受ける侵襲を理解し、その心身の回復に向けた援助につなげる。 カンファレンス（グループ・全体）を行い、学びを深める。 看護過程記録、事前レポート、終了時レポート等に記録を行う。 II.実習計画 実習は、2週間のうち7日間は病院実習を行う。3日間は、学内で学びを深めるためのカンファレンスを通して、意見交換を行う。そして、2週間を通して、学んだことを体系		急性期・回復期実習に必要な知識（事前学習課題）について学習する。 受け持ち患者の疾患レポートを作成する。 実習の目標を達成するために学習計画を立てる。 手術見学等を行う場合	適宜	実習で指導を受けたことを踏まえ、病院実習の中で得られた情報をもとに、受け持ち患者記録を整理する。また、整理した記録から対象に必要な援助及び日常生活指導や退院指導を導き出し、準備を進めていく。 手術見学やICU（HCU）見学を行った時は、学びを見学レポートにまとめる。 日々の実習を考察し、提出レポート等の記録をまとめる、	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	的にまとめ、地域包括ケアを踏まえ、今後必要となる社会資源の活用や継続支援について記述する。		は、見学願 いを作成する。			

合計時間（予習・復習）

実習期間中適宜

^

備考

1. 指導体制

- ・1グループ5～6名の学生に教員1名と病院の指導者1名がついて、指導を行う。
- ・学生が受け持ち患者の看護問題を導き出す過程では、事前学習や疾患レポート等を用いて指導を行う。
- ・看護ケアを施行する時は、学生の知識を確認し、ケアを提供する。
- ・実務経験をふまえた指導を行う。

2. ルール

- ・体調管理に留意し、必要時、担当教員に相談・報告する。
- ・記録やメモ帳に患者の個人情報に記載しない。
- ・記録物の取り扱いには十分な注意を払う。（決められた場所以外での記録を禁ずる）

3. 履修要件

受講するためには臨地実習科目の履修承認基準を満たしていることが必要となる。

4. その他

実習方法が変更になる場合には、具体的な学習方法について別途連絡する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

成人・老年看護学実習Ⅱ

英文名：Adult&Elder Nursing: Practicum II (Chronic Care・Palliative Care)

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング：NRS311・C

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

石田順子・福島直子・中川裕

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院で勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①慢性疾患がある対象のQOLの向上に向け、対象の特徴をふまえセルフケアを支援するための看護を修得する。

②10日間の実習期間とし、8日間を臨地実習、2日間を学内実習とする。

到達目標

- 1.慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的状況をふまえ特徴を説明する。■
- 2.アンドラゴジーを活用し、対象に適したセルフケアを捉え援助する。■
- 3.対象の日常生活行動の援助について、状態に適した方法を計画し援助する。■
- 4.検査や治療について、目的や方法と身体的および心理的な影響をふまえ援助する。■

- 5.慢性期にある対象のOQLの向上に向けた看護について記述する。
- 6.課題について主体的に取り組み、協調性や責任感と倫理観を養い、看護師として望ましい態度で援助を実施する。

参考文献 ^

授業で紹介する。

評価方法 ^

受け持ち患者への援助の状況をもとに適宜面接を行い、最終的に評価表で実習目標への達成度を評価する。総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

病棟実習期間中は、実習記録に対し担当教員よりコメントを付しフィードバックする。

習熟度の向上に向け、追加修正された箇所についてもコメントする。

カンファレンスで課題について共有し、課題に対する理解を深める。

オフィスアワー ^

金曜日（4号館403研究室）

メールアドレス（#→@） ^

jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	1.実習期間および実習場所 実習期間は2週間で、実習場所は一般病院あるいは専門病院の病棟で2週間（1日8時間、週4日）、学内実習を毎週金曜日に行う。 2.実習内容 1)病棟実習 慢性期にある患者を受け持ち、身体的・心理的・社会的特徴を考慮しながら看護過程を展開し、適した看護を実践する。特に、アンドラゴジーを活用し、対象に必要なセルフケアを捉え援助する。また、日常生活行動の援助が必要な対象に対しては状況に応じ健康を促進する方法を選択し実施する。さらに、検査や治療に伴う看護を学習し、可能な範囲について実施する。 3)学内実習 到達目標に対して病棟実習や治療室実習で経験し学習した内容を体系的にまとめ発表し、意見交換を行う。そして、各自の慢性期および終末期にある対象のQOLの向上に向けた看護について考察し記述する。 4)実習の全体において 実習期間中は、課題について主体的に実習に取り組み、協調性や責任感、倫理観を養い、看護師としての態度を養うよう心がける。	I ～6	慢性疾患患者の特徴や、受け持ち患者に関する疾患や看護について学習する。		実習で指導を受けたことをふまえ、受け持ち患者記録を記載し追加修正する。 病棟実習で得た経験からの学びなど記録の準備など計画的に進める。 学内実習で得た学びなどを記録し、提出レポートなど記録物をまとめる。	

備考 ^

- 1.授業の進め方
- 1)病棟実習と学内実習において、個々の学生が主体的に学習できるよう個別にサポートする。
- 2)既習の知識や技術を活用しながら実習目標に向かうことが出来るよう、臨床指導者と協力体制を整え指導する。

3)看護者として求められる態度についても、協調性や責任感、倫理観など総合的に育成できるよう支援する。

2.履修条件

受講するためには臨地実習科目の履修承認基準を満たしていることが必要となる。

3. ルール

全体要項に記載してある実習方法などに準じる。

4.その他

1)必要な基礎的知識を備え実習にのぞむことができるよう、実習前演習などに出席すること。

2)病棟実習中は「日々の記録」と「受け持ち患者記録」などの記録を病棟指導者の助言などもふまえ記載できるように教員がサポートする。

3)学内実習では病棟実習の経験をふまえ資料作成などを計画している。そのため、「成人看護学概論」や「成人看護学方法論Ⅱ」、「成人看護学演習A」「成人看護学演習B」「セルフケア論」で学習した理論や概念を活用するため復習しておくこと。

4)オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途連絡する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

成人・老年看護学実習Ⅲ

英文名：Adult&Elder Nursing: Practicum Ⅲ:(Admission/discharge support and outpatient care)

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・成人看護学

科目ナンバリング：NRS312・C

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

砂賀道子、福島直子、小野千沙子、中川裕、石下綾乃

科目に関連した実務経験

看護師として大学病院等で勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域包括ケアの視点から、成人・老年期にある対象の入退院支援や通院治療に伴う看護について学習する。

②5日間の実習期間とし3日間を臨地実習、2日を学内実習とする。

到達目標

1. 入院治療が必要な対象（家族を含む）に対し、地域包括ケアの視点から入院および退院に向けて行われる支援および看護について記述することができる。■

2. 通院治療を受ける対象が抱える問題をとらえ、地域包括ケアの視点から看護のあり方について記述することができる。■

使用教材



①藤澤まこと編：『ナースが行う入退院支援 患者・家族のその人らしく生きるを支えるために』 メヂカルフレンド社をテキストとする。

②成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、在宅看護学概論等の講義資料、上記講義で使用した教科書、その他の参考書も使用する。

参考文献



関連する科目の講義資料

地域包括ケア、入退院支援、通院治療に関する参考書等

評価方法



病院実習、学内カンファレンス・発表会への参加度、記録内容（事前学習、行動記録、レポート等）について評価表を用いて評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



事前課題、実習記録等において、担当教員からのコメントを付して返却する。

カンファレンスや発表会等においては、担当教員および成人看護学の教員がコメントする。

オフィスアワー



金曜日2～4限（5号館404研究室）

メールアドレス（#→@）



sunaga#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習内容 1. 入退院支援 1) 地域の医療機関や福祉関係者と連携し、入院の受け入れと退院に向けた支援を行うための機能・役割について説明を受ける。 2) 地域の医療機関や福祉関係者と連携し、入院の受け入れと退院に向けた支援の実際を見学し、入院または退院に向けた支援を受けている対象とコミュニケーションを図る。■ 2. 通院治療室看護 1) 通院で行われている治療とその看護について説明を受ける。 2) 通院で行われている治療とその看護について見学し、通院で治療を受けている対象とコミュニケーションを図る。 実習計画 実習は1週間である。臨地実習は3日間とし、2日は学内で学びを深めるためのカンファレンス、事後課題の作成を行う。	1,2	事前学習課題 実習病院（関連施設を含む）の概要をホームページ等で調べる。 これまでの学習(講義資料等)を振り返り、「入退院支援」、「通院治療（外来化学療法、透析療法、放射線治療）」「継続看護」「地域包括ケアシステム」について整理する。	適宜	・実習での学びを実習目標に照らし合わせて考察し、自己の考えを記述する。	適宜

備考



- 指導体制
 - ・基本的には1グループ5名の学生を教員が担当する。
 - ・実習目標の達成に向けて、各部署の指導担当者が講義や説明を行う。
- 履修条件

臨地実習科目の履修承認基準を満たしてしていることが必要となる。
- ルール
 - ・体調管理に留意し、必要時、担当教員に相談・報告する。
 - ・記録やメモ帳に患者の個人情報に記載しない。
 - ・記録物の取り扱いには十分な注意を払う。（決められた場所で行う）
- その他
 - ・各部署での実習に必要な事前学習を必ず行い、実習に臨むこと。
 - ・カンファレンスには積極的な態度で参加すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

老年看護学概論

英文名：Introduction to Gerontological Nursing
科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学
科目ナンバリング：NRS118・B
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
 比重 DP
 2 人間理解と倫理観
 6 論理的思考力・問題解決力
 1 チームの一員としての協調・協働
 0 国際理解
 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

梅原里実、内田真理子、星河純子

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務、認知症看護認定看護師として活動

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中にワークシートを活用し意見交換や振り返り、質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

老年看護の対象者である高齢者を、身体的側面や心理的側面、社会・生活背景などから多角的に理解する。また、高齢者のヘルスプロモーションを支援する看護の役割と、その人らしさを支える看護や高齢者の尊厳の保持について学ぶ。

②講義の実施方法
講義及びグループワークを取り入れた演習形式で実施する。

到達目標 ↑

- 1. 「老いること」、「老いを生きること」について老年期の発達課題をふまえて説明できる。■
- 2. 超高齢社会の現状と高齢者の権利擁護などに関する社会保障について説明できる。■
- 3. 高齢者のヘルスアセスメント(ヘルスアセスメントの基本、身体の高齢変化とアセスメント)について説明できる。■
- 4. 老年期にある人の意思決定支援における課題について説明できる。■
- 5. 高齢者体験を通して、高齢者の身体的変化や心理的不安、日常生活への影響や危険を知り必要な支援について考察できる。
- 6. 老年看護の役割と責務について考察できる。■

使用教材 ↑

教科書：北川公子（他）：系統看護学講座専門分野老年看護学, 2025, 医学書院,2,700円（税別）
講義用資料は最新の知見を含め随時配布する。

参考文献 ↑

泉キヨ子、小山幸代（著）：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術,.2023,メヂカルフレンド社
堀内ふくら（編著）：ナースンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害,2022,メディカ出版
堀内ふくら（編著）：ナースンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践,2022,メディカ出版
小木曾加奈子著：地域包括ケアにおける高齢者に対するシームレスケア.2019,学文社
奥宮暁子編著：ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版.2019,医歯薬出版株式会社
山田律子：生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図第4版,2020,医学書院

評価方法 ↑

筆記試験65%、課題レポート25%、授業参加度・学習態度で10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

提出されたレポート内容に関し、授業時間を用いて講評やコメントをする。

オフィスアワー ↑

質問や学習相談は授業開始前、もしくは終了時に応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

梅原（umehara#takasaki-u.ac.jp） 内田（uchida-m#takasaki-u.ac.jp） 星河（hoshikawa#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「老いを生きること」、老年期における発達課題、諸理論 ■	1	教本の第1章A,B,C第3章A,B,Cに目を通す。	1h	配布資料の復習。	2h
2	超高齢社会と社会保障（介護保険福祉システム、権利擁護コミュニケーション） ■	1,2	教本の第2章A,B,C に目を通す。	1h	教本と配布資料の復習。	2h
3	高齢者のヘルスアセスメント①（身体の高齢変化とアセスメント） ■	1,2,3	教本の第4章Aに目を通す。	1h	教本と配布資料の復習。	2h
4	高齢者のヘルスアセスメント②（身体の高齢変化とアセスメント） ■	1,2,3	教本の第4章B①,②に目を通す。	1h	教本と配布資料の復習。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	高齢者のヘルスアセスメント③（身体に加齢変化とアセスメント）■	1,2,3	教本の第4章B③,④,⑤に目を通す。	1h	教本と配布資料の復習。	2h
6	高齢者のヘルスアセスメント④（身体に加齢変化とアセスメント）■	1,2,4	教本の第4章B⑥,⑦,⑧に目を通す。	1h	教本と配布資料を復習。	2h
7	高齢者体験	1,5	教本の第4章B②,⑧ 第5章A①に目を通す。	1h	配布資料を復習し演習の振り返りを行いワークシートを作成する。	2h
8	高齢者の尊厳、高齢者の健康とヘルスプロモーション、ICF、老年看護の役割・責務■	1,2,3,6	教本の第3章D, 第5章－G,H, 第9章Aに目を通す。今までの学習内容を振り返り疑問点等を整理する。	1h	教本と配布資料の復習。	2h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



■実務経験に基づき授業を進める

①学生の質問や意見を適宜受ける

②事例や視聴覚教材を用いて講義する

- ・オンラインにて実施する場合：対面授業と同様の内容をC-Learnigにて行う。
- ・出席登録方法：対面授業の場合は、C-Learnigの出席管理にて行う
- ・オンラインの場合は、上記に加え、アンケートまたは小テストと合わせて実施する

印刷

老年看護学方法論

英文名：Gerontological Nursing: Assessment and Skills

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学

科目ナンバリング：NRS219・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

梅原里実、内田真理子、星河純子

科目に関連した実務経験

看護師として病院勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○			○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

高齢者に特徴的な疾患や健康障害により援助を必要とする要介護高齢者など、さまざまな健康レベルに応じた高齢者の障害や症状に応じた看護の方法を習得する。

②講義の実施方法

講義および演習にて実施する。

到達目標



1. 加齢変化による生活機能への影響をふまえ高齢者の生活機能を整える看護について説明できる。■
2. 検査・治療を受ける際に加齢に伴うリスクと看護について考察できる。■
3. 認知機能障害の特徴と認知機能障害のある高齢者の看護について説明できる。■
4. 高齢者に特徴的な疾患の病態をふまえた高齢者の看護について説明できる。■

使用教材



[1] 系統看護学講座専門分野老年看護学:北川公子,医学書院,2024
[2] 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術:泉キヨ子・小山幸代,メヂカルフレンド社,2023
最新の知見を含めた講義資料を随時プリントして配布する。

参考文献



堀内ふきら編著：ナースングラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害.2022,メディカ出版
堀内ふきら編著：ナースングラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践.2022,メディカ出版

評価方法



筆記試験 85%、レポート（授業参加度・学習態度を含む） 15%

課題・評価に対するフィードバック方法



課題に基づいて提出されたレポート内容について、授業時間を用いて公表やコメントを行う。

オフィスアワー



質問や相談は授業開始前、もしくは終了後に応じる。
その他は金曜日2限にメール等で問い合わせること。

メールアドレス（#→@）



梅原（umehara#takasaki-u.ac.jp） 内田（uchida-m#takasaki-u.ac.jp） 星河（hoshikawa#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者の生活機能を整える看護 1 日常生活を支える基本的活動（転倒予防を含む） ■	1	教科書[1]第5章A 教科書[2]第Ⅱ章 ①-4、第Ⅳ章4に目を通す	1h	加齢による運動機能の低下から起こる生活障害を理解し、高齢者の日常生活を支える基本的活動への援助方法を教科書、配布資料にて復習する。	2h
2	高齢者の生活機能を整える看護 2 食事・食生活 ■	1,4	教科書[1]第5章B 教科書[2]第Ⅲ章 ①、第Ⅳ章 ①に目を通す。	1h	加齢による機能低下から起こる食生活への影響を理解し、高齢者の食生活を支える援助を教科書、配布資料にて復習する。	2h
3	高齢者の生活機能を整える看護 3 排泄 ■	1,4	教科書[1]第5章C 教科書[2]第Ⅲ章 ②、第Ⅳ章 ②、③に目を通す。	1h	加齢による機能低下から起こる排泄への影響を理解し、高齢者の尊厳に配慮した排泄の援助を教科書、配布資料にて復習する。	2h
4	高齢者の生活機能を整える看護 4 清潔 ■	1,4	教科書[1]第4章B ①、第5章D、第6章A ⑧ 教科書[2]第Ⅲ章③に目を通す。	1h	高齢者の清潔を保つ援助、褥瘡の概要と褥瘡を持つ高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2h
5	高齢者の生活機能を整える看護 5 生活リズム ■	1,4	教科書[1]第5章E 教科書[2]第Ⅲ章 ⑤、⑥に目を通す。	1h	加齢による機能低下から起こる生活リズムへの影響を理解し、高齢者の	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					生活リズムを整える援助を教科書、配布資料にて復習する。	
6	高齢者の生活機能を整える 看護6 社会参加、リハビリテーション、ICF■	2	教科書[1] 第3章B、第5章H、第7章D 教科書[2] 第Ⅲ章 ⑥に目を通す。	1h	高齢者の社会参加、リハビリテーションを必要とする高齢者の看護について教科書、配布資料にて復習する。	2h
7	治療を必要とする高齢者の看護 検査、薬物療法を受ける高齢者の看護	4	教科書[1] 第7章A、B 教科書[2] 第Ⅳ章⑥に目を通す。	1h	加齢による薬物動態への影響と支援、検査の支援を教科書、配布資料にて復習する。	2h
8	認知機能障害のある高齢者の看護 1 認知症① 疾患・治療■	3	教科書[1] 第6章 C③ 教科書[2] 第Ⅴ章①に目を通す。	1h	認知症の原因、診断・治療・予防について教科書、配布資料にて復習する。	2h
9	認知機能障害のある高齢者の看護 2 認知症② 日常生活への影響■	3	教科書[1] 第6章C ④、教科書[2] 第Ⅴ章 ④、⑤に目を通す。	1h	認知症の特徴と認知機能低下から起こる生活障害を理解し、認知症高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2h
10	認知機能障害のある高齢者の看護 3 認知症③ 認知症高齢者への対応、認知症高齢者とのコミュニケーション■	3	教科書[1] 第5章F、第6章C⑤ 教科書[2] 第Ⅱ章②、第Ⅴ章 ②、③に目を通す。	1h	認知症高齢者とのコミュニケーションの基本と支援を教科書、配布資料にて復習する。	2h
11	認知機能障害のある高齢者の看護 4 認知症④ 環境調整 パーソンセンタードケア■	3	教科書[1] 第6章 C-Column 教科書[2] 第Ⅴ章①-5に目を通す。	1h	認知症高齢者看護の基本理念と支援を教科書、配布資料にて復習する。	2h
12	認知機能障害のある高齢者の看護 5 うつ・せん妄■	3	教科書[1] 第6章 C-①、② 教科書[2] 第Ⅴ章①-3に目を通す。	1h	うつ、せん妄状態にある高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2h
13	健康逸脱からの回復を促す看護 1 脳卒中、パーキンソン病・パーキンソン症候群■	4	教科書[1] 第6章 B-①、⑥に目を通す。	1h	脳卒中、パーキンソン病の概要と高齢者の特徴、看護を教科書、配布資料にて復習する。	2h
14	健康逸脱からの回復を促す看護2 骨粗鬆症、骨折■	4	教科書[1] 第6章 B-⑨、⑩ 教科書[2] 第Ⅳ章 ④に目を通す	1h	骨粗鬆症・骨折を持つ高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2h
15	健康逸脱からの回復を促す看護3 インフルエンザ、肺炎、逆流性食道炎■	4	教科書[1] 第6章 B-⑦、⑧ 教科書[2] 第Ⅳ章 ①、⑤に目を通す。	1h	インフルエンザ、肺炎、逆流性食道炎の概要と高齢者の看護を教科書、配布資料にて復習する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■実務経験に基づき授業を進める。

①学生の質問や意見を適宜受ける。 ②事例や視聴覚教材を用いて講義する。

オンラインの場合：①講義及び評価方法は対面授業と同様とする。

②課題に対するフィードバックは、C-Learning の協働版および連絡・相談機能などにて行う。

出席登録方法：対面授業の場合は、ポータルサイトまたは C-Learning の出席管理にて行う。

オンラインの場合は、C-Learning の出席管理及び、アンケートまたは小テストなどと合わせて実施する。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

印刷 

老年看護学演習

英文名：Gerontological Nursing Practice

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学

科目ナンバリング：NRS220・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

梅原里実、内田真理子、星河純子

科目に関連した実務経験

看護師として病院勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

CL等を活用して提出された課題にコメントを付す。授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

ヘルスプロモーションの視点でさまざまな健康レベルに応じた高齢者の生活機能全体の向上につながる支援の方法を習得する。

②講義の実施方法

講義と演習（個人およびGW）。

到達目標



- 1.高齢者に特徴的な疾患や症状を抱える高齢者の看護について説明できる。■
- 2.ICFの視点から高齢者の生活機能をアセスメントし、ヘルスプロモーションをふまえたさまざまな健康レベルの高齢者の生活機能全体の向上を目指した高齢者支援の方法を修得する。■
- 3.高齢者の特性をふまえたコミュニケーション技術、脳機能を高める援助技術について考察する。■
- 4.高齢者の尊厳、QOL をふまえたその人らしい日常生活を送るための看護について考察する。■

使用教材



- [1] 系統看護学講座専門分野老年看護学:北川公子,医学書院,2024. 2,700 円+税
[2] 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術:泉キヨ子・小山幸代.メヂカルフレンド社.2024. 3,600 円+税
最新の知見を含めた講義資料を随時配布する。

参考文献



小木曾加奈子著：地域包括ケアにおける高齢者に対するシームレスケア. 学文社,2019, 2,600円+税
奥宮暁子編著：ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版.2019, 医歯薬出版株式会社,2,300円+税
堀内ふきら編著：ナースングラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害.メディカ出版,2022.
堀内ふきら編著：ナースングラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践. メディカ出版, 2022

評価方法



筆記試験 60%、レポート 20%、グループワーク（演習参加度・学習態度を含む）20%

課題・評価に対するフィードバック方法



課題に基づいて提出されたレポート内容について、授業時間を用いて公表やコメントを行う。事例検討においては、発表会資料を配布し、発表会においてコメントする。

オフィスアワー



質問や相談は授業開始前、終了後に受ける。その他には金曜日 2 限 にメール等で問い合わせのこと。

メールアドレス（#→@）



梅原（umehara#takasaki-u.ac.jp） 内田（uchida-m#takasaki-u.ac.jp） 星河（hoshikawa#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康逸脱からの回復を促す看護 1 バイタルサイン、脱水、浮腫、スキンケア ■	1	教科書[1] 第 6 章 A-①、④、⑥、⑧ [2] 第Ⅱ章 1 -③に目を通す。	0.2 5h	教科書、配布資料を復習する。	0.5 h
2	健康逸脱からの回復を促す看護2 嘔吐（感染性胃腸炎）、尿路感染症、掻痒、白癬 ■	1	教科書[1] 第5章D- ② 第 6章 A-③、⑤に目を通す。	0.2 5h	教科書、配布資料を復習する。	0.5 h
3	高齢者・認知症高齢者とのコミュニケーションの支援と実際 PCCとユマニチュード ■	1,2	教科書[1] 第5章 F-1①～③、第6章 C-⑤ 教科書[2] 第Ⅱ章②第5章①-5に目を通す。	0.2 5h	教科書、配布資料を復習する。	0.5 h
4	認知症予防：脳活性化リハビリテーション 高齢者施設におけるアクティビティ ケア演習① ■	1,2	教科書[2] 第Ⅲ章⑥に目を通す	0.2 5h	教科書、配布資料を復習する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	高齢者施設におけるアクティビティケア演習② ■	1,2	教科書[2] 第Ⅲ章⑥に目を通す	0.2 5h	全体発表の内容を振り返る。	0.5 h
6	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開① オリエンテーション	1,2, 4	教科書[1] 第 3 章 B-②、第9章に目を通す。	0.2 5h	GWでの学びの整理を行い、次回のGWの準備に反映する。	0.5 h
7	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開② 情報収集と情報の整理	1,2, 4	教科書[1] 第 3 章 B-②、第9章に目を通す。	0.2 5h	GWでの学びの整理を行い、次回のGWの準備に反映する。	0.5 h
8	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ③ アセスメント 1	1,3	教科書[1] 第 3 章 B-②、第9章に目を通す。	0.2 5h	GWでの学びの整理を行い、次回のGWの準備に反映する。	0.5 h
9	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ④ ニーズの抽出と支援方針の決定	1,3	教科書[1] 第 3 章 B-②、第9章に目を通す。	0.2 5h	GWでの学びの整理を行い、次回のGWの準備に反映する。	0.5 h
10	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ⑤ 支援計画の立案	1,3, 4	教科書[1] 第 3 章 B-②、第9章に目を通す。	0.2 5h	GWでの学びの整理を行い、次回のGWの準備に反映する。	0.5 h
11	ヘルスプロモーションをふまえた高齢者支援の展開 ⑥ 発表	1,3, 4	教科書[1] 第 3 章 B-②、第9章に目を通す。	0.2 5h	教科書、配布資料を復習する。	0.2 5h
12	高齢者看護に必要な基本的看護 1演習：排泄ケア① (おむつ交換等) ■	1,3	教科書[1] 第5章C、D 教科書[2] 第Ⅲ章②、③ 第Ⅳ章② 事前配布資料に目を通す。	0.2 5h	教科書、配布資料を復習する。	0.5 h
13	高齢者看護に必要な基本的看護 1 演習：排泄ケア② (おむつ交換等) ■	1,3	教科書[1] 第 5 章 C、D 教科書[2] 第Ⅲ章②、③ 第Ⅳ章② 事前課題に目を通す。ワークシートを作成する。	0.2 5h	演習を通しての学びをワークシートにまとめる。教科書、配布資料を復習する。	0.5 h
14	高齢者看護に必要な基本的看護 2 演習：口腔ケア(義歯の取り扱い等) ■	1,3	教科書[1] 第 5章 B 教科書[2] 第Ⅳ章① 事前配布資料に目を通す	0.2 5h	演習を通しての学びをワークシートにまとめる。教科書、配布資料を復習する。	0.5 h
15	高齢者の尊厳、QOL をふまえたその人らしい日常生活を送るための看護、まとめ	1,2, 3,4	これまでの講義資料に目を通す。	0.2 5h	高齢者の特徴と看護についての学びをまとめる。配布資料を復習する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

■実務経験に基づき授業を進める。

①学生の質問や意見を適宜受ける。 ②事例や視聴覚教材を用いて講義する。

オンラインの場合：①講義及び評価方法は対面授業と同様とする。

②課題に対するフィードバックは、C-Learning の協働板および連絡・相談機能などにて行う。

出席登録方法：対面授業の場合は、ポータルサイトまたは C-Learning の出席管理にて行う。

オンラインの場合は、C-Learning の出席管理、及びアンケートまたは小テストなどと合わせ実施する。

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

成人・老年看護学実習Ⅳ

英文名：Gerontological Nursing Practicum

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・老年看護学

科目ナンバリング：NRS313・C

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

梅原里実、内田真理子、星河純子

科目に関連した実務経験

看護師として病院勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義目標

老年期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、ヘルスプロモーションの視点から生活機能の維持・向上に向けた高齢者支援に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

②講義の実施方法

高齢者施設での臨地実習および学内実習を行う。

到達目標

1. 老年期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題について述べる。■
2. 生活の場におけるヘルスプロモーションをふまえ、老年期にある人々に必要な支援を計画・

実施・評価する。■

3. 高齢者施設の役割と機能・特徴、施設における高齢者支援について述べる。■

4. 老年期にある人々と老年看護の特徴について述べる。■

5. 老年看護に携わる看護学生として、協調性や責任感、態度を修得する。

使用教材

既習の老年看護学領域科目における使用教材および臨地実習要項、成人・老年看護学実習Ⅳ実習要項、事前配布資料

参考文献

小木曽加奈子著：地域包括ケアにおける高齢者に対するシームレスケア.2019,学文社

山田律子：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図.2020,医学書院

評価方法

実習中は適宜面接を行い、最終的に評価表を用いて評価する。

実習参加度・学習態度、実習目標の達成状況、実習記録（事前学習課題を含む）を評価項目とし、評価表において 60 点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習の事前課題、実習記録等を提出期限内に提出した学生には、実習担当者からのコメントを付して返却する。看護援助場面、カンファレンスなどの場でその都度コメントを行う。

オフィスアワー

金曜日 2 限、3 限

不在時はメール等で対応する。

メールアドレス（#→@）

梅原（umehara#takasaki-u.ac.jp） 内田（uchida-m#takasaki-u.ac.jp） 星河（hoshikawa#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	施設実習、学内実習	1,2,3,4,5	事前に提示された学習課題をまとめ、実習で活用できるようにする。事前情報や実習中に得られた情報から実習で必要と予測される項目（演習を含む）について、学習をする。	期間中適宜	日々の得られた情報や学びをもとに、実習記録を整理する。実習での学びをまとめ、自己の記録に反映する。	期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考

・高齢者とのコミュニケーションやケアを行うなかで、臨地実習の指導者とともに看護技術や知識について指導する。

看護実践や記録等の確認・指導を行う。学内実習では、グループワークやCLによる紙面発表を通して、臨地実習の振り返りや情報共有を行いながら、学習を深める。

【自己学習の内容】老年看護学概論および老年看護学方法論、老年看護学演習を復習し、様々な健康レベルにある高齢者への個別的な援助について、学生自らが考え実習で活用できるよう自己学習をしておくことが望ましい。

・実習期間中はその都度、指示されたことや学んだことを書き出すなど、学習内容を整理する必要がある。

・実習科目の単位修得については、実習の規定に準ずる。

オンラインの場合：

①実習はヘルスプロモーションの視点をふまえた高齢者支援の展開を行う。②評価方法は臨地による実習と同様とする。

③課題に対するフィードバックは、C-Learning の協働板および連絡・相談機能などにて行う。

出席登録方法：臨地実習の場合は、直接出席管理を行う。

オンラインの場合は、C-Learning の出席管理、及びアンケートまたは小テストなどと合わせ実施する。

印刷 

小児看護学概論

英文名：Introduction to Pediatric Nursing
科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学
科目ナンバリング：NRS119・B
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 人間理解と倫理観
6 論理的思考力・問題解決力
1 チームの一員としての協調・協働
0 国際理解
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

星野美穂・細谷京子

科目に関連した実務経験

担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、小児専門病院やクリニック等での看護師としての勤務経験を有する。

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格
養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

小児期にある子どもの健康と成長・発達、養育期にある家族、子どもと家族を取り巻く環境を理解し、小児看護の役割を学習する。

②講義の実施方法

看護人間発達学で学習した乳・幼児期、学童期、思春期にある対象の成長・発達に関する学びを活用し、子どもと家族の

特徴および生活 する環境に関する学びを統合した上で、小児看護の役割について教授する。また、教科書、教員が作成した資料・パワーポイント、DVDなどの視聴覚教材を活用し、子どもと家族の特徴や健康課題のイメージ化を図り授業を展開する。知識確認と主体的な学びのために、課題学習や小テストを実施する。

到達目標

^

- 1.小児看護の対象である子どもと家族、環境の特徴、および目標、役割を理解する
- 2.小児看護における子どもの権利とその重要性および倫理的課題を理解する■
- 3.小児・母子保健統計の変遷、小児・母子保健の関係法規および行政施策を理解する
- 4.小児期各期の子どもの成長・発達の特徴を理解する
- 5.小児期各期に生じやすい健康課題と疾病の予防、健康の維持・増進に向けた支援を考察する■
- 6.日本における小児看護の課題および小児看護の役割を考察する■
- 7.グループで協力しながら行う課題学習への参画・貢献するプロセスを通じ、チームの一員として看護職に求められる役割を思考する
- 8.既習の知識を臨床での看護実践に応用・活用するための基本的な学習態度を修得する

使用教材

^

奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院． ￥2,900＋税

舟島なをみ，望月美知代，看護のための人間発達学 第5版，医学書院，2017． ￥3,000＋税

※教科書は、授業および予習・復習において使用する。適宜、授業資料を配布しする。配布資料では最新の知見を紹介する。

参考文献

^

・中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版.

評価方法

^

定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、筆記試験80%、課題20%の配分で、合計60点以上を合格とする。

※オンラインで試験を実施する場合も、上記と同様の方法で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

原則として、対面授業でも、オンライン授業でもレポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じてC-learningを通じてコメント・解説する。

オフィスアワー

^

金曜日1限
5号館5階、504研究室

メールアドレス（#→@）

^

hoshino-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く環境[1] 一小児看護の対象（子ども,家族）と環境一	1,6	教科書1) の第1章－A、Cおよび第7章を精読する	1h	Bronfenbrennerの生態学的環境モデル、小児看護の対象（子どもと家族）と環境の関係、家族のライフサイクルからみた基本的発達課題、家族のおかれている状況と子どもへの影響について整理する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く社会環境[2]—小児看護における子どもの権利と倫理—■	2,6	教科書1) の第1章－Dを精読する。また、新聞や報道等により子どもの権利が脅かされる社会問題または課題について情報収集する。	1h	予習で情報収集した子どもの権利が脅かされる社会問題・課題が生じている経緯や要因を分析するとともに解決するための方策や支援について、自己の考えを考察する。	2h
3	小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く環境[3]—小児保健・母子保健にかかわる健康指標の意義と動向、および関係法規・施策—	3,6	教科書1) の第1章－B、第8章を精読する。	1h	新聞・報道等により、子どもと家族に関する社会問題または課題について情報収集し、その経緯や要因を分析するとともに解決するための方策や支援について、自己の考えを考察する。	2h
4	小児看護の役割／子どもと家族を取り巻く環境[4]—小児看護の目標、役割—■	1, 2, 3, 4, 5,6	教科書1) の第1章－A、Eを精読する。	1h	第1～4回の学習内容をまとめ、小児看護の目標、役割・機能を整理する。 母子健康手帳等を活用し、自己の発育過程を評価し、レポートを作成する。	2h
5	子どもの成長・発達、健康課題と看護[1]：乳・幼児期にある子どもの身体的、心理・社会的な成長・発達の特徴と健康課題（基本的生活習慣の獲得、不慮の事故）【課題学習】	4, 5, 6, 7,8	教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、上記の健康課題に関連する事前学習課題に取り組む。	1h	乳・幼児期にある子どもの成長・発達の特徴をふまえ、健康課題とその支援のあり方について整理する。	2h
6	子どもの成長・発達、健康課題と看護[2]：乳・幼児期にある子どもの身体的、心理・社会的な成長・発達の特徴と健康課題（感染症、マルトリートメント）	4, 5, 6, 7,8	教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、上記の健康課題に関連する事前学習課題に取り組む。	1h	乳・幼児期にある子どもの成長・発達の特徴をふまえ、健康課題とその支援のあり方について整理する。	2h
7	子どもの成長・発達、健康課題と看護[3]：学童期、思春期にある対象の身体的、心理・社会的な成長・発達の特徴と健康課題（生活習慣病、心理・社会的不適応）	4, 5, 6, 7,8	教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、上記の健康課題に関連する事前学習課題に取り組む。	1h	学童・思春期にある対象の成長・発達の特徴をふまえ、健康課題とその支援のあり方について整理する。	2h
8	子どもの成長・発達、健康課題と看護[4]—総括、小児看護の役割—■	1, 2, 3, 4, 5,6	教科書1) の第5章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1h	これまでの授業全体の内容を再確認し、小児看護の役割を整理し、自己の看護観を考察する。	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

●本科目は、小児看護学方法論、小児看護学演習、小児看護学実習へと連動して授業展開される基盤となる科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認し、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。

●単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。

●授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨む。

●授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。

●本科目は、養護教諭一種資格取得に関わる科目である。

【出席登録】

出席登録は、C-learningの下記の方法１・２のいずれかもしくは授業内で指示した方法で行う。

・方法１：【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

・方法２：【アンケート】機能を通じて設問に回答する。

【履修条件】

この科目は、「看護人間発達学」を履修していることが望ましい。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

小児看護学方法論

英文名：Pediatric Nursing: Assessment and Skills

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学

科目ナンバリング：NRS221・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

星野美穂、山崎彩

科目に関連した実務経験

- ・担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、小児専門病院やクリニック等での看護師としての勤務経験を有する。
- ・緩和ケア認定看護師、訪問看護ステーションの訪問看護師を講師として招く。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

健康障がいのある子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）に応じた看護実践方法を学習する。

②講義の実施方法

看護人間発達学や小児看護学概論で学習した成長・発達に関する学びを活用し、健康障がいのある子どもと家族の特徴および生活する療養環境に関する学びを統合した上で、健康障がいのある子どもと家族への看護について講義を行う。また、教科書、教員が作成した資料・パワーポイント、視聴覚教材の活用や、学生同士のディスカッションを行い、さまざまな発達段階、疾患を抱える子どもと家族のイメージ化を図り授業を展開する。

到達目標



- 1.病気や障がい、入院・治療が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解する
- 2.医療を受ける子どもの権利と倫理的課題を理解する■
- 3.治療・検査・処置を受ける子どもと家族の特徴を理解する■
- 4.小児期に生じやすい健康障害とその主な症状の特徴を理解する
- 5.各病期（急性期、慢性期、終末期、周手術期）にある子どもと家族の健康問題・課題を理解する■
- 6.外来や在宅での継続的な医療・看護を必要とする子どもと家族の健康問題・課題を理解する■
- 7.健康がいを抱える子どもの発達段階、健康状態に応じた根拠に基づいた看護を考察する■
- 8.既習の知識を臨床での看護実践に応用・活用するための基本的な学習態度を修得する

使用教材



- 1) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院．¥2,900＋税
 - 2) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院．¥3,300＋税
 - 3) 中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学②－小児看護技術，メディカ出版．¥3,200＋税
- ※教科書は、授業および予習・復習において使用する。 適宜、授業資料を配布する。資料では最新の知見を紹介する。

参考文献



中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版．¥3,800＋税
中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学③－小児の疾患と看護，メディカ出版．¥3,200＋税
浅野みどり編集：発達段階からみた 小児看護過程 第4版：＋病態関連図，医学書院．¥3,290

評価方法



定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、筆記試験80%、レポート20%の配分で、合計60点以上を合格とする。
※オンラインで試験を実施する場合も、上記と同様の方法で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



原則として、対面授業でも、オンライン授業でもレポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じてC-learningを通じてコメント・解説する。

オフィスアワー



金曜日1限
(5号館5階、504研究室)

メールアドレス（#→@）



hoshino-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[1]：子どもへの影響と看護	1,6	教科書1) の第1・2章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1h	健康障がいのある子どもの体験と子どもへの看護について整理する。	2h
2	健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[2]：家族への影響と看護	1,6	教科書1) の第1・2章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1h	健康障がいのある子どもの家族（母親、父親、きょうだい）の体験と家族へ看護について整理する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[3]: 医療を受ける子どもの権利、子どもの病気の理解と説明■	2, 6, 7, 8	教科書1) の第1章 D章を精読する。また、教科書、専門書、ポートフォリオを活用し、事前学習課題(子どもの権利、倫理原則など)に取り組む。	1h	健康障がいのある子どもの権利が脅かされる状況を考察し、看護のあり方を考える。	2h
4	健康障がい、入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護[4]: 健康障がいのある子どもへの日常生活支援	1, 6	教科書1) の第1・2章のうち、講義内容と関連する項を精読するとともに、小児看護学概論で学習した「各発達段階の日常生活習慣の獲得過程とその支援」について学習する。	1h	講義内容を参考に、病気や健康障がいのある子どもへの支援のあり方について自己の意見を考察する。	2h
5	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]: 子どもの体験、採血・腰椎穿刺・骨髄穿刺を受ける子どもへの看護■	3, 6	教科書1) の第6章のうち講義内容と関連する項を精読する。	1h	子どもの採血、腰椎穿刺、骨髄穿刺に関わる知識・技術を整理する。	2h
6	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2]: 薬物療法(輸液療法・与薬)を受ける子どもへの看護、発達に応じたプレパレーション■	3, 6	教科書1) の第6章のうち、講義内容と関連する項を精読する。	1h	与薬に関わる知識・技術に関して、課題学習に取り組む。	2h
7	子どもの示す主な症状とその看護[1]—不機嫌 および啼泣、痛み、発熱、脱水—【課題学習】	4	教科書1) の第5章のうち、講義内容と関連する項を精読する。また、「子どものコミュニケーション」「体温調節機能」「腎機能」の発達の特徴を学習する。	1h	症状のメカニズムと症状緩和方法、合併症予防の方法を理解する。	2h
8	子どもの示す主な症状とその看護[2]—呼吸困難、けいれん(意識障害)—【課題学習】	4	教科書1) の第5章のうち、講義内容と関連する項を精読する。また、子どもの「呼吸器」「脳・神経系」の発達の特徴を学習する。	2h	症状のメカニズムと症状緩和方法を整理する。	1h
9	病期別の子どもと家族への看護[1] —急性期にある子どもと家族への看護 —	5	教科書1) の第3章—Bを精読する。また、川崎病の病態生理、治療、一般的な看護について調べる。	2h	急性期にある川崎病の病態生理、治療、および提示した事例の発達段階を考慮した上で、子どもと家族に必要な看護を整理する。	1h
10	病期別の子どもと家族への看護[2] —慢性期にある子どもと家族への看護—■	5	教科書1) の第3章—Aを精読する。また、急性リンパ性白血病の病態生理、治療、一般的な看護について調べる。	2h	慢性期にある急性リンパ性白血病の病態生理、治療、および提示した事例の発達段階を考慮した上で、子どもと家族に必要な看護を整理する。また、小児慢性疾患の子どもと家族を支える行政施策について調べ、自己学習する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 1	病期別の子どもと家族への看護[3] ―終末期にある子どもと家族への看護―■	5	教科書1) の第3章－Dを精読する。	1h	子どもの死の概念の発達と、終末期にある子どもと家族への看護のあり方をまとめる。	2h
1 2	病期別の子どもと家族への看護[6]：周手術期にある子どもと家族への看護■	1, 4,6	教科書1) の第3章－Cを精読する。また、小児看護学概論で学習した子どもの「呼吸器」「循環器」の成長・発達の特徴、成人看護学方法論Ⅰ、臨床医学等で学習した「Mooreの手術後の生体の回復過程」を学習する。	1h	手術を受ける子どもの手術前・後の看護について整理する。	2h
1 3	さまざまな状況にある子どもと家族への看護[1]：外来における子どもと家族への看護■	1, 5,6	教科書1) の第2章－Bを精読する。また、本科目で学習した子どもの「セルフケアの発達過程」、看護人間発達学で学習した「思春期・青年期にある対象者の発達的特徴」について再学習する。	1h	セルフケアの獲得に向けた支援、成人移行期支援について整理する。	2h
1 4	さまざまな状況にある子どもと家族への看護[2]：小児在宅看護■	1, 5,6	教科書1) の第2章－Cを精読する。	1h	小児在宅医療・看護の現状と課題、在宅療養を必要とする子どもと家族への看護について整理する	2h
1 5	総括：健康障がいのある子どもと家族への看護の役割■	6	教科書1) の小児臨床看護総論第1章を再度精読する。	1h	これまでの授業内容を再確認し、健康がいのある子どもと家族への看護について整理する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

●本科目は、小児看護学演習、小児看護学実習へと連動して授業展開される科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認する。また、看護人間発達学、小児看護学概論での既習の知識を活用するとともに、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。

●単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。

●授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨む。

●授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。

【出席登録】

出席登録は、C-learningの下記の方法1・2のいずれかもしくは授業内で指示した方法で行う。

・方法1：【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

・方法2：【アンケート】機能を通じて設問に回答する。

【履修条件】

この科目は、「看護人間発達学」「小児看護学概論」を履修していることが望ましい。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

小児看護学演習

英文名：Pediatric Nursing Practice

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学

科目ナンバリング：NRS222・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

星野美穂、山崎彩、半田常男

科目に関連した実務経験

- ・担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、NICU、小児専門病院や小児科クリニックで看護師としての勤務経験を有する。
- ・実習先の現職者である重症心身障害看護認定看護師より講義を受ける。
- ・実習先の現職者である小児救急看護認定看護師を技術演習の指導者として招く。

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）、個別性に応じた看護過程を展開する方法および看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学習する。

②講義の実施方法

- ・教科書、教員が作成した資料、パワーポイントを用いるとともに、DVD等の視覚教材も活用し、疾患を抱える子どもと家族の特徴や、健康問題・健康課題のイメージ化を図りながら講義を行う。
- ・学生間、学生と教員間でのディスカッションを行いながら、疾患を抱える子どもと家族のモデル事例への看護過程の展開を行う。
- ・モデル人形、シミュレーターを用い、看護を実践するうえで必要な小児看護技術の演習を行う。

到達目標

- 1.小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護を理解する■
- 2.健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の基本的な考え方を理解する
- 3.健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題・課題とその支援の必要性をアセスメントする
- 4.健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題・課題に対する支援の方向性を導く
- 5.子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で必要な小児看護技術を習得する■

使用教材

- 1) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院． ￥2,800
 - 2) 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院． ￥3,300
 - 3) 中野綾美編：ナースিং・グラフィカ 小児看護学②－小児看護技術，メディカ出版． ￥3,456
- ※教科書は、授業および予習・復習において使用する
- ・その他、適宜、授業資料を配布する。資料では最新の知見を紹介する。

参考文献

- ①中野綾美編：ナースিং・グラフィカ 小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版．
- ②中野綾美編：ナースিং・グラフィカ 小児看護学③－小児の疾患と看護，メディカ出版．

評価方法

授業参加度、試験・課題の提出状況により、総合的に評価する。
看護過程の課題（35％）、技術演習の課題（15％）、筆記試験（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントを付して返却する。また、小テストを返却し、解説する（対面講義でもオンライン講義でも同様）。

オフィスアワー

質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。
（5号館5階504研究室）

メールアドレス（#→@）

hoshino-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 小児の看護過程総論－小児看護における看護過程の基本的な考え方、アセスメントの特徴	2	基礎看護学において学習した看護過程、看護診断について復習する。	0.25h	小児看護における看護過程の特徴と前提となる考え方について再度資料を精読し、理解を深めるとともに、3回目以降の授業で行う事例のアセスメントに活用できるポートフォリオを作成・整理する。	0.5h
2	モデル事例に基づく看護過程演習[1]	1,2,3	第1回目の授業資料の内容について復習する	0.25h	小児看護における看護過程のアセスメントの基本的な方法について再度資料を精読し理解を深めるとともに、第3回目以降の授業で行う事例のアセスメン	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					トに活用できるポートフォリオを作成・整理する。	
3	モデル事例に基づく看護過程演習[2] —事例紹介・演習の進め方・アセスメント①—	1,2,3	幼児の身体的、心理的、社会的な成長・発達の特徴、気管支喘息の病態生理、治療、および看護について学習する。	0.25h	事例を精読し、予習で不足していた知識について補充学習する。アセスメント枠組みに基づき、モデル事例の情報を整理する。	0.5h
4	モデル事例に基づく看護過程演習[3] —アセスメント②—	1,2,3	アセスメント枠組みに基づき、モデル事例の情報を整理する。	0.25h	既習の知識・講義内容に基づき、モデル事例の看護上の問題になりうる事項を検討し、その原因・誘因を探索し、記述する。	0.5h
5	モデル事例に基づく看護過程演習[4] —アセスメント③—	1,2,3	アセスメント枠組みに基づき、モデル事例の情報を整理する。	0.25h	既習の知識・講義内容に基づき、モデル事例の看護上の問題になりうる事項を検討し、その原因・誘因を探索し、記述する。	0.5h
6	モデル事例に基づく看護過程演習[5] —対象の強みと支援の方向性（個人およびグループワーク）—	3,4	モデル事例の強みをワークシートに記述する。	0.25h	グループワークをふまえ、自身の学びと課題を整理する。	0.5h
7	モデル事例に基づく看護過程演習[6] —看護の方向性、看護問題の抽出—	3,4	講義内容と強みのワークをふまえ、アセスメントをすすめる。	0.25h	既習の知識・講義内容に基づき、モデル事例の看護上の問題になりうる事項を検討し、その原因・誘因を探索し、記述する。	0.5h
8	小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護[1] —心身障害を抱える子どもと家族への看護 総論—■	1,2	教科書1)の小児臨床看護総論 第7章を精読する。	0.25h	心身障害を抱える子どもと家族の特徴を理解する。また、親の障害受容段階を参考に、家族への看護のあり方について自己の考えを考察する。	0.5h
9	小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護[2] —心身障害を抱える子どもと家族への看護 看護の実際—■	1,2	教科書1)の小児臨床看護総論 第7章を精読する。	0.25h	心身障害を抱える子どもの身体的・生理的特徴、合併しやすい障害や症状、重要な看護を理解する。	0.5h
10	小児期特有の症状や疾患を抱える子どもと家族への看護[3] —ハイリスク新生児と家族への看護—■	1,2	教科書2)の2章のうち、低出生体重児に関連する項を精読する。	0.25h	低出生体重児の身体的・生理的特徴、合併しやすい障害や症状、重要な看護を理解する。また、ディベロップメンタルケアの原則的な考え方とその支援について理解する。	0.5h
11	小児看護技術[1] 子どもへの説明	1,5	小児看護学概論および小児看護学方法論で学習した、子どもの認知発達の特徴、子どもの権利について確認する。	0.25h	子どもへの説明のワークを通し、自己の傾向と課題を明らかにする。	0.5h
12	小児看護技術[2] フィジカルアセスメント、演習オリエンテーション	1,5	教科書1)の小児臨床看護総論 第4章を精読する。	0.25h	フィジカルアセスメントの目的、基本技術、活用方法を理解する。また、演習で行う小児看護技術の内容と目標を確認する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 3	小児看護技術[3] 技術演習：バイタルサイン測定、身体計測、心肺蘇生法、ブレパレーション ■	1,5	演習で行う小児看護技術について調べ、事前学習課題レポートに取り組む。また、演習で行う小児看護技術の目標を確認する。	0. 25 h	演習で行った小児看護技術における学びと自己の課題を明確にし、ワークシートを記入する。	0. 5h
1 4	小児看護技術[4] 技術演習：バイタルサイン測定、身体計測、心肺蘇生法、ブレパレーション ■	1,,5	演習で行う小児看護技術について調べ、事前学習課題レポートに取り組む。また、演習で行う小児看護技術の目標を確認する。	0. 25 h	演習で行った小児看護技術における学びと自己の課題を明確にし、ワークシートを記入する。	0. 5h
1 5	まとめ	1,2, 3,4	講義・演習で学習した内容を振り返る。	0. 25 h	講義・演習での学びと自己の課題を明確にする。	0. 5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- 本科目は、小児看護学実習へと連動して授業展開される科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認する。●小児看護学概論、小児看護学方法論での既習の知識を活用するとともに、予習・復習を十分行い、積極的に授業に臨む。
- 予習・復習時間：必要に応じて各自で補完する。
- 授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。また、ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨む。
- 授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出する。未提出の場合には単位修得に影響する。
- ・小児看護技術 [3] [4]技術演習を欠席した場合には、担当教員に申し出る。演習を未実施のまま単位修得することはできない。
- ・本科目は、養護教諭一種資格取得に関わる科目である。

【出席登録】

- ・出席登録はC-learningによる「出席管理」および授業終了後の「アンケート」への回答により行う。

【履修条件】

この科目は、「小児看護学概論」、「小児看護学方法論」を履修していることが望ましい。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

小児看護学実習

英文名：Pediatric Nursing: Practicum

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・小児看護学

科目ナンバリング：NRS314・C

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

星野美穂、山崎彩

科目に関連した実務経験

担当教員は、大学病院や総合病院の小児病棟、NICU、小児専門病院やクリニック等での看護師としての勤務経験を有する。

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

多様な場で生活する小児期にある対象とその家族を包括的に理解し、健康の保持増進、疾病の予防、成長・発達の促進、特定の健康課題に解決を目指した個別性に応じた看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割を学ぶ。

②講義の実施方法

実習は5－6人の小グループで行い、臨地（病院や施設）において対象者を受け持ちながら看護過程の展開を行い、学内実習において学びを整理する。個別指導やグループカンファレンスを通して実習目標の達成を目指す。

到達目標



- 1.小児期にある対象の成長・発達や家族の特性をふまえた援助的関係を構築するための態度を修得する。■
- 2.小児期にある対象の成長・発達と健康状態を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントする。■
- 3.小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康課題とその支援の必要性を身体的、心理的、社会的側面から明確にする。■
- 4.小児期にある対象のアセスメントに基づき、個別性のある看護支援を計画・実施・評価する。■
- 5.小児期にある対象の理解および看護実践をととして、小児看護の役割とその意義を理解する。
- 6.小児期にある対象と家族をとりまく保健医療福祉および教育にかかわる多職種連携チームの一員として行動する。
- 7.看護学の初学者として、看護の役割を果たすための責任感、および態度を修得する。■

使用教材



- 1)奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院。
 - 2)奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論，医学書院。
 - 3) 中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学②－小児看護技術，メディカ出版。 ¥ 3,456
- ※教科書は、授業および予習・復習において使用する
- 4)学科作成の小児看護学実習要項
 - 5)その他、小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護学演習で配布した授業資料も活用する。

参考文献



- 1)中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版。
- 2)中野綾美編：ナースング・グラフィカ 小児看護学③－小児の疾患と看護，メディカ出版。
- 3)筒井真優美監修：小児看護 第2版 パーフェクト臨床実習ガイド，照林社。
- 4)その他、適宜参考文献を別途紹介する。

評価方法



実習目標を評価基準として100点換算し、総合評価60点以上を合格とする。

臨地実習、学内実習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、および、実習態度・参加度により統合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



事前学習課題および実習期間中に提出された課題に対しては、担当教員から随時コメントを付して返却する。実習終了時に提出された課題には、コメントを付して返却する。

オフィスアワー



質問および学習相談には、適宜応じる。
(5号館5階504研究室)

メールアドレス（#→@）



hoshino-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



【授業の進め方】

- ・ 1 グループに対し教員 1 名が実習指導を担当する。
- ・ 行動目標の達成に向け教員は、対象理解・全体像の把握・看護問題の抽出・看護計画の立案と実施・評価の一連の過程について、支援を行う。
- ・ 小児地域包括支援実習および幼稚園実習では、対象者の特徴と看護の実際について、参加観察を通して支援を行う。
- ・ 行動目標の達成に向け、グループワークやカンファレンスを実施する。

【実習期間および実習施設】

実習期間は2週間で、病院または施設、および附属幼稚園で 8 日間、学内で 2 日間実習を行う。なお、病院実習では、小児専門病院、総合病院、医療型障害児入所施設のいずれかにおいて実習を行う。

【実習内容】

- 1) 病棟実習：病院または施設に入院している子どもを受け持ち、看護過程を展開するとともに、日常生活の支援（食事・清潔・排泄・遊び等）、治療・検査・処置にかかわる支援を実施する。さらに受け持ち患者への看護実践を通して、健康障害を抱える子どもとその家族への支援のあり方と意義を探究する。■
- 2) 小児地域包括支援実習：NICU/GCU、重症心身障害児・者デイサービス、病児保育について、事前学習および、参加観

察実習を行い、子どもと家族の特徴と看護の実際を学習する。■

3) 幼稚園実習：対象となる子どもや子どもを取り巻く人的・物理的環境を観察する。また、保育・活動場面、日常生活支援場面（遊び、昼食、片付け、手洗い・うがいなど）において、子どもと関わりながら参加観察を実施する。そして、乳幼児期にある健康な子どもの成長・発達の特徴および生じやすい健康問題について理解を深めるとともに、健康な子どもへの支援のあり方とその意義について考察する。

4) 学内演習（統合カンファレンス）

小児看護学実習で体験した、倫理的な側面からの気づき・ジレンマ・課題を共有し、小児看護の特徴、役割・機能について理解を深めるとともに、自己の課題を明確にする。■

【予習内容】

- ・小児看護学実習における対象の理解、看護過程の展開、看護実践、看護の本質を探究する上で必要な知識・技術に関して学習し、ポートフォリオを作成する。
- ・日々の実習においては学習行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標および目標を達成するための学習計画をたてて実習に臨む。
- ・実習指導教員、実習指導者の助言に基づき、受け持ち患者への看護過程の展開や看護実践に必要な知識・技術について日々学習し、実習に臨む。

【予習時間】

期間中適宜

【復習内容】

- ・学習行動計画用紙、C-learningでのアンケート等を活用して日々の実習を振り返り、目標の達成状況の自己評価を行う。
 - ・実習での学びを統合し、以下の内容のレポートを作成する。
- ①小児期にある対象の理解および看護実践をとおして経験したこと、学んだことを具体的に提示し、『小児看護の特徴と看護者の役割・機能』について考察する。
- ②小児看護学実習をとおし、今後の自己の課題を具体的に考察する。
- 指定の期日までに、上記レポートと実習記録を提出する。

【復習時間】

期間中適宜

備考



【学習上の助言および受講時のルール】

- ・学生は1名の対象者を受け持ち、看護問題の解決に向けた看護過程を展開する。そのため、各自で作成したポートフォリオを活用し、主体的・自律的に実習に臨むこと。
- ・本科目は、1年時からの学習の積み重ねが重要であるため、小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護学演習を中心に十分に復習しておくこと。
- ・実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。

【履修条件】

- ・この科目は、臨地実習科目の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷

リプロダクティブヘルス看護学概論

英文名：Introduction to Reproductive Health Nursing

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学

科目ナンバリング：NRS120・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

茂木佐智子

科目に関連した実務経験

助産師として総合病院の勤務経験を有する

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①リプロダクティブヘルスとは、性と生殖に関する健康、つまり、性と生殖システム、その機能と過程の全ての側面において、身体的、精神的、社会的に完全な良好な状態を意味している。これは、生殖年齢にある男女のみならず、思春期から生涯にわたる、すべての個人が持つ権利であり保証されなければならない。本授業では、リプロダクティブヘルスに関する基礎的知識と看護の役割について学習する。

②スライド資料を配布し、スライドを利用した講義を展開する。

到達目標



1. リプロダクティブヘルス看護の実践に必要な概念・理論を説明する。
2. 女性のライフサイクルと各ライフステージにおける心身の健康の特徴を説明する。■
3. 女性を取り巻く社会の現状と健康課題を説明する。■
4. リプロダクティブヘルス看護の役割について考察する。

使用教材



・有森直子編，母性看護学Ⅰ 概論第2版 女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求，医歯薬出版，2020。（2,200円+税） ISBN978-4-263-23736-6

※教科書は、授業および予習・復習において使用し、適宜、最新の知見を含めた資料および視聴覚教材を含める。

参考文献



- ・授業の中で紹介する。

評価方法



- ・筆記試験（100%）を行い、60点以上を合格とする。オンライン授業の場合は、C-learningなどを利用して試験（100%）を行い、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



レポート等についてコメントを付し返却する。オンライン授業の場合も同様とする。

オフィスアワー



火曜日の4限 5号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）



motegi-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目ガイダンス、リプロダクティブヘルス看護の実践の基盤になる概念	1	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
2	リプロダクティブヘルスに関する動向（出生、死亡に関する統計、家族形成に関する統計）	2,3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
3	リプロダクティブヘルスに関する法と施策（子どもと女性の保護、女性の就労、暴力・虐待の防止に関する法律や施策と支援）	2,3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
4	思春期女性の健康■	2,3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。また、自分が今までに受けてきた記憶に残る性教育の内容を記述する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
5	成熟期女性の健康■	2,3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					した内容について整理し、理解を深める。	
6	妊娠・出産をめぐる医療と看護（不妊症と生殖医療、周産期の喪失）■	2,3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
7	更年期女性の健康■	2,3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
8	まとめ	1,2, 3,4	全体の授業内容を再確認する。	1h	リプロダクティブヘルスに関する基礎的知識と、リプロダクティブヘルス看護の役割についてまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

24 h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・提示された課題は提出期限を厳守し提出する。

【出席登録・確認】

出席の登録・確認は、下記の方法で行う。

方法1. C-learningの「出席」の確認キーを見て登録する。

方法2. C-learningの「アンケート」に回答する。

【オンライン授業での出席の取り扱い】

オンラインで授業を行う場合には、上記のC-learningを通じた出席登録を行うこと、およびC-learning【教材倉庫】内の教材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。

※本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。

成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。

また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



リプロダクティブヘルス看護学方法論

英文名：Reproductive Health Nursing Assessment and Skills

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学

科目ナンバリング：NRS223・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

茂木佐智子、吉田千草

科目に関連した実務経験

助産師として総合病院の勤務経験を有する

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①リプロダクティブヘルス看護学の対象は、思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性のみならず、女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもが生まれ乳児を育てる家族、その家族が生活する地域社会も含む。特に、妊娠、出産は、女性と家族にとって大きな転機となるライフイベントであり、その後の人生に大きな影響を及ぼす。本授業では、妊産褥婦および新生児に焦点をあて、健康状態を維持・促進するための看護、ならびに、正常からの逸脱を早期に発見し適切に対処するための看護の基礎的知識と看護技術を修得する。

②スライド等の教具活用によって基礎的知識や看護技術を教示する。

到達目標

1. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴を概説する。
2. 妊婦の健康状態をアセスメントするための観察項目とその解釈を概説する。
3. 妊婦の健康状態を維持・促進するための看護を説明する。■
4. 妊娠期に起こる正常からの逸脱時の看護について説明する。■
5. 分娩の生理を概説する。
6. 産婦の健康状態をアセスメントするための観察項目とその解釈を概説する。
7. 分娩経過に沿った産婦の看護を説明する。■
8. 産褥期の身体的・心理・社会的特徴を概説する。
9. 産婦の健康状態をアセスメントするための観察項目とその解釈を概説する。
10. 産婦の健康状態を維持・促進するための看護を説明する。■
11. 産褥期に起こる正常からの逸脱時の看護について説明する。■
12. 新生児の生理的特徴を概説する。
13. 新生児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその解釈を概説する。
14. 新生児の健康状態を維持・促進するための看護を説明する。■
15. 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うための看護の役割について考察する。

使用教材

- ・次の教科書を使用する。
- ①有森直子編，母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得医歯薬出版，2020。（4200円+税） ISBN978-4-263-23737-3
- ②荒木奈緒他編，ナースング・グラフィカ 母性看護学（3）母性看護技術第5版 メディカ出版，2022。（2600円+税） ISBN978-4-8404-7533-4
- ③リンダJ.カルペニート著；黒江ゆり子監訳，看護診断ハンドブック 第12版，医学書院，2023。（4,000円+税） ISBN978-4-260-05021-0
- ・配布資料および視聴覚教材を使用し、適宜、最新の知見を紹介する。

参考文献

- ・森恵美編，系統看護学講座母性看護学〔2〕母性看護学各論第14版医学書院，2021。

評価方法

定期試験60%、提出物（時間厳守）35%、授業態度5%によって総合的に評価する。オンライン授業の場合も同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートやアンケート等に対してコメントする。オンライン授業の場合も同様とする。

オフィスアワー

火曜日の4限 5号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

motegi-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目ガイダンス、妊娠経過のアセスメント【茂木】	1,2	シラバスおよび教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
2	妊婦の看護①セルフケア能力を高めるための支援 ■【茂木】	3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
3	妊婦の看護②出産と子育ての準備のための支援 ■【茂木】	3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	妊娠期に起こりうる正常からの逸脱 ■ 【茂木】	4	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
5	分娩経過のアセスメント 【茂木】	5,6	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
6	産婦の看護 ■ 【茂木】	7	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
7	産褥経過のアセスメント 【茂木】	8,9	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
8	新生児のアセスメント 【茂木】	12,13	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
9	新生児の看護①出生直後の看護 ■ 【吉田千】	14	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
10	新生児の看護②入院中の看護 ■ 【吉田千】	14	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
11	褥婦の看護①日常生活とセルフケア ■ 【茂木】	10	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
12	褥婦の看護②母乳育児 ■ 【茂木】	10	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
13	褥婦の看護③役割調整 ■ 【茂木】	10	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
14	産褥期に起こりうる正常からの逸脱 ■ 【茂木】	11	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
15	まとめ 【茂木】	1-15	全体の授業内容を再確認する。	1h	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うための看護の役割を考察し、整理する。	2h

合計時間（予習・復習）

45

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・提示された課題は提出期限を厳守し提出する。

【出席登録・確認】

出席の登録・確認は、下記の方法で行う。

方法1. C-learningの「出席」の確認キーを見て登録する。

方法2. C-learningの「アンケート」に回答する。

【オンライン授業での出席の取り扱い】

オンラインで授業を行う場合には、上記のC-learningを通じた出席登録を行うこと、およびC-learning【教材倉庫】内の教

材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

リプロダクティブヘルス看護学演習

英文名：Reproductive Health Nursing Excercise
科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学
科目ナンバリング：NRS224・B
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
 比重 DP
 2 人間理解と倫理観
 6 論理的思考力・問題解決力
 1 チームの一員としての協調・協働
 0 国際理解
 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

茂木佐智子、寺口顕子、堀越摂子、吉田千草

科目に関連した実務経験

助産師として総合病院の勤務経験を有する

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①リプロダクティブヘルス看護学方法論において学習した基礎的知識を基盤とした看護過程の展開を通して、リプロダクティブヘルス看護の実践に必要な知識、技術、態度を修得する。
 ②授業は、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における事例の看護過程を展開し、ヘルスプロモーション型看護診断の特性や看護実践について学習する。また、それぞれの時期において活用する技術をモデルなどの教具を使用した演習を行う。

到達目標

1. 正常な妊婦、産婦、褥婦、新生児を対象とした看護過程の展開方法を説明する。■
2. 妊婦、産婦、褥婦、新生児の健康状態をアセスメントする。
3. 妊婦のセルフケア能力を高める看護の必要性を説明する。

- 4. 産婦・胎児にとって安全・安楽な分娩となるための看護の必要性を説明する。
- 5. 新生児の看護の必要性を説明する。
- 6. 褥婦の子宮復古の促進、母乳育児の確立のためのセルフケア能力を高める看護の必要性を説明する。
- 7. 実技演習によって褥婦の子宮復古のアセスメントに必要な技術を適用し、産褥日数に応じた健康状態を評価する。■
- 8. 実技演習によって新生児のバイタルサインの測定に必要な技術を適用し、生後日数に応じた健康状態を評価する。■
- 9. 実技演習によって母子が快適・効果的・安全に授乳するための授乳の支援のポイントを理解する。■
- 10. リプロダクティブヘルス看護に用いられる主な看護技術の習得の意義を認める。

使用教材 ▲

- ・次の教科書を使用する。
- ①有森直子編，母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得医歯薬出版，2020。（4200円+税） ISBN978-4-263-23737-3
- ②荒木奈緒他編，ナースング・グラフィカ 母性看護学（3）母性看護技術第5版 メディカ出版，2022。（2600円+税） ISBN978-4-8404-7533-4
- ③リンダJ.カルペニート著；黒江ゆり子監訳，看護診断ハンドブック 第12版，医学書院，2023。（4,000円+税） ISBN978-4-260-05021-0
- ・配布資料および視聴覚教材を使用し、適宜、最新の知見を紹介する。

参考文献 ▲

- ・森恵美編，系統看護学講座母性看護学〔2〕母性看護学各論第14版医学書院，2021.
- ・その他、授業の中で紹介する。

評価方法 ▲

定期試験50%、提出物（時間厳守）40%、授業態度10%によって総合的に評価する。オンライン授業の場合も同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

レポートやアンケート等に対してコメントする。オンライン授業の場合も同様とする。

オフィスアワー ▲

火曜日の4限 5号館5階510研究室

メールアドレス（#→@） ▲

motegi-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目ガイダンス、リプロダクティブヘルス看護学における看護過程とは、模擬事例紹介	1	シラバスおよび教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
2	妊婦の看護過程① アセスメント	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
3	妊婦の看護過程② アセスメント、看護診断	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
4	妊婦の看護過程③ 看護実践（妊婦健診と保健指導）	3	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	産婦の看護過程① アセスメント	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
6	産婦の看護過程② 看護技術（モニタリングと産痛緩和）	4	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
7	新生児の看護過程① アセスメント	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
8	新生児の看護過程② アセスメント	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
9	新生児の看護過程③ 看護技術（全身の観察、沐浴ほか）	5	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
10	褥婦の看護過程① アセスメント	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
11	褥婦の看護過程② アセスメント	2	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
12	褥婦の看護過程③ 看護技術（子宮復古の観察、母乳育児ほか）	6	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
13	実技演習：褥婦と新生児の観察とアセスメント、授乳の支援の実施①	7.8. 9	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
14	実技演習：褥婦と新生児の観察とアセスメント、授乳の支援の実施②	7.8. 9	教科書の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容について整理し、理解を深める。	2h
15	まとめ	1.10	全体の授業内容を再確認する。	1h	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の看護過程の展開で活用した基礎的知識と看護技術を復習する。	2h

合計時間（予習・復習）

45

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・提示された課題は提出期限を厳守し提出する。

【出席登録・確認】

出席の登録・確認は、下記の方法で行う。

方法1. C-learningの「出席」の確認キーを見て登録する。

方法2. C-learningの「アンケート」に回答する。

【オンライン授業での出席の取り扱い】

オンラインで授業を行う場合には、上記のC-learningを通じた出席登録を行うこと、およびC-learning【教材倉庫】内の教

材が「既読」になっていることを条件に出席として取り扱う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

リプロダクティブヘルス看護学実習

英文名 : Reproductive Health Nursing Practicum
科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・母性看護学
科目ナンバリング : NRS315・C
学年 : 3年
開講期 : 通年
選択・必修 : 必修
単位数 : 2単位
講義形態 : 実習
学位授与方針との対応 :
比重 DP
2 人間理解と倫理観
6 論理的思考力・問題解決力
1 チームの一員としての協調・協働
0 国際理解
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

茂木佐智子、吉田千草

科目に関連した実務経験

助産師として総合病院の勤務経験を有する

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護学実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では、リプロダクティブヘルス看護学概論・方法論・演習において学習した知識・技術・態度の統合を図る。また、その過程を通して、学内で学んだものを自ら実地に検証し、より一層理解を深めるとともに、看護実践能力の基礎を修得する。

②実習は3年次通年に行われる。実習グループごとに実習指導担当教員が割り振られ、リプロダクティブヘルス看護の対象者に対する看護ケアを提供することを通じ、実習目標に到達できるよう、実習施設の関係者と連携し支援する。

到達目標

1. 妊産褥婦および新生児の健康状態をアセスメントし、総合的に理解する。■
2. 妊産褥婦および新生児の健康増進に向けた看護計画を立案・実施・評価する。■

3. 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うための看護の役割について考察する。
4. リプロダクティブヘルス看護への関心、意欲、態度を示す。

使用教材



- ・リプロダクティブヘルス看護学実習要項
- ・有森直子編，母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得医歯薬出版，2020。（4200円+税） ISBN978-4-263-23737-3
- ・荒木奈緒他編，ナースング・グラフィカ 母性看護学（3）母性看護技術第5版 メディカ出版，2022。（2600円+税） ISBN978-4-8404-7533-4
- ・リンダJ.カルペニート著；黒江ゆり子監訳，看護診断ハンドブック 第12版，医学書院，2023。（4,000円+税） ISBN978-4-260-05021-0
- ・リプロダクティブヘルス看護学概論、リプロダクティブヘルス看護学方法論、リプロダクティブヘルス看護学演習の授業資料

参考文献



- ・森恵美編，系統看護学講座母性看護学〔2〕母性看護学各論第14版医学書院，2021。
- ・その他、実習中に紹介する。

評価方法



実習目標に基づく評価基準による。詳細はリプロダクティブヘルス看護学実習要項Ⅶ．評価の項「評価表」に示す。オンライン実習の場合も同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



実習期間中に提出された記録は、担当教員から随時コメントする。
実習終了時に提出された記録物は、コメントを付して返却する。

オフィスアワー



授業開始前または終了後、5号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）



motegi-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



【実習期間】2週間

【リプロダクティブヘルス看護学実習施設】

産科婦人科出張館 佐藤病院

多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院

SUBARU健康保険組合 太田記念病院

【実習方法】

次の①と②を実習の場に応じて実施する。

①受け持ち褥婦と新生児に対する、一連の看護過程の展開 ■

正常に経過している対象者への健康増進に向けた看護を実施する。（到達目標1,2,3,4）

なお、褥婦と新生児を受け持つことができない場合には、紙上事例の看護過程を展開する。

②機能別の実習 ■

新生児に対する基本的看護を実施する。（到達目標1,2,3,4）

産婦人科外来・分娩室等において、妊娠褥婦に対する看護活動を参加観察する。（到達目標1,3,4）なお、新生児の看護や、妊娠婦に対する看護活動の参加観察の実施ができない場合には、視聴覚教材の視聴やシミュレーション演習によって学習する。

※詳細は、リプロダクティブヘルス看護学実習要項参照

【予習】

既習のリプロダクティブヘルス看護学概論、プロダクティブヘルス看護学方法論、リプロダクティブヘルス看護学演習において学習した基礎的知識と技術（リプロダクティブヘルス看護学実習要項参照）を、教科書や参考書、資料によって確認する。

また、実習オリエンテーションにおいて配布した資料の内容を確認する。

【復習】

実習で体験したことを実習目標と照らし合わせて学習到達度を自己評価し、課題を明確にして翌日の実習に臨む。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間

備考



- ・褥婦と新生児を受け持つ場合は、原則として2～3名の学生が母子1組を担当する。
- 褥婦と新生児を受け持つことができない場合は、原則としてグループメンバーに同一の紙上事例を提示し、看護過程を展開する。
- ・看護過程の展開は所定の記録用紙に各自で記録していくが、個別学習をもとに協力し合いながら看護計画を立案し実施する。
- ・オンライン授業によるリプロダクティブヘルス看護学実習の出席登録・確認は、下記の方法で行う。
 - 方法① C-Learningの「出席」の確認キーを見て登録する。
 - 方法② Google Meet等によるリアルタイムに音声や動画で双方向のやりとりに参加する。
- 上記①②による欠席が複数回確認された場合は、担当教員より個別に連絡する。その連絡に対し状況を伝えること。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

精神看護学概論

英文名 : Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学

科目ナンバリング : NRS121・B

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

酒井 美子

科目に関連した実務経験

看護師として精神科病棟での勤務経験がある。

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○		○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

精神看護学・精神保健学の基本的な考え方を学び、精神障害を心理学的観点、生物学的観点、社会学観点からとらえていく。具体的には、人間関係、精神医療の歴史、社会的文化、法制度から精神疾患・障害と地域社会の繋がりを知る。その上で精神看護に求められる倫理性を理解する。

②講義の実施方法

精神看護学を担当する教員が実施する教科書、教員が作成した資料、PP、DVDなどの視覚教材を基に、学習者の理解を図りながら参加型の授業を展開する。

到達目標

1. 現代社会の変遷とニーズからメンタルヘルスの課題を説明することができる。
2. こころの働きと生活に関連づけて精神障がい者の生きにくさを説明することができる。
3. 人間関係論を知り、人との関係性と看護師(治療者)のあり方を理解できる。
4. 看護師が知っておくべき精神医療・看護の歴史と法制度、求められる倫理綱領を説明できる。

使用教材

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院
最新の知見を含めた配布資料・授業に関連したDVDを紹介する。

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

評価方法

筆記試験90%、授業参加度10%で算出し、60点以上を合格とする。

オフィスアワー

- ・金曜日：12時～14時
- ・質問、相談はいつでも受け付けます。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション/現代社会とメンタルヘルスー社会病理現象ー	1,2	教科書精神看護1ー第1章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し復習する。	1.5h
2	こころの健康と精神障害	1,2	教科書精神看護1ー第2章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
3	こころの働きと生活	1,2	教科書精神看護1ー第3章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
4	人間関係論(1) 個人・集団	1,2,3	教科書精神看護1ー第4章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
5	人間関係論(2) 家族	1,2,3	教科書精神看護1ー第4章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
6	人間関係論(3)患者ー看護師(治療者)	1,2,3	教科書精神看護2ー第8章、第16章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
7	精神科医療の歴史・法律	2,3,4	教科書精神看護1ー第7章を読解	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する	1.5h
8	精神看護における人権擁護ー看護倫理と法	1,2,3,4	教科書精神看護1ー第1章,第7章を目を通す	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

備考



- ・ C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。授業後のリアクションペーパーで再確認する。
- ・ 予習・復習の時間は、各自適宜補完すること。
- ・ 養護教諭一種資格取得を希望する場合、卒業要件選択科目となっているため、履修する必要がある。
- ・ メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。

印刷 

精神看護学方法論

英文名：Psychiatric and Mental Health Nursing: Assessment and Skills

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学

科目ナンバリング：NRS225・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

酒井美子、向井京子

科目に関連した実務経験

看護師として精神科病棟での勤務経験がある。

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

主な精神疾患の症状、治療による生活への影響を理解し、対象の状況とニーズを知る。また、既習の精神看護に関連する基礎的知識を基に精神疾患を患う対象の状況に応じた回復支援の方法を学び看護の役割を考える。

②講義の実施方法

本講義では、主な精神疾患の特性と治療、看護について、資料、視聴覚教材（パワーポイントなど）を活用して説明する。疾病、治療が生活に及ぼす影響から支援の在り方を考えられるように展開する。

到達目標



- 1) 各精神疾患の回復過程を説明することができる。
- 2) 各精神疾患を病む精神障がい者への看護のポイントを説明することができる。
- 3) 精神障がい者のリカバリー（回復）を支える支援を知り看護の役割を記述することができる。

使用教材



教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]

最新の知見を含めた配布資料、授業に関連したDVDを紹介する。

参考文献



授業内で適宜紹介する

評価方法



筆記試験50%、小テスト20%、レポート20%、授業参加度10%で算出し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



- ・小テスト返却し毎回解説をする。
- ・レポートはコメントを付して返却する。

オフィスアワー



- ・酒井、向井：金曜日：12時～14時
- ・質問、相談はいつでも受け付けます。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション/こころが病むということ	1	既習の「精神看護学概論」の見直しをする。教科書第5章A、Bに目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
2	統合失調症と看護（1）急性期	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類①②に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
3	統合失調症と看護（2）慢性期	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類①②に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
4	気分(感情)障害と看護	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類③に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
5	アルコール依存症と看護	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類⑤に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
6	摂食障害、パーソナリティ障害と看護	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類⑥-④⑤に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
7	神経性障害と看護	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類④に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
8	発達障害と看護	1,2,3	教科書第5章C精神障害の分類⑥-③に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	治療と看護（１）：行動制限（入院・保護室・身体拘束）	1,2,3	教科書第13章安全をまもるに目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
10	治療と看護（２）：身体療法(薬物療法・電気けいれん療法)	1,2,3	教科書第6章C薬物療法、D電気けいれん療法、第12章身体をケアするに目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
11	治療と看護（３）：精神療法	1,2,3	教科書第6章B精神療法、第12章身体をケアするに目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
12	治療と看護（４）：環境療法・集団療法	1,2,3	教科書第6章E環境療法、社会療法に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
13	治療と看護（５）：看護師（治療者）の感情の自己制御	1,2,3	教科書第16章看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスに目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
14	身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス / リエゾン精神看護	1,2,3	教科書第14章医療現場日置けるメンタルヘルスと看護に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h
15	地域における精神保健と精神看護/リカバリーとリカバリー支援	1,2,3	教科書第9章回復を支援する、第10章地域におけるケアと支援に目を通す。	1.5h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・ C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。
- ・ 予習・復習の時間は、各自適宜補完すること。
- ・ 養護教諭一種資格取得を希望する場合、卒業要件選択科目となっているため、履修する必要がある。
- ・ メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。

印刷



精神看護学演習

英文名：Psychiatric and Mental Health Nursing: Practice

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学

科目ナンバリング：NRS226・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

酒井美子、向井京子、井田伸人

科目に関連した実務経験

担当教員は総合病院の精神科専門病棟で看護師としての勤務経験を有する。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

精神症状によって影響される健康や生活をアセスメントし、健全な精神活動・生活行動に向けて、対象の自律を支える支援とその思考過程を理解する。また、自己理解・他者理解を通して、患者と看護師関係におけるコミュニケーションスキルを学び、自己活用能力を高める。

②講義の実施方法

本科目は、精神看護学を担当する教員が実施する。教科書、教員が作成した資料、パワーポイント、視聴覚教材を用い、理解を図りながら参加型の授業を展開する。具体的には、講義と演習を組み合わせ、精神看護における援助理論を学び実践を通して体得する。また、精神疾患の代表的な統合失調症の事例に対する看護プロセスをグループ演習を通して展開する。

到達目標

^

- 1.精神看護に活用する援助理論を説明することができる。
- 2.セルフケアモデルに基づき対象の全体像を把握し、健康面を引き出す看護プロセスの思考を記述できる。
- 3.グループ演習での自己の役割を認識し、協調性を持ち積極的に参加できる。
- 4.グループ演習、発表を通して学びを共有し、多角的な視点から対象を捉えることができる。

使用教材

^

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]

最新の知見を含める配布資料

参考文献

^

宮本真巳著 看護場面の再構成 日本看護協会出版会

川野雅資著 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規出版

田中美恵子著 精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版

評価方法

^

課題提出記録60%、小テスト20%、授業参加度20%で算出し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

- ・レポートはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

酒井(408研究室)：向井(304研究室)：井田(212研究室)：金曜日13：00～15：00

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション ケアの方法と実践（1） 身体 の状態からの精神症状アセスメント（観察・バイタル測定と報告）"	1,2,4	教科書精神看護2-11章Cを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
2	ケアの方法と実践（2） 援助 的コミュニケーション（ヘル スカウンセリングの実際）	1,2	教科書精神看護2-8章 A B Cを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
3	ケアの方法と実践（2） 援助 的コミュニケーション（ヘル スカウンセリングの実際）	1,2,3,4	教科書精神看護2-8章 A B Cを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
4	ケアの方法と実践（3） 観察 と記録・再構成(プロセスレコード)	1,3,4	教科書精神看護2-8章 Dを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
5	ケアの方法と実践（3） 観察 と記録・再構成(プロセスレコード)	1,3,4	教科書精神看護2-8章 Dを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
6	ケアの方法と実践（4） 心理 教育・認知行動療法・S S T	1,3,4	教科書精神看護2-9章 E Fを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
7	ケアの方法と実践（4） 心理 教育・認知行動療法・S S T	1,3,4	教科書精神看護2-9章 E Fを読んでくる	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	ケアの方法（５）セルフケアとリカバリー支援（ストレングスモデル・ナラティブアプローチ）	1,2	リカバリー支援について予習してくる。	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
9	ケアの方法（６）セルフケアモデル(オレム・アンダーウッド)	1,2	セルフケア理論について予習してくる。	0.2h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習する。	0.5h
10	事例展開－①個人ワーク	2,3,4	統合失調症失調症の急性期・回復期の看護について予習してくる。	0.2h	配布事例について、セルフケア理論にそった情報整理、アセスメント、関連図、看護計画の立案をする。	0.5h
11	事例展開－②グループワーク	2,3,4	記録の追加・整理	0.2h	配布事例について、セルフケア理論にそった情報整理、アセスメント、関連図、看護計画の立案をする。	0.5h
12	事例展開－③グループワーク	2,3,4	記録の追加・整理	0.2h	配布事例について、セルフケア理論にそった情報整理、アセスメント、関連図、看護計画の立案をする。	0.5h
13	事例展開－④グループワーク	2,3,4	記録の追加・整理	0.2h	配布事例について、セルフケア理論にそった情報整理、アセスメント、関連図、看護計画の立案をする。	0.5h
14	事例展開－⑤グループワーク	2,3,4	記録の追加・整理	0.2h	グループの発表準備	0.5h
15	事例展開－⑥グループ発表と質疑応答	2,3,4	グループの発表準備	0.2h	グループの発表内容や質問された内容を振り返り、記録を整理して指定の期限までに提出する	0.75h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。

印刷 

精神看護学実習

英文名 : Psychiatric and Mental Health Nursing: Practicum

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・精神看護学

科目ナンバリング : NRS316・C

学年 : 3年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

酒井美子、向井京子、井田伸人

科目に関連した実務経験

担当教員は、大学病院、総合病院、精神科病院で看護師としての勤務経験を有する。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○	○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①実習の目標

精神に障害のある対象の特徴を理解し、対象のセルフケア向上・自立にむけた看護援助を実践するための基礎的能力を学ぶ。さらに、地域で生活する対象の特徴を理解し、保健医療福祉職との連携と協働、支援方法について学ぶ。

②実習の実施方法

実習は、病棟や学内において、個々の学生が主体的に学習できるよう充分な個別指導を行う。

到達目標

- 精神医療の実際を通して、疾患や治療、看護の役割について理解できる。■
- 精神に障害のある対象の個別性を考慮し、看護過程を展開できる。■

3. 精神に障害のある対象と自身との相互関係を振り返り、症状に応じたコミュニケーションスキルを実践できる。■
4. 地域精神保健福祉活動の現状や保健医療福祉職の連携について理解できる。

使用教材

1. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護学の基礎 医学書院
2. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護学の展開 医学書院
3. 田中美恵子編著：精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版
4. 精神看護学実習要項
5. その他、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱで配布した授業資料も活用する。

参考文献

1. 白石壽美子著，武居奈保子編，全人的視点に基づく精神看護過程 医歯薬出版
2. 必携！精神看護学実習ポケットブック 精神看護出版
3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規出版
4. オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開 ニューヴェルヒロカワ
5. 精神科ナースのアセスメント&プランニングbooks 統合失調症の看護ケア 中央法規出版
6. 精神科ナースのアセスメント&プランニングbooks うつ病・双極性障害の看護ケア 中央法規出版

評価方法

- ・実習評価表に基づき評価を行う。実習目標の達成を100%とし（実習態度、記録・レポート、出席日数等含む）、総合評価 60点以上を合格とする。
- ・オンライン実習となった場合は、看護援助の実践などが行えないため、該当する実習目標を達成可能な目標に変更し、zoomやmeet などを利用し上記と同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・実習の事前学習および実習期間内に提出した記録物については、授業担当者からのコメントを付して返却する。習熟度の向上に向け、追加修正された箇所についてもコメントする。
- ・オンライン実習となった場合は、C-learning、meet を用いて、上記と同様にフィードバックする。

オフィスアワー

金曜日13時～15時

- ・向井京子：5号館 304研究室
- ・井田伸人：5号館 4階 実習指導室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	1. 実習期間および実習施設 実習期間は2週間であり、精神科病院および社会福祉施設で実習を行う。 2. 実習内容 1) 病院実習では1人の対象を受け持ち、看護過程を展開するとともに、対象のセルフケア能力を高められるような援助を実践する。 2) 社会福祉施設では、施設利用者とともに活動に参加し、地域で生活することの意義や支援のあり方を探求する。 3) 学内実習では、学生が受け持っている1事例を用いてアセスメント、看護計画の立案、カンファレンスを行い、学びを深める。また、各自で病院実習や社会福祉施設実習で体験した内容を振り返り、精神看護の特徴、役割、機能について理解を深めるとともに、自己の課題を明確にする。		・精神に障害のある対象とその治療を理解するために、必要な知識について学習する。 ・日々の実習においては学習行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標および目標を達成するための学習計画を立案して実習に臨む。 ・教員、実習指	期間中適宜	・学習行動計画用紙を活用して日々の実習を振り返り、目標の達成状況の自己評価を行う。 ・実習先で指導を受けたことをふまえ、受け持ち患者記録を記載し、追加修正を加える。 ・受け持ち患者に必要な援助および日常生活指導や退院指導を導き出	期間中適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			導者の助言に基づき、看護過程の展開や看護実践に必要な知識、技術について日々学習する。		し、準備を進める。 ・病院実習、社会福祉施設での学びについて、レポートを作成する。 ・精神看護学実習を通し、自己の課題を具体的に考察する。 ・指定の期日までに、上記レポートと実習記録を提出する。	

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



【出席登録方法】

- ・ 臨地実習、学内実習の場合は、C-learning の「出席管理」を用いて出席登録を行う。

【授業の進め方】

- ・ グループとして学びを共有できるよう指導する。
- ・ 既習の知識や技術を活用しながら実習目標に向かうことができるよう、臨床指導者と協力体制を整え指導する。
- ・ 看護者として求められる態度についても、協調性や責任感、倫理観など総合的に育成できるよう支援する。

【その他】

- ・ 受講するためには、臨地実習科目の履修登録が必要である。また、関連する科目(精神看護学概論、精神看護学方法論、精神看護学演習)の履修が必要である。
- ・ 本科目は、1年時からの学習の積み重ねが重要であるため、精神看護学概論、精神看護学方法論、精神看護学演習を中心に十分に復習しておくこと。
- ・ 必要な基礎的知識を備え実習に臨むことができるよう、事前演習などに出席すること。
- ・ 実習科目の単位修得については、実習の規定に準じる。

印刷



地域包括ケア論

英文名：Theory of Integrated Community Care
科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学
科目ナンバリング：NRS122・B
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 人間理解と倫理観
5 論理的思考力・問題解決力
2 チームの一員としての協調・協働
0 国際理解
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

棚橋さつき

科目に関連した実務経験

看護師、訪問看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務（経験）
医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○			○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域包括ケアシステムの概要を理解し、地域で暮らす高齢者の生活および健康増進に関するニーズについて学ぶ。
②1、2、3回の講義は、地域包括に必要な概要について講義する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。4～6回は、グループワークで進める。7回では実践について学び、8回目では学習した内容を整理する。

到達目標

1. 地域包括ケアシステムの概要について理解する。■
2. 対象の潜在能力や資源などの強みに着目した健康課題の捉え方を知る。■
3. 地域で暮らす身近な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の日々の生活の実際を知る。■

4. 地域で暮らす身近な高齢者、家族、コミュニティ、地域等との相互関係を知る。
5. 地域で暮らす高齢者の健康増進に関するニーズを知る。

使用教材

医歯薬出版株式会社 地域・在宅看護論
適宜、講義資料を配布する
日本在宅看護学会の地域ケアシステムについて最新の知見を紹介する

参考文献

系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 北川公子 医学書院
標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院

評価方法

まとめレポート50%、個人課題レポート30%、グループレポート10%、授業参加度10%の総合評価とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。

オフィスアワー

月曜3 限（5号館407 研究室）

メールアドレス（#→@）

tanahashi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、地域包括ケアシステムの概要（講義）■	1	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の「地域包括ケアシステムの概要」該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	教科書とプリントを読み返し、疑問点を調べ、地域包括ケアシステムについて理解する。	1.5 h
2	主要概念の理解 IC F、ストレングスモデル、自助・互助等（講義）■	1,2	教科書の「ICF」、「ストレングスモデル」、「自助・互助」該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	教科書とプリントを読み返し、疑問点を調べ、主要概念について理解する。	1.5 h
3	地域における施設、活動内容等（講義）	1,5	地域にある施設について調べ、学習の確認をする。	2.5 h	学習した内容を整理し、次のグループワークに向けて準備する。	0.5 h
4	地域で暮らす高齢者の生活の実際①（事前課題レポートに基づくグループワーク）	2,3,4	課題1レポート（地域で暮らす身近な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の日々の生活の実際をインタビューし、情報収集を行う）	2.5 h	高齢者の生活状況から考えられる健康上の問題および健康に影響する要因（阻害要因、増進要因）について整理する。	0.5 h
5	地域で暮らす高齢者の生活の実際②（事前課題レポートに基づくグループワーク）	2,3,4	課題1レポート（地域で暮らす身近な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の日々の生活の実際をインタビューし、レポートを作成する。）	2.5 h	高齢者の生活状況から考えられる健康上の問題および健康に影響する要因（阻害要因、増進要因）について整理する	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	地域で暮らす高齢者の生活の実際③（事前課題レポートに基づくグループワーク、発表）	2,3,4,5	課題レポート（地域で暮らす身近な高齢者と家族、コミュニティ、地域等との相互関係について）インタビューおよびフィールドワークを通してレポートを作成する。	2.5h	高齢者、家族、コミュニティ、地域等との相互関係について、「環境」や「健康」という視点から考えたことを整理する。	0.5h
7	地域で暮らす高齢者の実際について理解を深める	4,5	有料老人ホーム等について事前学習を行い、整理する。	2.5h	高齢者、家族、コミュニティ、地域等との相互関係について、整理する。	0.5h
8	地域で暮らす高齢者の健康増進に関する多様なニーズについて理解を深める、まとめ	2,3,4,5	高齢者の健康増進に関連して調べた内容、グループワークで広げた知識を整理し、理解を深める。	2.5h	地域で暮らす高齢者の健康増進に関する多様なニーズについて理解する	0.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



- ・単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。
 - ・出席登録はC-learningを用いて行う。
 - ・オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途提示する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



地域・在宅看護学概論

英文名 : Introduction to Community Health and Home Care Nursing

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学

科目ナンバリング : NRS123・B

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

棚橋さつき

科目に関連した実務経験

看護師、訪問看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務（経験）

医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テストを実施し、授業の中で解説を行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①在宅看護の目的と特性を知り、在宅で生活する療養者とその家族に必要な看護を提供するための基礎を学ぶ。

②各回のテーマについてパワーポイントにより概要を説明する。

到達目標

- 1. 在宅看護の変遷や関連する制度について社会情勢などを踏まえながら説明できる。
- 2. 在宅療養者や家族機能について説明できる。
- 3. 継続看護の方法について説明できる。

使用教材

^

医歯薬出版株式会社 地域・在宅看護論
適宜、講義資料を配布する
日本在宅看護学会の訪問看護システムや経営管理についての最新の知見を紹介する

参考文献

^

これからの退院支援・退院調整 宇都宮宏子 日本看護協会出版会
リスクマネジメントマニュアル 宮崎和歌子 日本看護協会出版会

評価方法

^

筆記試験（6割以下の場合再試験）60%、ミニテスト30%、授業参加度10%の総合評価とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。

オフィスアワー

^

月曜3 限（5号館407研究室）

メールアドレス（#→@）

^

tanahashi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンスおよび在宅看護の目的と特性■	1,2	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	在宅看護の目的と内容の資料を復習すること。	1.5 h
2	訪問看護制度の概要と訪問看護の役割■	1,2	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。	1.5 h
3	療養者・家族の特徴と意思決定支援	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。	1.5 h
4	在宅における人材育成	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。	1.5 h
5	訪問看護マナーと実際■	1	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。	1.5 h
6	在宅看護における安全と健康危機管理（リスクマネジメント）■	1,2	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	次回授業内容にかかわるミニテストを実施するので復習しておくこと。	1.5 h
7	在宅移行への継続看護	3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5 h	地域で暮らす高齢者の健康増進に関する多様なニーズについて理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	在宅看護の展望と総括	3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する	1.5h	地域・在宅看護論の各講義の要点をまとめ確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

・単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。

・出席登録はC-learningを用いて行う。

・オンラインで行う場合は、具体的な学習方法などについて別途提示する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

地域・在宅看護学方法論 I

英文名 : Community Health and Home Care Nursing Assessment and Skills I

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学

科目ナンバリング : NRS227・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

田村直子、浅井直美、小沼美加、棚橋さつき

科目に関連した実務経験

看護師、訪問看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務（経験）棚橋、浅井、小沼、田村
医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）棚橋

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①在宅療養者を支える介護保険制度等の社会資源の基本的知識の習得と様々な発達段階、健康段階、生活環境にある在宅療養者と家族が安心してその人らしく生活するための看護支援方法について学習する。

②各講義資料としてレジュメやパワーポイント資料を配布する。基本定期試験で成績を付けるが、小テストを行い知識を確認する。

到達目標



1. 在宅療養を支える医療制度などの社会資源やサポートシステムについて説明できる。■
2. 在宅看護における対象別看護の特徴を理解できる。■
3. 在宅における看護課題を解決するための日常生活援助、多職種連携、社会資源の実践が理解できる。■

使用教材



- ① ナーシンググラフィカ在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版,2025年版
- ② ナーシンググラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版,2025年版
- ③ 適宜、講義資料を配布する
- ④ 在宅看護学会や在宅ケア学会の在宅療養者・家族への支援や多職種連携について最新の知見を紹介する

参考文献



- 1) 尾野章子、佐野けさ美編：地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社,2024 定価3740円 （地域・在宅看護学概論で購入）

評価方法



定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、筆記試験75%、授業への参加度(演習への参加度、活動への貢献度アンケート内容等)15%、課題レポート10%の配分で、総合評価60点以上を合格とする。

※定期試験が60点未満（100点満点）は再試験

課題・評価に対するフィードバック方法



小テストについては、後日解説する。レポートはコメントを入れ後日返却する。

オフィスアワー



質問は、C-learning連絡・相談にて連絡を。担当教員が回答する。

メールアドレス（#→@）



tanahashi#takasaki-u.ac.jp
tamura#takasaki-u.ac.jp
asai-n#takasaki-u.ac.jp
konuma-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、在宅ケアに関わる諸制度①介護保険制度の概要	1,3	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。 教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	介護保険制度の仕組み、利用方法を理解する。	1.5h
2	在宅ケアに関わる諸制度介護保険サービスの内容（訪問、通所サービス等）	1,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	訪問、通所サービス等の内容、関係する職種を理解する。	1.5h
3	在宅ケアに関わる諸制度介護保険サービスの内容（住宅改修、福祉用具等）	1,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	住宅改修、福祉用具等の利用方法、留意点等を理解する。	1.5h
4	在宅ケアに関わる諸制度介護保険サービスの内容（地域密着型サービス等）	1,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	地域密着型サービスの内容、関係する職種を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	在宅ケアに関わる諸制度訪問看護における介護保険と医療保険の区別	1,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	対象者の疾患、状態により利用できる制度（介護保険と医療保険等）が異なることを理解する。	1.5h
6	地域包括ケアシステムにおける意思決定支援とターミナルケア	1,2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	地域連携と人生を支える看護について理解する	1.5h
7	在宅療養を支える日常生活援助：清潔ケア、排泄ケア	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	在宅看護における清潔ケアと排泄ケアの看護支援方法を理解する。	1.5h
8	在宅療養を支える日常生活援助：食生活支援、服薬管理	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	在宅看護における服薬管理と食生活の看護支援方法を理解する。	1.5h
9	在宅療養を支える日常生活援助：環境調整、訪問リハビリテーション	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。	1.5h	在宅リハビリテーションの役割と多職種連携について要点を理解する。	1.5h
10	対象の理解：高齢者・認知症のある療養者の訪問看護	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。老年看護学で学習した加齢に伴う身体機能変化や認知症症状を復習する。	1.5h	高齢者や認知高齢者が抱える看護課題と看護支援方法を理解する。	1.5h
11	対象の理解：子ども・障害をもつ子どもの訪問看護 ■	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。小児看護学で学習した医療的ケアが必要な小児と家族への看護を復習する。	1.5h	小児を対象とした訪問看護師の役割、看護支援方法を理解する。	1.5h
12	対象の理解：精神疾患の療養者への訪問看護 ■	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。精神看護学で学習した地域で暮らす方への看護支援、制度について復習する。	1.5h	精神疾患にある療養者と家族が抱える看護課題と看護支援方法を理解する。	1.5h
13	対象の理解：在宅におけるエンドオブライフケア ■	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。他領域で学習したエンドオブライフケア（人生の最終段階の看護）について復習する。	1.5h	人生の最終段階にある療養者と家族が抱える看護課題と看護支援方法、多職種連携について理解する。	1.5h
14	対象の理解：難病療養者への訪問看護 ■	2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。成人看護学、家族看護論、地域・在宅看護学概論で学習した難病患者の看護や社会資源について復習する。	1.5h	難病療養者と家族が抱える看護課題と看護支援方法を理解する。	1.5h
15	在宅における多職種連携と情報共有	1,2,3	教科書の該当箇所を読み、学習することを確認する。チーム医療アプローチ論で学習した他職種の役割について復習する。	1.5h	在宅における多職種連携と情報共有の意義、方法を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・現職の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師等を講義に招きます。
- ・■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

地域・在宅看護学方法論Ⅱ

英文名：Community Health and Home Care Nursing:Assessment and Skills Ⅱ

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学

科目ナンバリング：NRS228・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

浅井直美、田村直子、小沼美加、
木内唯花、棚橋さつき

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院、訪問看護ステーションに勤務（経験）：浅井、田村、小沼、棚橋
医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）：棚橋

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テストを実施し、授業の復習を行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①在宅看護で特徴的な医療的ケアの基本的知識と看護技術の知識・技術を習得する。特に医療依存度が高い在宅療養者とその家族に対する看護支援方法について学習する。

様々な発達段階、健康段階、生活環境にある在宅療養者と家族が安心してその人らしく生活するための在宅看護過程について学習する。

②講義は、テーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。医療的ケアの技術については、一部演習を行う。看護過程については、グループワークによる協同学習を行う。C-Learningシステムを活用し、課題提出、学生同士の共有をはかる。

到達目標 ↑

- 1. 在宅で特徴的な医療的ケアの看護技術の基本的知識を学ぶ。■
- 2. 在宅で特徴的な医療的ケアを必要とする対象の看護支援方法を学ぶ。■
- 3. 在宅療養を支える在宅看護過程について基本的な考え方と特徴を学ぶ。■
- 4. 在宅療養者の情報から、アセスメントの視点や看護課題を解決するための日常生活援助、医療的ケア、社会資源の活用、多職種連携等の具体的支援について学ぶ。■

使用教材 ↑

①地域・在宅看護論 医歯薬出版
②ナースングラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
③ナースングラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
適宜、講義資料を配布する
在宅看護における医療的ケアについては、日本在宅看護学会等の最新の知見を紹介する

参考文献 ↑

- 1) 河野あゆみ編：強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図,第2版, 医学書院.2023.
- 2) 正野逸子編：関連図を理解する在宅看護過程, 第2版, メヂカルフレンド社.2019.
- 3) 正野逸子,本田彰子編：在宅看護技術 メヂカルフレンド社.2019.

評価方法 ↑

筆記試験60%（定期試験60%）、課題レポート40%（看護過程）
＊定期試験が60点未満（100点満点）は再試験

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題については、授業中、またはC-Learningを通して、コメントを行う。
演習・グループワークの際は、学生の進捗状況に合わせた助言を行う。

オフィスアワー ↑

月曜日3限 5号館401研究室

メールアドレス（#→@） ↑

asai-n#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	在宅における医療的ケアの特徴 在宅における薬物療法（インスリン・疼痛管理）【講義】■	1	成人看護学で既習したインスリン療法、疼痛管理について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5h	在宅におけるインスリン療養、疼痛管理が必要な療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5h
2	在宅における呼吸管理Ⅰ 在宅酸素療法【講義】■	1,2	解剖生理学、基礎看護学、成人看護学で既習した呼吸の機能、酸素療法について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5h	在宅酸素をしている療養者・家族への看護支援方法について復習する。	1.5h
3	在宅における呼吸管理Ⅱ 人工呼吸療法	1,2	テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5h	在宅人工呼吸療法をしている療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	【講義】 【演習】 ■				る。	
4	在宅における栄養管理 在宅経管栄養法 【講義】 【演習】 ■	1,2	解剖生理学、基礎看護学・成人看護学で既習した摂食・嚥下、栄養・代謝機能について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 h	在宅経管栄養法をしている療養者・家族の看護支援方法について復習する。 在宅中心静脈栄養法をしている療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 h
5	在宅における栄養管理 在宅中心静脈栄養法 【講義】 ■	1,2	基礎看護学・成人看護学で既習した中心静脈栄養について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 h	在宅におけるストーマを造設している療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 h
6	在宅における褥瘡管理、スキンケア 【講義】 【演習】 ■	1,2	基礎看護学で既習した褥瘡の基本的知識について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 h	在宅におけるスキンケア・褥瘡管理が必要な療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 h
7	在宅におけるストーマ管理 【講義】 【演習】 ■	1,2	解剖生理学、成人看護学で既習した消化・吸収機能、ストーマの基本について復習する。 テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 h	在宅における褥瘡管理が必要な療養者・家族の看護支援方法について復習する。	1.5 h
8	在宅看護過程①－基本的な考え方ー 【講義】	3,4	テキストの該当箇所を読み学習する。	1.5 h	講義資料を踏まえ、在宅看護過程の基本的な考え方と特徴を理解する。提示された事例について理解できるように知識の確認をする。	1.5 h
9	在宅看護過程②情報整理・アセスメント グループワーク ■	3,4	個人ワークの課題を提示する。	1.5 h	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 h
10	在宅看護過程③アセスメント・関連図 グループワーク ■	3,4	個人ワークの課題を提示する。	1.5 h	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 h
11	在宅看護過程④関連図・看護課題の抽出 グループワーク ■	3,4	個人ワークの課題を提示する。	1.5 h	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。 グループで関連図・看護課題リストを検討する。	1.5 h
12	在宅看護過程⑤関連図・看護課題リスト発表 ■	3,4	個人ワークの課題を提示する。	1.5 h	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 h
13	在宅看護過程⑥看護計画 グループワーク ■	3,4	個人ワークの課題を提示する。	1.5 h	グループワークにより得た意見を参考に、個人ワークを加筆修正する。	1.5 h
14	在宅看護過程⑦看護計画の発表・看護計画に基づく看護支援 グループワーク ■	2,3,4	個人ワークの課題を提示する。	1.5 h	個人ワークを加筆修正する。	1.5 h
15	在宅看護過程⑧看護計画に基づく看護支	2,3,4	看護過程記録用紙の個人ワークの課題を提示す	1.5 h	個人ワークを加筆修正し、仕上げる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	援、まとめ■		る。			

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

・看護過程の学習は、個人ワークとグループワークを併用して、学習を深める。

・看護過程の課題は、C-Leraningにて提出あるいは課題用紙の提出とする。

・単位修得に必要な時間数を満たしていない場合、記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

・■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



地域・在宅看護学実習

英文名 : Community Health and Home Care Nursing Practicum

科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・在宅看護学

科目ナンバリング : NRS317・C

学年 : 3年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

浅井直美、田村直子、小沼美加、木内唯花、棚橋さつき

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院・訪問看護ステーションに勤務（経験）：浅井、田村、小沼、棚橋

医療介護連携相談センターに看護師として勤務（経験）：棚橋

看護師として総合病院に勤務（経験）：木内

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①在宅で療養する療養者と家族を総合的に理解し、生活の場における療養上のニーズを充足するための看護の展開方法を学ぶ。また、在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働の実際から、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を学ぶ。

②実習は前期・後期の通年に行われる。臨地では、同行する看護師の指導を受け、在宅療養者宅に看護師とともに同行訪問を行う。各グループの担当教員から、臨地実習や学内実習を通して個別指導を受ける。臨地実習の振り返りを行い、経験内容を意味づけ学習する。

到達目標

^

- 1.在宅療養者と家族の多様な特性や環境、望む生活を踏まえて、療養上のニーズおよび必要な支援を理解する。■
- 2.生活の場であることを踏まえ、在宅療養者および家族のニーズを充足するための看護計画を立案し、適切な支援について考察する。■
- 3.在宅療養者とその家族を支援するための社会資源の活用方法や在宅における多職種連携・協働について理解する。■
- 4.訪問看護ステーションの特徴と機能を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と機能について考察する。■
- 5.初学者である看護学生として、主体的に学習し、責任ある態度を修得する。

使用教材

^

臨地実習要項及び地域・在宅看護学実習要項

参考文献

^

- ①地域・在宅看護論 医歯薬出版
- ②ナースングラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
- ③ナースングラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
- ④強みと弱みからみた地域・在宅看護過程＋総合的機能関連図 第2版 医学書院

評価方法

^

- 実習目標を評価基準とし評価表で評価する。
- 1）実習への取り組み（カンファレンスの参加態度を含む）、態度
- 2）実習記録、課題レポート
- 3）小テスト
- 【オンライン実習となった場合】カンファレンスにおける学生の言動、記録物・レポートの記載内容、小テストおよび、実習参加態度等により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

実習記録、訪問記録等に関して随時指導、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

質問および学習相談には、実習開始前もしくは終了後に応じる。
C-learning 連絡・相談にて対応。

メールアドレス（#→@）

^

asai-n#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	上記の到達目標達成に向けて、2週間の実習を行う。訪問看護ステーションでの臨地実習7日間、学内実習3日間とする。訪問看護ステーションでは療養者1名を受け持ち、実習中に2回以上訪問看護に同行する。また、受け持ち以外の療養者への訪問看護に同行し、在宅看護の多様性について学習する。 ・臨地・学内カンファレンスを行う。カンファレンスでは実習目標に沿って学んだことを共有し、意見交換を行う。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。	1, 2, 3, 4,5	・受け持ち療養者の疾病に関して事前学習する。 ・在宅療養を支える社会資源、実習施設に関する情報を整理する。 ・日々の実習において、行動計画用紙を活用し、翌日の学習目標を達成するための計画をたて実習に臨む。 ・実習指導教員、実習指導者の助言に基づき、受け持ち療養者への看護過	適宜	・実習を通して学んだことを実習目標に沿って振り返り、整理する。 ・臨地・学内カンファレンスを通して、考察したことを実習レポートなどにまとめる。 ・在宅看護学実習を通して、今	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			程の展開や看護実践に必要な知識と技術について、日々学習し実習に臨む。		後の自己の課題を具体的に考察する。	

合計時間（予習・復習）

^

適宜

備考

^

【実習期間全体を通じた実習の進め方】
受け持ち療養者に同行訪問し、情報収集・アセスメントから看護上の課題を検討し、看護計画を立案し、看護支援方法について考察する。
受持ち療養者以外の療養者に同行訪問し、環境や療養上のニーズ、個別性の高い看護支援について学習する。
実習目標に沿った学びについて、カンファレンス等で意見交換を行う。
本科目は、1年次からの学習の積み重ねが重要であるため、地域包括ケア論、地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護学方法論Ⅰ、地域・在宅看護学方法論Ⅱを中心に十分復習しておくこと。
【履修条件】
この科目は、看護専門科目群 専門分野Ⅱの実習科目（専門領域別実習）の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



公衆衛生看護学概論 I

英文名 : Introduction to Public Health Nursing I
科目区分 : 看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学
科目ナンバリング : NRS229・A
学年 : 2年
開講期 : 前期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
2 人間理解と倫理観
5 論理的思考力・問題解決力
2 チームの一員としての協調・協働
0 国際理解
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

倉林しのぶ、赤堀八重子

科目に関連した実務経験

倉林 : 保健師として県教育委員会・病院・事業所に勤務（経験）
赤堀 : 保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）

履修を必須とする資格

看護師国家試験受験資格（保健師国家試験受験資格）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①公衆衛生の歴史をたどりながらプライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの概念を学ぶ。また、地域で生活するすべての人々を対象とし、健康課題を環境や生活と関連づけて捉える公衆衛生看護活動の特徴と保健師の役割について学習する。

②テキスト中心に行うが、補足的内容を含め教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。

到達目標



1. プライマリヘルスケアおよびヘルスプロモーションの概念と概要を理解することができる。■
2. 社会環境や生活状況から生じる健康課題をとらえることができる。■
3. 公衆衛生看護活動の場と活動の概要を理解することができる。■
4. 地域診断の意義と方法について理解することができる。■

使用教材



公衆衛生看護学. j p 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）
講義のスライドを随時プリントして配布する。
公衆衛生看護学会における公衆衛生看護の体系などに関する最新の知見を紹介する。

評価方法



定期試験70%、演習課題20%、授業参加度10%として総合的に評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。

オフィスアワー



倉林：月曜日火曜日11:00～13:00
赤堀：金曜日13:00～16:15

メールアドレス（#→@）



倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	公衆衛生看護学とは（概念、ヘルスプロモーション、公衆衛生看護の歴史、医療経済と保健活動、保健医療福祉システム）■	1, 2	教科書「第1章Ⅰ公衆衛生看護学とは」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。	1.5	特に、公衆衛生看護学の概念、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、保健医療福祉システムについて振り返りを行う。	1.5
2	地域保健の活動（保健師と公衆衛生活動、活動の場、活動内容、方法、保健師が行う保健指導、保健行動と保健活動、社会環境の変化と健康課題）■	1, 3	教科書「第1章Ⅱ地域保健の活動」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。	1.5	保健師の活動の場、保健師が行う保健指導等について、また、社会環境の変化と健康課題についての振り返りを行う。	1.5
3	地域保健活動のツール（家庭訪問、健康相談、健康教育）■	3	教科書「第2章地域保健活動のエレメント」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。PDCAサイクルについて確認しておく。	1.5	教科書「第3章地域保健活動のツール」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。教科書「第1章Ⅱ・3保健師が行う保健指導」について再確認を行う。	1.5
4	地域保健活動のツール（健康診査、グループ支援・地域組織活動、地域組織	3	教科書「第3章地域保健活動のツール」の該	1.5	健康診査、グループ支援・地域組織活動、地	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	活動) ■		当箇所を読み、概要を理解しておく。		域組織活動について振り返りを行う。	
5	地域保健活動過程と保健師活動（地域診断、事業計画と保健師の役割） ■	2, 3, 4	教科書「第2章地域保健活動のエLEMENT」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。PDCAサイクルについて確認しておく	1.5	保健師が行う地域診断の目的、方法および、地域保健活動に用いる理論について振り返りを行う。	1.5
6	地域保健活動過程と保健師活動（地域におけるグループ支援・地域組織活動、地域ケアシステム、地域ケアシステムにおけるチームワーク） ■	2, 3, 4	教科書「第2章地域保健活動のエLEMENT」の該当箇所を読み、概要を理解しておく。	1.5	地域におけるグループ支援、組織活動、地域ケアシステムにおける保健師の役割や活動について振り返りを行う。	1.5
7	地域アセスメント（地域診断） 1 演習 ■	1, 2, 3, 4	自分の地元地域についての調査（高齢者の視点で）	1.5	地元地域の特徴と特性について考えてみる	1.5
8	地域アセスメント（地域診断） 1 演習 ■	1, 2, 3, 4	自分の地元地域の特性と強みを考えてくる（高齢者の視点で）	1.5	地域診断の意味と意義についてまとめる	1.5

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- 履修条件：本科目は「公衆衛生学」を履修していることが望ましい。
- 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
 - ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

公衆衛生看護学概論Ⅱ

英文名：Introduction to Public Health NursingⅡ
科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学
科目ナンバリング：NRS318・A
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
 比重 DP
 2 人間理解と倫理観
 5 論理的思考力・問題解決力
 2 チームの一員としての協調・協働
 0 国際理解
 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

赤堀八重子・倉林しのぶ

科目に関連した実務経験

赤堀：保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）
 倉林：保健師として県教育委員会・病院・事業所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健医療福祉システムにおける公衆衛生看護の役割を学ぶ。また、地域診断（アセスメント）を基盤とする公衆衛生看護活動の展開方法および、事業化と施策化のプロセスについて学修する。演習では、地域の社会資源や制度を活用した事例検討を行う。

②授業の進め方：テキスト中心に行うが、補足的内容を含め教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。また、事例検討を含む演習を実施する。

到達目標

^

1. 公衆衛生看護活動の計画・実践・評価の流れを理解することができる。■
2. 地域アセスメントに必要な情報およびその情報を整理統合する方法を理解することができる。■
3. 課題解決のために活用できる社会資源や制度、また、地域の中のインフォーマルな資源について理解できる。■
4. 地域の課題抽出から事業化までのプロセスおよびその意義について理解することができる。■

使用教材

^

保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800円）
講義のスライドを随時プリントして配布する。
日本公衆衛生看護学会における公衆衛生看護の体系などに関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）

評価方法

^

定期試験70%、レポート・記録物等20%、授業・演習参加度10%、として総合的に評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートや質問については次の回に全体に向けて総評または回答・解説する。

オフィスアワー

^

赤堀：金曜日13：00～16：15
倉林：月曜日火曜日11:00～13:00

メールアドレス（#→@）

^

赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp
倉林：kura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域診断〈地域アセスメント〉■	1,2,4	教科書「第6章地域診断〈地域アセスメント〉」を読んでおくこと。公衆衛生看護学概論Ⅰをふまえ地域アセスメントの方法を復習しておくこと。	1.5h	地域診断の方法について整理し、理解を深める。	1.5h
2	理論モデル（コミュニティ-アズ-パートナーモデル / プリシード・プロシード・モデルその他）	1,4	教科書「第6章地域診断〈地域アセスメント〉」および「第4章公衆衛生看護における対人支援の技術、健康教育に用いる基礎理論と歴史的変化③プリシード・プロシード・モデル」を読んでおくこと。	1.5h	各モデルの概要を整理し、理解を深める。	1.5h
3	計画策定とは（計画策定のプロセス・要素・問題の構造化）■	1,2,3,4	教科書「第9章公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意味と意義」を読んでおくこと。	1.5h	計画策定のプロセスを整理し、確認しておく。	1.5h
4	計画策定の具体的な流れ（優先順位の決定・予算／活動の評価の方法）■	1,2,3,4	教科書「第9章公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意味と意義」を読んでおくこと。	1.5h	予算、優先順位の決定方法、活動の評価方法について整理し、確認しておく。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	演習：事例検討 ■	1,2,3,4	事例に関する社会資源・制度についてまとめる	1.5 h	事例を読み込んで必要な情報について検討する	1.5 h
6	演習：事例検討 ■	1,2,3,4	事例を読み込んで必要な情報について検討する	1.5 h	アセスメントと抽出した課題の再確認	1.5 h
7	演習：事例検討 ■	1,2,3,4	計画立案とプレゼンテーション準備	1.5 h	計画の問題点の整理	1.5 h
8	演習・事例検討 評価／まとめ ■	1,2,3,4	問題点の整理と評価をしてみる	1.5 h	地域アセスメントと公衆衛生看護活動についての振り返りをする	1.5 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



- 履修条件：保健師課程の必修科目である。「公衆衛生看護学概論Ⅰ」および「公衆衛生看護方法論」を履修していることが望ましい。
- 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
 - ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- オンラインの場合
 - 1) 評価方法：オンライン授業参加度（10 %）、演習態度・レポート（課題）30 %、小テストなどによる試験（60 %）
 - 2) 課題に対するフィードバック：レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。
 - 3) 出席登録：① C-learning への出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



公衆衛生看護学方法論

英文名：Public Health Nursing: Assessment and Skills

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学

科目ナンバリング：NRS230・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

赤堀八重子、武居明美、倉林しのぶ、黒岩あゆみ

科目に関連した実務経験

赤堀：保健師として行政〈町役場〉に勤務(経験)

武居：保健師として健康保険組合に勤務(経験)

倉林：保健師として都道府県教育委員会・病院・事業所に勤務(経験)

履修を必須とする資格

看護師国家試験受験資格（保健師国家試験受験資格）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

C-learningの小テスト、アンケートを活用

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動全般と保健師の役割について学ぶ。保健所における保健活動と市町村における保健活動の実際を学び、母子、成人、高齢者等のライフサイクル別、また、健康課題に応じた個人と家族への支援、また集団を対象とした支援等、地域における保健師活動の実際を学習する。

②講義の実施方法

教科書（使用教材）および教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。

出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

到達目標



- 1.地域における看護職としての保健師の機能と役割を理解する■
- 2.対象に応じた保健活動および保健師の役割を理解する■
- 3.保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等の保健師業務と役割を説明できる■
- 4.公衆衛生看護活動のなかでの連携、チームケアにおける保健師の役割を説明できる■

使用教材



公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）

国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会（2,500円税込）

日本公衆衛生看護学会における公衆衛生看護の体系などに関する最新の知見を紹介する。

日本公衆衛生学会が報告している公衆衛生分野の調査・研究等の最新の知見を紹介する。

評価方法



定期試験（70％）、授業参加度・態度（20％）、課題・ミニテスト等（10％）として総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



学生からの質問等については、講義前に全体に向けて解説する。

オンラインの場合：C-learning等を活用しコメントをつけてフィードバックを行う。

オフィスアワー



赤堀：金曜日13：00～16：15

武居：月曜日10：00～13:00

メールアドレス（#→@）



赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp

武居：takei-a#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保健師業務・発達段階と保健活動■	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	講義で学んだことを基に、保健師の業務内容・役割、個人・家族の発達段階と保健活動について理解を深める。	1.5h
2	母子保健活動■	1,2,3	教科書「第4章Ⅱ母子保健活動1～3」および国民衛生の動向「保健対策（母子保健）」を読んでおく。	1.5h	母子保健活動に関わる法律を整理し、内容について確認する。	1.5h
3	母子保健活動の実際と保健師の役割■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅱ母子保健活動4～5」および国民衛生の動向「保健対策（母子保健）」を読んでおく。	1.5h	母子保健活動の実際および保健師の役割について整理し、理解する。	1.5h
4	成人保健活動と保健師の役	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅲ成人保健活動」および国民衛生の動向「生活習慣	1.5h	成人保健活動に関わる法律を整理し、内容について確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	割 ■		病と健康増進対策」を読んでおくこと。			
5	成人保健活動（特定健康診査・特定保健指導） ■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅲ成人保健活動」および国民衛生の動向「生活習慣病と健康増進対策」を読んでおくこと。	1.5h	特定健康診査・特定保健指導の根拠法、特定健康診査・特定保健指導の概要について見直しを行う。保健師の役割について整理し、理解を深める。	1.5h
6	高齢者保健活動 ■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅳ高齢者保健活動」および国民衛生の動向「保健医療を取り巻く社会保障第1章介護保険」を読んでおくこと。	1.5h	高齢者保健活動に関わる法律を整理し、内容について理解する。	1.5h
7	高齢者保健活動の実際と保健師の役割 ■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅳ高齢者保健活動」および国民衛生の動向「保健医療を取り巻く社会保障第1章介護保険」を読んでおくこと。	1.5h	高齢者保健活動における保健師の役割について整理し、理解を深める。	1.5h
8	障害者（児）保健活動と保健師の役割 ■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅵ障害者（児）保健活動」および国民衛生の動向「保健対策（障害児・者施策）」を読んでおく。	1.5h	障害者（児）の保健活動に関わる法律を整理し、内容を確認する。保健師の役割について理解を深める。障害者総合支援法について整理し、理解を深める。	1.5h
9	精神障害者保健活動と保健師の役割	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅶ精神保健活動」および国民衛生の動向「保健対策（精神保健）」を読んでおく。	1.5h	精神保健福祉法について整理し、内容を確認する。精神保健福祉活動の実際について整理し、理解を深める。	1.5h
10	難病保健活動と保健師の役割 ■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅴ難病保健活動」および国民衛生の動向「疾病対策（難病対策）」を読んでおく。	1.5h	難病保健活動に関する法律を整理し、内容を確認する。難病保健活動における保健師の役割について理解を深める。	1.5h
11	感染症保健活動と保健師の役割 ■	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅷ感染症保健活動」および国民衛生の動向「感染症対策」を読んでおく。	1.5h	感染症保健活動に関わる法律について整理し、内容を確認する。感染症保健活動（感染症対策）における保健師の役割について理解を深める。	1.5h
12	歯科口腔保健活動／在宅ケア	1,2,3,4	教科書「第4章Ⅸ歯科口腔保健活動」および国民衛生の動向「歯科保健医療」を読んでおく。教科書「第6章Ⅲ在宅ケア」を読んでおく。	1.5h	歯科口腔保健活動に関わる法律、施策について整理し、内容を確認する。在宅ケアにおける保健師の役割について整理し、理解を深める。	1.5h
13	健康危機管理 ■	1,2,3,4	教科書「第5章Ⅸ健康危機管理」および国民衛生の動向「健康危機管理体制」を読んでおく。	1.5h	健康危機管理、災害保健活動に携わる保健師の役割について理解を深める	1.5h
14	産業保健活動と保健師の役割／学校保健 ■	1,2,3,4	教科書「第6章Ⅰ学校保健」、 「第6章Ⅱ産業保健」を読んでおく。	1.5h	産業保健、学校保健について理解を深める。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	授業資料を基に第1回～14回の要点をまとめておく。	1.5h	これまでの授業内容を振り返り、各保健活動に関連する法律、保健師の役割について整理する。	1.5h

備考



- 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
 - ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 - 履修条件
 - ・公衆衛生看護学概論を修得していることが望ましい。
 - オンラインの場合
 - 1) 評価方法：オンライン授業参加度（10%）、演習態度・レポート（課題）30%、小テストなどによる試験（60%）
 - 2) 課題に対するフィードバック：レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。
 - 3) 出席登録：①C-learningへの出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

地域包括支援実習

英文名：Prctice for Regional comprehensive support

科目区分：看護専門科目群・専門分野Ⅱ・地域看護学

科目ナンバリング：NRS319・C

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

武居明美、赤堀八重子、倉林しのぶ、黒岩あゆみ

科目に関連した実務経験

武居：保健師として職域保険協会に勤務、看護師として病院に勤務（経験）

赤堀：保健師として行政（町役場）に勤務、看護師として病院・訪問看護ステーションに勤務（経験）

倉林：保健師として病院に勤務（経験）

黒岩：保健師として行政（市役所、町役場）に勤務、助産師として病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域社会で生活する高齢者とその家族のニーズを捉え、介護保険制度、および医療・介護・予防・住まい・生活支援が切れ目なく提供される地域包括ケアシステムについて理解する。また、さまざまな健康レベルにある高齢者を総合的に支援するための地域包括支援センターをはじめとする行政の役割や関係機関との連携について学ぶ。

②講義の実施方法

主な実習先は、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの介護保険関連施設、老人福祉センターである。実習期間

は1週間であり、4日間は地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの介護保険関連施設、老人福祉センターで実習を行う。実習最終日には、学内実習を行う。

到達目標 ↑

- 1. 地域で生活する高齢者の身体的・精神的・社会的特性をふまえた上で、あらゆる健康レベルにある高齢者への社会的支援の方法について理解する。■
- 2. 介護保険制度における介護給付・予防給付・地域支援事業の概要について理解する。■
- 3. 地域包括ケアシステムの要となる地域包括支援センターについて、その役割、業務について理解する。■
- 4. 地域包括ケアシステムにおける5つの視点および保健・医療・福祉の連携の在り方について理解する。■
- 5. 地域で活動する看護職としての役割を果たすための責任感、態度を修得する。

使用教材 ↑

- ・公衆衛生看護学. j p 荒賀直子、後閑容子、鳩野洋子、神庭純子 インターメディカル 4,840円
- ・国民衛生の動向, 厚生労働統計協会編, 厚生労働統計協会 2,970円
- ・その他介護保険に関するテキストおよび資料
- ・学会の論文等から最新の知見を紹介する

参考文献 ↑

- ・厚生労働省ホームページ介護事業所・生活関連情報検索（介護サービス情報公表システム）
<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/publish/>
- ・最新保健師講座対象別公衆衛生看護活動3松田正巳著, 医学書院
- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学:北川公子, 医学書院
- ・地域・在宅看護論, 尾崎章子他, 医歯薬出版

評価方法 ↑

実習目標達成度90%（事前学習、実習態度、カンファレンスへの参加度、日々の記録物、レポートなど）、実習参加度10%

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

記録に関しては、教員が内容を確認し、コメントを付して返却する。また、最終レポートに関しては教員が内容を確認後、返却する。

オフィスアワー ↑

武居：月曜日10：00～13:00
赤堀：金曜日13：00～16:15

メールアドレス（#→@） ↑

武居：takei-a#takasaki-u.ac.jp
赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp
倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
黒岩：kuroiwa-a#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	1.実習期間および実習施設 実習期間は1週間で、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの介護保険関連施設、老人福祉センターにおいて実習する。 2. 実習内容 1) 地域包括支援センター 保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士との同行	1、 2、 3、 4、5	・地域包括ケアシステムの概要 ・地域包括支援センターの概要と所属する専門職の役	適宜	地域包括ケアシステムの全体像とそこに関わる職種の連携についての確認	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	訪問や会議への見学参加が中心となる。 2) 居宅介護支援事業所・介護保険施設 居宅介護支援事業所では、主に、介護支援専門員との同行訪問、サービス担当者会議の見学参加を行う。介護施設では利用者とのコミュニケーションのほか、介護支援への見学参加を行う。 3) 老人福祉センター センター内で行われる活動に参加し、地域で生活する高齢者とのコミュニケーションを図る。 4) 学内実習（グループワークおよびカンファレンス） 到達目標に対して、事前学習や実習での参加見学を通して学習した内容を体系的にまとめ発表し、意見交換を行う。行政で活動する看護職の役割および地域で生活する高齢者および家族を支えるための地域包括ケアシステムについて考察する。■		割 ・介護保険制度についての事前学習 ・実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認			

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



●本科目は、公衆衛生看護における高齢者保健活動について理解していることが重要であるため、公衆衛生看護学概論Ⅰ、公衆衛生看護学方法論を中心に十分復習をしておくこと。

【履修条件】

●履修承認基準を満たしていること（臨地実習科目の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない）。

●オンラインの場合

1) 評価方法：実習目標達成度90%（事前学習、実習態度、カンファレンスへの参加度、記録物、レポートなど）、オンライン実習参加度（10%）

2) 課題に対するフィードバック：レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。

3) 出席登録：①C-learningへの出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷



学校保健 I

英文名 : School Health I

科目区分 : 看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング : NRT231・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

尾内雅子・北原恵美・小原成美

科目に関連した実務経験

養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）

学校保健担当指導主事として県教育委員会教育事務所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学校保健の目的・意義を理解し、学校を活動の場とした児童生徒の健康の保持増進、心身の成長発達を支援するための保健管理、保健教育、保健組織活動を題材に、学校保健活動における学校（教諭・養護教諭等）、地域、家庭の役割について学ぶ。

②講義、グループワークを実施する。

到達目標



- 1.学校保健に関連する法律である教育基本法、学校教育法、学校保健安全法について学び、学校保健の領域構造の法律的位
置づけについて説明することができる。
- 2.学校保健の領域構造における保健教育、保健管理、保健組織活動等について学び、学校における、教員や養護教諭等の職
務や役割、地域や家庭との連携の必要性を説明することができる。

使用教材



「学校保健マニュアル 改訂10版」 編集 衛藤 隆 植田誠治 南山堂
学校保健の最新の知見を紹介する（日本学校保健学会）

参考文献



「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」 日本学校保健会

評価方法



1. 通常授業：筆記試験（80%）、提出物（10%）、授業への参加内容（10%）
2. オンライン授業：小テスト60%、授業への参加内容（出席及びアンケート内容）20%、期末課題20%

課題・評価に対するフィードバック方法



レポート及びワークシートにはコメントをつけて返却する。（対面講義でもオンライン講義でも同様）
定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。

オフィスアワー



月・水・金曜日の3限4限

メールアドレス（#→@）



m-onai#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学校教育と学校保健及び養護教諭の職務 ■ ・学校保健の目的、学校保健の領域構造について学ぶ。 ・養護教諭の職務に関する経緯や職務内容について学ぶ。	1,2	教科書により予習を行う。	1.5 h	学校保健活動の目的・意義、対象・領域、学校保健活動の歴史、養護教諭の職務について整理し、理解を深める。	1.5 h
2	健康の評価・疾病および健康障害 ■ ・健康状態に関する情報収集・処理及び活用について学ぶ。 ・学校保健統計から子供たちの健康課題をとらえ、疾病管理や対応について考える	2	教科書により予習を行う。	1.5 h	保健調査・健康観察、保健情報収集について整理し、健康課題と疾病管理について理解を深める。	1.5 h
3	保健管理（健康診断） ・健康診断の法的根拠をおさえ、定期・臨時・就学时健康診断の内容・事後措置について学ぶ	2	教科書により予習を行う。	1.5 h	定期・臨時・就学时健康診断の内容・事後措置について整理し、理解を深める。	1.5 h
4	感染症とその対応 ・学校での感染症に関する法令・対応について学ぶ。	1,2	教科書により予習を行う。	1.5 h	学校で行う感染症対策について整理し、理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	精神保健■ ・児童生徒の精神保健の現状と対応を学ぶ。	1,2	教科書により予習を行う。	1.5 h	精神保健に関する基本知識や心の健康問題の予防・早期発見について整理し、理解を深める。	1.5 h
6	発達や行動上の課題と特別支援教育 ・発達障害者支援法・発達や行動上に困難のある児童生徒の障がいについて学ぶ。	1,2	教科書により予習を行う。	1.5 h	発達障害・特別支援教育・医療的ケアを整理し、理解を深める。	1.5 h
7	保健室の役割・安全管理と危機管理■ ・保健室の法的根拠・機能を学ぶ。 ・子供たちの安全をめぐる状況や学校における危機管理の基本的な考え方を学ぶ。	1,2	教科書により予習を行う。	1.5 h	保健室の法的根拠・機能及び子供たちの安全をめぐる状況や学校における危機管理の基本的な考え方について整理し理解を深める。	1.5 h
8	学校環境衛生・まとめ ・学校環境衛生の考え方・関係法令・基準値について学ぶ。	1,2	教科書により予習を行う。	1.5 h	学校環境衛生基準値・方法について整理し、理解を深める。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- 授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。
- パワーポイントによる図の提示を行っていく。また事例を示しグループワークにより課題解決学習も取り入れる。
- オンライン授業での出席の登録・確認
出席の登録方法については、C-learningの「協働版」で確認すること。
■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

ヘルスカウンセリング

英文名：Health Counseling

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS232・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

池田優子

科目に関連した実務経験

カウンセラーとして精神科クリニックに勤務（経験）■

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では看護に必要なカウンセリングマインドについて理解し、患者の理解と健康へ向けた専門的支援方法としてのヘルスカウンセリングを学ぶ。

講義はカウンセリングの構造の理解から始め、傾聴・共感などの基本姿勢を演習を通して身につけるとともに、様々な支援法について理解を深めるよう進めていく

到達目標

- 自己理解を深め、自分自身の持つ感情や期待・欲求について内省が深められる■
- カウンセリングの「4つの基本的姿勢」を身につけられる■
- カウンセリングとガイダンス、指導の違いを理解し、様々な健康支援法が理解できる■

使用教材

テキストは使用せず、自作の講義資料や演習のフォーマット、DVDを使っていく

参考文献

「入門 健康カウンセリング」 ヘルスカウンセリングセンターインターナショナル

評価方法

1. 毎回の講義や演習の課題についてC-learningのアンケートへの入力・提出で40点。
2. 最終日にカウンセリング演習を実施し、分析と考察のテスト・レポート点で60点の評価とする。
(オンライン授業、対面授業も、同様の評価とします)

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回、講義・演習の感想や質問をアンケートに入力してもらい、次の授業で感想へのコメントや質問への解説を行う。理解できたか学生に確認し、新たな課題や質問が出された場合、その都度回答する

オフィスアワー

授業開始前や終了後に質問及び学習相談に応じる

メールアドレス（#→@）

yukoike9#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス カウンセリングの概要の理解 ■	1	1 年次実施の自己理解のチェックリストを整理しておく	1.5 h	DVDで視聴した内容や、来談者中心療法等のカウンセリングについて整理する	1.5 h
2	ヘルスカウンセリングとは カウンセリングが感情に焦点を当てる意味とは	1	自分が普段感じる様々な感情を思い浮かべ、整理しておく	1.5 h	実施した「感情のセルフカウンセリング」の気づきをまとめる	1.5 h
3	ヘルスカウンセリングの基本的前提 ■ 傾聴と確認のエクササイズ	1,2	二重意思理論と人間の意識構造について復習しておく	1.5 h	傾聴と確認の演習を振り返り、どのような態度をとると効果的か整理する	1.5 h
4	ヘルスカウンセリングの4つの基本姿勢と構造の理解 「印象に残った事」のモデリング学習 ■	1,2	「観察」「傾聴」「確認」「共感」について復習しておく	1.5 h	ヘルスカウンセリングの基本姿勢について、モデリング場面で観察できたことを整理しておく	1.5 h
5	モデリング学習の振り返り 自己イメージの理解及びマイブームカウンセリングの演習 ■	1,2	ヘルスカウンセリングの手順について資料を見て予習しておく	1.5 h	3人組で実施したカウンセリングについて、カウンセラー役・クライアント役・観察役について、気づいたことや課題を考察する	1.5 h
6	メンタルヘルスの改善に役立つストレスマネジメント ■	1,2	日頃の生活の中で感じるストレスについて意識を向け書きとめておく	1.5 h	自己の抱えるストレスの特徴とストレス対処方法についての学びを整理する	1.5 h
7	クライアントの状況別支援法 心象風景連想法 認知行動療法	1,2, 3	行動変容を促す健康支援法について復習しておく	1.5 h	対象のニーズに応じた様々な支援法について整理する	1.5 h
8	総まとめと「行動変容のヘルスカウンセリング」の実施	1,2, 3	講義の到達目標に照らし合わせて、学習	1.5 h	全体を通して学べたことを講義目標と照らし合わせて整理する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			の中で学べたことをまとめる			

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

授業の進め方は、対面授業を6回と自分一人で取り組むオンライン授業を2回、授業内容の特徴を生かして実施する

1. 対面事業においては、2人組、3人組の演習形式をとり、相手とのやりとりの中で生まれる気づきを大切にする
2. オンライン授業では、周りの目を気にせず、ゆっくり自分を向き合えるセルフカウンセリングの時間とする。
3. 最終回は総まとめとテストレポートとして、「行動変容のためのヘルスカウンセリング」の課題を提出する。

尚、2回以上の欠席でテスト評価外となります。毎回、授業の感想や質問をC-leaningのアンケートに入力することで、出席と見なすので、忘れずに入力してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷



看護学特論（精神看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

酒井美子

科目に関連した実務経験

看護師として精神科病棟での勤務経験がある。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

既習の精神看護学に関する知識を基盤に、現在の社会的問題や専門職としての精神看護の役割と実際から、多角的に捉えた精神看護の課題の克服に向けた方策を学習し考察する。

②講義の実施方法

教員が作成した資料、パワーポイント、視覚教材を用いて学習者の理解を図りながら授業を展開する。

到達目標

- 社会的問題である自死と予防について自分にできることを考える。
- 精神障がい者の苦悩とレジリエンス(力)を説明できる。

3. 多角的な視点から精神看護の専門職としての役割と課題を考察できる。

使用教材 ^

最新の知見を含む配布資料、授業に関連したDVDを紹介する。

参考文献 ^

適宜紹介する。

評価方法 ^

・出席状況30%、レポート70%の総合評価で60%以上を認定とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

・レポートはコメントを付して返却する。

オフィスアワー ^

金曜日11：00-13：00
(5号館 408研究室)

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション / 精神医療と精神保健福祉の現状と課題	1,3	精神医療、精神保健福祉に関することを調べる	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
2	自死と予防対策	1,2,3	自殺に関する情報を検索してみる	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
3	精神障がい者の自律を支える支援 地域包括ケアシステム	1,2,3	精神障がい者の自律を支える支援について調べる。	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
4	精神障がい者の体験 当事者授業	2,3	1年次の精神障がい者に関する資料に目を通す。	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
5	就労支援の現状	2,3	障がい者の就労支援（社会資源など）の現状について調べる。	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
6	専門看護師（CNS）の役割と実際	2,3	精神科専門看護師について調べる。	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
7	精神看護師の課題と魅力	1,2,3	これまでの学びから、精神科看護の課題と魅力を考える。	1.5h	配布資料と講義内容の学びを整理しておく。	1.5h
8	グループディスカッション	3	第1回～第7回の授業内容の要点を確認して、自分の学びや疑問をまとめる。	1.5h	グループディスカッションでの学びを整理しておく。	1.5h

合計時間（予習・復習） ^

24h

備考 ^

- ・メールで質問をする際は、氏名、学籍番号を必ず記載すること。
- ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

看護学特論（リプロダクティブヘルス看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

茂木佐智子、寺口顕子、堀越摂子

科目に関連した実務経験

助産師として総合病院の勤務経験を有する

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①思春期から子育て期にある女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関わる健康課題を概観し、リプロダクティブヘルス看護の対象を理解するとともに、その対象に必要な支援の在り方について考察する。

②講義内容の要点の講義と、ゼミナール形式で実施する。複数の教員によるオムニバス形式。

到達目標

- リプロダクティブヘルス看護の対象を述べる。
- 思春期から子育て期にある女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関わる健康課題を説明する。
- 思春期から子育て期にある女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関わる健康課題に必要な支援について考えを述べる。

- 4. リプロダクティブヘルス看護に関する自己の課題を見いだす。
- 5. 主体的な態度で学習に取り組む。

使用教材

↑

教科書は使用せず、配布資料や視聴覚教材を使用する。適宜、リプロダクティブヘルス看護学の最新の知見を含める。

参考文献

↑

・「母性看護学Ⅰ概論第2版 女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求」有森直子編，医歯薬出版，2020。（2,200円＋税） ISBN978-4-263-23736-6

評価方法

↑

学習活動（30％）、レポート（70％）により、到達目標の達成状況を評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

提出されたレポート等に対してコメントする。

オフィスアワー

↑

火曜日4限 5号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

↑

motegi-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リプロダクティブヘルス/ライツと性教育①	1,2,5	思春期の女性（男性も含む）の健康課題、特に性に関連する課題を調べておく。	1h	思春期の女性の健康課題、特に性に関する課題の原因が多面的であることを復習する。	2h
2	リプロダクティブヘルス/ライツと性教育②	2,3,5	思春期の女性の健康課題について、性教育がどのような支援をできるか、考えてみる。	1h	性教育の多様な内容と方法について、復習する。	2h
3	リプロダクティブヘルス/ライツと出生前検査にかかる支援①	1,2,5	妊娠期に行われる出生前検査について、リプロダクティブヘルス看護学方法論の内容を振り返る。	1h	出生前検査に伴う身体的・心理社会的課題について復習する。	2h
4	リプロダクティブヘルス/ライツと出生前検査にかかる支援②	2,3,5	出生前検査を受けるかどうか意思決定する際に気がかりな点について考えてくる(当事者、看護者)。	1h	遺伝学的検査に関する意思決定における看護支援について考察する。	2h
5	リプロダクティブヘルス/ライツと子育て支援①	1,2,5	乳幼児の子育てにおける心理社会的な課題を考えてみる。	1h	育児環境と関連させて理解した乳幼児の子育ての課題について復習する。	2h
6	リプロダクティブヘルス/ライツと子育て支援②	2,3,5	子育て支援にかかわる機関について調べておく。	1h	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の意義について考察する。	2h
7	リプロダクティブヘルス/ライツとキャリアの両立支援	1,2,5	十数年後の自分のキャリアプランやライフプランを想像し、現在の自分の健康課題を考えてみる。	1h	キャリアとライフイベントを両立するための支援について考察する。	2h
8	リプロダクティブヘル看護について学び	1,2,3,4,	全体の授業内容を確認する。	1h	リプロダクティブヘルス看護の対象に必要な支援の在り方	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	を深める	5			について、自己の考えをまとめる。	

合計時間（予習・復習）

^

24

備考

^

【学習上の助言および受講時のルール】

- ・ 記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完する。
- ・ 授業中に提示された課題は提出期限を厳守し提出する。
- ・ 演習中の作業が特定の個人に偏らないよう、協力し合いながらグループワークに参加する。

【授業の進め方】

1)教材として教員の作成する授業資料、テーマに関する研究論文、テーマに関係するDVDを使用する。

2) オンライン授業となる場合は、C-learningを利用した教材倉庫に掲載した授業資料を読み、課題に回答してもらう方法のほか、Google Meetを使ったリアルタイム授業の方法もとり入れる。

【出席登録・確認】

出席の登録・確認は、下記の方法方法で行う。

方法1. C-learningの「出席」の確認キーを見て登録する。

方法2. C-learningの「アンケート」に回答する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



看護学特論（国際看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

3 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

李孟蓉

科目に関連した実務経験

看護師とし大学病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○	○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

高崎市国際交流協会主催の『国際交流の集い』の文化体験ブースに協力する（令和7年10月12日）。大泉町にあるブラジル人学校に通う小・中学生及び保護者を対象に栄養学科や理学療法学科の学生と共に健康講座を企画し、令和7年11月8日（土）もしくは29日（土）に実施する予定です。

①地域において健康教育を企画・実践・評価を行うために必要な知識及び実践力の基礎を身につける

②グループワークを中心に行います。栄養学科や理学療法学科の学生と合同で、デモンストレーションを行ったり、講座で使用する教材を検討したりします。

到達目標

1. 在日外国人（特にブラジル人）が当面する健康問題を理解する
2. 在日外国人（特にブラジル人）健康問題解決へ向けて、健康講座を企画する
3. 企画した健康講座に使用する教材を開発する
4. 地域における健康教育の具体的なあり方について理解する ■

使用教材



- 1) 1年次に使った教科書 看護学テキストNiCE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂） ISBN 978-4-524-25264-0
- 2) プリントを配布します
- 3) 日本国際看護学会・日本国際保健医療学会の在留外国人の健康課題について最新の知見を紹介する

参考文献



新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道 保健同人社
 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーションー人を動かす10原則 大修館書店
 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 第2版生活習慣病を中心に 医歯薬出版社

評価方法



対面講義：健康教育の企画・教材の提出、授業への参加度及び態度50%、健康教育の実践50%

課題・評価に対するフィードバック方法



企画・教材作成及び実践に対し、コメントを返す

オフィスアワー



木曜日2限目、金曜日3限目
 研究室不在時はメールにて対応する

メールアドレス（#→@）



ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康教育の進め方～対象の健康課題の把握、効果的な啓発教材	1	シラバスの内容を読んで講義の到達目標などを理解する。 配布された資料に目を通しておく	1. 5h	健康課題の把握の仕方や効果的な啓発教材について理解する	1. 5h
2, 3	高崎市国際交流協会主催の『国際交流の集い』で日本人・外国籍の住民を対象に健康チェック（血圧測定など）およびヘルスリテラシー調査を実施し、異文化コミュニケーションを実践する。ピエント高崎 10月12日（土）11時～15時	1,2	健康チェックに必要な基礎知識を復習し、非日本語話者との効果的なコミュニケーション方法を考える。	1. 5h	地域住民及び日本で暮らす外国人のヘルスリテラシー、健康課題を理解し、自分のコミュニケーション方法を考察するとともに、住民自身の健康に対する知識の向上を図るための健康講座や保健指導教材を考える。	1. 5h
4	健康教育実践へ向けた教材開発～グループワーク①(題材決定と教材のアイデアスケッチ)	2	題材案を考える、	1. 5h	決定した題材に関する資料を収集する。	1. 5h
5	健康教育実践へ向けた教材開発～グループワーク②③(教材のアイデアスケッチ・作成)	2,3	教材を作成する	1. 5h	自身の役割を確認し、デモストレーションの準備をする	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	健康講座デモンストレーション～栄養学科竹内ゼミ・理学療法学科正木ゼミとの合同～	3,4	自身の役割を確認し、デモンストレーションの準備をする	1. 5h	指摘を受け、教材の修正を行い健康講座に備える	1. 5h
7, 8	健康講座の実践～大泉町南公民館 1 1月8日もしくは29日午前9時～12時	1, 2, 3,4	健康講座全体の流れを理解し、自身の役割が果たせるよう準備をする	1. 5h	健康教育を企画・実践・評価するために必要な知識や実践力を理解する	1. 5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



- 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- 授業の進め方：
 - 対面授業
 - 第1・2回は講義を通して、健康講座を実施する大泉町や対象者の理解を深めるとともに、令和7年度の企画（案）を考える。
 - 第3回～第5回はグループに分かれ健康教育で使用する教材を作成する。
 - 第6回は健康講座を合同担当する栄養学科竹内ゼミ及び理学療法学科正木ゼミの学生と合同で、全体の流れを確認し役割を分担する
 - 第7回・8回は11月8日もしくは29日（土）の午前に大泉町南公民館で開催される健康講座を、大泉役場職員、竹内ゼミ・正木ゼミの学生とともに運営します。
 - オンライン授業（ZOOMを使用する）
 - 第1～6回の授業はZoomを使用して行う。内容は、対面授業と同じ。
 - 第7回は、竹内ゼミ、正木ゼミの学生と合同で作成した教材の発表を行う。
 - 第8回は作成した教材について大泉の外国人学校の先生や子供からの評価を受け、改善点をグループで協議する
- オンライン授業での出席の登録・確認
C-learningの「出席管理」で確認すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



看護学特論（公衆衛生看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

赤堀八重子

科目に関連した実務経験

保健師として行政(自治体・町役場)に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

健康増進等に向けた行政の取り組みや住民に対する支援方法を学習し、公衆衛生における看護職の役割や公衆衛生看護活動に関する理解を深める。

②講義の実施方法

- 教科書（使用教材）および教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。
- 事例検討や行政の展開する事業への参加見学をふまえ、カンファレンスやディスカッションを実施する。
- 到達目標に向け、学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を確認しながら進めていく。
- 出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する

到達目標



- ①公衆衛生看護活動および公衆衛生看護活動における支援の展開方法について理解できる。■
- ②行政の取り組みや住民に対する支援方法について理解できる。■
- ③公衆衛生看護における看護職の役割について理解できる。■

使用教材



公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）

国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会（2,500円税込）

毎回の授業時に、必要な資料を配布する。

公衆衛生看護学会における公衆衛生看護の体系などに関する最新の知見を紹介する。

参考文献



授業で紹介する。

評価方法



学習中の参加・活動状況50%、最終レポート50%とし、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



個人あるいはグループで作成した記録や資料に対して、コメントを付して返却する。

カンファレンスでは、学習内容や課題を確認し、コメントする。

事例検討や演習は、感染予防に配慮した上で 対面形式で実施し、質疑応答はその場で行う。

オフィスアワー



赤堀：金曜日 13：00～16：15

メールアドレス（#→@）



赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	公衆衛生看護活動の実際 ■	1	公衆衛生、公衆衛生看護について教科書等を読み確認しておく。	1.5 h	講義で学んだことを基に、公衆衛生看護活動における看護職の役割について理解を深める。	1.5 h
2	健康増進等に向けた行政の取り組みおよび支援方法 ■	1,2	地元の市町村における健康増進等に向けた事業について確認しておく。	1.5 h	健康増進等に向けた事業の必要性、行政（自治体）の役割について理解を深める。	1.5 h
3	演習・グループワーク（地域診断、事業計画立案） ■	1,2	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 h	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 h
4	演習・グループワーク（地域診断、事業計画立案） ■	1,2,3	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 h	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 h
5	演習・グループワーク（事業計画立案または事業への参加見学） ■	1,2,3	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 h	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 h
6	演習・グループワーク（事業計画立案または事業への参加見学） ■	1,2,3	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5 h	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	演習・グループワーク (事業計画立案または事業への参加見学) ■	1,2,3	大学所在地である高崎市のホームページ、健康増進計画等を確認しておく。	1.5h	演習・グループワークの内容について振り返りを行う。	1.5h
8	まとめ	1,2,3	第1回～7回までの学習内容を振り返っておく	1.5h	意見交換での学びをまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



※事業への参加・見学については（3～4コマ）、市町村の事業に参加するため、土曜日（11月第3土曜日の可能性が高い）に実施する予定である。

●単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

●履修条件

この科目は科目名「公衆衛生看護学概論Ⅰ」「公衆衛生看護学方法論」を履修していることが望ましい（※公衆衛生看護学方法論については履修中）。

●オンラインの場合

1) 評価方法：オンライン授業参加度50%、演習態度・レポート（課題）50%

2) 課題に対するフィードバック：レポートにはコメントをつけて返却する。

3) 出席登録：①C-learningへの出席登録 ②アンケート ①②で出席の確認を行う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

看護学特論（基礎看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

鶴田晴美

科目に関連した実務経験

看護師として病院勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①看護に役立つタクティールケア（触れる）について学修し、肩のマッサージ、手浴・足浴後のリラクゼーション効果を促進させる援助方法を体験することをとおして、3年次の看護学実習や臨床看護の実践活用の導入とする。

②体験学習を中心に毎回の授業を展開する。

到達目標

- タクティールケアに必要な基礎的知識を説明できる。
- 肩のマッサージ、ハンド・フットマッサージに必要な基礎的知識を説明できる。■
- 知識に基づいて、肩のマッサージ、ハンドマッサージ・フットマッサージを実施することができる。■

- 4.実施者と受け手の体験をととして、身体反応や主観的効果について説明できる。■
- 5.タクティールケアの活用性について考察することができる。

使用教材 ^

- ・適時配布する。
- ・気持ち良いケアについての最新知見を紹介する。

参考文献 ^

岡本佐智子 根拠がわかる看護マッサージ 患者を癒すリラクセーション技術 中央法規
今西治郎、荒川唱子 アロマセラピー入門 日本看護協会出版会
小坂橋喜久代、荒川唱子 リラクセーション法入門 日本看護協会出版会
五十嵐透子 リラクセーション法の理論と実際 第2版 医歯薬出版

評価方法 ^

- 1.対面授業の場合：演習と振り返り80%、最終レポート20%の構成で評価する。
- 2.オンライン授業の場合：課題提出50%、最終レポート50%で評価する。
- * 総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

課題については学習内容の要点と予習・復習の意図を関連付けて示し、資料を用いフィードバックする。

課題に対する記録などにはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー ^

水曜日・木曜日 5 時限
(5号館2階:鶴田205研究室)

メールアドレス（#→@） ^

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 各自の興味・関心についてプレゼンテーション タクティールケアについて	1	リラクセーション法について興味・関心を持った動機をまとめてくる。	1.5 h	到達目標、授業内容、評価方法などについて確認する。	1.5 h
2	肩のタクティールケアについて	2	配布資料を精読して臨む。	1.5 h	実施後の振り返りをまとめる。	1.5 h
3	ハンドマッサージを実施してみよう ■	2,3	配布資料を精読して臨む。	1.5 h	実施後の振り返りをまとめる。	1.5 h
4	フットマッサージを実施してみよう ■	2,3	配布資料を精読して臨む。	1.5 h	実施後の振り返りをまとめる。	1.5 h
5	既習知識に基づき、肩のマッサージ、ハンドマッサージを他者に提供しよう■ (ボランティア)	2,3,4	配布資料を精読し、自己練習してマッサージに臨む。	1.5 h	他者の反応を含めて実施後の振り返りをまとめる。	1.5 h
6	既習知識に基づき、肩のマッサージ、ハンドマッサージを他者に提供しよう■ (ボランティア)	2,3,4	配布資料を精読し、自己練習してマッサージに臨む。	1.5 h	他者の反応を含めて実施後の振り返りをまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	既習知識に基づき、肩のマッサージ、ハンドマッサージを他者に提供しよう■ (ボランティア)	2,3,4	配布資料を精読し、自己練習してマッサージに臨む。	1.5h	他者の反応を含めて実施後の振り返りをまとめる。	1.5h
8	実施のまとめ	3,4,5	まとめの準備を行う。	1.5h	授業をととしての学びをまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



単位修得に必要な時間を満たしていない場合

・記載した予習、復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

授業の日程は、受講生と相談の上、集中講義にて実施する。

オンライン授業での出席の登録・確認

・C-learningを活用し出席の登録、アンケート機能を利用し確認をする。

■実務経験に基づく内容を示す。

印刷



看護学特論（成人看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

砂賀道子、吉田久美子、石田順子

科目に関連した実務経験

大学病院等で看護師として勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①がん看護に関するトピックスについてがん看護専門看護師（OCNS）の活動や、がん患者・家族を支援する社会的活動を通して学習し、がん患者・家族に対する看護者としての役割について考察する。

②講義、がん患者支援イベントへの参加、文献学習など。

到達目標

- がん患者・家族（がんサバイバー）の状況について概要を説明できる。
- がんサバイバーの活動や社会的な支援について概要を説明できる。
- がん看護における看護専門職者の活動と役割について考察できる。

使用教材

- ・授業時に資料を配布し、必要時文献を提示する。
- ・がん看護専門看護師のDVD、最新の研究論文などを用いる。

参考文献

1. 近藤まゆみ・峯岸秀子編著：『がんサバイバーシップ 第2版 がんとともに生きる人びとへの看護ケア』医歯薬出版

評価方法

授業参加度・貢献度40点（40%）、プレゼンテーション・レポート60点（60%）で総合的に評価する。
総合評価60点（60%）以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義や課題についてのレポートやプレゼンテーションに対してその都度、講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日（5号館404研究室）

メールアドレス（#→@）

sunaga#taksaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション・がんサバイバーシップの概念、がん医療の現状 ■	1,2	シラバスの内容及び講義目標を理解し、がんサバイバー、がん医療の現状について調べる。	1.5 h	がんサバイバーシップの概念、がん医療の現状について要点を確認しておく。	1.5 h
2	がんサバイバーに対する社会的支援・リレーフォーライフ等について ■	1,2	リレーフォーライフの歴史や活動について調べる。	1.5 h	ルミナリエを作成する。	1.5 h
3	がんサバイバーを支援する国内外のイベントについて調べ、資料を作成する ■	1,2	がんサバイバーを支援する国内外のイベントを調べておく。	1.5 h	作成した資料について発表できるように準備しておく。	1.5 h
4	がんサバイバーに対する社会的支援について＜ディスカッション＞ ■	1,2	第1～3回の内容を整理しておく。	1.5 h	がんサバイバーに対する支援について要点をまとめる。	1.5 h
5	がん看護専門看護師（OCNS）の活動＜OCNSに関するDVD視聴＞	1,2,3	がん看護専門看護師の教育・資格制度と役割を調べる。	1.5 h	がん看護専門看護師の活動と役割について学んだことをまとめる。	1.5 h
6	がんサバイバーを支える看護について＜記事の共有・ディスカッション＞	1,2,3	前回までの内容を整理しておく。	1.5 h	がんサバイバーを支える看護について自己の考えをまとめておく。	1.5 h
7	今までの講義やイベントへの参加などからがん看護に関する学びと看護師の役割についてまとめる＜演習・自己学習＞	1,2,3	今までの講義・演習を通して学んだことを整理する。	1.5 h	がん看護における看護師の役割について資料をまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	がん看護の役割について<プレゼンテーション>	1,2,3	プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	他の学生のプレゼンテーションを含めて、がんサバイバーを支援する看護師の役割を考察する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



- 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。
 - 履修条件
この科目は「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していること。
 - ルール
話し合いには積極的に参加し、他者の意見を尊重する。
 - 授業の進め方：
 - 教材として教員の作成する授業資料やDVD、最新の論文などを適宜使用する。
 - 講義内容に関する質問などに対しては具体的な説明をする。
 - 到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。
 - 活動への参加・プレゼンテーション時は、主体的な態度での参加を求める。
 - 授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し自律的に学習することを期待する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



看護学特論（看護管理）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子・安野朝子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長・医療安全管理者、県の看護行政職として勤務（経験）
総合病院における感染管理室長（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①医療安全・医療事故に関する基礎知識を理解し、事例を検討することにより医療安全意識を高める。
感染対策における手指衛生についての歴史を知るとともに、体験を通し手指衛生の重要性についての理解を深める。
- ②課題図書をメンバーで分担してプレゼンテーションを行いグループでの意見交換を行う。
手指衛生前後のパームスタンプを経験する。

到達目標

1. 医療事故・医療安全の概念を理解する。
2. 医療事故に関する文献から医療事故の加害者・被害者双方の感情について考える。

- 3. 看護実践環境に潜むリスクについて理解し、医療安全を推進するための対策について考える。
- 4. 感染対策の中での手指衛生について歴史を知る。
- 5. 手指衛生前後のパームスタンプを経験し、手指衛生の重要性を伝える工夫をする。

使用教材

^

永井裕之（2007）：断罪された「医療事故隠し」，あけび書房，（1600円）（購入は不要です）
玉城英彦（2017）：手洗いの疫学と全メルワイスの闘い，人間と歴史社，（1800円）（購入は不要です）
必要時資料を配布
日本医療評価機能の医療事故情報収集事業の報告書をもとに最新の知見を紹介する。

参考文献

^

川野龍太郎（2014）：医療におけるヒューマンエラー第2版，医学書院（2,800円）．
豊田郁子（2016）：うそをつかない医療，亜紀書房（1,600円）
長野展久（2012）：医療事故の舞台裏－25のケースから学ぶ日常診療の心得，医学書院（2500円）

評価方法

^

授業への参加状況、討論での発言内容、課題レポートの提出にて総合評価し、60%以上を合格とする。
オンライン・対面ともに同様の方法で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

討論の中で、適宜フィードバックを行う。課題やレポートはコメントを記載し返却する。

オフィスアワー

^

小池：月曜日16：30以降（5号館 207研究室）
安野：火曜日3・4限（5号館 207研究室）

メールアドレス（#→@）

^

小池：koike-y#takasaki-u.ac.jp
安野：yasuno#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療安全、医療事故とは■	1	医療安全、医療事故に関するニュースについて調べる。	1.5 h	医療安全の取り組みの経緯についてまとめる。	1.5 h
2	事故発生当初の家族の思い/病院の対応についての家族の思い ■	2	「断罪された医療事故隠し」第1・2章を読み、わからない言葉を調べる。 （担当者はプレゼンテーションの資料を作成する）	1.5 h	討議を踏まえ、事故発生当初の家族の思いについて自分の考えを整理する。	1.5 h
3	組織としてすべきことについて/事故当事者の立場と意思について	3	「断罪された医療事故隠し」第3・4章を読み、わからない言葉を調べる。 （担当者はプレゼンテーションの資料を作成する）	1.5 h	討論の踏まえ、事故の当事者の思いについて考え、看護職としてのあり方について自己の考えを整理する。	1.5 h
4	医療者としての行動について/危険予知トレーニング	3	「断罪された医療事故隠し」第5章を読み、わからない言葉を調べる。 （担当者はプレゼンテーションの資料を作成する）	1.5 h	討議を踏まえ、病院組織としての対応方法について自己の考えを整理する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	手指衛生の歴史について学ぶ、事前配布資料を用意	4	「手洗いの疫学とゼンメルウィスの闘い」について分担して読んでくる。分担した部分はプレゼンする。	1.5 h	手指衛生をどのように証明したのかを復習し、整理する。	1.5 h
6	手指衛生のパームスタンプを行う	1,2,4	パームスタンプについて理解しておく。	1.5 h	演習書によって行ったパームスタンプの結果を予想する。	1.5 h
7	パームスタンプの結果を判読する。	3,4	各自の結果について、コロニーの携帯や数等を観察スケッチする。	1.5 h	結果から分かったことを、医療従事者として伝える準備をする。	1.5 h
8	手指衛生についての理解を深めるためのポスターを作成する。■	4,5	学習した内容を医療従事者に伝えるポスターを構想する。	1.5 h	各自の発表から医療の現場で必要な手指衛生を考える。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



1. 記載した予習・復習時間では、単位習得に満たないため、各自で補完すること。
 2. 授業の日程は履修生と相談し決定する。
 3. ルール
 - 1) 担当になった章は要約しプレゼンを行い、その後の討論の進行を担当する。
 - 2) 担当になっていない章も授業前に読んで参加し、討論に積極的に参加する。
 - 3) 出席確認は対面授業・オンライン授業どちらもC-Leaningの出席登録により行う。
 4. オンライン授業時の変更点
 - 1) ZOOMを用い対面と同様の内容を実施する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



看護学特論（老年看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

梅原里実

科目に関連した実務経験

急性期病院の看護師、管理者として実務経験

認知症看護認定看護師として実務経験

認知症看護認定看護師教育課程の教育経験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○			○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

随時ゼミ形式にて意見交換を行いながら進める

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①高齢者及び認知症高齢者を取り巻くタイムリーな課題より、対象の理解を深めると共に実践的な看護について主体的に取り組む

②ゼミナール形式で学習する

到達目標



- 1.高齢者を理解することの意義と課題について説明できる
- 2.認知症高齢者のもてる力に着目した実践的な支援について説明できる
- 3.高齢者や認知症高齢者との関係づくりについて考察できる

使用教材



日本老年看護学会の高齢者看護及び日本転倒予防学会の高齢者転倒予防などの最新の知見を含めた講義用資料を配布する。
＊1年次購入済の系統看護学講座専門老年看護学（医学書院）

参考文献



- ①鈴木みずえ（監）：認知症の看護・介護に役立つよくわかるパーソン・センタード・ケア.2017.池田書店.
- ②本田美和子他：ニューマニチュード入門.2014,医学書院.

評価方法



課題レポート評価20% 学習態度・出席率80%にて総合評価し60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



提出された記録物はコメントして返却する

オフィスアワー



金曜日午後 5号館 5階502研究室

メールアドレス（#→@）



梅原（umehara#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	シラバスの説明 高齢者を理解することの意義と課題	1	シラバスを読む 高齢者を取り巻く社会の現状を調べる	1h	配布資料の復習	2h
2	高齢者が生きてきた時代背景 ■	1	昭和の時代の歴史から特徴的な生活スタイルについて調べる	1h	授業の内容を振り返りながら高齢者が生きてきた時代について理解する	2h
3	介護予防への取り組み：脳活性化リハビリテーション ■	1,2	配布資料を読む	1h	配布資料を2回目と関連付けて復習し整理する	2h
4	認知症予防への挑戦 ■	2	配布資料を読む	1h	授業の内容を振り返り予防的ケアについて復習し整理する	2h
5	コミュニケーション法：ユマニチュード ■	2,3	配布資料を読む	1h	認知症者とのコミュニケーション法について復習し整理する	2h
6	非薬物療法①（回想法）の実際 ■	1,2	配布資料を読む	1h	高齢者への回想法について復習し整理する	2h
7	非薬物療法②（認知症看護認定看護師による講義） ■	2,3	配布資料を読む	1h	認知症高齢者との関係づくりについてレポートにまとめる準備をする	2h
8	認知症高齢者との関係づくり まとめ ■	1,2,3	配布資料を読む	1h	認知症高齢者との関係づくりについてレポートにまとめる	2h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



1.履修条件

この科目は「老年看護学概論」「老年看護学方法論」を履修していることが望ましい。

2.ルール

①課題としてのレポートの提出を求める。（文字制限の指示あり）

②記載した予習・復習時間では単位修得に必要な時間に満たないため各自で補完すること。

3.授業の進め方：

1)教材として教員の作成する授業資料やDVD（著作権遵守）などの視聴覚教材を使用する。

* オンラインの場合C-learningを用いるが配布資料は対面時に印刷物として事前に配布する。

2)授業方法は、講義内容の要点について講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。

(1) 個別の質問は直接講義中、あるいはC-learningの「連絡・相談」で受ける。

(2) オンライン時は全体で共有する質問内容と判断した場合はコメントはC-learningの「協働板」に記載する。

3)到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

4.授業での出席の登録は、C-learning「出席管理」にて行う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

看護学特論（小児看護学）

英文名：Professional Nursing Development

科目区分：統合分野

科目ナンバリング：NRS233・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重DP

3 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

星野美穂

科目に関連した実務経験

担当教員は、小児専門病院および大学病院の小児病棟、子どもクリニックでの看護師としての勤務経験を有する。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

病気や障がいのある子どもとその家族の特徴と看護の実践を学習し、小児看護のかかわる看護職者としての役割を考察する

②講義の実施方法

1)教科書、教員が作成した資料、パワーポイントを用いるとともに、DVD 等の視覚教材も活用し、イメージ化を図りながら授業を展開する

2)授業は、講義や文献学習、ゼミナール、フィールドワーク等の様々な方法を用いて展開する

到達目標

- 1. 病気や障がいのある子どもがどのような体験をするのか理解する
- 2. 病気や障がいのある子どもの家族がどのような体験をするのか理解する
- 3. 病気や障がいのある子どもと家族への看護のあり方、およびその意義を考察する ■

使用教材

^

教科書は使用せず、必要に応じて演習中に紹介する。

参考文献

^

・中野綾美編：ナーシング・グラフィカ 小児看護学①－小児の発達と看護，メディカ出版。

評価方法

^

筆記試験30%、課題70%の配分で、合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにはコメントを付して返却する。なお、必要に応じてC-learningを通じてコメントする。

オフィスアワー

^

金曜日1限
5号館5階、504研究室

メールアドレス（#→@）

^

hoshino-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 文献検索	1,2	シラバスに目を通す	1h	関心のある内容の文献検索を行う	2h
2	文献学習①	1,2	病気や障がいのある子どもと家族について、関心のあるキーワードを挙げる	1h	文献を精読する	2h
3	文献学習②	1,2	文献を精読する	1h	文献カードを作成する	2h
4	病気や障がいのある子どもと家族への看護の実際 フィールドワーク①	1,2,3,	小児看護学方法論と小児看護学演習の授業資料およびテキストの該当部分を読む	1h	フィールドワークの内容をふまえ、学びや興味関心のある内容をまとめておく	2h
5	病気や障がいのある子どもと家族への看護の実際 フィールドワーク②	1,2,3	小児看護学方法論と小児看護学演習の授業資料およびテキストの該当部分を読む	1h	フィールドワークの内容をふまえ、学びや興味関心のある内容をまとめておく	2h
6	病気や障がいのある子どもと家族への看護の実際 フィールドワーク③	1,2,3	小児看護学方法論と小児看護学演習の授業資料およびテキストの該当部分を読む	1h	フィールドワークの内容をふまえ、学びや興味関心のある内容をまとめておく	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	まとめ プレゼンテーションとディスカッション①	3	プレゼンテーションの準備を行う。	1h	これまでの学習内容を統合し、病気や障害のある子どもと家族への看護について自己の意見を整理する。	2h
8	まとめ プレゼンテーションとディスカッション②	3	プレゼンテーションの準備を行う。	1h	講義の内容をふまえ、レポートを作成する。	2h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

- 1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。
- 2.履修条件
この科目は科目名「小児看護学方法論」を履修していることが望ましい。
- 3.ルール
1) 授業シラバス、授業計画を必ず確認し、目標の達成に向けて、関連する文献・資料を用いて事前に調べ、主体的に参加すること。
2) 授業中に提示された課題は、提出期限を厳守し必ず提出してください。未提出の場合には単位修得に影響します。
(■：実務経験に基づく内容を示す。)

印刷



健康教育論

英文名：Health Education

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS234・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

北原恵美、尾内雅子、小原成美

科目に関連した実務経験

養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）
学校保健担当指導主事として県教育委員会教育事務所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①あらゆるライフステージの人々の健康保持増進、疾病からの回復及びQOL向上を目指した健康教育の意義を理解し、個別的・集団的健康教育の基礎的実践力を身につける。
- ②講義、グループワーク、グループで健康教育実践演習を行う。

到達目標

- 1.健康教育の意義、健康教育を支える理論について、基礎的な理解をする。
- 2.健康教育の方法を理解し、企画と実践の基礎的展開力を身につける。 ■

使用教材

配布資料

健康教育に関する最新の知見を紹介する。

参考文献

山崎喜比彦・朝倉隆司「新・生き方としての健康科学」有信堂、2017年。
福田洋・江口泰正「ヘルスリテラシー～健康教育の新しいキーワード～」大修館書店、2017年。
一般社団法人 日本健康教育学会「健康行動理論による研究と実践」 医学書院、2019年。

評価方法

試験（40％）、健康教育の実践(30%)、提出物(30%)

課題・評価に対するフィードバック方法

作成した指導案、ワークシートにはコメントする。

オフィスアワー

水曜日の3限、4限

メールアドレス（#→@）

kitahara-e#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ・ 科目の目的を理解する。 ・ 健康及び教育について基礎的な理解を得る。 ・ 効果的な指導者像をグループワークで協議する。	1	シラバスの内容を読んで講義目標などを理解する。	1.5	健康教育の歴史、意義について理解する。	1.5
2	健康教育の基礎（１）教育者（指導者）、学習者、及び教育内容の関係性について理解する。効果的な教育者の在り方、教育方法について基礎的な理解を得る。	1	前回配布された資料に目を通す。	1.5	教育内容、教育をする対象及び自己の理解を深める。	1.5
3	健康教育の基礎（２）健康教育の理論を知る。グループワークやディスカッションにより健康教育の理解を深める。	1、2	健康教育理論について調べる。前回配布された資料に目を通す。	1.5	健康教育の理論について理解を深める。	1.5
4	健康教育の実践（１）グループで健康教育を企画立案し、指導案作成をする。	1、2	今まで自分が受けた健康教育について想起しておく。配布された資料に目を通す。	1.5	健康教育の立案及び評価、方法と媒体について理解する。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	地域における健康教育の実際（１）～理学療法士の立場から～	1、 2	理学療法士の職域や職務について調べる。 配布された資料に目を通す。	1.5	地域において、理学療法士の立場から行われる健康教育の特徴やその実際を理解する。	1.5
6	地域における健康教育の実際（２）～保健師の立場から～	1、 2	配布された資料に目を通す。	1.5	地域において、保健師の立場から行われる健康教育の特徴やその実際を理解する。	1.5
7	仲間教育による健康教育（グループワーク）	1、 2	ピアエデュケーションについて調べる。 配布された資料に目を通す。	1.5	ピアエデュケーションについて理解する。	1.5
8	健康教育の実際（２）健康教育の発表（グループワーク）	1、 2	企画した健康教育を発表できるように準備する。	1.5	発表後の協議を受け、計画案の改善点を明確にする。	1.5

合計時間（予習・復習）

24時間

備考

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2．授業は教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。

3．パワーポイントによる図の提示やDVDによる実践の様子の提示をしていく。グループワークを取り入れる。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

災害看護学

英文名：Disaster Nursing

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS321・A

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟蓉、齋藤正子

科目に関連した実務経験

看護職として被災地域での支援活動（経験）

履修を必須とする資格

看護師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
○			○		○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①世界各地で自然災害が増加しており、災害の定義や看護活動の基盤となる法的制度等から多角的に学び、被災者の特性や生活上の困難さ、健康への影響を理解できる。そのうえで災害時の看護師の役割を理解し、災害サイクル各期において、チーム医療の中で他職種と協働しながら、被災者特性を考慮した適切な看護を展開するために必要な知識と技術、態度を習得

できる。また、看護職として公助・共助・自助の意味を理解し、自らの防災力を高められる。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、小テストを実施し習得状況を確認しながら進めていく。

到達目標 ^

1. 災害の定義と分類を理解し、災害が健康に及ぼす影響について説明できる。
2. 災害発生時に社会的対応や看護活動の基盤となる法的制度について説明できる。
3. 災害各期や場所に応じた看護の特徴について説明できる。 ■
4. 災害時の被災者の特性やサイクルに応じた看護について説明できる。 ■
5. 災害時に傷病者に優先順位をつける意味を理解し、手順や留意点を踏まえて実施する。
6. 災害時の精神的ケアの方法について学習する。
7. 災害時の公助を理解するとともに自助能力を高められる。

使用教材 ^

「災害看護」酒井明子編（南江堂）改定第4版 ISBN978-4-524-23615-2、配布資料
日本災害看護学会・日本看護科学学会のプラネタリーヘルス、災害看護について最新の知見を紹介する

参考文献 ^

「災害看護」改定3版 南山堂、「災害看護学・国際看護学」医学書院

評価方法 ^

- 対面授業：授業参加度・小テスト30%、筆記試験70%の割合とし、総合評価60点以上を合格とする。
- オンライン授業：対面授業と同様

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。C-learningにて行った小テストについては、正解を提示し、解説を行う。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー ^

火曜日・木曜日の2限
研究室：5号館3階302
研究室不在時はメールにて対応する。

メールアドレス（#→@） ^

ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	災害および災害看護に関する基礎的知識（一部 AL 実施）	1	シラバスの内容、教科書の第Ⅰ章1～4を読んでおく。	1.5 h	講義内容を振り返り、災害・災害看護の歴史と災害看護の定義、災害の種類別の疾病構造、近年発生する災害の特徴、課題、災害関連死、要配慮者及び避難行動要支援者の定義をまとめ、理解を深める。	1.5 h
2	災害をめぐる社会の対応やしきみ（一部 AL 実施）	1,2	教科書の第Ⅱ章1～4を読んでおく。	1.5 h	災害をめぐる関係法規の特徴、災害情報伝達のしくみや海外における災害関係各機関の支援体制の要点をまとめ、理解を深める。	1.5 h
3	災害サイクルに応じた看護：超急性期～静穏期 ■（一部 AL 実施）	1,3,4	教科書の第Ⅳ章、第Ⅵ章1、第Ⅷ章8を読んでおく。	1.5 h	災害サイクル各期に応じて、病院や避難所・応急仮設住宅等における看護の役割についてまとめ、理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	災害時に必要な技術（一部 AL 実施） 小テスト1回目（第1回～第3回講義内容）	1,5	教科書の第Ⅴ章に目を通す。	1.5 h	トリアージの概念、災害時におけるトリアージの目的やトリアージカテゴリー、トリアージタグの取り扱いを含めた実施方法、治療と搬送のポイントについてまとめ、理解を深める。	1.5 h
5	災害看護各論（1）在宅・高齢者看護と災害 ■ （一部 AL 実施） 災害発生時に高齢者や在宅避難者について、事例をもとに解説を加えて講義する	3,4	教科書の第Ⅷ章4、7に目を通す。	1.5 h	災害時において高齢者や在宅避難者が受ける影響やケアニーズ、災害時における高齢者看護支援のポイントについてまとめ理解を深める。	1.5 h
6	災害看護各論（2）慢性期看護と災害、外国人と災害 （一部 AL 実施）	1,4	教科書の第Ⅷ章6に目を通す。	1.5 h	災害時に慢性疾患を持ち、治療・生活している患者や外国人への看護のポイントを考察し、理解を深める。	1.5 h
7	災害看護各論（3）精神看護と災害、こころのケア、（一部 AL 実施） 小テスト2回目（第4回～第6回講義内容）	1,3,6	教科書の第Ⅲ章、第Ⅷ章5に目を通す。	1.5 h	災害後の被災者のストレスと看護援助のポイントについて要点をまとめ、理解を深める。	1.5 h
8	災害支援者への看護支援、まとめ	1,2,3,4,5,6,7	教科書の第Ⅰ章5に目を通す。第7回目の講義内容を振り返り、授業に臨む。	1.5 h	被災者が抱えるこころの問題を理解し、災害支援者(二次被災者)への看護支援を考察する。教科書やこれまでの講義で配布した資料を読み、学んだ内容を振り返り、災害看護学に必要な知識や技術の理解を深め、看護職として災害時に自助能力を高めることにつなげる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

AL（アクティブラーニング）は、PBL、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない場合、各自で補完すること。

2. ルール

1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。

2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

3. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learningの下記1)～2)の方法で行う。

1) 「出席確認キー」を入力し、制限時間に提出する。

2) 「アンケート」を制限時間に提出する。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷



国際看護学

英文名：International Nursing
科目区分：看護専門科目群・統合分野
科目ナンバリング：NRS124・B
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
 比重 DP
 1 人間理解と倫理観
 2 論理的思考力・問題解決力
 1 チームの一員としての協調・協働
 5 国際理解
 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

李孟蓉

科目に関連した実務経験

看護職として大学病院に勤務、在日外国人への健康支援（経験）
 大泉町多文化共生協働課職員をゲストスピーカーとして招く（第6回）

履修を必須とする資格

看護師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答、クイズの時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①グローバル化が急速に進んでいる日本において、国際看護の概念と対象、そして、自分とは異なる文化背景を持つ対象者に関心を持ち、国際看護学を学ぶ意義と必要性について理解する。また、多文化化する日本社会において、自分なりの見方

を涵養し、看護におけるグローバル化の対応として、多様な文化・言語的背景をもつ対象者を理解するための知識や技術、態度を学修する。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、小テストを実施し習得状況を確認しながら進めていく。

到達目標 ▲

- 1. 国際看護の概念と対象、国際看護の実践の場について説明できる。
- 2. 世界の健康問題とそれに関連する国際機関、NGOの取り組みについて説明できる。
- 3. 世界における看護支援の実際を理解できる。■
- 4. 異文化理解と異文化適応について理解できる。■
- 5. 日本国内における国際看護について理解できる。■

使用教材 ▲

看護学テキストNiCE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂）ISBN 978-4-524-25264-0、配布資料

日本国際看護学会の国際保健・医療協力、国際社会・多様な文化における看護職の役割について最新の知見を紹介する

参考文献 ▲

看護の統合と実践「国際看護学」田村やよひ編（メジカルフレンド社）

災害看護学・国際看護学（医学書院）

評価方法 ▲

- 対面授業：授業参加度・小テスト30%、筆記試験70%の割合とし、総合評価60点以上を合格とする。
- オンライン授業：対面授業と同様

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。行った小テストについては、正解を提示し、解説を行う。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー ▲

木曜日の2限と金曜日の3限、昼休み時間

研究室：5号館3階302

研究室不在時はメールにて対応する。

メールアドレス（#→@） ▲

ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	国際看護の概念と対象、看護と国際協力（一部 AL 実施）	1	シラバスの内容を読んでおく。教科書第1章に目を通す。	1. 5h	講義内容を振り返り、国際看護の概念と対象、歴史的変遷についてまとめ、理解を深める。	1. 5h
2	グローバルヘルスと開発理念の変遷、SDGs	2	教科書の第Ⅲ章 1 D. 4、4. A～B に目を通す。	1. 5h	講義内容を振り返り、グローバルヘルスの開発理念について理解を深める。	1. 5h
3	国際看護活動を推進する人と機関（一部 AL 実施）	2,3	教科書の第Ⅴ章 1 に目を通す。	1. 5h	講義内容を振り返り、世界の健康問題に関連する国際機関の種類や活動概要、日本のODA、NGO団体の活動状況や国際看護	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					協力を展開する実践の場について理解を深める。	
4	世界の健康課題：感染症と非感染性疾患（一部 AL 実施）、小テスト	1,2	教科書の第Ⅲ章 2、第Ⅶ 3、9 に目を通す	1. 5h	講義内容を振り返り、世界の非感染性疾患の現状、グローバル化に伴い感染症の脅威とその対策について理解を深める	1. 5h
5	世界の健康課題：健康の格差、SDG（一部 AL 実施）	1, 2,3	教科書の第Ⅲ章 1、第Ⅶ章 4 に目を通す	1. 5h	講義内容を振り返り、世界で起きている健康課題と健康課題を改善するための取り組み、性・ジェンダーと健康、子どもの健康について理解を深める。	1. 5h
6	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題、看護と健康支援（一部 AL 実施） ■	4,5	教科書の第Ⅰ章 3・5C、第Ⅴ章 2、第Ⅷ章 1 に目を通す。日本、群馬県内の在日外国人（人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など）について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておく。	1. 5h	講義内容を振り返り、在日外国人が抱えている健康問題と看護支援について理解を深める。	1. 5h
7	異文化理解と異文化適応 多文化共生 大泉町（一部 AL 実施）	4,5	第Ⅱ章 4 に目を通す	1. 5h	大泉町に住んでいるブラジル人の背景を知り、多文化共生という考え方、多文化社会する日本において、自分なりの見方、考えをまとめておく。	1. 5h
8	異文化理解と看護（一部 AL 実施）、まとめ	3, 4,5	教科書第1章 4、第Ⅱ章 1～3 に目を通す。 身近にある異文化体験について考えをまとめておく。	1. 5h	第1回～第8回の講義内容を振り返り、文化が与える看護への影響と、文化を超えた看護展開のための理論について理解を深める。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

AL（アクティブラーニング）は、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない場合は、各自で補完すること。

2. ルール

- 1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。
- 2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

3. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learningの下記1)～2)の方法で行う。

- 1) 「出席確認キー」を入力し、制限時間に提出する。
- 2) 「アンケート」を制限時間に提出する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

看護研究概論

英文名 : Introduction to Nursing Research

科目区分 : 看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング : NRS322・B

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

3 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

吉田久美子・倉林しのぶ・石田順子・砂賀道子・堀越摂子

科目に関連した実務経験

担当教員は、大学病院、専門病院、総合病院において看護師としての経験を有し（吉田・石田・砂賀・堀越）、また病院と事業所において保健師としての経験を有する（倉林）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○				○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護学における研究の必要性和看護実践における研究の重要性を理解し、看護研究の基礎的能力を習得する。
②オムニバス形式での講義と、一部演習を実施する。

到達目標

- 看護における研究の必要性和意義および基本的なプロセスについて説明できる。■
- 看護研究における質的研究の要点と基本的な研究手法について説明できる。■
- 看護研究における量的研究の要点と、基本的な統計的分析について説明できる。■
- 研究倫理の必要性和重要性、基本的な内容について説明できる。■

5. 効率的な文献検索と文献レビューの理解のもとに、研究計画書の要点について説明できる。■
6. 文献クリティークの要点と、研究論文の基本について説明できる。■

使用教材 ↑

各授業で主な学習内容を含めた資料を配付する。
日本看護科学学会などの文献を活用する。

参考文献 ↑

参考教材：坂下玲子,宮芝智子,小野博史,系統看護学講座 看護研究,医学書院,2016 ISBN978-4-260-02182-1 , 他、授業で紹介する。

評価方法 ↑

定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート20点（20%）、筆記試験80点（80%）の配分で、合計60点（60%）以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

課題に対し資料などを配布しフィードバックを行う。

オフィスアワー ↑

月・金曜日 （4号館405研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	第1章 看護研究の基本■ ＜担当：吉田＞	1	看護研究の目的や意義について参考文献などを活用し読んでくること。		看護研究の目的、意義、プロセスの概要について授業資料を読んでくること。 質的研究・量的研究のプロセスと特徴を理解する基盤として確認してくること	0.5h
2	第2章 質的研究-1- 質的研究の概要■ ＜担当：堀越＞	1, 2, 3,4	質的研究とはどのような研究なのか参考文献や研究論文等で調べてくること。また、第1回目で学習した看護研究の目的、意義について授業資料を読んでくること。	0.25h	配布資料に目を通し、質的研究の特徴、意義についてまとめ、理解を深めること。	0.5h
3	第2章 質的研究-2- 質的研究の手法―質的研究におけるデータ収集と分析 ＜担当：堀越＞	1, 2, 3,4	質的研究のデータ収集方法および分析の方法について参考文献や研究論文等で調べてくること。	0.25h	配布資料に目を通し、質的研究のデータ収集および分析の具体的な方法とその留意点についてまとめ、理解を深めること。	0.5h
4	第3章 量的研究-1- 量的研究の概要■ ＜担当：石田＞	1, 2,3	量的研究とはどのような研究なのか文献を参考にして調べてくること。	0.25h	量的研究の特徴(質的研究との違い)と概要について、授業資料を活用しまとめる	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	看護研究発表会から学ぶ：卒研発表会への参加 ＜担当：吉田＞	1, 2, 3, 4,5	研究テーマの発見の仕方について授業資料や参考文献を活用し確認すること。	0. 25 h	研究発表会に参加し得た気づき、興味関心、疑問をまとめること	0. 5h
6	看護研究発表会から学ぶ：卒研発表会への参加 ＜担当：吉田＞	1, 2, 3, 4,5	研究テーマの発見の仕方について授業資料や参考文献を活用し確認すること。	0. 25 h	研究発表会に参加し得た気づき、興味関心、疑問をまとめること。	0. 5h
7	第3章 量的研究-2- 調査研究 ■ ＜担当：石田＞	1, 2,3	どんな研究が調査研究なのか文献（本）を参考にして調べること。	0. 25 h	調査研究の特徴と概要について、授業資料を活用しまとめること。	0. 5h
8	第3章 量的研究-3- 統計処理-1- 量的データ分析の基本 ① ■ ＜担当：砂賀＞	3	調査研究と統計的手法についての基礎的知識を図書館等の資料を通じて得てくること。	0. 25 h	授業内容を振り返り、調査研究および統計学の基礎的内容を理解すること。	0. 5h
9	第3章 量的研究-4- 統計処理-2- 量的データ分析の基本 ② ■ ＜担当：砂賀＞	3	調査研究と統計的手法についての基礎的知識を図書館等の資料を通じて得てくること。	0. 25 h	配布された資料に目を通し、しっかりと復習すること。	0. 5h
10	第4章 研究倫理 ■ ＜担当：倉林＞	5	研究に関する「倫理」とは何かについて各々が考えてくること	0. 25 h	配布資料を再確認しておくこと	0. 5h
11	第5章 文献検索 ■ ＜担当：司書・吉田＞	2	文献検索の必要性について第1回の授業資料を活用し確認してくること。	0. 25 h	文献検索の目的、方法について授業資料をもとに復習すること。	0. 5h
12	第5章 研究計画書の要点 ■ ＜担当：吉田＞	1, 2, 3, 4,5	第1回の授業資料を読んでくること。	0. 25 h	研究計画書の作成の要点をまとめておくこと。	0. 5h
13	第5章 研究計画書の要点 ■ ＜担当：吉田＞	1, 2, 3, 4,5	第1回の授業資料を読んでくること。	0. 25 h	研究計画書の作成の要点をまとめておくこと。	0. 5h
14	第6章 文献クリティークの要点・論文作成の基本 ■ ＜担当：吉田＞	1, 2, 3, 4, 5,6	第1回の授業資料を読んでくること。	0. 25 h	文献クリティークの要点について授業資料や記録した内容を読み直すこと。	0. 5h
15	【まとめ】 ＜担当：吉田＞	1, 2, 3, 4, 5,6	第1回～第14回の授業資料の要点を読んでくること。	0. 25 h	第1回～第15回の授業資料を読んでおくこと。	0. 5h

合計時間（予習・復習）

11.25h



* 第1～4回 金曜に開講

* 第7～15回 集中講義期間内に開講

1.履修条件：この科目は「看護基盤科目群」と「看護専門科目群」の必修科目の全てを履修していることが望ましい。

2.ルール：課題としてレポートの提出を求めることがあるが、手書きのみとする。

「単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。」

3.授業の進め方

1) 授業方法は、講義内容の要点について説明し、質問などに対しても具体的な説明する。

2) 到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。

■：実務経験を示す

印刷 

看護倫理学 I

英文名：Nursing Ethics I

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS324・B

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

倉林しのぶ

科目に関連した実務経験

保健師としての勤務経験： 県教育委員会、病院、事業所

履修を必須とする資格

看護師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
○		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①目標：西洋と日本における倫理観の違いおよび、看護倫理の歴史的発展についての理解を深めながら看護倫理学及び臨床倫理学の基本的知識を学ぶ。また、倫理原則や倫理綱領を基盤にしつつ、それだけに頼ることのない倫理的アプローチ方法を探求し、人として、また、学生としての倫理観、医療現場における看護職者としての倫理的責任と、チームケアにおける看護職者の役割について学習する。

②授業の進め方：講義形式だけでなく、臨床で生じる倫理的問題についてケースをもとにディスカッションするという形ですすめる。後半には事例をとりあげ個人またはグループワークをしたうえで解説する。

日本生命倫理学会誌（生命倫理）、日本看護倫理学会誌等に掲載されている原著論文等を用い、医療・臨床倫理・看護倫理に関わる最新の知見を交えて解説する。

到達目標 ↑

- 1.看護倫理学における基本的知識を習得できる。
- 2.学生としての倫理的態度が理解できる。
- 3.医療現場における看護職者としての倫理的責任を理解できる。

使用教材 ↑

使用しない。

参考文献 ↑

- 日本生命倫理学会、日本看護倫理学会等で報告されている医療に関する倫理的課題について最新の知見を紹介する。
- ・日本看護倫理学会誌（最新号）
 - ・生命倫理（日本生命倫理学会誌最新号）
 - ・赤林朗：入門・医療倫理Ⅰ 勁草書房 2009
 - ・浅井篤ほか：医療倫理、勁草書房 ・・服部健二ほか：医療倫理学ABC（メヂカルフレンド社）
 - ・小西恵美子編：看護倫理、南江堂・系統看護学講座看護倫理：医学書院
 - ・箕岡真子：蘇生不要指示のゆくえ 医療者のためのDNARの倫理、ワールドプランニング
 - ・箕岡真子：認知症ケアの倫理、ワールドプランニング 2014

評価方法 ↑

試験70%、授業参加度・態度等10%、レポート20%等により総合的に評価します。
オンラインの場合、C-learning上での小テスト、レポート50%、試験50%により総合的に評価します。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

毎回の質問については、次の回の講義開始前にコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learning等を活用してコメントをフィードバックする。
試験については、全体の正答率が低い問題のみC-learning上で解説する。

オフィスアワー ↑

月曜日・火曜日の12:15～13:00 また、質問にはC-learningや、授業開始前、終了後にも応じる。

メールアドレス（#→@） ↑

kura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	看護倫理の基礎的知識(倫理とは・看護倫理とは) ■	1, 2	医療倫理・看護倫理のイメージを考える	1.5h	自分と他者との価値観の違いについて理解する	1.5h
2	価値について（医療における価値とは） ■	1, 2	価値とは何かについて考える	1.5h	自分と他者との価値観の違いについて理解する	1.5h
3	歴史的変遷/徳の倫理・原則の倫理	1, 2	よい医療者とはどのような人かについてイメージ化しておく	1.5h	被験者保護の歴史について理解する。また、医療職の「徳」について振り返る。	1.5h
4	原則の倫理(倫理的判断基準としての原則とその限界)	1, 2	倫理的問題の判断について自分なりの意見をもっておく	1.5h	医療に関する4つの倫理原則について振り返りを行う。	1.5h
5	インフォームド・コンセントと自律 ■	1, 2	インフォームド・コンセントとは何かについて考える	1.5h	インフォーム（説明）からコンセント（同意）までのプロセスについて理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	終末期医療とアドヴァンス・ケア・プランニング■	1, 2, 3	終末期の医療・ケアについて考える、また、自分なりの死生観について考えておく	1.5 h	終末期医療の倫理的課題と医療者の姿勢について理解する	1.5 h
7	臨床の倫理的課題と看護実践1(ケース検討)	1, 2, 3	第1回～第6回の内容を見直す	1.5 h	今回のケースについての倫理的判断の根拠とそのプロセスを理解する	1.5 h
8	臨床の倫理的課題と看護実践2(ケース検討)・まとめ	1, 2, 3	第1回～第6回の内容を見直す	1.5 h	今回のケースについての倫理的判断の根拠とそのプロセスを理解する	1.5 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



（１）オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

（２）履修条件：ディスカッションが授業の中心となります。積極的な発言を期待します。また、質問は講義内でも受け付けますが、リアクションペーパーに感想と合わせ記載した場合は、次回の講義時に回答解説をします。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

看護倫理学Ⅱ

英文名：Nursing Ethics Ⅱ

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS412・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

倉林しのぶ、小池洋子、茂木佐智子、星野美穂、田村直子、内田真理子

科目に関連した実務経験

保健師としての勤務経験：県教育委員会、病院、事業所（倉林）

看護師としての勤務経験：病院看護部長（小池）、病院看護師（星野、内田、田村）

助産師としての勤務経験：病院助産師（茂木）

履修を必須とする資格

看護師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①目標：医療をめぐる環境は大きく変化し、医療の高度化や複雑化の中で、新たな倫理的課題が浮かび上がってきている。ここでは、今まで受けた講義や実習経験の「統合」として、倫理的課題の実践的解決へ向けた道筋を考える力を養う。

②授業の進め方：講義はオムニバスで行う。各領域担当教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。また、そ

れぞれが実習等で感じている倫理的課題をもとに個人またはグループワークを行い解説する。各分野ごとの倫理に関する最新の知見について学術論文や学会掲載記事等を用い解説する。

到達目標

1. 「臨床で直面する倫理的課題とは何か」について理解する。■
2. 臨床実習の中で直面した倫理的ジレンマと課題を明確化し、その解決に向けた方法を理解できる。■
3. チームの一員として課題に対しどのような態度と行動を取ってゆけばいいか、倫理的判断力と意思決定支援のためのプロセスを理解する。■

使用教材

使用教材については講義前に提示します。テキストは使用しません。

参考文献

日本生命倫理学会誌、日本看護倫理学会誌等を参考に、臨床における倫理的課題とその解決の方策についての最新の知見を紹介する。

- ・各分野の学術誌（最新号）
- ・霜田求：テキストブック生命倫理。法律文化社 2018
- ・今井道夫：生命倫理学入門〔第4版〕。産業図書 2017
- ・箕岡真子：蘇生不要指示のゆくえ 医療者のためのDNARの倫理。ワールドプランニング 2015
- ・箕岡真子：認知症ケアの倫理。ワールドプランニング 2014
- ・シリーズ生命倫理学 1～ シリーズ生命倫理学編集委員会編 丸善出版 平成24年

評価方法

各回の課題または小テスト及び参加態度を70%。倫理的ジレンマとその解決に向けたレポート（第1, 2回に実施）で30%として評価します。

オンラインの場合、各回の課題70% および、最終レポート30%により総合的に評価します。

課題・評価に対するフィードバック方法

各回の課題や小テストについては、C-learning上で解説する。または、次の回の講義開始前に総評としてコメントする。オンラインの場合も同様に、C-learning等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

月曜日・火曜日の12:15～13:00（倉林）そのほかの教員は講義開始前に提示する。

メールアドレス（#→@）

kura#takasaki-u.ac.jp（倉林）
koike-y@takasaki-u.ac.jp（小池）
motegi-s@takasaki-u.ac.jp（茂木）
hoshino-m@takasaki-u.ac.jp（星野）
tamura@takasaki-u.ac.jp（田村）
uchida-m@takasaki-u.ac.jp（内田）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療倫理のトピックス／脳死と臓器移植	1	脳死判定基準について復習しておく	1.5 h	脳死と臓器移植の現状についての振り返りを行う	1.5 h
2	看護における倫理／4分割法	1, 2, 3	3年次の看護倫理学Ⅰについて復習しておく	1.5 h	4分割法についてまとめておく	1.5 h
3	臨床における倫理的課題①老年看護の現場で■	1, 2, 3	実習（老年看護）の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 h	老年看護における倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	臨床における倫理的課題②小児看護の現場で■	1, 2, 3	実習（小児看護）の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 h	小児看護における倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 h
5	臨床における倫理的課題③リプロダクティブヘルス看護の現場で■	1, 2, 3	実習（リプロダクティブヘルス看護）の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 h	リプロダクティブヘルス看護における倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 h
6	臨床における倫理的課題④在宅看護の現場で■	1, 2, 3	実習（在宅看護）の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 h	在宅看護における倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 h
7	臨床における倫理的課題⑤精神看護の現場で■	1, 2, 3	実習（精神看護）の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておく	1.5 h	精神看護における倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 h
8	臨床における倫理的課題⑥看護管理の現場で■	1, 2, 3	組織の一員としての倫理的ジレンマについて考えておく	1.5 h	組織における倫理的ジレンマの根拠と課題解決のプロセスを理解する	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

1. オンラインの場合、C-learningまた動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。
 2. 履修条件：本科目は「看護倫理学Ⅰ」を修得していることが望ましい。
 3. ディスカッションには積極的に参加することを求める。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

エンド・オブ・ライフ・ケア実習

英文名：End-of- Life Care Practicum

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS325・C

学年：3年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

田村直子、石田順子 他看護学科教員

科目に関連した実務経験

看護師として総合病院に勤務（経験）：石田

看護師として総合病院・訪問看護ステーションに勤務（経験）：田村

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○		○	○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

エンドオブライフケア実習を通して、人生の最終段階にある人と家族を総合的に理解し最善の生を生きるための具体的かつ実際の支援内容、多職種連携・協働についても理解する。人生を支える国家資格である看護職に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を身につける。

各施設に指導担当教員が割り振られ、実習指導や学内指導を通して学生と実習先と連携し十分な個別指導を行う。

到達目標

1. エンドオブライフケアが必要な人と家族の多様な価値観を理解し、最善の生を生きるためのニーズおよび必要な支援を理解する。■

- 2.エンドオブライスカエにおける意思決定支援（ACP）の必要性を理解する。■
- 3.最善の生を生きるための支援として、社会資源の活用方法や多職種連携・協働の実際より、エンドオブライフケアを支える地域包括ケアシステムと看護職の役割について考察する。■
- 4.多様な疾患や多様な療養の場におけるエンドオブライフケアの重要性や意義を見出す。■
- 5.看護学の初学者として、エンドオブライフケアにおける看護職としてのコミュニケーション能力および責任感、倫理観、態度を修得する。

使用教材 ^

エンドオブライフケア その人にとっての最善をめざして 南江堂 ISBN978-4-524-23202-4
学科作成の実習要項、及びエンドオブライフケア実習要項

参考文献 ^

看護実践にいかす エンド・オブ・ライフケア 日本看護協会出版会
エンドオブライフケア看護学 基礎と実践 ヌーヴェルヒロカワ

評価方法 ^

最終的に評価表で実習目標への達成度（100%）を評価する。総合評価60点以上を合格とする

1) 実習への取り組み（カンファレンスへの参加度などを含む）、態度

2) 事前学習、日々の実習記録、最終提出記録

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

実習記録等に関して随時指導、コメントを付して返却する。最終的に提出された実習記録に関しては、コメントを付して返却する。

オフィスアワー ^

質問および学習相談には、実習期間中適宜応じる。担当教員またはC-learning 連絡・相談にて対応。

メールアドレス（#→@） ^

必要に応じて提示する

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・到達目標達成に向けて、1週間の実習を行う。各施設臨地実習4日間（1日8時間）、学内実習1日とする。各施設におけるエンドオブライフケアについての具体的支援内容を実践的に理解する。 ・臨地・学内カンファレンスを行う。カンファレンスでは実習目標に沿って学んだことを共有するとともに意見交換を行う。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。		実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜	・実習先で知り得た知識の再確認、現場で得た学びを振り返り、整理する。 ・臨地・学内カンファレンスを通して、考察したことを実習レポートなどにまとめる。 ・実習を通して学び得たエンドオブライフケアについて考察する。	適宜

合計時間（予習・復習） ^

適宜

備考 ^

【実習期間全体を通じた実習の進め方】

実習前の全体オリエンテーションには必ず参加し、実習に備えること。

実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。

実習目標に沿った学びの整理は、カンファレンス等のグループワークの形式で進める。

本科目は、1年次からの学習の積み重ねが重要であるため、十分復習しておくこと。

【履修条件】

この科目は、臨地実習科目の履修承認基準をすべて満たしていなければ受講できない。

【オンライン実習となった場合】

上記の到達目標達成に向けて、1週間の実習を行う。

出席登録はC-learningによる「出席管理」および実習終了後の「アンケート」への回答により行う。

C-learningによる資料配布・自己学習資料の配布を行う。

エンドオブライフケの様々な場面における課題、事例を通し、カンファレンスを行う。

実習期間中に課題レポートの提出を課す。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

家族看護論

英文名：Family Nursing

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS413・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

石田順子・茂木佐智子・星野美穂・梅原里実・浅井直美

科目に関連した実務経験

看護師として大学病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

家族をひとつのユニット、家族機能をひとつのシステムとして捉え、家族のライフサイクルの段階に応じた発達課題、直面する危機や健康問題に対する支援のあり方を習得し、家族看護の役割について理解を深めることを目標とする。

6人の教員でオムニバス形式で講義を行う。

到達目標

現代家族における家族の多様性を述べるができる。■

現代家族の課題を述べるができる。■

ライフサイクルに応じた家族に対する支援の特徴を記述できる。■

現代における家族看護の役割について述べるができる。

使用教材

^

テキスト…家族看護論のテキストを使用する。
各講義ごとに講義資料を配布する。
それぞれの領域の家族に関する学会における最新の知見を紹介する。

参考文献

^

適宜紹介する

評価方法

^

定期試験 100点
総合評価60点以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

^

火曜日 9:00～17:00（403研究室）

メールアドレス（#→@）

^

jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	家族看護とは、家族看護の対象理解■	1,2	シラバスを読み、講義の目標と内容を確認する。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	家族看護とは何かについてまとめ、家族看護の必要性について説明できる。	2h
2	子どもの誕生期にある家族への支援	1,2,3	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	講義の要点をまとめ、子どもの誕生期にある家族の支援について説明できる。	2h
3	入院治療を受ける病児をもつ家族への支援	1,2,3	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	講義の要点をまとめ、入院治療を受ける病児をもつ家族の支援について説明できる。	2h
4	がん患者の家族への支援■	1,2,3	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	講義の要点をまとめ、高齢者を介護する家族の支援について説明できる。	2h
5	高齢者を介護する家族への支援	1,2,3	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	講義の要点をまとめ、高齢者を介護する家族の支援について説明できる。	2h
6	在宅療養者を介護する家族への支援	1,2,3	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	講義の要点をまとめ、在宅療養者の介護を行っている家族と支援について説明できる。	2h
7	精神疾患をもつ患者の家族への支援	1,2,3	方法論および臨地実習を振り返り、家族に対してどのような支援が必要か考えをまとめる。テキストの該当する箇所を読んでおく。	1h	講義の要点をまとめ、精神疾患をもつ患者の家族の支援について説明できる。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	家族看護学の課題 まとめ	4	第1～7回までの講義資料やまとめに目を通し学習内容を確認する。	1h	全ての学習内容を統合し、家族看護学の課題と展望について考える。	2h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



- ・本講義は、6つの看護学領域の教員によるオムニバス形式で授業を展開する。教材として、テキストと教員の作成する授業資料を使用する。
- ・各回の講義内容に関する質問等は、原則として講義時間内に問い合わせる。
- ・レポートを記載する際は、教科書や資料の他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより理解を深めること。
- ・評価：筆記試験かレポートかは講義時に担当教員が説明する。それぞれの配点については最初の講義で説明する。
- ・単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
- ・■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



看護マネジメント

英文名：Nursing Management

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS411・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

4 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子・安野朝子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長

総合病院感染管理室長

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①一人の対象者にケアが提供されるまでに個人・チーム・組織がどのような機能を果たしていくかについて事例を通して考え、組織の中の看護職の機能・役割を理解する。さらに、看護マネジメントに必要なスキルを身につけ、組織の一員として働く能力を養う。

②講義は、基礎的な知識を教員が説明し、現場を想定した場面についてのグループワークを行い理解を深める。

到達目標

1. 看護マネジメントについての概念を理解する
2. 看護サービスを提供するためのマネジメントについて理解する

- 3. 看護職を取り巻く法制度を理解する
- 4. サービスの質評価の構造を理解する
- 5. 看護マネジメントに必要なスキルについての基礎を学び実践に活用する
- 6. インシデント分析の必要性を理解し、分析を体験する

使用教材

^

ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理2023年：吉田千文ら，メディカ出版
（3年の看護職キャリア形成論で使用したテキストを使用）
必要に応じ資料を配布します。
日本看護管理学会の看護マネジメントに関する最新の知見を紹介します。

参考文献

^

授業の中で紹介します

評価方法

^

毎回の授業終了後の課題の記述内容、講義・グループワークへの参加態度等50%
最終講義終了後の課題レポートの内容50%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の授業の最初に前回授業後課題の内容を踏まえてフィードバックを行う。最終レポートはコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

小池：火曜日3・4限（5号館 207研究室）
安野：火曜日3・4限（5号館 208研究室）

メールアドレス（#→@）

^

koike-y#takasaki-u.ac.jp
yasuno#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	マネジメントとは、看護マネジメント、看護ケアマネジメントとは	1	一般的に使われている「～マネジメント」について考える	1.5h	看護過程と看護ケアマネジメントの関係を整理する	1.5h
2	看護サービスを提供するためのマネジメント	1,2	対象者に看護サービスを提供するためにスタッフとして知らなければならないことについて調べる	1.5h	スタッフとして看護提供システム、看護業務管理、物的管理、時間管理についての考えをまとめる	1.5h
3	看護サービスを提供する上で知っておくべき法制度	2,3	看護職として働く上で関わる法律にはどのようなものがあるか調べる	1.5h	看護に関わる法律や制度の概要、看護職の法的責任を整理する	1.5h
4	多重課題の対応、サービスの質評価	1,2,3,4,5	臨床で発生しそうな多重課題について考える	1.5h	サービスの質評価における「構造」「過程」「結果」の3側面について整理する	1.5h
5	マネジメントに必要なスキル（コミュニケーション、アサーティブ、リーダーシップ、コーチング）	4	3年次までに学んだコミュニケーション、アサーティブ、リーダーシップ、コーチングなどの知識を整理する	1.5h	マネジメントする上で必要なスキルについて自分の考えをまとめる	1.5h
6	安全な医療看護を提供するための組織横断的な活動	5,6	2年次に学習した医療安全論について復習しておく	1.5h	組織横断的な活動の重要性について考えを整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	インシデント分析の実際	5,6	事故発生メカニズムについて学習する	1.5h	インシデント分析を体験して、分析の必要性について考えをまとめる	1.5h
8	まとめ 看護職ひとりひとりが看護マネジメントを意識し行動することの意義	1,2,4,5	1～8回までの学習内容を振り返る	1.5h	看護職ひとりひとりが看護マネジメントを意識し行動することの意義をまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 2. 履修条件
この科目は、看護学原論と各看護学概論、医療安全論を履修していることが望ましい。
 3. 出席登録方法
1) 対面授業・オンライン授業ともに、C-learningの出席登録および課題の提出等にて行う。
 4. ルール
1) グループワークを行う際は、各自が主体的に参加する。
 5. オンライン授業時の変更点
1) 講義に関しては、教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。
2) グループワークは、ZOOM機能を用いて行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

[HOME](#) > [がん看護](#)

がん看護

英文名：Cancer Nursing

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS414・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

砂賀道子、吉田久美子、石田順子

科目に関連した実務経験

大学病院で看護師として勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①がん医療の特徴と政策を理解し、がん看護の基本を踏まえ、地域で生活するがんサバイバーへの支援について学習する。
またがん患者を支える最新の医療・看護について学び、がん看護について探求する。
- ②事例を用い講義・演習を行う。

到達目標

- がん患者の特徴と看護について基本的な内容を概説できる■
- 国・群馬県のがん対策の取り組み、がん対策基本法やがんサバイバーシップについて概説できる。
- 事例を通して、がん患者の療養の場と看護について学び、考察することができる。

- 事例を通して、がん患者の治療やライフプランに関わる意思決定支援について考察できる。
- がん看護についての自己の考えをまとめることができる。

使用教材

- ・鈴木久美ほか 看護学テキストNICE がん看護 南江堂ISBN 978-4-524-24812-4
- ・マギーズ東京に関するDVD
- ・映画『旅猫』のDVD
- ・AYA世代のがん患者のDVD：『終わりのない生命の物語3 Case5 10年後の逡巡 AYA世代のがん医療』
- ・毎回の授業時に構造的に学習内容を記載した資料を配付する。内容には日本がん看護学会誌などから最新の知見を含める。

参考文献

講義中に紹介する

評価方法

- ・出席が2/3以上で、レポートを提出する権利がある。オンライン授業においても同様である。
- ・レポート50点（50%）、授業参加度（ディスカッションや発言など）30点（30%）、プレゼンテーション20点（20%）の構成で評価する。
- ・総合評価60点（60%）以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- レポートにはコメントなどを付けて返却する。返却の日時は別途連絡する。
- ・関連する項について テキスト内容の予習・復習を説明する。
 - ・授業時に最新の研究内容を示す資料を配付する。
 - ・最終回の講義において到達目標の要点を説明する。

オフィスアワー

オフィスアワー：
火曜日1～4限(404研究室)

メールアドレス（#→@）

sunaga#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当 到達 目標	予習内容	予 習 時 間	復習内容	復 習 時 間
1	がん看護とは がん患者の特徴と看護■	1	がんという病気の意味、がん患者の抱える苦痛について文献を用いて調べる。	1.5 h	看護が担う役割について参考文献などを活用しまとめる。	1.5 h
2	がん医療の現在 国・群馬県のがん対策の取り組み	2	国・群馬県のがん対策の取り組み、がん対策基本法についてWebで調べ要点を確認する。	1.5 h	国や県におけるがん対策についてまとめる。	1.5 h
3	がんサバイバーシップとソーシャルサポート■	1,2	がんサバイバーシップの考え方、マギーズ東京についてWebや文献を用いて調べておく。	1.5 h	がんサバイバーシップにおける看護の役割についての考えをまとめる。	1.5 h
4	がん患者の療養の場と看護 【事例①：DVD】	1,2, 3	がん患者の療養の場について調べる。	1.5 h	事例を通してがん患者の療養の場について考えをまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	がん患者の療養の場と看護 【事例①：DVD】	1,2,3	事例を通してがん患者の療養の場について考えをまとめる。	1.5h	他者と考えを共有し深める。	1.5h
6	がん患者の治療・療養に関する意思決定支援（ACP）と看護	1,2,3,4	がん患者の意思決定支援（ACP）について調べる。	1.5h	がん患者の意思決定支援（ACP）における看護の役割をまとめる。	1.5h
7	AYA世代のがん患者の治療やライフプランにかかわる意思決定支援・倫理的課題【事例②：DVD】	1,2,3,4	第6回の講義におけるがん患者の意思決定支援について確認しておく。 AYA世代の発達段階と特徴について調べておく。	1.5h	DVDの視聴を通して考察したことを他者と共有し深める。	1.5h
8	がん看護についての考察（プレゼンテーション・レポート作成）	1,2,3,4,5	第7回までの講義内容をふまえ、がん看護についての自己の考えをまとめる。	1.5h	全般的に授業内容を振り返り、到達目標に向け体系的に知識をまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

この科目は、「看護人間発達学」「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ」「成人看護学方法論Ⅱ」を履修していることが望ましい。積極的な授業参加を望みます。

1. 学習の深め方

- 1)教材として、南江堂のテキストを使用するが、予習・復習に利用する。
- 2)教員の作成する授業資料、文献も使用する。
- 3) 授業方法は、講義内容の要点について講義し、質問などに対しても具体的な説明をする。
- 4) 到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう、学習内容を体系的に提示し進めていく。
- 5)発表は学生同士の評価も実施する。どのような視点で発表に臨むか、評価するのか学習する。
- 6) 記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が満たないため、各自で補完すること。

2. ルール

- ・話し合いに積極的に参加する。他者の意見を尊重する。司会や書記も全員ができるようにする。
- ・看護の専門性を高めていく機会とする。そのため、発言は指摘だけでなく、どうすればよいか示唆を提示する。

3. 出席の登録・確認 出席の登録は、C-learning の「出席」の確認キーを見て登録する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

国際看護学演習

英文名：International Nursing Practice

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS415・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

2 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

5 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



李孟蓉

科目に関連した実務経験



看護師とし大学病院に勤務（経験）

国際学会等での発表、海外研修（経験）

大学の国際交流委員、および海外教育機関との国際交流・研究活動（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①1年次に国際看護学で学んだ知識を基盤に、わが国の看護職をめぐる国際化の現状を理解し、将来の協働の在り方を考察する。「様々な文化や言語背景をもつ在留・訪日外国人への看護」、「医療や福祉の現場で外国人看護師との協働」についてグループで討議する。また、WHO等国際機関のホームページを情報源として、自ら諸外国の保健・医療・福祉制度や健康課題について調べ分析するとともに、健康問題へ影響を及ぼす社会・文化的背景、さらに対策について調べ、記述する。さらに、社会や文化、言語の違う地域や国での異文化体験を通じて諸外国の保健医療事情や看護を深める。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重

ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めていく。また、学生が課題を論理的に分析し解決能力を身につけるよう、集団討論を取り入れ、発表させる。

到達目標

^

1. 在留・訪日外国人である対象者の文化・言語背景に関心を持ち、看護に必要な視点や配慮について説明できる。■
2. 日本における外国人看護職の現状について調べ、協働に必要な態度や支援の仕方について考察できる。
3. 諸外国の文化的背景や健康問題について説明できる。■
4. 諸外国の医療制度や看護の特徴を理解し、日本との違いについて説明できる。■

使用教材

^

- ・1年次に使った教科書 看護学テキストNiCE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂）ISBN 978-4-524-25264-0
- ・日本国際看護学会、日本国際保健医療学会、日本看護科学学会の多様な文化背景を持つ患者への看護や外国人看護職・介護職について最新の知見を紹介する
- ・各自自分で興味関心のある国や地域に関する文献や教材を探すこと

参考文献

^

講義内容に沿って、適宜紹介を行う

評価方法

^

最終レポート50%、発表、討議など授業参加度30%、提出物20%(対面授業・オンライン授業同様)

課題・評価に対するフィードバック方法

^

発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポートについては、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

火曜日・木曜日の2限、昼休み時間
研究室：5号館3階302
研究室不在時はメールにて対応する

メールアドレス（#→@）

^

ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション、日本における国際化の現状、国際看護の実践の場	1	シラバスを読み、講義内容と目標を理解しておく。	1.5h	講義内容を復習し、日本における国際化の現状についてしっかり理解する。興味ある在留外国人における看護ニーズについてリサーチする。	1.5h
2	在留外国人への看護 ■ 在留外国人をゲストスピーカーとして招き、異文化の中で看護ニーズについて集団討議を通じて学ぶ。	1	教科書の第Ⅱ章、あらかじめ配布した資料に目を通しておく	1.5h	講義内容の復習、在留外国人への看護に必要な視点や配慮について、理解を深める。	1.5h
3	日本における外国人看護職受入の現状と課題 外国人看護職をゲストスピーカーとして招き、日本人看護職者との協働における課題について討議を通して学ぶ。	2	あらかじめ配布した資料に目を通しておく、興味ある日本での外国人看護職受入の現状と課題についてリサーチする。	1.5h	講義内容の復習、外国人看護職との協働について、討議を通して必要な姿勢や態度の理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	先進国(アメリカ、ドイツ、オーストラリア)の看護	3,4	先進国(アメリカ、ドイツ、オーストラリア)の看護	1.5h	講義内容の復習、興味ある国や地域の医療事情をリサーチする	1.5h
5	中進国(台湾、中国)、途上国(ベトナム、インドネシア、タイ)の看護 ■	3,4	あらかじめ配布した資料に目を通しておく	1.5h	講義内容の復習、興味ある国の医療事情をリサーチする	1.5h
6	学生プレゼンテーション	1,2,3,4	過去4回分の講義を復習し、自身が興味ある国や地域の医療事情をまとめる。	1.5h	学生のプレゼンテーションの復習とコメントを記入	1.5h
7	地域に根付いたプライマリヘルスケアと看護	1,2	あらかじめ配布した資料に目を通しておく	1.5h	講義内容の復習と興味ある国や地域の看護に関する発表準備	1.5h
8	学生プレゼンテーションとまとめ	1,2,3,4	自身が興味のある看護に関する発表準備	1.5h	学生のプレゼンテーションの復習とコメントを記入	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

AL（アクティブラーニング）は、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、クローズドクエスション、オープンクエスションなど。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たない場合、各自で補完すること。

2. 履修条件

この科目は看護専門科目群の必修科目である「国際看護学」を履修していることが望ましい。

3. ルール

1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。

2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

4. 出席登録の方法

C-learningにある「出席管理」への入力をもって、出席とする。

なお、出席管理の確認キーは毎回の授業時に知らせる。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

産業保健論

英文名：Occupational Health & Nursing

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS416・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

福平さやか、赤堀八重子

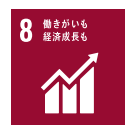
科目に関連した実務経験

福平：産業保健師として、企業に勤務（現在）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

グループワーク、発表、ディスカッション
面談のロールプレイング

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①産業保健看護の目的は労働に関連する健康障害の予防、労働者の生涯にわたる自律的な健康行動の確立、労働者が健康で安全に働き続けることができる職場環境づくり、さらには職場風土の醸成に寄与することである。本講義では、労働生活を支える産業保健師の役割を理解し、働く人の健康管理の実際について学ぶ。

②授業では、教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示及び、講義の後半ではグループワークを取り入れて講義の理解を深められる工夫を行う。

到達目標



1. 産業保健及び看護職の役割を理解することができる。■
2. 個人・組織に対するアセスメントと個人・組織の支援への展開を理解することができる。■
3. 日本における産業保健の課題と対策を産業保健看護職の視点で理解することができる。■
4. 事例を通じて産業保健看護活動の理解を深めることができる。■

使用教材



教科書：最新保健師講座3対象別公衆衛生看護活動，松田正巳著，医学書院（3,400円＋税）

その他：補足資料としてPPT資料を配布します。

日本産業衛生学会産業保健師部会などの産業保健の専門性に関する最新の知見を紹介する。

参考文献



労働衛生のしおり（令和6年年度）

評価方法



試験70%、授業参加度・授業態度等30%を総合して評価します。

課題・評価に対するフィードバック方法



試験解答用紙に記載事項へのコメントをつけて返却をする。

オフィスアワー



初回授業で提示する

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	産業保健の目的、産業保健師の役割■	1	教科書概論Ⅰに目を通す	1.5h	産業保健看護職の役割と職務を理解できるよう復習する	1.5h
2	産業保健看護の場と対象を理解する■	1,2,3	教科書概論Ⅱと1回目の講義資料に目を通す	1.5h	産業保健を取り巻く環境、多様化する労働者と働き方を理解できるよう復習する	1.5h
3	産業保健における健康問題と課題■	1,2,3	教科書概論Ⅲ、2回目講義資料に目を通す	1.5h	産業保健の統計データから労働者の健康・安全衛生課題を理解できるよう復習する	1.5h
4	産業保健を推進するための制度・関係法規■	1,2,3	教科書概論Ⅳ、3回目講義資料に目を通す	1.5h	産業保健の関連法規と安全衛生管理体制を理解できるよう復習する	1.5h
5	主な産業保健の方法論■	1,2,3	教科書方法論Ⅴ、4回目講義資料に目を通す	1.5h	産業保健の5管理、ハイレスクアプローチ、ポピュレーションアプローチの具体を理解できるよう復習する	1.5h
6	主な産業保健の実際①■	1,2,3,4	教科書活動論Ⅵ、5回目資料に目を通す	1.5h	有害業務対策・メンタルヘルス対策・過重労働対策の活動の具体を理解できるよう復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	主な産業保健の実 際②■	1,2, 3,4	教科書活動論VI、6 回目資料に目を通 す	1.5 h	健康増進活動・治療と仕事の両立支援・健 康経営・地域職域連携の活動の具体を理解 できるように復習する	1.5 h
8	事例検討で産業保 健看護活動の実際 を学ぶ■	1,2, 3,4	講義で使用した資 料に目を通す	1.5 h	グループワークで産業保健看護職の対応を 検討し発表する	1.5 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



予習復習については、試験前後の学習で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

試験にて評価を行う。

印刷



チーム医療アプローチ演習

英文名：Interprofessional Medicine

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS410・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

5 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊秀臣（理学）、倉林しのぶ・梅原里美・小池洋子・茂木佐智子・内田真理子・中川裕・生方敬美（看護）、篠原智行・齊田高介（理学）、大林恭子・青森達・前田恵里・高橋恵美利・高橋雄太・信田智哉・長嶺歩（薬学）、木村憲洋・三澤安利沙（情報）、竹内真理・河原田律子・野口礼於奈（栄養）、原田欣宏・富田俊・加藤大輔（社会福祉）、内田祥子（子ども教育）

科目に関連した実務経験

*各学科のコア教員のみ

渡邊秀臣（理学）：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

小池（看護）：看護師として一般病院に勤務（経験）

篠原（理学）：理学療法士として急性期、回復期病院に勤務（経験）。生活期病院に非常勤勤務。

高橋雄太（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務。

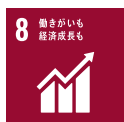
木村（情報）：病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務。

加藤（社会福祉）：MSWとしてケアミックス病院に勤務（経験）

内田（子ども教育）：保育者養成校での学外実習の指導（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。その上で最善の医療や福祉を提供することができるよう、チームや多職種連携のあり方や課題、工夫について学び、自身の考えを述べられるようになる。

②グループワークのテーマは事前に座学形式で示す。グループワークのほとんどは複数学科の履修生で構成したグループで行う。最終的に模擬症例に対する最善の医療についてグループの成果物を作成し発表する。

到達目標



1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べられる。■
2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べられる。■
3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■
4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■

使用教材



関連する資料を随時配布する。

参考文献



指定なし。

評価方法



1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度40%、5・6回の模擬症例検討内容等20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度20%、授業後レポート20%

課題・評価に対するフィードバック方法



模擬症例検討ではグループごとに発表し、教室担当の教員がフィードバックする。

オフィスアワー



渡邊（理学）：金曜3限、4号館2階学部長室
小池（看護）：月曜4限、5号館207研究室
篠原（理学）：水曜3限、4号館416研究室
高橋雄太（薬学）：水曜2限、7号館323研究室
木村（情報）：月曜1限、7号館610研究室
竹内（栄養）：木曜2限、1号館308研究室
加藤（社会福祉）：木曜2限、1号館513研究室
内田（子ども教育）：月曜1限、8号館410研究室

メールアドレス（#→@）



渡邊（理学）：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp
小池（看護）：koike-y#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）：shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
高橋雄太（薬学）：takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
木村（情報）：norihito#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）：mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
加藤（社会福祉）：kato-d#takasaki-u.ac.jp
内田（子ども教育）：uchida-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス/ノンテクニカルスキル【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	ノンテクニカルスキルとは何かを整理する。	1.5h
2	効果的なチーム、チーミング【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	チーム、チーミングとは何かを整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	効果的な情報伝達と共有；実践【合同】 ■	1	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 h	情報伝達と共有方法についての課題を整理する。	1.5 h
4	効果的な情報伝達と共有；グループワーク【合同】 ■	1,2,3,4	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 h	情報伝達と共有方法についての課題と工夫を整理する。	1.5 h
5	チームカンファレンスの目的と方法【各学科】 ■	1,2,3,4	病院の内外で実施されるチームカンファレンスにはどのようなものがあるかを調べておく。	1.5 h	チームカンファレンスのあるべき姿や課題を整理する。	1.5 h
6	模擬症例検討① 模擬症例に対する自職種の役割、アプローチ【各学科】 ■	1,2,3,4	模擬症例の疾病や治療について調べ、自職種の関わり方を考えておく。	1.5 h	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 h
7	模擬症例検討② 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；グループワーク【合同】 ■	1,2,3,4	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する準備をしておく。	1.5 h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 h
8	模擬症例検討③ 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；発表【合同】 ■	1,2,3,4	発表の準備をしておく。	1.5 h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。

【副専攻対象科目】（生物生産除く）本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

看護キャリア形成論

英文名：Nursing career Development

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS323・B

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長、県の看護行政担当

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護専門職としてキャリアを発展させる意義を理解し、自分の看護キャリアを形成するために必要な基礎的知識を学ぶ。
看護職の活躍の場の多様性を理解するとともに、医療専門職として社会で活躍するために必要な自己研鑽力を養う。
②自己の将来を考えながら事前学習を行い、講義・グループワークに望み、自己のキャリアデザインを考える。

到達目標

1. キャリアの理論を踏まえ、自己の将来像を描く。
2. 組織について理解し、組織の人材育成とキャリア発達について考察する。
3. 看護職としての自己研鑽の意義を理解し、学習方法を考える。

- 4. 自身のキャリアデザインを描き、4年次の目標と行動計画を設定する。
- 5. 主体的にワークに参加し自律的に学習する。

使用教材

^

ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理2023年：吉田千文ら，メディカ出版
日本看護協会が行う病院看護職員実態調査の結果や働き方改革の政策の動向について最新の知見を紹介する。

参考文献

^

・迷ったら必見！ナースキャリア事例でわかる看護職の働き方ガイド：草柳かほる他，東京医学社，2017.

評価方法

^

毎回の授業後課題の記述内容、授業中の課題への取り組みの積極性等50%、課題レポート50%
オンライン授業の場合、動画の視聴状況や課題の提出状況も積極性に加味する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業の最初に前回授業後の課題への記述内容を踏まえたフィードバックを行う。
課題レポートについてはコメントをつけ返却する。

オフィスアワー

^

火曜日 3・4 限 （5号館 207研究室）

メールアドレス（#→@）

^

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会人基礎力 キャリアの概念	1	1年の基礎教養ゼミから作成しているポートフォリオを整理しておく	1.5h	生涯発達の視点で捉えるキャリア形成について自己の考えをまとめる	1.5h
2	看護観とキャリアデザイン■	1,2	1年次に書いた将来像を確認しておく	1.5h	自己の成長を確認するとともに将来像を描き	1.5h
3	組織の一員になるとは■	2,3	テキストにて組織について学習しておく	1.5h	就職希望先の組織倫理を確認する	1.5h
4	組織が必要とする人材と看護職としてのキャリア発達■	2,3,4,5	組織理念から組織が必要とする人材を考えておく	1.5h	自分の将来像と組織が必要とする人材について考える	1.5h
5	成人学習理論、経験学習理論	3	自分の学習スタイルについて振り返る	1.5h	経験を学習にする過程を整理する	1.5h
6	看護職員の継続教育■	3	専門看護師・認定看護師・認定看護管理者制度について調べておく	1.5h	キャリア形成のための学習機会について整理する	1.5h
7	キャリアデザインをどのように考えるか	1,2,4	1～6回の学習内容を整理する	1.5h	5年後の自分像を考える	1.5h
8	まとめ 自分のキャリアデザイン	1,3,4,5	5年後の自分像に近づくために何をすれば良いかを考える	1.5h	自己のキャリアデザインを考える	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 2. 履修条件
この科目は、基礎教養ゼミ、各看護学実習を履修していることが望ましい。
 3. 出席登録方法
1) 対面授業・オンライン授業ともに、C-learningの出席管理およびワークへの参加確認にて行う。
 4. ルール
1) グループワークを行う際は、各自が主体的に参加する。
 5. オンライン授業時の変更点
1) 講義に関しては、教材倉庫にある動画を視聴し課題を提出する。
2) グループワークは、ZOOM機能を用いて行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

健康危機管理論

英文名：Health Crisis Management

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS417・B

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

武居明美、赤堀八重子、赤羽潤子

科目に関連した実務経験

日本防災士会群馬支部副支部長として活動（赤羽）

保健師として職域保険協会に勤務、看護師として病院に勤務（武居）

保健師として行政〈町役場〉に勤務、看護師として病院・訪問看護ステーションに勤務（赤堀）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①自然災害、大規模な事故、感染症等、個人が日常的に遭遇する病気や事故とは規模・性質の異なる健康の安全を脅かす状況に対する公衆衛生上の体制、対応と、保健師がかかわる健康危機管理事例について学習する。

②授業のすすめ方：健康危機発生時の体制及び組織における保健師の管理能力について学習する。また、自然災害が起きたことを想定した机上での演習を行う。

到達目標



- 1.健康危機管理システムと保健所、市町村等の役割について理解できる。■
- 2.平常時、災害発生時、災害復旧・復興対策期等、各期に応じて必要な保健師の活動が理解できる。
- 3.地域住民への啓発と相互支援力について理解することができる。
- 4.健康危機管理に必要な保健師の管理能力について理解することができる。

使用教材



資料を配布する。最新の知見について紹介する。

参考文献



公衆衛生看護学.jp 鳩野洋子、神庭純子 インターメディカル 5,280円

評価方法



試験60%、授業・演習参加度、態度10%、レポート30%、

課題・評価に対するフィードバック方法



国家試験過去問題についてはその都度解答について解説をし、講義と問題を結び付けて考えられるようにする。オンラインの場合も同様であるが、解説はC-learning上で行う。

オフィスアワー



武居：月曜日9：30～13:00

赤堀：金曜日13：00～16:15

メールアドレス（#→@）



武居：takei-a#takasaki-u.ac.jp

赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康危機管理システムと対策	1,2	テキストに目を通してくる	1.5h	危機管理に関する保健所・市町村の役割について理解する。	1.5h
2	災害と保健活動①	1,2	テキストの災害各期の保健活動のページを読んでくる。	1.5h	災害各期に必要な支援について理解する。	1.5h
3	災害と保健活動②	1,2,3	テキストの災害各期の保健活動のページを読んでくる。	1.5h	災害各期の保健所・市町村保健師の役割を理解する。	1.5h
4	演習オリエンテーション（DIG，HUGについて）	3,4	事前に配布された資料を読んでおく	1.5h	DIG，HUGの目的や方法を確認しておく	1.5h
5	演習（自然災害時の対策と対応①）■	3,4	事前に配布された資料を読んでおく	1.5h	自分の住んでいる地域の災害マップを確認する	1.5h
6	演習（自然災害時の対策と対応②）■	3,4	事前に配布された資料を読んでおく	1.5h	自分の住んでいる地域の災害マップを確認する	1.5h
7	演習（自然災害時の対策と対応③）■	3,4	事前に配布された資料を読んでおく	1.5h	自分の住んでいる地域の災害マップを確認する	1.5h
8	まとめ	3,4	1～7回の講義資料の見直し	1.5h	各自治体単位での災害危機管理体制について理解する	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



保健師は地域で住民を対象とした災害保健活動に関わることも多いため、公衆衛生看護学方法論・公衆衛生看護活動論などで学んだ知識を基に、さらに理解を深めること。オンラインの場合の演習については別途連絡する。

○記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

○履修条件：保健師課程の必修科目である。「公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ」および「公衆衛生看護学方法論」を履修していることが望ましい。

■実務経験に基づく内容を示す

印刷



統合実習

英文名 : Integration for Nursing Practice:Practicum

科目区分 : 看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング : NRS418・B

学年 : 4年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

3 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小池洋子他、看護学科教員

科目に関連した実務経験

病院で看護部長として勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ知識・技術を統合するとともに、看護専門職としての態度を持って、チーム医療における連携と協働、看護マネジメントの実際を体験し、看護実践能力の向上を目指すことを目的として実習を実施する。

到達目標

- チーム医療の実際を通して、チーム医療の課題解決方法を理解し、チーム医療における看護職の活動と役割を理解する。
- 看護サービス提供組織における看護マネジメントの実際を体験し、組織の成り立ちを理解し、組織の一員として看護実

践するために必要なスキルを身につける。
 3. 医療安全・感染対策の実際を体験し、組織としての医療安全・感染対策に取り組む意義を理解する。

使用教材
 ^

- ・ 統合実習要項、事前配布資料
- ・ 関連科目のテキストや授業資料

参考文献
 ^

- ・ 必要に応じ提示する

評価方法
 ^

- ・ 実習目標の達成度と実習態度が90%、レポート評価10%のうち合計60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法
 ^

実習記録、レポートに対して担当者からコメントを付して返却する。
 グループワークで話し合った内容について、必要時コメントする。

オフィスアワー
 ^

金曜日 1 ～ 2 限 207研究室

メールアドレス（#→@）
 ^

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表
 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習期間および実習施設 実習期間は2週間、施設実習を 8 日間、学内実習を 2 日間行う。実習は、県内病院とその関連施設も含めて行う。 実習内容 看護職や多職種による患者支援について見学や説明を受ける。 様々なチームカンファレンス等の連携場面を見学する。 関係職種・関係機関との連携の実際、チームカンファレンスの実際について担当者より説明を受ける。 1) ～ 3) の実習内容をとおり、チームにおける連携のあり方とチーム医療における看護職の役割について、グループワーク等で意見交換する。 看護サービスマネジメントに関するオリエンテーションやレクチャー等を受ける。 病棟等での看護活動を見学する。 臨地の受入れが困難な状況が発生した場合学内においてオンラインで施設の担当者よりレクチャーを受ける。 チームカンファレンスのロールプレイングやDVD視聴によるグループワークなどを実施する。		実習施設の概要を調べる。 基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ内容を復習する。	適宜	一般目標に沿って学習成果をまとめる。	適宜

合計時間（予習・復習）
 ^

備考



- ・受講するためには、1・2・3年次までの看護専門科目群の必修科目の単位を全て習得していることが必要となる。
 - ・特に関連する科目や事前配布資料などの学習を推奨する。
 - ・実習期間中は、臨地に入る前に既習の内容を確認するとともに、実習翌日に提出された記録用紙を確認し不足を補うよう指導する。
 - ・施設実習が不可能になった場合は、学内実習・オンライン実習を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

研究ゼミナール

英文名：Nursing Research Seminar

科目区分：看護専門科目群・統合分野

科目ナンバリング：NRS419・C

学年：4年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：3単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

1 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

看護学科教員

科目に関連した実務経験

看護師あるいは助産師として病院に勤務（経験）

保健師として保健所などに勤務（経験）

養護教諭として教育機関などに勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○			○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習記録についてコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 自らの関心に基づき、主体的にテーマを設定し、文献レビューをもとに研究目的を明確にする。研究目的に適した研究方法を計画し、データ収集と分析により結果と考察をまとめ論文を作成する。その一連の研究活動を通し、批判的で論理的思考を養い、主体的に取り組む態度を修得する。

②ゼミナール形式とする。

到達目標

1.文献レビューもとに、テーマに関する先行研究の背景をとらえ、研究目的を明確にできる。
2.研究目的に適した研究方法を記述できる。
3.倫理的配慮を考慮し、データ収集と分析ができる。
4.結果について図表を用いて簡潔にまとめ、焦点を明確にし、考察として記述できる。
5.研究論文と発表媒体を適切に作成できる。■

使用教材

・看護研究が効果的に進むよう担当教員が提示や紹介など行う。
・看護研究概論の授業資料

参考文献

同上

評価方法

文献レビュー、研究計画書、論文作成などのプロセス、研究へ取り組む態度などから、各指導教員が総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書など作成した資料にはコメントなどを付けて返却する。
分析結果や図表、また論文全体にコメントなどを付けて返却する。

オフィスアワー

担当教員より説明を受ける（各担当教員の研究室）

メールアドレス（#→@）

各担当教員のアドレスを使用する（担当教員より案内を行う）

授業計画表

4～5月 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を作成する。■
1) 研究の背景・動機を体系的に記載し、研究目的を明確に記載する。
2) 研究方法に対象者、調査方法、調査内容、分析方法、倫理的配慮などを記載する。
6～7月 計画書に記載した調査方法や調査内容を確認しながらデータを収集する。■
1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。
2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集を行う。
8～9月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果は図表を用いてまとめる。■
1) データは計画書に記載した分析方法をもとに分析を行う。
2) 分析結果に適した図表を作成し、結果を表現する。
10～11月 論文の内容を熟考し、表記の適切性にも考慮し作成する。■
1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認し作成する。
2) 研究目的へ対応した研究結果に対する考察を作成する。
3) 論文と図表、プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。
卒業研究発表会において、研究のプロセスに沿って発表し成果を提示する。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			担当教員より説明を受けること	適宜	担当教員より説明を受けること	適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間が時間に満たないため、各自で補完すること。

2.履修条件 3年次後期まで開講されている「看護専門科目群」を履修していること。

3.ルール・授業外学習の進め方

1)研究のプロセスにおける要点を理解しながら積極的に進めること。

2)関連文献を有効に活用し、主体的に研究活動を行うこと。

4.授業の進め方

1)必要に応じ、教材や参考文献、資料などを活用する。

2)授業方法は、研究のプロセスの要点を確認しながら進める。

3)到達目標に向け研究活動が効果的に積み重ねられるよう進める。

5.オンライン授業での出席登録方法・他

担当教員より連絡を受けること

6.その他

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

保健統計学

英文名：Health Statistics

科目区分：保健師課程科目

科目ナンバリング：NRP310・B

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 人間理解と倫理観

8 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

宮崎有紀子

科目に関連した実務経験

なし

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

わが国の主要な衛生関係統計資料の概要、および公衆衛生看護活動の基盤となる健康指標について学び、地域の健康水準の把握方法を習得する。また、健康に関連するデータ解析に必要な統計学の知識を習得する。

授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。またパワーポイントにより図等の提示を行っていく。

到達目標

- 1.地域診断に必要な統計資料の意義について理解でき，説明できる.
- 2.健康水準を表す指標について理解でき，説明できる.
- 3.データの整理，図表化，読み取り，考察ができる.
- 4.基礎的な統計処理について理解できる.

使用教材

^

教科書 ・国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
・看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理（実教出版）ISBN978-4-407-34953-5
・講義の内容をプリントにて配布する

参考文献

^

授業中に紹介する

評価方法

^

小テスト100%，総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出物にコメントをつけて返却する

オフィスアワー

^

授業の前後（非常勤講師室）

メールアドレス（#→@）

^

必要に応じて提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	統計の基礎 (1) 代表値とばらつき	4	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part1-1～3に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
2	統計の基礎 (2) 正規分布，二項分布	4	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part2-1～3に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
3	統計の基礎 (3) 推定と検定	4	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part2-4～7に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
4	統計の基礎 (4) さまざまな検定手法	4	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part2，Part3-1～3に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
5	統計の基礎 (5) 2変数データの分析	4	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part3に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
6	人口統計	1,2	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part4-1～3に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
7	保健統計調査（基幹統計等）	2,3	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part4-4～7に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h
8	保健統計調査（保健医療福祉に関連する統計）	1,2,3	「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理」Part1，Part4に目を通す	1h	課題プリントで復習する	2h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



予習・復習については試験前の学習で補完すること
オフィスアワー：授業の前後

印刷



保健医療福祉行政論演習

英文名 : Social Welfare and Policy in Health Care : Seminar

科目区分 : 保健師課程科目

科目ナンバリング : NRP410・A

学年 : 4年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 人間理解と倫理観

7 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

倉林しのぶ、依田裕子、赤堀八重子、武居明美

科目に関連した実務経験

倉林 : 保健師として県教育委員会・病院・事業所に勤務（経験）

依田 : 保健師として県医務課及び保健所・こころの健康センターに勤務（経験）

赤堀 : 保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）

武居 : 保健師として健康保険組合に勤務

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健、医療、福祉に関連した関係法規と制度の基礎知識を学ぶとともに、地方自治体における保健計画策定・施策化・予算の仕組みについて学習する。また、演習を通して、関係機関、地区組織との連携・社会資源の開発、及び行政におけるヘルスケアシステムの構築と提供方法について学ぶ。

②授業の進め方：演習を中心に行う。テキストは補足的に活用し、また、補足的内容を含め教員が作成したパワーポイント及び資料を使い解説する。

到達目標 ↑

- 1. 地方自治体における計画策定・施策化・予算のしくみについて理解できる。■
- 2. 保健活動に関係する組織や関係者間の連携について理解できる。■
- 3. 他区組織やグループ活動支援における保健師の役割について理解できる。■
- 4. 住民を対象とする事業企画を想定し、保健事業企画から評価までの流れを理解できる。■

使用教材 ↑

標準保健師講座<別巻1> 第5版 保健医療福祉行政論(Standard Textbook) 医学書院（3,410円）
保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800円）
最新保健師講座3対象別公衆衛生看護活動，松田正巳著，医学書院（3,300円＋税）
講義のスライドを随時プリントして配布する。

参考文献 ↑

公衆衛生看護学jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）

評価方法 ↑

レポート20%、プレゼンテーション40%、演習参加度40%として、総合的に評価する

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

レポートや質問については次の回に全体に向けて回答・解説する、また、プレゼンテーションについてはその都度コメントする。

オフィスアワー ↑

倉林：月曜日・火曜日の11:00～13:00
依田：講義開始後に提示する。
赤堀：金曜日13：00～16：15

メールアドレス（#→@） ↑

倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地方自治体における計画策定・施策化・予算のしくみ ■	1,2	テキストの該当箇所をみておく	1.5h	配布された資料のまとめ	1.5h
2	職種および組織の連携・グループ支援 ■	2,3	テキストの該当箇所をみておく	1.5h	配布された資料のまとめ	1.5h
3	演習：保健事業企画－評価 ■	1,2,3,4	地域ケアシステムに関する3年次までのテキストを確認	1.5h	グループワークでの課題を検討	1.5h
4	演習：保健事業企画－評価 ■	1,2,3,4	事業計画策定の流れを確認する	1.5h	グループワークでの課題を検討	1.5h
5	演習：保健事業企画－評価 ■	1,2,3,4	事業計画策定の流れを確認する	1.5h	グループワークでの課題を検討	1.5h
6	演習：保健事業企画－評価 ■	1,2,3,4	プレゼンテーション準備	1.5h	プレゼンテーション準備	1.5h
7	演習：プレゼンテーション	1,2,3,4	プレゼンテーション準備	1.5h	実施したプレゼンテーションおよび教員からのコメントの	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					まとめ	
8	演習：プレゼンテーション まとめ	1,2,3, 4	プレゼンテーション準備	1.5h	実施したプレゼンテーション および教員からのコメントの まとめ	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

○履修条件：保健師課程の必修科目である。本科目は「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ」および「公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷



公衆衛生看護活動論 I

英文名：Public Health Nursing I

科目区分：保健師課程科目

科目ナンバリング：NRP311・B

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

赤堀八重子、武居明美、倉林しのぶ

科目に関連した実務経験

赤堀：保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）

武居：保健師として健康保険組合に勤務（経験）

倉林：保健師として都道府県教育委員会・病院・事業所（経験）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動の考え方と展開方法・技術を学ぶ。母子、成人、高齢者等のライフサイクルに応じた個人と家族への支援、また集団を対象とした支援等、地域における保健師活動の実際を学習する。

②講義の実施方法

- ・授業は、教科書と教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。
- ・演習は、指導場面のロールプレイ、健康教育の企画・実施、グループワーク及び質疑応答の形式で進める。

到達目標

- 1.保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等における保健師活動の実際について理解できる。■
- 2.ライフサイクルにおける保健施策と保健師の役割について説明できる。■
- 3.演習を通して基本的な保健指導技術を習得する。■

使用教材

保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800円）
 最新保健師講座3対象別公衆衛生看護活動、松田正巳著、医学書院（3,300円＋税）
 最新保健師講座2公衆衛生看護技術、中村裕美子著、医学書院（3,200円＋税）
 公衆衛生看護学会における公衆衛生看護の体系などに関する最新の知見を紹介する。

参考文献

公衆衛生看護学、j p 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）
 標準保健師講座 公衆衛生看護学概論：医学書院
 国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会（2,500円税込）

評価方法

試験60%、演習・授業参加度（事前課題を含む）30%、授業態度10%として総合的に評価する。
 総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習では、教員からのアドバイスを適宜行う。
 レポートには教員がコメントを入れて返却する。

オフィスアワー

赤堀：金曜日13：00～16：15
 武居：月曜日10：00～13:00

メールアドレス（#→@）

赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp
 武居：takei-a#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	対人支援活動の展開■	1	教科書「公衆衛生看護技術3章公衆衛生看護の基盤となる理論／4章対人支援活動の展開」を読んでおく。	1.5h	対人支援の技術、ケースマネジメントについて振り返りを行う。	1.5h
2	家庭訪問による支援の展開■	1	教科書「公衆衛生看護技術5章家庭訪問による支援の展開」を読んでおく。	1.5h	家庭訪問の流れについて確認を行う。家庭訪問で行う保健指導の方法について振り返りを行う。	1.5h
3	母子保健活動 母子保健施策・母子保健計画■	2	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、母子保健活動に関連する法律について確認しておく。	1.5h	母子保健活動における保健師の役割を確認する。	1.5h
4	母子保健活動 乳幼児訪問、	2	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、母子保健活動における家庭訪問、健康診査、予防	1.5h	母子保健活動における保健師の役割について	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	各種健康診査、予防接種 ■		接種について確認しておく。 乳幼児の成長発達、乳幼児健診について確認しておく。		振り返りを行う。	
5	家庭訪問演習（新生児訪問） ■	1,2,3	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、新生児訪問、乳幼児の成長発達などを確認しておく。教科書「公衆衛生看護技術 5 章家庭訪問による支援の展開」を読み、家庭訪問の流れについて再確認しておく。	1.5 h	演習を通して学んだことについてまとめる。	1.5 h
6	家庭訪問演習（新生児訪問） ■	1,2,3	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、新生児訪問、乳幼児の成長発達などを確認しておく。教科書「公衆衛生看護技術 5 章家庭訪問による支援の展開」を読み、家庭訪問の流れについて再確認しておく。	1.5 h	演習を通して学んだことについてまとめる。	1.5 h
7	高齢者保健活動 ■	1,2	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、高齢者の健康課題、保健活動を確認しておく。	1.5 h	講義で学んだことを確認し、健康相談に必要な資料をまとめておく。	1.5 h
8	健康相談演習（高齢者） ■	1,2,3	健康相談に必要な基礎知識について確認し、まとめておく。	1.5 h	健康相談に必要な保健師技術について振り返り、理解を深める。	1.5 h
9	健康相談演習（高齢者） ■	1,2,3	健康相談に必要な基礎知識について確認し、まとめておく。	1.5 h	健康相談に必要な保健師技術について振り返り、理解を深める。	1.5 h
10	学校保健活動／産業保健活動	1,2	教科書「対象別公衆衛生看護活動第 9 章学校保健」を読んでおく。 対象別公衆衛生看護活動「第 10 章産業保健」を読んでおく。	1.5 h	学校保健における看護職の役割について理解を深める。 産業保健における保健師の役割について理解を深める。	1.5 h
11	地域組織活動の展開・地域ケアシステム（事例検討） ■	1,3	教科書「公衆衛生看護技術 7 章地域組織活動の展開／8章地域ケアシステム」を読んでおく。	1.5 h	事例検討を通して学んだことについてまとめる。	1.5 h
12	健康教育の展開 ■	1,2,3	教科書「公衆衛生看護技術 6 章健康教育の展開」を読んでおく。	1.5 h	健康教育の技術、媒体、企画から評価までの一連の流れを確認しておく。	1.5 h
13	健康教育 演習（企画・立案・媒体作成） ■	1,2,3	教科書「公衆衛生看護技術 6 章健康教育の展開」を読んでおく。	1.5 h	健康教育の展開方法等について確認を行う。	1.5 h
14	健康教育 演習（企画・立案・媒体作成） ■	1,2,3	健康教育の企画、立案、媒体作成に向け、参考資料を確認しておく。	1.5 h	健康教育テーマに関する情報等の確認、教員からのアドバイスを確認する。	1.5 h
15	健康教育 演習（企画・立案・媒体作成） ■	1,2,3	健康教育の企画、立案、媒体作成に向け、参考資料を確認しておく。	1.5 h	健康教育テーマに関する情報等の確認、教員からのアドバイスを確認する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
 - ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 - 履修条件
 - ・保健師課程の必修科目である。
 - オンラインの場合
 - 1) 評価方法：オンライン授業参加度（30%）、演習態度・参加度（30%）、演習課題・レポート（40%）
 - 2) 課題に対するフィードバック：レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。
 - 3) 出席登録：①C-learningへの出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

公衆衛生看護活動論Ⅱ

英文名：Public Health NursingⅡ

科目区分：保健師課程科目

科目ナンバリング：NRP411・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

赤堀八重子 倉林しのぶ 武居明美

科目に関連した実務経験

赤堀：保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）

倉林：保健師として都道府県教育委員会・病院・事業所に勤務（経験）

武居：保健師として健康保険組合に勤務（経験）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動の考え方と展開方法・技術を学ぶ。地域住民へのヘルスニーズの把握方法とヘルスニーズに対応した地域保健活動の計画立案方法を理解する。

②授業期間全体を通じた授業の進め方

- ・授業は、教科書と教員の作成するパワーポイント、資料を使用し、説明を行っていく。
- ・演習は、グループワーク、質疑応答の形式で進める。

到達目標

- 1.基本的な保健指導技術を習得する。■
- 2.保健活動の展開方法である地域診断について理解する。■
- 3.地域の健康課題の解決に向けた保健事業計画を立案する。■
- 4.公衆衛生看護活動における事業化の意義を理解する。

使用教材

保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800円）
最新保健師講座3対象別公衆衛生看護活動、松田正巳著、医学書院（3,300円＋税）
最新保健師講座2公衆衛生看護技術、中村裕美子著、医学書院（3,200円＋税）
公衆衛生看護学会における公衆衛生看護の体系などに関する最新の知見を紹介する。

参考文献

公衆衛生看護学.jp 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）

評価方法

試験60%、演習・授業参加度30%、授業態度等10%として総合的に評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義で使用する既存資料、インターネットからの情報については、グループ（地区）ごとに解説する。プラン検討時には助言を行う。

オフィスアワー

赤堀：金曜日13：00～16：15
倉林：月曜日・火曜日の11:00～13:00

メールアドレス（#→@）

赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp
倉林：kura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当 到達 目標	予習内容	予 習 時 間	復習内容	復 習 時 間
1	成人保健活動 ■	1	教科書「対象別公衆衛生看護活動」を読み、成人保健活動に関連する法律、特定健康診査・特定保健指導について確認しておく。	1.5 h	特定健康診査・特定保健指導の実際について振り返りを行う。	1.5 h
2	保健指導演習（特定保健指導）	1	特定健康診査の結果の読み方、保健指導に必要な資料を確認しておく。	1.5 h	効果的な保健指導を行うために必要な技術について理解を深める。	1.5 h
3	保健指導演習（特定保健指導） ■	1	特定健康診査の結果の読み方、保健指導に必要な資料を確認しておく。	1.5 h	効果的な保健指導を行うために必要な技術について理解を深める。	1.5 h
4	地域診断 ■	2,4	教科書「公衆衛生看護支援技術第5章から第9章」を読んでおく。	1.5 h	地域診断の流れをPDC Aサイクルの視点で見直す。	1.5 h
5	演習 地域診断 既存資料からの情報収	2	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5 h	視診で得た情報をまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	集■					
6	演習 地域診断 既存資料からの情報収集■	2	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5h	視診で得た情報をまとめる。	1.5h
7	演習 地域診断 地区視診■	2	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5h	視診で得た情報をまとめる。	1.5h
8	演習 地域診断 地区視診■	2	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5h	視診で得た情報をまとめる。	1.5h
9	演習 地域診断 地区視診■	2	視診を実施する地域についての情報を収集しておく。	1.5h	視診で得た情報をまとめる。	1.5h
10	演習 地域診断 情報分析、アセスメント、健康課題の抽出■	2,3	視診で得た情報および既存資料からの情報を整理する。	1.5h	整理しまとめた情報から導き出される課題を検討する。	1.5h
11	演習 地域診断 情報分析、アセスメント、健康課題の抽出■	2,3	視診で得た情報および既存資料からの情報を整理する。	1.5h	整理しまとめた情報から導き出される課題を検討する。	1.5h
12	演習 地域保健活動 計画立案■	2,3	導き出された課題と得られた情報を再度見直しプランを検討する。	1.5h	検討されたプランが地域のニーズに結びついているか検討する。	1.5h
13	演習 地域保健活動 計画立案■	2,3	導き出された課題と得られた情報を再度見直しプランを検討する。	1.5h	検討されたプランが地域のニーズに結びついているか検討する。	1.5h
14	演習 地域保健活動 計画立案■	2,3	導き出された課題と得られた情報を再度見直しプランを検討する。	1.5h	検討されたプランが地域のニーズに結びついているか検討する。	1.5h
15	発表・情報の共有、まとめ	2,3,4	PDCAサイクルに沿った発表方法を検討する。	1.5h	地域診断から導き出されるニーズとプラン、評価について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 単位修得に必要な時間を満たしていない場合
 - ・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 - 履修条件
 - ・保健師課程の必修科目である。本科目は「公衆衛生看護活動論Ⅰ」を履修していることが望ましい。
 - オンラインの場合
 - 1) 評価方法：オンライン授業参加度（10%）、演習態度・レポート（課題）30%、小テストなどによる試験（60%）
 - 2) 課題に対するフィードバック：レポートにはコメントをつけて返却する。小テストは解答・解説を公開する。
 - 3) 出席登録：①C-learningへの出席登録 ②小テストまたはアンケート ①②で出席の確認を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す

公衆衛生看護学実習 I

英文名：Public Health Nursing: Practicum I

科目区分：保健師課程科目

科目ナンバリング：NRP312・B

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：保健師必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

3 論理的思考力・問題解決力

4 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

赤堀八重子 武居明美 倉林しのぶ

科目に関連した実務経験

赤堀：保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）

武居：保健師として健康保険組合に勤務（経験）

倉林：保健師として都道府県教育委員会・病院・事業所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域で生活する人々の生活の場の特徴に応じた個人・集団の健康課題を把握し、保健師をはじめとする保健活動に携わる看護職の役割を学ぶ。また、環境と健康課題の関係性を把握し、課題解決に向けた保健事業および保健活動における一連の展開プロセスを学習する。

②実施方法

群馬県内の産業現場および学校において5日間の実習を行う。産業現場では、3日間（施設見学1日、健康教育の実施2日間）、学校では1日の実習を行う。学内実習は1日である。健康教育はグループで行う。学内実習の振り返り等をカンファレンス形式で行う。

到達目標 ↑

「産業保健」

- 1. 事業場の見学を通して労働環境や安全衛生活動の実際について理解する
- 2. 事業場における健康課題とその対策についての知識を習得する
- 3. 保健指導技術のひとつである健康教育の目的および役割を理解する■
- 4. 健康教育の対象者の特徴および労働環境下における健康課題を把握し、健康教育を企画・立案し、実施、評価する。■
- 5. 健康教育の実践を通して、公衆衛生看護に携わる看護職としての責任感、態度を修得する。

「学校保健」

- 1. 生活の場である実習先（学校）の特徴および生活者（生徒）の発達段階および健康課題を把握する。
- 2. 養護教諭の主な業務である保健管理・保健教育・健康相談・保健室経営などの業務を理解する。
- 3. 学校保健における組織活動の実際および看護職（養護教諭）の役割について学習する。
- 4. 学校保健活動における看護職としての基本的知識や態度を学習する。

使用教材 ↑

最新保健師講座対象別公衆衛生看護活動3松田正巳著、医学書院（3,300円＋税）
実施する健康教育のテーマに関する資料

参考文献 ↑

公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健，荒木田美香子，医歯薬出版株式会社（4,400円税込）

評価方法 ↑

実習90%（準備、実施、実習態度、報告会参加度、記録物など）、レポート10%
オンラインの場合は実習開始前に評価方法について提示する

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

健康教育の実践に向けた健康教育計画書等の資料については、教員が確認し、口頭及びコメントを付して、返却する。
オンラインの場合も同様に、C-learning等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー ↑

赤堀：金曜日13：00～16：15
武居：月曜日10：00～13：00

メールアドレス（#→@） ↑

赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp
武居：takei#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	群馬県内の産業現場および学校において5日間の実習を行う。産業現場では、労働環境や安全衛生活動の実際を学ぶ。健康教育はグループで企画・立案・実践・評価を行う。グループワークには積極的に参加し、情報共有を図ったうえで企画に結びつけること。健康教育の実践は、産業現場で実施する■。 ※健康教育のテーマは、グループにより異なるが、次に		健康教育の目的、成人期の保健活動、産業保健活動、学校保健、健康教育のテーマに関する資料の確認、健	適宜	産業保健、学校保健での学びの確認。 健康教育テーマに関する情報等の確認、教員や指導者からのア	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	掲げる事項を視点におき実習を行う。健康教育計画書や媒体の作成に関しては、担当教員から適宜指導を受ける。1) 企業や事業所の見学を通して、労働の場の特徴や業務の概要を知る。2) 産業現場で活動する産業保健師や衛生管理者との関わりや指導の中で、労働者の特徴やニーズを理解する。3) 対象に合ったテーマを選定し、健康教育の企画立案を行う。4) 対象の特徴や条件を考慮した健康教育の運営を行う。5) 対象にあわせた媒体を使用し、効果的な健康教育を実施する。6) 実施した健康教育を評価する。 ※オンラインの場合の実習内容については別途連絡となる。		健康教育等の評価法の確認		ドバイスの確認、健康教育を実施して学んだことについてのまとめ、報告会用資料準備	

備考



- 履修条件
 - ・ 3 年次後期までに開講されている看護専門科目群及び保健師資格に関わる必修科目の単位をすべて修得していること。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷

公衆衛生看護学実習Ⅱ

英文名：Public Health Nursing: PracticumⅡ

科目区分：保健師課程科目

科目ナンバリング：NRP412・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：3単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

2 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

倉林しのぶ、赤堀八重子、武居明美

科目に関連した実務経験

倉林：保健師として都道府県教育委員会・病院・事業所に勤務（経験）

赤堀：保健師として行政（自治体・町役場）に勤務（経験）

武居：保健師として健康保険組合に勤務

履修を必須とする資格

保健師国家試験受験資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
				○	○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域社会で生活する住民や家族の保健ニーズと地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動の基本的実践方法を習得する。

②実習期間全体を通じた実習の進め方

・保健所実習 4 日間、市町村実習 8 日間、学内実習 3 日間である。

- ・学内実習は、主にグループワークの形式で進める。
- ・市町村において実施する健康教育は、事前に担当教員が指導を行う。

到達目標



- 1.公衆衛生に関連する法・制度を理解できる。■
- 2.保健所・保健福祉事務所および市町村の役割・機能を理解できる。■
- 3.保健所・保健福祉事務所に所属する保健師、および市町村に所属する保健師の役割・機能を理解できる。■
- 4.地域住民の生活や保健に関する情報から、地域特性を把握し、健康課題を抽出することができる。■
- 5.保健所、市町村で行われている保健事業に参加体験し、各種保健事業の目的や展開プロセスについて理解することができる。■
- 6.公衆衛生看護活動における他職種（事務職、福祉職、医療職など）や関係機関との連携の実際を知り、その必要性を理解できる。■

使用教材



各保健所・市町村における保健事業計画など

参考文献



最新保健師講座対象別公衆衛生看護活動3松田正巳著、医学書院（3,300円＋税）
最新保健師講座2公衆衛生看護技術、中村裕美子著、医学書院（3,200円＋税）公衆衛生看護学．j p 荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子、インターメディカル（4,840円）
保健学講座 公衆衛生看護支援技術、岸恵美子・平野かよ子・村嶋幸代、メジカルフレンド社（3,800円）
国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会（2,500円税込）
その他事業に関する資料等

評価方法



実習80%（事前学習、準備、実習態度、カンファレンス参加度、記録物など）、レポート20%
施設実習不可の場合の評価方法については、実習開始前に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法



記録に関しては実習指導者および教員が確認し、コメントまたは確認印を押して返却する。
実習報告会に向けて作成した資料は資料集として当日配布を予定している。
オンラインの場合は、Meet等を利用してフィードバックを行う。

オフィスアワー



倉林：月曜日・火曜日11:00～13:00
赤堀：金曜日13:00～16:15

メールアドレス（#→@）



倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	群馬県内の保健所および市町村において、3週間の実習を行う。保健所では主に広域的・専門的な公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。市町村では地域の特性と地域に暮らす人々の健康課題を把握し、市町村で展開される公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。 保健所・市町村それぞれの公的機関としての機能・役割および保健師の機能・役割を理解し、公		実習先に関する予習、参加する事業の根拠法等、実習指導で準備した資料の確認	適宜	事業の根拠法の確認、実習先で教わったこと得た体験のまとめ、報告会用資料準備	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	衆衛生看護活動について総合的に学ぶ。 ※実習内容の詳細は配属される実習先により異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。 1) 保健所および関係職種、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションなどの円滑な人間関係の形成について 2) 個人および家族、地域住民との援助関係の形成、個人および家族、地域住民への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価。 3) 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際や根拠法に基づくサービスの実際、行政組織の一員としての役割と責任への理解 ■ ※施設実習不可の場合の実習内容については別途連絡します。					

備考



○履修条件：３年次後期までに開講されている看護専門科目群及び保健師資格に関わる必修科目の単位をすべて修得していること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

学校保健Ⅱ

英文名：School Health Theory Ⅱ

科目区分：養護教諭課程・養護に関する科目

科目ナンバリング：NRT320・B

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

北原恵美、尾内雅子、小原成美

科目に関連した実務経験

養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）

学校保健担当指導主事として県教育委員会教育事務所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○		○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学校保健組織活動、保健教育の目的・意義を踏まえ、基礎的知識と技術を理解し、養護活動を実践する基礎力を身に付ける。

②講義、演習、グループワーク、フィールドワークを実施する。

到達目標

- 1. 保健教育について理解し、保健指導案を作成することができる。■
- 2. 保健管理について理解し、必要な基礎的知識と技術を修得している。■
- 3. 保健組織活動について、計画、実施、評価の流れを理解する。■

使用教材

^

采女智津江「新養護概説第13版」少年写真新聞社.2024年.
配布プリント
学校保健に関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

DVD「新・地域看護活動とヘルスプロモーション 第4巻 「学校保健」
竹鼻ゆかり他「新版 養護学概説」 東山書房.2024年.
改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き 文部科学省 平成31年
改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き 文部科学省 令和2年
改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き 文部科学省 令和3年
「学校保健委員会マニュアル」 日本学校保健会 平成12年
教員採用試験対策 ステップアップ問題集11 専門教科・養護教諭 東京アカデミー

評価方法

^

提出物（保健だより及び掲示物企画書、保健教育指導案、特別支援学校見学レポート）計80%
試験（小論文）20%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

作成した提出物にはコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

水曜日の3限.4限

メールアドレス（#→@）

^

kitahara-e#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、保健室経営と保健組織活動（1）～学校健康課題の捉え方、校内外の連携～■	1.2.3	事前に提示した書式及び資料に基づき、保健指導案を作成しておく。	1.5	自分なりに、目指す養護教諭像を形成し、今後の学習を通して、目指す養護教諭像に近づくため、現段階の自己課題を明確化し、学習計画を構想する。	1.5
2	保健組織活動～学校保健委員会の計画・実施・評価について～	2.3	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5	養護教諭が行う保健教育の意義について理解する。	1.5
3	保健教育（1）～機会をとらえた保健教育：保健教育の構想と作成■	1	保健だよりや掲示物の構想（案）と関連する資料を収集する。	1.5	保健だよりや掲示物を作成して提出する	1.5
4	保健教育（2）～機会をとらえた保健教育:保健だより・掲示物の構想と作成～ ■	1	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5	掲示物の企画をする。	1.5
5	保健教育（3）～保健教育指導案作成演習①～■	1	保健教育指導案を作成しておく。	1.5	保健教育指導案を修正する。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	保健教育（４）～保健教育指導案作成演習②～ ■	1	保健教育指導案を修正する。	1.5	保健教育指導案を修正する。	1.5
7	養護実践（１）～特別支援学校見学演習①～	1.2.3	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5	見学レポートを書く	1.5
8	養護実践（２）～特別支援学校見学演習②～	1.2.3	教科書及び配布資料により予習を行う。	1.5	見学レポートを書き、児童生徒の特性、保護者の心情、特別支援学校のカリキュラム及び学校保健の在り方について理解を深める。	1.5

合計時間（予習・復習）



24時間

備考



- 1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 - 2．授業は教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。
 - 3．グループワーク、フィールドワークにより理解を深める。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷



養護概説

英文名：School Health Nursing

科目区分：養護教諭課程・養護に関する科目

科目ナンバリング：NRT221・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

北原恵美、尾内雅子、小原成美

科目に関連した実務経験

養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）

学校保健担当指導主事として県教育委員会教育事務所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭1種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○			○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学校保健活動の中核的な役割を果たす養護教諭の専門性、及び、養護を司るための基礎的・基本的事項について理解する。

② 講義、演習、ディスカッション、フィールドワークを行う。

到達目標

- 1.養護教諭の概念、歴史、制度（関係法規）、職業倫理を理解する。■
- 2.養護教諭の役割や職務内容を理解する。 ■
- 3.保健室経営の意義と養護教諭の専門性について理解する。■

使用教材

^

采女智津江「新養護概説〈第13版〉」 少年写真新聞社、2024年。
「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 監修 日本学校保健会、2015年。
養護に関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」 日本学校保健会
竹鼻ゆかりら編「新版 養護学概論」 東山書房、2024年。
「新版 学校保健～チームとしての学校で取組むヘルスプロモーション～」 東山書房、2019年。
「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応－メンタルヘルスを中心として－」 文部科学省 平成21年
吉田真司：養護実践における「実践」とは何か、養護実践学研究。5（1）、2023、1-2
「子供たちを児童虐待から守るために」 日本学校保健会 平成26年
「学校保健の課題とその対応－令和2年度改訂－」 日本学校保健会 令和3年
「現代的健康課題を抱える 子供たちへの支援」 文部科学省 平成29年
「「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き」 文部科学省 平成31年
「「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き」 文部科学省 令和2年
「「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き」 文部科学省 令和3年
「就学時の健康診断マニュアル 平成29年度改訂」 日本学校保健会 平成30年
「学校において予防すべき感染症の解説 令和5年度改訂」 日本学校保健会 令和6年
「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」

評価方法

^

筆記試験（70%）、提出物（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

作成した指導案、ワークシートにはコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

水曜日の3限、4限

メールアドレス（#→@）

^

kitahara-e#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目ガイダンス、総論 （1）養護教諭の概念、歴史 制度（関係法規）、役割の変化と職務内容 ■	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.5	養護教諭の制度（関係法規）と職務内容、養護という概念について理解する。 児童生徒等の健康課題の変化に応じた養護教諭の役割及び職務の変遷を理解する。	1.5
2	総論（2）専門職としての養護教諭、学校における連携・協働、学校教育と学校保健■	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	学校教育・学校保健に果たす養護教諭の役割について理解する。	1.5
3	総論（3）子どもの発育発達・精神保健、子どもの人権	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	子どもの心の健康問題と対応の留意点、健康相談/教育相談の基本と専門職及び外部機関の連携を含めた養護教諭の役割を理解す	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	保健管理（１）健康相談・学校教育相談、SC/SSW ■				る。児童生徒等の発達段階について基礎的内容を理解する。	
4	児童生徒等の成長発達（幼稚園実習）	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	保健教育について基礎的内容を理解する。	1.5
5	総論（４）養護教諭の活動 ■（先輩の実践から）	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	学校教育・学校保健に果たす養護教諭の役割及び保健室経営について、先輩の実践から理解を深める。	1.5
6	保健管理（１）健康診断と学校医の役割 ■ ・ミニ演習：身長測定・視力測定・聴力検査・色覚検査・歯科検診	2	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	健康診断の実施方法及び留意点を整理し理解する。	1.5
7	保健管理（２）健康観察と疾病管理・予防（特別支援学校の実践を通して） ■	2	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	健康観察及び疾病管理の実施方法と留意点について理解する。 感染症情報管理システムや学校生活管理指導表の活用の実際について理解する。	1.5
8	保健管理（３）学校安全、危機管理と救急処置 ■ ・ミニ演習：三角巾法・包帯法・体位	2	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	学校における救急処置の目的、養護診断、学校救急体制について理解する。内科的・外科的救急処置の基礎的対応ができるようにする。	1.5
9	保健管理（４）感染症予防と学校環境衛生 ■ ・ミニ演習：水質検査・照度測定 小テスト	2	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	学校環境衛生に関する活動及び、養護教諭の役割を理解する。	1.5
10	現代的健康課題の解決と保健室経営、コーディネーターとしての養護教諭（小学校の実践を通して） ■	1.3	小学生の発達や健康課題について調べる。	1.5	小学校における健康課題や養護教諭の役割について整理し理解する。	1.5
11	現代的健康課題の解決と保健組織活動（中学校の実践を通して） ■	1.3	中学生の発達や健康課題について調べる。	1.5	中学校における健康課題や養護教諭の役割について整理し理解する。	1.5
12	保健教育（１）保健教育の目的・意義、教科による指導の違い ■	2	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	体育科、保健体育科、特別活動、総合的学習の時間等の特性に応じた保健教育について理解する。	1.5
13	保健教育（２）保健教育の指導案作成・準備	2	過去3年間の実習報告書に掲載されている指導案に目を通す。 構想した指導案をもとに教材作成を行う。	1.5	構想した保健教育の指導案を作成する。 教材の準備をする。	1.5
14	保健教育（３）保健教育の実践	2	保健教育を実施できるよう準備する。	1.5	保健教育を振り返り、改善点を整理する。	1.5
15	保健教育振り返り 保健組織活動 養護概説まとめ	1.3	学校における組織活動について調べる。	1.5	児童生徒の組織活動について整理し、養護教諭の役割について理解を深める。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	(自分なりの養護観を持つ)					

合計時間（予習・復習）

45時間

^

備考

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2．授業は教科書と教員が作成した資料を使って、要点をまとめたり、演習やグループワークをして実践力を培う。

3．パワーポイントによる図の提示を行っていく。適時グループワークを取り入れる。

4．保健教育の指導案を作成し提出する。

■：実務経験に基づく内容を示す

^

印刷



健康相談 I

英文名 : Health Counseling I

科目区分 : 養護教諭課程・養護に関する科目

科目ナンバリング : NRT321・B

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

高橋千明

科目に関連した実務経験

- ・養護教諭として小学校・中学校に勤務
- ・指導主事として群馬県教育委員会・高崎市教育委員会に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康相談の基礎的知識・技術を踏まえ、保健室における健康相談を進める上での必要な実践力を養う。
- ②授業は教科書と教員が作成した資料を使って、要点をまとめたり、演習やグループワークをして実践力を培う。

到達目標

- 1.養護教諭の行う健康相談の特徴が理解できる。
- 2.ヘルスカウンセリングや教育相談で学んだ知識、スキルを健康相談に生かすことができる。■
- 3.関係者と連携した支援の在り方を考えられる。■

使用教材

^

「養護教諭の行う健康相談」大谷直子 東山書房 2023年 2,4000円
授業内で使用。予習復習。

評価方法

^

定期試験（80％）講義及びグループワークへの参加度・貢献度（20％）
（対面授業・オンライン授業とも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにコメントを付け返却する（対面授業・オンライン授業とも同様）。

オフィスアワー

^

授業前後で対応する。

メールアドレス（#→@）

^

必要に応じて提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	養護教諭と健康相談	1	シラバスの内容を読み講義の目標などを理解する。教科書 p 14～27に目を通す。	1.5h	養護教諭の役割と活動・職務における健康相談・健康相談の概念を理解する	1.5h
2	健康相談と保健室	1,2	教科書 p 28～37に目を通す	1.5h	健康相談の基礎と背景・養護教諭と保健室について理解する	1.5h
3	事例からみる健康相談の過程・対象理解と見立て ■	2	教科書 p 40～64に目を通す	1.5h	健康相談に活用できるカウンセリング理論と技術を理解する	1.5h
4	子どもへの支援のための方法と協働 ■	2,3	教科書 p 65～82に目を通す	1.5h	支援体制と学校内外の連携と法律を理解する	1.5h
5	場面や「問題」に応じた健康相談の進め方 ■	1,2,3	教科書 p 83～95に目を通す	1.5h	保健室での子供理解の方法と保健室来室者への対応について理解する	1.5h
6	健康相談の記録 ■	1,2	教科書 p 116～126に目を通す	1.5h	記録の意義・目的・管理と個人情報について理解する。	1.5h
7	健康相談に必要な力量と学びの方法 ■	1,2	教科書 p 127～146に目を通す	1.5h	健康相談を円滑にすすめるために養護教諭に求められる力量を理解する。	1.5h
8	まとめ 定期試験	1,2,3	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5h	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. 授業は教科書と教員が作成した資料を使って、要点をまとめたり、演習やグループワークをして実践力を培う。

3. 事例を通し、学校が抱える課題をとらえ、養護教諭の役割を理解する。

4. ワークシート及びレポート作成を通し、健康相談を構築する。

5. オンライン授業での出席の登録・確認

出席の登録方法については、C-learningの「協働版」で確認すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

健康相談Ⅱ

英文名：Health Counseling Ⅱ

科目区分：養護教諭課程・養護に関する科目

科目ナンバリング：NRT420・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

高橋千明

科目に関連した実務経験

- ・養護教諭として小学校・中学校に勤務
- ・指導主事として群馬県教育委員会・高崎市教育委員会に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイング

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康相談の基礎的知識・技術を踏まえ、保健室における健康相談を進める上での必要な実践力を身に付ける。
- ②教科書と自作のパワーポイントを活用し理論の理解を深める。ロールプレイ等の演習や、養護実習で既習の知識を活か

し、対応事例をまとめ発表を行う。

到達目標

- 1.養護教諭の行う健康相談の特徴が理解できる。
- 2.ヘルスカウンセリングや教育相談で学んだ知識、スキルを健康相談に生かすことができる■
- 3.関係者と連携した支援の在り方を考えられる。■
- 4.養護実習で既習の知識やスキルを活かした実践ができる。■

使用教材

「養護教諭の行う健康相談」大谷直子 東山書房 2020年 2,200円 講義内容・ワークシートを随時プリントして配布

授業・養護実習での対応事例のまとめに使用 *3年後期 健康相談Ⅰで購入済み

評価方法

小テスト(30%) 講義及びグループワークへの参加度・貢献度(20%)・課題レポート(50%)

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート及びワークシートにはコメントを付け返却する(対面授業・オンライン授業とも同様)。
発表活動後に講評と助言。

オフィスアワー

授業前後及び大学勤務日に対応する。

メールアドレス(#→@)

必要に応じて提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康相談Ⅰの振り返り 虐待・いじめの理解と支援・対応■	1,2,3	健康相談1の講義資料及び、教科書101～107pに目を通す	1.5h	虐待といじめとその対応について理解する	1.5h
2	発達障害を持つ子どもの理解とその対応■	1,2,3	教科書98～101p・107～110pに目を通す	1.5h	発達障害とその対応について理解する	1.5h
3	不登校・保健室登校の理解とその対応■	1,2,3	教科書110～115pに目を通す	1.5h	不登校・保健室登校とその対応について理解する	1.5h
4	慢性疾患の理解と対応■ 実技演習の進め方	1,2,3	教科書96～98pに目を通す	1.5h	慢性疾患とその対応について理解する	1.5h
5	健康相談の演習 ■	1,2,3	教科書156～187pと配布されたプリントに目を通す	1.5h	学んだ知識を活かし教育実習に向けて実践力を身に付ける	1.5h
6	健康相談の演習発表活動■	1,2,3	グループ別発表の準備	1.5h	発表活動で共有した知識や技法を、教育実習に活かす	1.5h
7	事例検討(研究)の意義と進め方	1,2,3,4	教育実習での健康相談事例の概要をまとめておく	1.5h	事例検討の意義と方法について理解する	1.5h
8	まとめ	1,2,3,4	健康相談で学んだことをまとめて発表で	1.5h	健康相談を行う上で必要な資質能力を理解し、自分の得意とする分野と、今後の課題	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			きるよう準備しておく		を明確にする。課題に対するレポートを作成し提出する。	

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2.教科書と自作のパワーポイントを活用し理論の理解を深める。

3.事例を通し、学校が抱える課題をとらえ、養護教諭の役割を理解する。

4.事例ごとにロールプレイ等の演習を実施し体験を通しスキルアップを図る。

5.養護実習で対応した事例について、パワーポイントにまとめ発表する。

6.出席の登録方法については、C-learningの「協働版」で確認すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

教職論

英文名：Theory of Teacher's Profession

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT121・B

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

深見 匡

履修を必須とする資格

栄養教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代社会における教職の意義、教員の役割、資質・能力、職務内容の基礎について理解し、基礎的教育実践ができるようになること。また、教職に対する自身の適性を理解し、適切な進路選択ができるようになること。

②授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。

到達目標

- 1.現代の学校教育や教職の社会的意義について説明できる。
- 2.教員の役割や資質・能力について説明でき、基礎的な教育実践ができる。
- 3.教員の職務内容や教員の服務上・身分上の義務について説明でき、基礎的な教育実践ができる。

4.現代の学校が学校内外の専門家と連携する必要について説明できる。
総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付けている。

使用教材 ^

毎回講義用のテキスト・資料を配布する。

参考文献 ^

必要なものは授業時に適宜指示する。

評価方法 ^

定期試験70%、平常点30%（レポート提出、授業態度など）で評価する。総合評価60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポート等は必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。

オフィスアワー ^

月曜4限、水曜4限 1号館307

メールアドレス（#→@） ^

fukami#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンスおよび現代における学校教育や教員の社会的意義について	1	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
2	現代における学校教育や教員の社会的意義、教員の職業的特徴について	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
3	教員の役割と資質・能力について（歴史）	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
4	教員の役割と資質・能力について（現代）	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
5	教育法と教員の職務や義務① 日本国憲法・教育基本法	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
6	教育法と教員の職務や義務② 学校教育法	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
7	教育法と教員の職務や義務③ 教育公務員特例法	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
8	学校教育と教員の職務や義務④ 教育課程（学習指導要領等）	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	学校教育と教員の職務や義務 ⑤ 教育課程（教科や領域等）	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
10	学校教育と教員の職務や義務 ⑥ 研修他	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
11	学校教育と教員の職務や義務 ⑦ 学校運営（チームとしての学校）	1,2,3,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
12	現代的な教育課題と教員の職務や義務① 学力問題	2,3,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
13	現代的な教育課題と教員の職務や義務② 生徒指導	2,3,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
14	現代的な教育課題と教員の職務や義務③ 教育改革動向	2,3,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
15	教員の資質・能力と自身の適性について考える	1,2,3,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・状況によりオンラインで実施する場合はC-Learningで行う。
- ・教員免許状取得のための必修科目。

印刷



教育基礎論

英文名：Principles of Education

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT222・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

深見 匡

履修を必須とする資格

栄養教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①教育の基本的概念、教育の理念、教育に関する歴史及び思想に関わる基礎的知識について理解と説明ができ、また、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解と説明ができる。

②授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。

到達目標

- 1.教育の基本的概念について理解し、説明できる。
- 2.教育に関する歴史の基礎的知識について理解し、説明できる。
- 3.教育に関する思想の基礎的知識について理解し、説明できる。

4.現代的な教育課題について理解し、考察できる。
総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付けている。

使用教材 ▲

毎回講義用のテキスト・資料を配布する。

参考文献 ▲

必要なものは授業時に適宜指示する。

評価方法 ▲

定期試験70%、平常点30%（レポート提出、授業態度など）で評価する。総合評価60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。

オフィスアワー ▲

月曜4限、水曜5限 1号館307

メールアドレス（#→@） ▲

fukami#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3,4	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
2	教育の基礎的概念を学ぶ（社会と教育）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
3	教育の基礎的概念を学ぶ（発達と教育）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
4	教育の基礎的概念を学ぶ（学校教育と教員）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
5	教育の基礎的概念を学ぶ（教育基本法等の現代の教育理念の1）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
6	教育の基礎的概念を学ぶ（教育基本法等の現代の教育理念の2）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
7	教育の歴史について（近代～戦後日本）	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
8	教育の歴史について（戦後日本～現代）	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
9	教育の思想について（コメニウス、ロック、ルソー等）	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
10	教育の思想について（ペスタロッチ、フレ	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ーベル、ヘルバルト等)					
11	教育の思想について (デューイ、デュルケーム等)	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
12	現代的な教育課題について① 学力や生徒指導について考える(1)	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の学力論の概要や子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
13	現代的な教育課題について② 学力や生徒指導について考える(2)	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の学力論の概要や子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
14	現代的な教育課題について③ 日本の教育政策動向	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の日本の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
15	現代的な教育課題について④ 諸外国の教育政策動向	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の諸外国の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・状況によりオンラインで実施する場合はC-Learningで行う。
- ・教員免許状取得のための必修科目。

印刷 

教育心理学

英文名：Educational Psychology

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT223・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

0 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

宮内洋

科目に関連した実務経験

臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動（現在）

履修を必須とする資格

養護教諭第一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようになる。

上記2つを講義目標とし、本科目は、初等中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき教育心理学に関する基本的な知識の理解・修得をめざす。

具体的には、教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようにしていく。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。

＊基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるため、実験等を映像やドキュメンタリーを講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。

到達目標 ▲

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。■

使用教材 ▲

教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。

参考文献 ▲

- ・J.A.L.シング『野生児の記録1 狼に育てられた子』福村出版
- ・A.ゲゼル『狼にそだてられた子』家政教育社
- ・A.M.スレーター & P.C.クイン編『発達心理学・再入門』新曜社
- ・宮内洋・松宮朝・新藤慶・打越正行『〈生活－文脈〉理解のすすめ』北大路書房

評価方法 ▲

全講義終了後に実施される定期試験（90％）と、講義期間中に課せられる課題と講義に臨む態度・参加する姿勢（10％）によって、総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。

オフィスアワー ▲

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ▲

必要に応じて提示する

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス：発達とは何か■	1,2	なし	0h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
2	生涯発達と「優生思想」■	1,2	人間の生涯発達について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
3	新生児期・乳児期における学び（1）：「無能な赤ちゃん」というイメージ	1,2	自らの乳児期の体験を可能な限り聞き、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
4	新生児期・乳児期における学び（2）：「有能な赤ちゃん」と脳科学	1,2	脳科学について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
5	幼児期における学び（1）：学びの基礎■	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	幼児期における学び（2）：認知発達を中心に	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
7	幼児期における学び（3）：nature vs. nurture ■	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
8	児童期における学び（1）：記憶研究を中心に	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
9	児童期における学び（2）：学習	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
10	児童期における学び（3）：動機付け	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
11	思春期・青年期における学び	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
12	成人期以降の学び（1）：学びの効果的支援	1,2	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
13	成人期以降の学び（2）：学んだ成果の評価	1,2	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
14	老年期における学び	1,2	なし	0h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
15	まとめ	1,2	これまでの講義内容の理解を深めておく。	4h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。

* 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

教育制度論

英文名：Theory of Educational systems

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT322・A

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 人間理解と倫理観

6 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

深見 匡

履修を必須とする資格

栄養教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代の学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項の基礎的知識や学校と地域の連携、学校安全に関わる基礎的知識について理解し説明ができる。そしてこれらの知識を実際の学校運営に生かす意欲が持てる。

②授業はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の意見や状況に応じて適宜必要な修正を行う。

到達目標

- 1.教育に関する社会的事項（社会状況や学校教育の変化等）について説明できる。
- 2.教育に関する制度的事項（教育法・制度とその意義・役割）について説明できる。
- 3.教育に関する経営的事項（学校経営について）について説明できる。

- 4.学校と地域の連携・協働について説明できる。
- 5.学校安全への対応について説明できる。
- 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付けている。

使用教材 ^

毎回講義用のテキスト・資料を配布する。

参考文献 ^

必要なものは授業時に適宜指示する。

評価方法 ^

定期試験70%、平常点30%（レポート提出、授業態度など）で評価する。総合評価60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポート等は必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。

オフィスアワー ^

木曜4限、金曜4限 1号館307

メールアドレス（#→@） ^

fukami#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3,4,5	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法など理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
2	近年の社会状況や子どもの変化と学校教育	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の社会状況や子どもの変化について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
3	日本の教育政策動向	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の日本の近教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
4	公教育に関わる法と制度① 公教育の理念	2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	現代の公教育の組織化の意義について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
5	公教育に関わる法と制度② 学校教育法（学校の組織や機能）	2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	様々な学校について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
6	公教育に関わる法と制度③ 学校教育法（教育内容）	2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育課程や教育内容に関する事項を整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
7	公教育に関わる法と制度④ 地方教育行政法等（学校と社会）	2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育行政に関する事項について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
8	公教育に関わる法と制度⑤ 教育公務員特例法等（教員の職務や義務）	2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教員の職務等に関わる事項について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	学校経営について① 学校の組織と経営	3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	学校の組織や運営・経営について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
10	学校経営について② 学校評価	3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	学校評価の仕組み等について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
11	学校経営について③ 学級経営	3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	学級経営について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
12	学校と地域との連携・協働	4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	学校と地域の連携・協働について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
13	学校安全について	5	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	学校安全の目的・取り組みについて整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
14	諸外国の教育政策動向① 英米圏	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	諸外国（英米圏）の教育政策について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
15	諸外国の教育政策動向② その他	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	諸外国（その他）の教育政策について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・状況によりオンラインで実施する場合はC-Learningで行う。
- ・教員免許状取得のための必修科目。

印刷



特別な教育的ニーズの理解とその支援

英文名 : Understanding and supporting special educational needs

科目区分 : 養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング : NRT224・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 人間理解と倫理観

4 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

宮内洋

科目に関連した実務経験

臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動（現在）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

「インクルーシブ教育システム」を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な「障害」のある児童及び生徒の学習または生活上の困難について基礎的な知識、「発達障害」等をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を学ぶ。

その上で、「発達障害」等をはじめとする特別の支援を必要とする児童及び生徒に対して、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築しながら支援する方法を学ぶ。

「障害」のみならず、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習または生活上の困難につ

いての基礎的知識や組織的な支援の方法を学ぶ。

＊基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるために、ドキュメンタリー等の映像を講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。

到達目標



通常の学級にも在籍している「発達障害」等をはじめとする様々な「障害」等により特別の支援を必要とする児童及び生徒たちが、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるように、児童及び生徒の学習または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

特別の支援を必要とする児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。■

特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。■

「障害」はないが、特別の教育的ニーズのある児童及び生徒の学習または生活上の困難とその対応を理解する。■

使用教材



教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。

参考文献



柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子編2014『はじめての特別支援教育〔改訂版〕』有斐閣

柘植雅義『特別支援教育 多様なニーズへの挑戦』中央公論新社

好井裕明『他者を感じる社会学』筑摩書房

評価方法



全講義終了後に実施される定期試験（90％）と、授業貢献度（10％）によって、総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法



講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。

オフィスアワー



質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



必要に応じて提示する

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス■	1,2,3	なし。	0h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
2	特別支援とは何か・特別支援の場とは何か	1,2,3	特別支援について調べておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
3	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む種々の「障害」がある児童・生徒の理解とその支援	1,2	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む種々の「障害」がある児童・生徒について調べておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
4	「発達障害」がある児童・生徒の理解■	1,2	「発達障害」について調べておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					理解に努めること。	
5	「発達障害」がある児童・生徒の支援■	1,2	「発達障害」について調べておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
6	異文化の子どもの理解とその支援■	3	異文化について調べておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
7	「子どもの貧困」問題の理解とその支援■	3	「子どもの貧困」について調べておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
8	特別な支援とアクティブラーニング	1,2,3	これまでの講義内容の理解を深めておく。	3h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。
* 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

道德教育・特別活動論

英文名：Moral Education and Special Activities

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT226・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

石川勉

科目に関連した実務経験

公立中学校に教諭・教頭・校長として勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○				○		○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の課題、小テスト、レポートにアドバイスやコメントを付けて返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

道德の本質を踏まえ、道德教育の歴史や現代社会の課題について、学校での道德教育を理解する。道德教育の目標、道德教育全体計画、内容について概略を把握し、その具現化にむけての技術や方法を理解する。特別活動では道德教育との関り、意義や取り組み方法の実際、評価改善について、学習指導案に基づく内容理解を行う。

授業の予習復習からさらに理解を深めるために、小テスト前や返却後にしっかりと学習し把握すること。小テストは2回予定している。

到達目標

- 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 道徳の本質を説明できる。
- 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。■
- 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。■
- 学習指導要領に示された道徳教育の主な内容を理解している。■
- 特別活動の意義、目標、内容指導の在り方を理解する。
- 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。■
- 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。■
- 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。■
- 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。■

使用教材

小中学校学習指導要領、同解説道徳編、その他、講義用のテキストプリントを使用する。（毎回配布）

評価方法

小テスト（30％）、レポート（30％）、定期試験（25％）、平常点（15％）、総合評価60％以上を合格とする。詳細はガイダンス時に指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート、小テストは必要に応じてコメントして返却する。定期試験の内容や質疑は個別に対応する。

オフィスアワー

質問等は授業中が望ましいのですが、授業前後や非常勤講師室にて対応します。

メールアドレス（#→@）

必要に応じて提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	道徳の本質（道徳とは何か）、学校の教育活動全体で行う道徳教育とその要となる道徳科■	1	シラバスを読み、講義目標、講義内容、評価方法を理解する。	1.5h	講義内容について整理し、理解する。	1.5h
2	学習指導要領に示された道徳教育、道徳教育全体計画、道徳科の目標や内容■	1	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	道徳教育、道徳科の内容を整理し、理解する。	1.5h
3	道徳教育の歴史、現代社会の道徳教育の課題■	2	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	道徳教育の歴史、現代の課題を整理し、理解する。	1.5h
4	道徳性の発達の理論、特別支援を配慮した道徳教育、子どもの心の成長■	2,3	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	道徳性の発達理論、心の理論を整理し、理解する。	1.5h
5	道徳性、道徳的価値内容の補充・深化・統合、授業のねらい■	3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	道徳性、道徳的価値内容、授業指導法について整理し、理解する。	1.5h
6	道徳教育年間計画、指導の重点、学級の道徳教育指導計画■	4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	道徳教育年間計画、指導の重点、学級の指導計画について整理し、理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	道徳科指導案、資料分析の手法、授業のねらいや指導過程の明確化 ■	4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	道徳科指導案、指導方法について整理し、理解する。	1.5 h
8	模擬授業と授業改善、道徳科の特性を踏まえた学習評価 ■	4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	模擬授業、学習評価について整理し、理解する。	1.5 h
9	道徳教育の多様な指導方法の理解 ■	1,2,3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	道徳教育の多様な指導方法を整理し、理解する。	1.5 h
10	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と社会問題、非行問題の課題 ■	1,2,3,4,5	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	学校教育活動における道徳教育、課題について整理し、理解する。	1.5 h
11	学習指導要領における特別活動の目標と内容、特別活動の位置づけ ■	5,6	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	学習指導要領における特別活動の内容について整理し、理解する。	1.5 h
12	教育課程における特別活動の位置づけ、教科等との関連 ■	5,6	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	教育課程における特別活動の位置づけについて整理し、理解する。	1.5 h
13	学級活動・ホームルーム活動の特質、児童生徒の話し合い活動、集団活動 ■	7,8	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	学級活動、話し合い活動などについて整理し、理解する。	1.5 h
14	児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と家庭、地域住民、関係機関との連携 ■	7,8	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	児童会・生徒会活動、学校行事について整理し、理解する。	1.5 h
15	学校全体の教育活動で取組む「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」 ■	1,4,5,6,7,8	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	学校全体で取組む特別活動の意義について整理し、理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合はC-learningで行う。内容に変更のある場合は適宜C-learningの授業で指示する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

総合的な学習の時間論

英文名：Theory of Period for Integrated Studies

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT227・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石川勉

科目に関連した実務経験

公立中学校に教諭・教頭・校長として勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○				○		○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の課題、小テスト、レポートにアドバイスやコメントを付けて返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小・中学校における総合的な学習の意義や目標を理解し、実践事例を通して、育成すべき資質・能力を考慮した指導計画・単元計画を作成する。さらに、効果的な総合的な学習の具現化には、カリキュラムマネジメントが不可欠であることを理解する。

授業の予習復習からさらに理解を深めるために、小テスト前や返却後にしっかりと学習し把握すること。小テストは1回予定している。また、レポートを1回実施する。

到達目標

^

総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。■
学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。■
各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。■
主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。■

使用教材

^

小中学校学習指導要領、同解説 総合的な学習の時間編、その他、講義用のテキストプリントを使用する。

評価方法

^

小テスト（30％）、レポート（30％）、定期試験（25％）、平常点（15％）、総合評価60％以上を合格とする。詳細はガイダンス時に指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポート、小テストは必要に応じてコメントして返却する。定期試験の内容や質疑は個別に対応する。

オフィスアワー

^

質問等は授業中が望ましいのですが、授業前後や非常勤講師室にて対応します。

メールアドレス（#→@）

^

必要に応じて提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、意義と教育課程上の位置づけ■	1,2	シラバスを読み、講義目標、講義内容、評価方法を理解する。	1.5 h	講義内容について整理し、理解する。	1.5 h
2	中学校のキャリア教育「職業調べ」「職業体験」「上級学校調べ」事例研究、教科との関連■	1,2,3	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	中学校のキャリア教育内容について整理し、内容を理解する。	1.5 h
3	生徒が主体的・対話的で深い学びにするための事例研究■	3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	総合的な学習の時間の事例研究を整理し、理解する。	1.5 h
4	教育課程における年間計画と単元計画、学習指導計画、各教科との関連■	1,3	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	教育課程における年間計画、単元計画、学習計画などを整理し、理解する。	1.5 h
5	小学校の具体的な単元計画と学習実践、事例研究■	1,2,3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	小学校の具体的な実践について整理し、理解する。	1.5 h
6	単元構想、学習指導計画作成を通しての総合的な学習の授業づくり■	2,3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5 h	実際に単元を構想し、学習指導計画を作成する授業づくりについて整理し、理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	学習指導案検討会、教科を越えた横断的な思考の育成 ■	2,3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	各学習指導案について検討されたことを整理し、理解する。	1.5h
8	総合的な学習の時間の模擬授業、学習状況評価、自己の生き方指導 ■	1,2,3,4	テキスト、資料を読み、概要を理解する。	1.5h	実際の授業やその評価について整理し、理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

オンラインで実施する場合はC-learningで行う。内容に変更のある場合は適宜C-learningの授業で指示する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



教育課程論

英文名 : School Curriculum

科目区分 : 養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング : NRT225・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

栗原幸正

科目に関連した実務経験

- ・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
- ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

他学科との協働作業を組織することで、業務に関してのチームの概念を体験的に学び修得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学校教育における教育課程の意義や編成の方法について、学習指導要領総則編の読解や教育課程（教育内容）の変遷を知ることを通して理解すると共に、養護教諭・栄養教諭が直面する現代的な教育的課題を知り、その克服に向けての具体的教育

課程に係る取り組みを講義や協議・ワークショップ等を通して知る。

資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。授業感想の記述や小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。

到達目標

^

教育課程とは何かについて具体的に理解し、設問等に解答し、記述することができる。
教育課程が不易な教育的内容の定着を図るためにあるのと同時に、社会からのニーズによって編成されていることを知り、変遷の過程を説明する事ができる。
養護教諭・栄養教諭が直面する現代的な教育的課題を知り、その克服に向けての具体的教育課程に係る取り組みを構築する事ができる。■
カリキュラム・マネジメントについての認識を深め、説明することができる。■

使用教材

^

小学校学習指導要領解説総則編（平成29年3月告示 文部科学省）

参考文献

^

講義に合わせて適宜配付する。

評価方法

^

定期試験（50％） 授業後の小レポート（25％） 課題レポート（25％）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業感想・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

^

8号館1階 学部長室
火曜日2限・金曜日2限

メールアドレス（#→@）

^

kurihara-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義の概要と幼小中学校学習指導要領概略とカリキュラム・マネジメント	1,2	学習指導要領解説総則編（小）及び幼稚園教育要領に目を通し、講義目標をつかむ。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1.5h
2	教育課程の意義とその変遷	1,2	学習指導要領の資料「学習指導要領の改訂の経過」に目を通す。	1h	社会的ニーズと教育課程の関連について、自分の考えを説明できる。	2h
3	教育課程を支える関係法規		教育法規についてインターネット等を用いて調べておく。	1h	教育課程を規定する関係法規について理解する。	2h
4	学校における教育課程 学校要覧Ⅰ（学校教育目標・学校経営案）■	3	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所目を通す。	1h	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。	2h
5	学校における教育課程 学校要覧Ⅱ（日課表・教職員配置）■	3	配付資料「学校要覧」の上記関係箇所目を通す。	1h	教育課程を具現化するために機能する学校組織を理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	学校における教育課程 学校要覧Ⅲ（校務分掌と年間指導計画）■	4	事前配資料に目を通しておく。	1h	教育課程を具現化するために機能する学校組織と年間指導計画を理解する。	2h
7	学校実態に沿った現代的課題に向けての教育課程（養護・栄養の連携とアレルギー対応）	3,4	文部科学省ホームページのアレルギー等に係る項目に目を通す。	1.5h	現代的課題に対応する教育の意義について理解する。	1.5h
8	教育課程論のまとめと期末試験	1,4	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5h	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育課程についての理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



教育方法論

英文名 : Educational Methods

科目区分 : 養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング : NRT228・A

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

栗原幸正

科目に関連した実務経験

- ・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
- ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

他学科との協働作業を組織することで、業務に関してのチームの概念を体験的に学び修得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

次世代を作る児童・生徒の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を、講義や協議・ワークショップ等を通して習得する。

資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。授業感想の記述や小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を十分に検討して作成すること。

到達目標

^

1. 教育の質の向上に向けて、教育方法学の重要性を理解する事ができる。
2. 多様な教育観を理解し、資質・能力の育成に効果的な授業構成論を取得でする。
3. 学習指導要領の具現化に向けての教育技術を習得し、授業づくりをする方法論を理解する。■

使用教材

^

教育の方法（佐藤学著 放送大学叢書 本体1,524円） 小学校学習指導要領解説 総則編

参考文献

^

講義に沿って適宜資料を配付する。

評価方法

^

定期試験（50％） 授業後の小レポート（25％）課題レポート（25％） を用いて総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業感想・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

^

8号館1階 学部長室
水曜日2限・金曜日2限

メールアドレス（#→@）

^

kurihara-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学級崩壊と教育方法Ⅰ（学級崩壊とは）■	2	自分の小中学校時代の経験に即し、学級崩壊について想起する。	1h	学級崩壊の要因としての教員の教育方法について理解し、自分自身の教員の資質について考察する事ができる。	2h
2	学級崩壊と教育方法Ⅱ（学級崩壊の事例研究）■	1	自分の小中学校時代の学級崩壊の内容を、ノートにまとめておく。	1.5h	学級崩壊の事実から、教育方法の重要性を理解する。	1.5h
3	教育方法学の歴史 その1（文献調査）		教科書「教育方法学」の歴史の記述に目を通しておく。	1.5h	教育方法学の変遷の概略をノートにまとめる。	1.5h
4	教育方法学の歴史 その2（ギリシャ哲学から、ヘルバルト、デューイ、ピゴツキーへ）	3	教科書「教育方法学」の歴史の記述をまとめておく。	1.5h	教育方法学の変遷を理解し、現代の教育における教育方法の多様性を理解する。	1.5h
5	教科書と教育方法学Ⅰ（検定制度・採択制度）■	3	小・中・高において、教科書をどう活用してきたかを想起しておく。	1.5h	日本の教科書検定と採択のシステムを海外諸国の実情と比較しながら整理し、ノートにまとめておく。	1.5h
6	教科書と教育方法学Ⅱ（発行・給与システム）■	1,2,3	教科書検定と採択のシステムをノートにまとめ、理解しておく。	1.5h	教科書の意義と活用方法について、課題作成を通して考えをまとめる。	1.5h
7	教育方法学と授業研究■	2,3	授業研究について、小学校学習指導要領解説総則編の	1.5h	教育方法学にとって授業研究は不可欠である事を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			関連ある箇所について目を通しておく。			
8	実習の際の授業づくりに向けて・期末試験	1,3	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5h	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、教育方法学についての理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



生徒指導論

英文名：Student Guidance

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT229・A

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

北村 陽

科目に関連した実務経験

教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許状

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○			○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生徒指導は、学校教育において学習指導（教科指導）と並ぶ重要な領域として位置づけられる。本講義では教師による生徒指導について、理論と実践の両面から考察し、受講者一人一人が望ましい指導の在り方を見いだせるようになることを目標とする。

②各回のテーマについて担当教員の解説（説明）から学ぶだけでなく、学んだことに対する受講者自身の考えや意見を毎回リアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を図っていく。

到達目標	1.生徒指導の理論について理解している。 2.生徒指導について実践的に思考することができる。■ 3.生徒指導に関わる事例や情報を、文献や資料、メディア等から幅広く収集し、課題に対して意欲的に取り組むことができる。
使用教材	『生徒・進路指導の理論と方法』（工藤亘・藤平敦編著、玉川大学出版部、2024年、2,500円（税別））
参考文献	『生徒指導提要（改訂版）』（令和4年12月 文部科学省）
評価方法	レポート50%、リアクションペーパー45%（3%×15回）、科目に関係した作文課題5%により、総合的に評価する。
課題・評価に対するフィードバック方法	課題における受講者の解答（回答）に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。
オフィスアワー	月曜5限、金曜5限 （9号館305研究室）
メールアドレス（#→@）	kitamura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生徒指導とは何か？	1,3	シラバスを読み毎回の授業内容を確認し、生徒指導の必要性などを考えておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、生徒指導を学ぶ意味を理解する。	1.5h
2	校則・生徒心得について■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、校則・生徒心得について理解する。	1.5h
3	懲戒・体罰について■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、懲戒・体罰について理解する。	1.5h
4	不登校・ひきこもりについて■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、不登校・ひきこもりについて理解する。	1.5h
5	いじめについて■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、いじめについて理解する。	1.5h
6	非行について■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、非行について理解する。	1.5h
7	生徒指導における情報教育■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導における情報教育について理解する。	1.5h
8	生徒指導と学習指導■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と学習指導の関連性に	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			調べておく。		ついて理解する。	
9	生徒指導における家庭・地域・社会との連携 ■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導を巡る連携のあり方について理解する。	1.5 h
10	キャリア教育の意義と理論	1,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の意義と理論について理解する。	1.5 h
11	キャリア教育の進め方 ■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の進め方について理解する。	1.5 h
12	小学校でのキャリア教育	1,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、小学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 h
13	中学校でのキャリア教育 ■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、中学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 h
14	高等学校でのキャリア教育 ■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、高等学校でのキャリア教育について理解する。	1.5 h
15	生徒指導と教育相談 ■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と教育相談の関連性について理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・予習および復習については、使用教材である『生徒・進路指導の理論と方法』等を活用し、補完してください。
- ・状況に応じてオンラインで授業を実施する場合は、C-learningで行います。その際、内容等に変更が生じる場合は、適宜C-learningで指示します。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

教育相談

英文名：Educational Counseling

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT230・B

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

宮内洋

科目に関連した実務経験

臨床発達心理士および公認心理師として相談業務（現在）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許状 選択必修科目

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイングを中心におこなう。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。

本科目は、中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき、教育相談に関する基本的な知識と技能の理解・修

得をめざす。生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。

＊基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるために、映像を講義内で見ることがあります。科目の性格上、グループワークを講義内に取り入れています。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。

到達目標

学校における教育相談の意義と理論を理解する。
教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。■
教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。■

使用教材

教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。

参考文献

より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。
宮内洋『体験と経験のフィールドワーク』 北大路書房
宮内洋・好井裕明 編著『〈当事者〉をめぐる社会学－調査での出会いを通して』北大路書房
秋山千枝子・堀口寿広 監修『スクールカウンセリングマニュアル（第2版）』日本小児医事出版社

評価方法

全講義終了後に実施される定期試験（85％）と、講義期間中に課せられる課題（10％）、講義に臨む態度・参加する姿勢（5％）によって、総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

必要に応じて提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：受容と共感■	1,3	自らの中学・高校での教育相談に関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
2	「教育相談」とは何か■	1,3	教育相談とは何かについて考察できるように準備しておくこと。	1h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
3	各自の枠組の相違の体験的理解	1,3	コミュニケーションの失敗に関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
4	生徒に対する誤解への注意と気づき■	1,3	自らの気づきに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるよ	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			うに準備しておくこと。		理解に努めること。	
5	生徒の「性格」理解	1,3	自らの性格について理解を深めておくこと。	1h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
6	学校教育における「カウンセリングマインド」 ■	1,3	カウンセリングマインドについて理解を深めておくこと。	1h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
7	カウンセリングの基礎的理解と技法	1,3	カウンセリングについて調べておくこと。	1h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
8	スクールカウンセリングの基礎と実際 ■	1,2	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
9	いじめに対する対応	1,2,3	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
10	いじめとスクールカウンセリング：中学校におけるいじめの実態	1,2,3	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
11	校内暴力に対する生徒指導と教育相談 ■	1,2,3	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
12	臨床発達心理学的視点からの教育相談 ■	1,2,3	自らの中学・高校での体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
13	教育相談のルール・プレイング（1）：ルール・プレイングの実践 ■	1,2,3	ルール・プレイングについて調べておくこと。	1h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
14	教育相談のルール・プレイング（2）：ルール・プレイングの振り返り ■	1,2,3	前回のルール・プレイングについて理解を深めておくこと。	2h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1h
15	緊急時・災害時・事後における教育相談	1,2,3	緊急時の教育相談について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。

* 社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

養護実習

英文名：Teaching practice (yogo teacher)

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT421・A

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：5単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

北原恵美、尾内雅子、小原成美

科目に関連した実務経験

養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）

学校保健担当指導主事として県教育委員会教育事務所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○	○	○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①実際の教育現場において児童生徒への理解を深め、養護教諭に必要な知識・技術・態度・実践力を養う。
②事前事後指導ではグループディスカッションや演習、個別の技術チェック等を実施する。

到達目標

- 1. 学校の特性、組織、運営について理解する。
- 2. 学校保健全般について理解する。
- 3. 養護教諭の役割、保健室の機能を学び、技術を習得する。 ■
- 4. 児童生徒の学校生活を理解し、発育発達段階に応じた保健教育、保健管理について理解する。

使用教材

^

大谷尚子・中桐佐智子「養護実習ハンドブック（第5版）」東山書房、 2023年。
養護に関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

采女智津江「新養護概説〈第13版〉」 少年写真新聞社、2024年。
「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」 文部科学省監修 日本学校保健会
「改訂版 学校環境衛生管理マニュアル 学校環境衛生基準の理論と実践」 日本学校保健会
過年度 養護実習報告書

評価方法

^

事前指導・校内実習(30%)、レポート(20%)、実習校における評価(30%)、実習報告会の成果(20%)

課題・評価に対するフィードバック方法

^

作成した指導案、ワークシートにはコメントをつけて返却する。
事前指導で作成した指導案および保健便りは冊子にして配布する。
実習報告会に向けて作成した資料は報告書と合わせ、配布する。

オフィスアワー

^

水曜日の3限、4限

メールアドレス（#→@）

^

kitahara-e#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ①養護実習の目的・意義 ②教育計画と校内体制	1.2.3	シラバスや実施要項の内容を読んで実習の目標などを理解する。	1.5h	教育計画、校内体制（校務分掌）、緊急時の体制、学校保健体制について理解する。	1.5h
2	①学校の日課及び保健室の一日と健康観察 ②学校の保健組織活動	1.2.3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5h	①学校及び保健室の一日の流れ、健康観察の目的、機会と内容について理解する。 ②学校保健組織の実際と養護教諭の役割について理解する。	1.5h
3	保健管理（1）健康診断 ■	2.3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5h	健康診断について理解する。	1.5h
4	保健管理（2）危機管理：救急救命法 ① ■	2.3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5h	心肺蘇生法について実践できるようにする。	1.5h
5	保健管理（3）危機管理：救急救命法 ② ■	2.3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5h	気道異物除去、止血法について実践できるようにする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	保健教育（１） 授業参画	1.2. 3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	保健教育指導案を修正する。	1.5 h
7	保健教育（２） 保健だより、掲示物などによる保健啓発活動	1.2. 3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	①ブランクテスト・手洗い実験について理解を深める。 ②保健だより及び掲示物の作成を進める。	1.5 h
8	保健管理（３）危機管理③■救急体制、学校安全、アレルギー対応（演習：エピペン）	1.2. 3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	救急体制、学校安全、アレルギー対応について実践できるようにする。	1.5 h
9	養護教諭とICT	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	ICT活用について練習する。	1.5 h
10	学校環境衛生（水質検査と照度検査のミニ演習を含む）	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	学校環境衛生の目的、関係法令、日常点検と事後措置について実践できるようにする。	1.5 h
11	保健室来室者対応	3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	内科・外科的理由による来室、保健室登校、複数来室者への対応等について理解を深める。	1.5 h
12	保健管理（４）危機管理④感染症・食中毒発生時の対応	3	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	嘔吐物処理ができるようにする。	1.5 h
13	【学外実習】 実習校校長の管理・監督のもとに実習する。指導は実習校職員に委嘱する。主たる指導者は実習校の養護教諭とし、実習校の計画のもとに実施する。	1.2. 3.4	事前指導の中で学んだことを再確認し、整理をして実習の準備をする。	1.5 h	実習先で学んだことを振り返り、レポートにまとめる。	1.5 h
14	事後指導（１）養護実習の振り返り	1.2. 3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	他の学生の学びと合わせて自己の経験した実習を振り返る。	1.5 h
15	事後指導（２）養護実習の振り返りのまとめ	1.2. 3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5 h	実習の成果と課題をまとめる。	1.5 h
16	事後指導（３）養護実習報告会	1.2. 3.4	教科書及び配布されたプリントに目を通す。		自分なりの養護観、養護教諭像をまとめる。	

合計時間（予習・復習）

45 h

備考

1.単位修得に必要な時間数を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2．事前指導では教科書と教員の作成するプリントを使って説明し、演習形式で進める。

3．実習期間中、担当教員が実習校を訪問して指導をする。

4．事後指導は、学びの共有のためのグループワークや個別指導を経て、実習報告会を行う。

出席の登録方法については、C-learningの「協働版」で確認すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

教職実践演習（養護教諭）

英文名：Practical Seminar for Teaching Profession (yogo teacher)

科目区分：養護教諭課程・教職に関する科目

科目ナンバリング：NRT422・C

学年：4年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 人間理解と倫理観

5 論理的思考力・問題解決力

1 チームの一員としての協調・協働

0 国際理解

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

北原恵美、尾内雅子、小原成美

科目に関連した実務経験

養護教諭として小学校・中学校・特別支援学校に勤務（経験）

学校保健担当指導主事として県教育委員会教育事務所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

養護教諭一種免許

SDGsとの関連**アクティブラーニング実施方法**

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①教職課程における学びを統合し、養護教諭として必要な資質能力を高める。
②講義ごとに提示された課題に対し、グループで協議や模擬授業や演習を行う。

到達目標

- 1. 養護教諭としての使命感や責任感をもつ。
- 2. 保健室経営を行う実践力を身につける。■
- 3. 児童生徒と関わったり、教職員と協働したりするコミュニケーション能力を身につける。

使用教材

^

養護実習の記録等
養護や学校教育に関する最新の知見を紹介する。

参考文献

^

采女智津江 「新養護概説〈第13版〉」少年写真新聞社、2024年。
竹鼻ゆかり他「新版 養護学概論」 東山書房、2024年。
徳山美智子他「新版 学校保健～チームとしての学校で取組むヘルスプロモーション～」 東山書房、2019年。
衛藤隆他 「学校保健マニュアル〈改訂10版〉」南山堂、2022年。

評価方法

^

模擬授業・保健だより・掲示物（30％）、保健室経営について発表(30%)、養護実習報告書（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

作成した指導案、ワークシートにはコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

（北原）水曜日の3限・4限
（深見）月曜日の4限・水曜日の5限

メールアドレス（#→@）

^

（北原）
kitahara-e#takasaki-u.ac.jp
（深見）
fukami#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目ガイダンス、学校教育と養護教諭 ■	1.2.3	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.5	講義の意義、学校教育における様々な健康課題について考え、養護教諭に求められる資質について考える。その上で養護教諭に必要な資質における自己課題を発見する。	1.5
2	保健教育 （1. 授業構想） ■ 養護実習で実践した保健教育を振り返り、指導案の修正案を考える。	2	教科書及び配布されたプリントに目を通す。	1.5	養護実習で実践した保健教育を振り返り、指導案の修正案を仕上げる。	1.5
3	保健教育 （2. -1模擬授業の実践①） ■ 修正した指導案に基づき、模擬授業を実践する。	2	修正・作成した指導案を基に、模擬授業の準備をする。	1.5	模擬授業を行い、改善する。	1.5
4	保健教育 （2. -1模擬授業の実践② 3. 保健だより・掲示物の構想及び作成） ■	2	養護実習で実践した保健教育を振り返り、授業を補完する	1.5	グループでの協議を基に、保健だより、掲示物を作成する。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	・修正した指導案に基づき、模擬授業を実践する。（前回の続き） ・養護実習で実践した保健教育を振り返り、授業を補完する保健だより・掲示物についてグループ協議し、企画をする。		保健だより・掲示物の企画をする。			
5	保健教育（4. 保健だより・掲示物の発表）■	2	作成した保健だより、掲示物の目的や工夫点についてまとめる。	1.5	グループでの協議を基に、保健だより、掲示物を作成する上での留意点を理解する。	1.5
6	教育目標を達成するための学校保健計画の検討 ■ ・養護実習で実施した保健教育と、授業を保健だよりの補完する流れを理解する。 ・上記を踏まえ、グループワークで、学校保健年間計画を作成し、発表する。	2.3	実習記録に目を通す。	1.5	実習校の学校保健計画を参考に、学校保健計画を作成する際の手順、養護教諭の役割、留意点を理解する。	1.5
7	児童生徒のメンタルヘルス（1. 発達障害）■ ・養護実習中に経験した発達障害（疑い含む）のある児童生徒との関わりについて振り返る。 ・望ましい関わりについてグループで話し合い、発表する。	2.3	実習記録に目を通す。	1.5	発達障害がある（疑われる）児童生徒への対応における養護教諭の役割や関係者等との連携について理解する。	1.5
8	児童生徒のメンタルヘルス（2. 不登校・保健室登校）■ ・養護実習中に経験した不登校や保健室登校の児童生徒との関わりについて振り返る。 ・より望ましい関わりについてグループで話し合い、発表する。	2.3	実習記録に目を通す。	1.5	不登校・保健室登校の児童生徒への対応における養護教諭の役割や関係者・関係機関との連携の在り方について考察する。	1.5
9	保健室経営計画の検討 ■ ・学校教育計画、学校保健計画を達成するための保健室経営について理解を深める。 ・望ましい保健室経営についてグループで話し合い発表の準備をする。	2.3	実習記録に目を通す。	1.5	保健室経営計画の作成手順及び留意点を理解する。	1.5
10	保健室経営計画の発表 ■ ・前時でグループで話し合った保健室経営に関する発	1.2.3	実習記録に目を通す。	1.5	保健室経営について理解を深める。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	表等により、保健室経営の理解を深める。					
1 1	学校保健における養護教諭の役割、校内教職員との連携（深見）	1.2. 3	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5
1 2	保護者・地域との連携と養護教諭の社会性、人間性（深見）	2	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5
1 3	子供理解と子供に対する教育的愛（深見）	2	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。1.5時間	1.5	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5
1 4	外国籍の子供についての理解（深見）	2.3	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5
1 5	理想の保健室経営、理想の養護教諭像について発表し、まとめる。	1.2. 3	自分なりの考えをまとめて発表できるように準備をしておく	1.5	養護教諭として必要な資質・能力を理解し、自分と照らし合わせて、今後の課題を明確にする。	1.5

合計時間（予習・復習）

45 h

備考

- 単位修得に必要な時間数を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
 - 授業は模擬授業・保健だより・掲示物等の作成やグループワークにより進める。
 - 課題に対するレポート提出を予定する。
- ：実務経験に基づく内容を示す

印刷 